

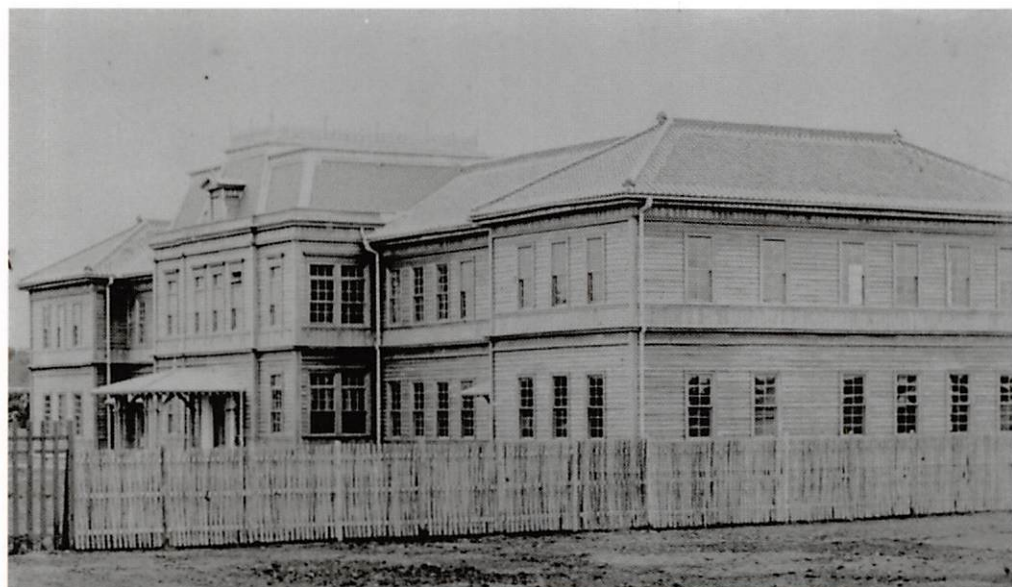
川越中学・高校 同窓会



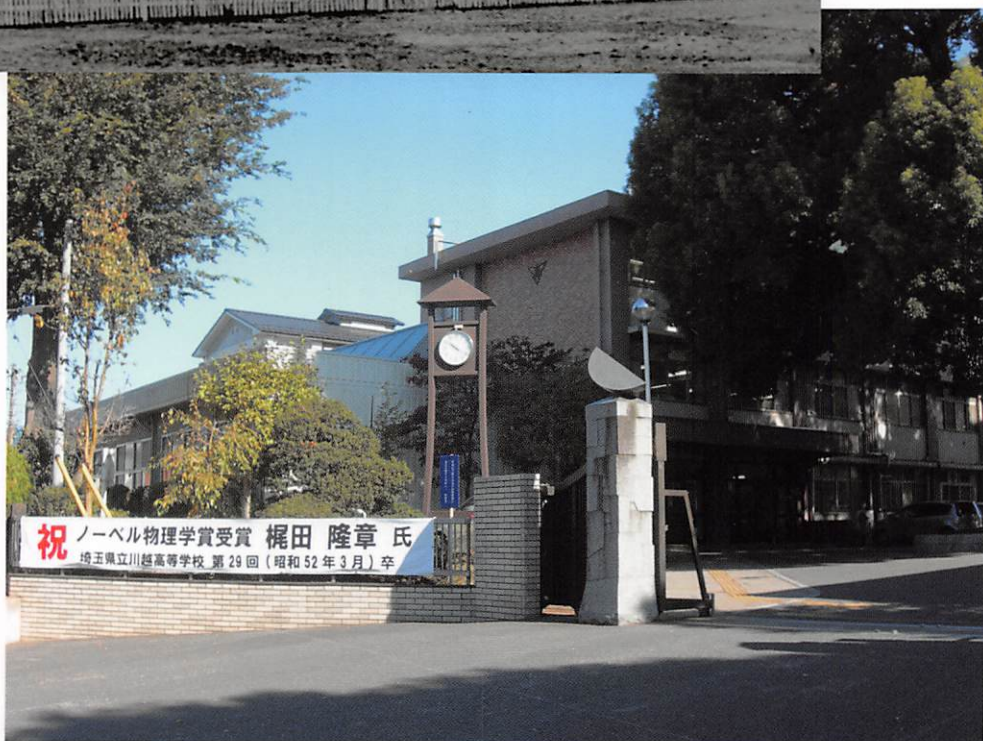
在京初雁会



創立60周年記念誌



明治32年



平成27年

 中 在京初雁会 

創立60周年記念誌

校歌

古谷 喜十郎 作詞
内田 条太郎 作曲

一、紫匂う武蔵野の
天与も深き川越に
教えの庭の規模広く
礎据えし学舎は
秩父の嶺の揺るぎなく
入間の水の末長し

埼玉県立川越高等学校

二、師弟の情思濃かに

切俣の友誼亦厚く

華美にはしらず実に着き

智を耕して徳をしく

我校風は三芳野の

社頭の梅と薫るなり

三、螢に搜る鳥の跡

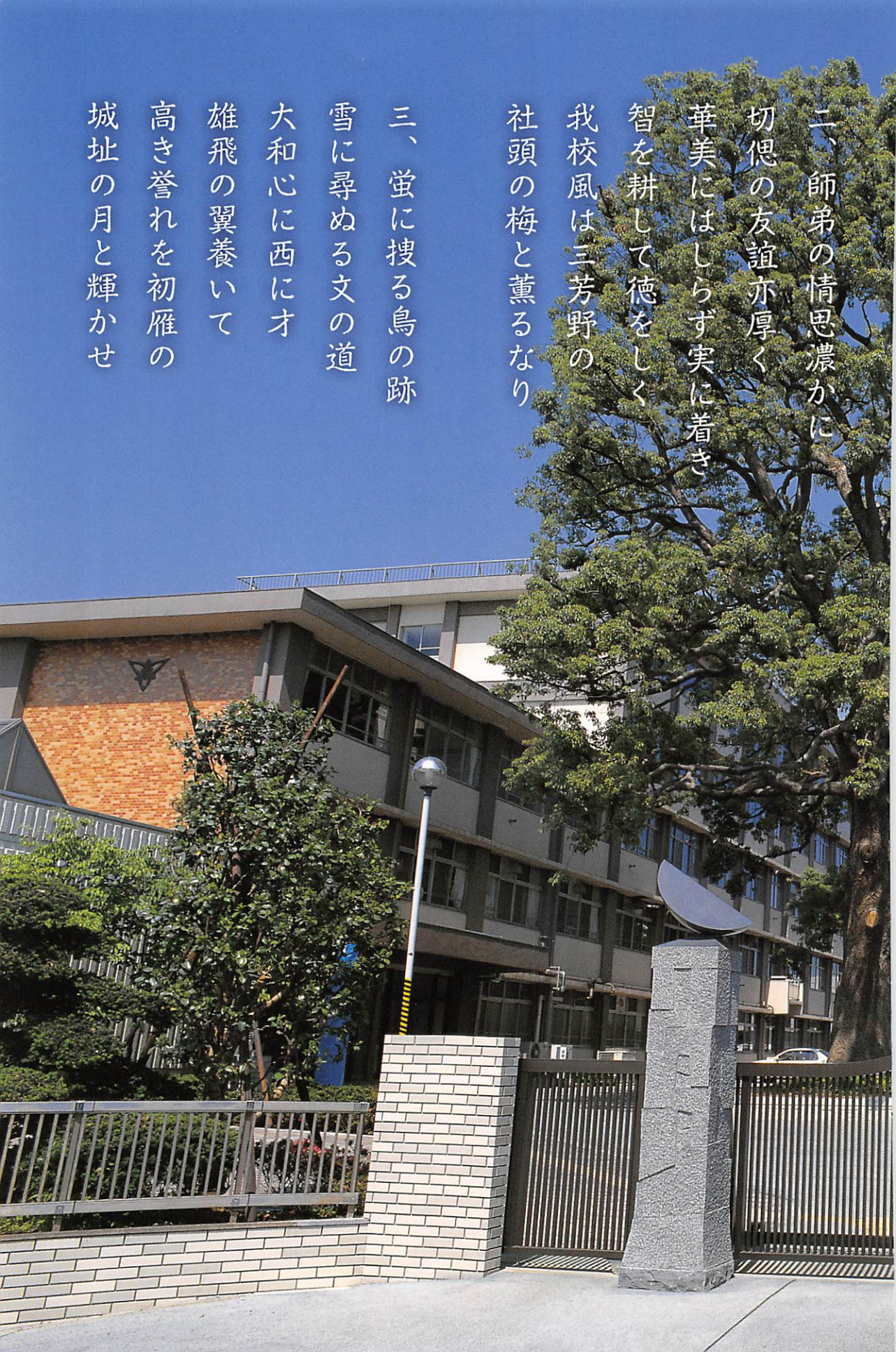
雪に尋ぬる文の道

大和心に西に才

雄飛の翼養いて

高き誉れを初雁の

城址の月と輝かせ



「フォト」川越高校7代目の門・校歌

2

挨拶

5

在京初雁会 会長 西 信之（高校17回）

埼玉県立川越高校同窓会 会長 田中 正（高校6回）

在京初雁会の歴史

7

在京初雁会 顧問 岡田良平（高校2回）

特別付録【座談会】大東亜戦争と川越中学・高校

9

鐘つき堂 現存既刊号全頁

19

創刊号・2号・34号・42号・51号・52号・53号・54号・55号・56号・57号・58号・59号・60号・61号・62号・63号・64号・65号・66号・67号・68号・69号・70号・71号・72号・73号・74号・75号・76号・77号・78号・79号・80号・81号・82号・83号・84号・86号・89号・90号・91号・92号・93号・94号・95号・96号・97号・98号

60周年記念誌発行に寄せて

在京初雁会が創立60周年を迎え、記念事業の一環として記念誌を発行することになりました。

昭和28年3月18日銀座ビルゼンにて初会合を開き、同年11月に矢部謙次郎氏(中学1回)を初代会長として発足しました。母校の沿革年表を紐解くと同年10月20日に本校同窓会報が創刊されています。当会がいかに早くから活動していたかがよく分かります。

本誌に当時からの参加者が添付されています。実業界・政界・教育界・スポーツ界で活躍された先人たちの名を見出すことができ、改めて敬意を表するものであります。

執筆中ホットニュースが入ってきました。スウエーデン王立科学アカデミーは2014年のノーベル物理学賞に青色発光ダイオード(LED)を開発した赤崎・矢野・中村の3氏に授与すると発表しました。母校では学習指導要領の範囲を超えた教育ができるスーパーサイエンスハイスクール(SSHS)・科学技術や理科・数学教育を重点的に行う(高校)の認定を受けており、授業内容は相対性理論・素粒子理論・宇宙理論・量子力学など大学レベルの自立ゼミを行っています。ゼミからは全国トップクラスの生徒が巣立ち、「全国物理コンテスト・物理チャレンジ」で金賞一人、銀賞二人、銅賞二人など全国の舞台で活躍する生徒を輩出しています。近い将来母校からノーベル賞受賞のビッグなニュースを聞きたいものです。

最後になりますが、発行に当たり会員の皆様は元より大館事務局長(高校21回)が幹事会の招集・編集会議の遂行と奔走されたこと、岡田顧問(高校2回)より散逸しかねない旧資料の提供を受けたこと、最年少望月会員(高校41回)が煩雑な作業(編集・校正・印刷)を快諾して引き受けてくれたことに心から御礼申し上げます。



在京初雁会 会長

西 信之

(高校17回)

同窓会活動について

在京初雁会は1953年(昭和28年)3月18日に総勢22人で発会したとのこと。創立60有余年で川越高校同窓会では最も古い歴史を誇る伝統ある初雁会だ。現在、初雁会は近畿初雁会を含め20になっている。西会長には同窓会の副会長に就任頂いており、同窓会事業に積極的に参加頂き大所高所から貴重なご意見を頂いている。近年同窓会の大きな行事である散策会を22年度と25年度に主催頂いている。特に25年度の散策会は、「隅田川と東京湾のクルージング」で、個人ではなかなか行けない歩かない散策会で好評だった。最近の同窓会活動については、同窓会員、学校の絶大なご支援、ご協力のお陰でスムーズに展開されている。振り返ると特に平成21年の大改革が大きかったと思う。

1. 会員全員に同窓会報の発送 2. 常駐事務局の設置 3. 会費納入規定の改正(平成23年度卒業生から正会員は2万円納入) 以上により同窓会と会員、学校との連絡がスムーズになり、絆が一層強められ財政面でも強固になった。

平成23年度以降は社会貢献事業にも力を入れ、23年5月、東日本大震災に義援金百万円を寄付、23年10月、学校創立110周年記念事業として川越城本丸御殿に「川越城図」の記念碑贈呈。24年10月、飯能市名栗湖畔に2.53ヘクタールの土地を飯能市から借り、上田知事、沢辺飯能市長にもご臨席頂き「川高・初雁の森」の第一回植樹祭を実施、以降25年9月第二回、26年9月第三回植樹祭を実施、第二回、第三回には在校生にも多数参加頂き川越高校の総力を結集する記念事業になった。1ヘクタールには植樹が終わり、今後1.53ヘクタールの除伐を行うこととなる。更に定期的な下草刈り、鹿害等の手入れが必要となる。立派な森作りのためには継続的な手入れが必要になる。

川越高校には同窓会からSSHの支援、大学受験参考書の寄贈、スクールカウンセラー経費の贈呈等を行っている。今後とも学校には出来る限りの協力をしていきたいと思っっている。

結びに在京初雁会の今後ますますのご発展と会員皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。



埼玉県立川越高校同窓会 会長

田中 正

(高校6回)

在京初雁会の歴史



在京初雁会 顧問

岡田良平

(高校2回)

東武東上線を利用して都内へ通勤している川中・川高の同窓は、昔も今も大勢いる。1952(昭和27)年の暮、通勤の社内で浅海倭夫氏(中21)が菅間六郎氏(中17)と会い、「戦前、在京の川中出身者が年に1回くらい会合していると聞き、自分も日比谷の陶々亭に行つたことがあるが、在京者と通勤者との同窓の懇親を深めるため、あれを復活しようではないか」と話かけたのがきっかけ。両氏は坂田圭司氏(中17)にその希望を述べたところ、さっそく賛成された。3人で銀座交詢社ビルのビルゼンというビヤホールを経営している齋藤憲吉氏(中11)を訪ね、会場の提供を頼んだところ、双手を挙げて賛成し、その場で快諾を得た。そこで、さらに世話好きの高橋三四次氏(中23)にも同志集めを依頼した結果、1953(昭和28)年3月18日、矢部謙次郎(中1)、森田茂(中3)、喜多義之(中6)、岩崎賢太郎(中11)、小川茂(中12)、大野又四郎(中13)、田中次郎(中16)、内田静馬(中22)の各氏等総勢22人がビルゼンに集合、ここに在京初雁会が発会した。毎月8日正午を期してビルゼンで例会、年に1回川越高校同窓会との合同大会を各地で開き、会員相互の親睦をはかることとした。同年11月に矢部謙次郎氏を初代会長に推挙した。

その後、本校の同窓会長、学校長はじめ関係者の往来も足しげく、相互に情報を交換し隆盛をきわめた。現在の会員は中学卒6名、高校卒が70名の計76名で、地域別にみると都内が29名、埼玉、神奈川、千葉県で47名となっている。

1972(昭和47)年に副会長、川越地区連絡員、各種委員を設けたが、本来当会は出入り自由、会費はその都度払い、規約なしで運営していたが、やはりいろいろと支障があるので、1985(昭和60)年に規約を制定した。組織面では、副会長に総務、企画、財務、広報の担当を明示し、事務局長、監事をおき組織の強化をはかった。

歴代会長・現役員

初代	矢部謙次郎氏(中1)	1953年
2代	喜多義之氏(中6)	1962年
3代	児玉政介氏(中7)	1963年
4代	坂田圭司氏(中17)	1974年
5代	矢部義一氏(中23)	1984年
6代	増島隆司氏(中35)	1991年
7代	田中隆氏(中45)	1993年
8代	高島敬忠(高10)	2005年

現役員



左の写真は昭和27年NHK藤倉アナウンサー(※)の出版記念会がビルゼンを貸し切って開催されたときのもの。歌う笠置シズ子。その右下に藤山一郎(★)。この翌年にビルゼンにて在京初雁会が発足した。

会長 西信之氏(高17)

2013年

副会長 内藤豊氏(高21)

顧問 岡田良平氏(高2回)

事務局長 大館 廣氏(高21)

監事 岡部恒雄氏(高15)

活動概要

①昼食会―銀座の交詢社ビル内「ビルゼン」において創立以来連綿として1、2、4、7、12月の年5回、原則として8日の正午～14時。出席の申込は不要で会費は2千円で続いていたが、出席者が少なくなり現在は開催していない(1964年にビルゼンの斎藤社長(中11)が急逝したが、後を継いだ長男のご好意で、会場として利用できたことが、本会の発展に大きな力となっている。)

②夕べの集い―昼食会への参加が難しい会員のために1979(昭和54)年から、3、6、9、11月の年4回、予め通知して銀座一ツ橋の学士会館で18～20時半まで食事の後、同窓会員による講演会、懇談会、意見交換会、マジックショー等を催してきた。平成9年から場所を変えたところ、出席者も増え好評であった。現在は春季・秋季に花見や散策会を行った後、講演会や懇親会を中心に年2回開催。休日・昼間開催とし、夫婦や家族同伴での参加が多くなってきている。

③本校の同窓会総会、同窓会主催の秋の散策会には毎回多くの会員が参加している。

平成8年の散策会は当会が主管して、芝増上寺―愛宕山―新橋を回り、西銀座のバルハラデンで盛大に懇親会を行った。

平成22年には「深川界限を訪ねて」と称し、松尾芭蕉の足跡を偲び、また平成25年には「隅田川と東京湾クルーズ」を実施して、多くの会員にご参加いただいた。

④会報「鐘つき堂」は1973(昭和48)年に創刊。会員の講演記録、論文、随筆、和歌、俳句、川柳、大会報告、会員消息、行事予告、慶弔等を取りあげ、会員相互の親睦、啓発、報告、連絡等に役立っている。現在年2回発行を原則として97号まで出ている。創刊号から17号までは佐々木忠一氏(中32)、18号から25号までは松本博一氏(中37)、26～52号までは佐々木忠一氏と田中崇氏(高3)、53号から77号までは岡田良平氏(高2)、78号から89号までは岡部恒雄氏(高15)、90号以降は大館廣氏(高21)が編集と発行を担当している。

もともと本会は、母校を愛する気持と同窓相互間の連帯意識の強い諸先輩の主導で都心に生れたもので、懇親的色彩のきわめて濃い集まりである。時は移り、人は変われどもその精神は変わらないと思う。最近各地に初雁会が相次いで誕生したが、それはそれとして、都内へ通う同窓は年々増えていると思うのでたまには当会にもお顔を見せていただきたいというのが私たち役員員の願いである。

在京初雁会60周年記念誌

特別付録

【座談会】大東亜戦争と川越中学・高校

《パネリスト》

栗原三男 会員（中学45回）

岡田良平 会員（高校2回）

柴崎育久 会員（高校2回）

平成27年7月9日 岡田邸にて

入学時の川越中学

栗原 私が川越中学に入学したのは昭和17年。柴崎さんと

岡田さんは2年あとだったね。

柴崎

そう。岡田さんも私も川越中学に入ったのは終戦の1年前。戦争の影響で入学試験に学科試験がなく、小学校の時の内申書で決まった。でも、体力測定はあったよ。懸垂何回とか、やったでしょ。あの当時は体力が重要だったんですよ。

岡田

私は家が村役の人じゃなくて貧乏だったから、白子（現在の和光市）から川越まで通うのも大変だろうということ、当時の小学校の校長先生が近く「太平洋中学」というのができるから、そこに行くように勧められた。だけど、母親があんなところ行くなって言うてくれて、で、川中に入学したんですよ。（写真①）

栗原

確か、昭和14年ぐらいまでは学科試験はあったんじゃないかな。私たちの時代には、もう戦況も厳しくなってきた、学科試験作る紙も暇もないような状況だったんだろうね。

柴崎

川越中学に入学したての頃、東上線で成増から電車に乗って通学してたんだけど、混んでるんですよ、途中の工場へ行く大人たちとか学生もたくさんいて。あのころ、川越行は3両編成の列車で、真ん中の車両に乗っちゃったんですよ。

栗原

真ん中はだめだ（笑）

柴崎

そうそう、真ん中に乗ると女学生がいっぱいなん



栗原 三男 会員(中学45回)

岡田 良平 会員(高校2回)

柴崎 育久 会員(高校2回)

ですよ。そうすると我々中学1年と4年生や5年生だと身長が大人と子どもみたいに違うから、混んできるとおっぱいで顔を挟まれるみたいになって、ウトウトってなって(笑)、で川越駅着いた時に上級生から「一年生、並べー！」で怒鳴られて、君たちはどこ乗ってたって怒られて。一番前の車両に乗らなきゃだめだってお説教ですよ。で、学校までランニングさせられてね。

栗原

そう、下級生は真ん中の車両に乗っちゃだめだった。真ん中は女学生が多く乗る客車だったから。

柴崎

で、5年生はちゃっかり乗ってる(笑)。そういう「決まり」みたいなのがあって、上級生からはよく説教されましたね。

栗原

まあ、そういう時代でしたね。戦況はだんだんと厳しくなっていく頃だったけど、私が入学してから3年生の1学期まではちゃんと授業をやりました。軍事教練もありましたけど。でも川中ってというのはリベラルなところで、自由な雰囲気があったんですよ。初代校長がクリスチャンだったということもあるのかな。浦和中学とか、熊谷中学ってのは、官立系大学出身の先生たちが多かったらしいけど、川中は早稲田とか慶応とか、美校(現東京芸術大学)とか物理学校(現東京理科大学)出身の先生が多くて。確か音楽の先生に市川先生っていたでしょ。音楽の時間に「平和の〜旗風〜吹きな〜がすそのところ〜」って歌うたわさたりしたけど、今思うとあの当時「平和」なんて歌

柴崎

詞が連呼される歌、憲兵に見つかったら大変なことになるんじゃないかな。もちろん、国語、数学、図工、体育、英語も、ちゃんと授業がありました。英語なんて軍国主義になって敵性言語なのに、ちゃんとやってましたよ。他の学校のこと聞くとやってなかったっていうから。やはり、リベラルだったんですよ。

そう、リベラルだったけど、そうじゃない先生もいた。島崎藤村(ニツクネーム)って先生がいたでしょ、あの先生は廊下ですれ違うだけで意味もな

① 岡田さんの成績表。川中に入るにはオール甲でなければならなかった。

くぶん殴ってきた。「今、俺の顔見て笑っただろ」とか因縁つけてきて。ボクシングやってたらしくて、これがストリートだ、これがフックだ、とか言いながら、殴られてた生徒がたくさんいた。卒業後の同窓会の席で、その島崎先生がいて、殴られた奴らが島崎先生を取り囲んで「あの時なんて理由もなく殴ったんだ」と問い詰めたら「戦地で兵隊さんが命を懸けて戦っているときに、お前らの緊張感を高めるためにやったんだ」とか釈明してましたよ。

栗原 そう、やっぱり軍事教練は厳しかった。匍匐前進とか、2年生になると鉄砲持たされたりして。これが三八式歩兵銃ってやつで、毎日磨かなきゃならない。錆びたりしたらえらいことになる。

柴崎 軍事教練の評価は「士官適」「下士官適」そして最後は「兵適」ってのがあつた。で、この「兵適」になるのが怖い。「兵適」だといずれ軍隊行つたときに、いくら努力しても上等兵で終わるわけよ。だから軍事教練を一生懸命やらざるを得ない。一生懸命やって成績良ければ幹部候補生になれる。軍事教練で「優」を取っていれば幹部候補生になれる。「良」じゃ危ない。

栗原 「可」じゃ幹部候補生の試験も受けられない(笑)。で、私は1年生の1学期のとき軍事教練が「可」だったんです。

栗原 ありや、そりやだめだね(笑)。

柴崎 その時、先輩に「お前、それじゃ兵隊だぞ」って言

われて「なんですかそれ？」って。

栗原 「兵適」ですよ。

柴崎 そう。で、軍事教練の成績を上げるためにどうしようかと考えて。したら先輩が軍人勅諭を暗記して、教官の前で暗誦すると「秀」くれるっていうんですよ。「我が国の軍隊は世々天皇の統率し給うところにそある昔神武天皇……」

一同 おお……

柴崎 で、軍人勅諭は長いから、それを5つぐらいに分けて教官に聞いてもらうんですけど、それ、2学期に全部やっちゃつた。したら2学期に「秀」もらっちゃつた(笑)。

栗原 軍事教練は5年生ぐらいになると実弾も使つたかな。

柴崎

野外訓練もあつた。我々が入学したとき、1年生の初っ端に訓練があつた。4月7日の入学式の3日後に全学年が貸し切りのSL列車に乗って3年生に帯同してもらつて御殿場に行つたんです。栗山荘ってところに5泊して訓練を受けました。(写真②)クラス毎に中隊になってその中隊毎に指導班長として3年生が2人ずつ付くんですが、その3年生が予科練受かつてる連中なんです。この野外訓練の指導が終わるとすぐに土浦に行くことになつてる。だから厳しいんです。週番に起こされて寝不足で、メシは少ない上にまずいし、大変な目に合いました。でもこの御殿場の野外訓練は戦争が末期になるとそんな余裕もなくなつて、我々



② 5泊6日御殿場合宿訓練の集合写真。合宿の目的は軍国主義を鼓舞し、国の為に滅私奉公を誓える少年の育成。訓練内容は、敬礼・ゲートル巻き・行進・軍歌を合唱しながらの行軍等。疲労と空腹の過酷な合宿である。

栗原 一回で終わったんじゃないかな。
そう、だんだんと軍国主義の雰囲気が強くなってくと統制経済になって、生産したものは一旦お役所に納めて、それを今度はお役所から配給されることになって。

私が2年生ぐらいからはもう農家の手伝いとか飛行場の建設とか、あれは…

柴崎 …高萩ね。

勤労働員で火工廠へ

栗原 そう、高萩の飛行場。そんなふうに勤労働員の前に勤勞奉仕はやっていたんですが、3年の夏からは本格的な勤労働員で火工廠（東京第一陸軍造兵廠）に行くようになって、もう、学校もほとんど行かず、完全に工員として働きましたね。8時半までに正門に入って、各班、5、6人ずつに分けられて、私は大井倉庫の弾丸なんかの運搬をやらされてました。私が火工廠に入ったとき「会計係」って言われて、じゃあよかった、そろばんかなんかをはじいてりゃいいのかなって思ったら、そんなことはない、弾丸運ぶのを半年ぐらいやらされてね。その他にも、風船爆弾、「マルフウ」って暗号で呼ばれてただけで、そこで信管のはんだ付けをやらされてね。

柴崎 そうそう、コード突っ込んでね。

栗原 そう、それも半年ぐらいやってた。でもこの風船

爆弾は確かに飛んだらしい、偏西風に乗って。私、昭和47年にロサンゼルスに小さな輸出入の会社つくったんですよ。49年にアメリカ人のディックリバスって男をスカウトして入れた時に、彼が「日本から飛んできた爆弾で山火事が起きて、それを俺は消しにいった」っていうんですよ。実際にカリフォルニアとオレゴンに届いたらいいですね。アメリカ政府も発表しなかったんだろ、不安を起すから。当時アメリカ本土を攻撃できたのはこの風船爆弾ぐらいじゃなかったかな。風船自体は小川の細川和紙ですよ。その風船の部分は女学生がつくってたんじゃないかな。

私の同級生で島田早苗君って、今はふじみ野市で「しまだ医院」っていうクリニックをやっている医者がいます、彼も戦争の講話会をやっているということ、今回、いろいろな資料も貸していただきました。それによると火工廠では、風船爆弾に付ける電気雷管や導火索を製造する他にも、12.7ミリ機関砲の弾薬を作ったり、信号弾や焼夷弾、洩煙弾なども製造していたということです。

(資料③)

その火工廠で一番悲しい出来事は、なんといつても川中の同級生の生田君が爆発事故で命を落としてしまったことです。10人ぐらいの倉庫で、詰めた弾丸を間違えて落としちゃったらしい。それでその倉庫が爆発して、生田君を含めて9人が亡くなりました。その他にも高篠君が左手首を落としてしまっ

	製造品	月間生産能力
弾丸	20ミリ機関砲弾(完成品)	150万発
	12.7ミリ機関砲弾(完成品)	200万発
銃砲弾の火薬・部品等	導火爆索	200万メートル
	点火管索	10万個
	起爆剤	1トン
	導火雷管点火管の組立	25万個
	信管筒尾の填実	45万個
	銃用雷管	6000万個
	信管雷管	50万個
	雷汞爆粉窒化鉛	2500キロ

③ 火工廠で製造されていたもの。主に陸軍で使用する航空機用機関砲・機関銃の弾丸組立てと、銃弾・爆弾などの部品の製造・加工が行われていた。(参考文献:上福岡市教育委員会制作の旧陸軍造兵廠展示解説リーフレット)

てます。でも、こういう大事故が起こつても、我々には何にも知らされないから、細かいところまではわからないんですよ。事故はいくつかあったらしいんですけど、機密事項で兵器製造の漏洩があたりは困る、ということから当時は発表されていない。それどころか記録もほとんど残されていないということなんです。

火工廠にいたころ、楽しかったことは栗饅頭の配給と食事当番だね。食事当番がなんで楽しいかっていうと、自分の分だけ量を増やせる。だからケ

ンカの強いのがいつも食事当番やつてる（笑）。かわいそうなのは、東京から疎開してきた弱い子たち。そういう子は食事のときも米とかあんまり盛ってもらえなくて、よそわれるのはネギとかばかりでね（笑）。

柴崎 火工廠に行くようになってからは、川中には月に1回ぐらいしか行かなくなって、川中に行っても先生が一人ぐらいしかいないから、その先生の授業はつきりやるんですよ。1日中物理の授業とかね（笑）。先生達もみんな工場に行っちゃってたから。

栗原 学徒動員とか勤労働員がはじまるような状況になると、我々自身も戦争行くしかない、で、いずれは死ぬんだと思うようになった。もう洗脳されてましたから。早い奴は中学2年で陸軍幼年学校とか、中学3年で海軍兵学校。それと中学2年からは予科練と特攻隊。

岡田 上からの割り当てで決まってしまうんですよ。で、どこか受けさせられる。

栗原 そう。それで私は中2のときに、小川って先生がいて「お前予科練を受けろ」っていうんですよ。で「嫌です、予科練なんかじゃなくて兵学校行くんです」っていったら「お前の成績で兵学校へ行けるか！」って怒鳴られて。もう強制ですからね、当時中学2年で成績の下から割り当てがあるんですよ。で、私ともう一人の同級生2人で大宮まで試験受けに行ったんだけど、私の場合は身長と体重計ったら足りなくて、彼は心臓が悪くて、結局2

人とも落っこちて。で、帰りに2人で浅草行ってなんか食って映画観て帰ったって思い出ありますよ（笑）。ところが中3になると何十人も割り当てが来ちゃって、予科練に30人から40人ぐらい行ってるかな。で、そのあと、予科練行ってる奴が手紙くれたんですよ。そうしたらその手紙が高野山から来てる。予科練って、飛行機の学校行ってる奴がなんで高野山なんかに行って思ってたんだけど。つまりね、本土決戦のための穴掘りに行ってるんですよ。戦況はもうそんなことになっていったんですよ。で、まもなく終戦になって、彼も半年で帰ってきましたけどね。

柴崎 上級生に水上特攻隊に行ったのがいたけども、あと半年戦争が長引いていたらもう死んでましたからね。本土決戦になっていたらもう我々も確実に死んでましたよ。

栗原 死ぬ覚悟とかじゃなくて、なんというか、洗脳されてましたから、恐怖感とかじゃないんですよ。みんな一緒に死んじゃうんだ、天皇陛下のためだからじゃないんだって。

柴崎 差別がなかった。死ぬときはみんな一緒だから。自分だけ生き残ることもないだろうし、自分だけ死ぬこともないだろうって。

栗原 雰囲気としては「赤信号みんなで渡れば怖くない、青信号ひとりで渡れば飛ばされる」、正しいと思っても、自分だけ、ひとりだけでやるとみんなからやられる。

柴崎

火工廠にいるころ、2人がようやく入れぬぐらいの蝸壺型の防空壕を与えられて、空襲警報があるとその防空壕へ入っていたんです。長崎と広島に原爆が落ちた後は、どういうわけか、白いシートを持って来いって言われて。そんなのをかぶって防空壕に入ったら、逆に目立つちゃうじゃないかと。あれ、放射能をよけるためだったんですよね。我々には「特殊爆弾」としか伝わってこなかったんですが、軍は原子爆弾ってことをわかっていましたよ。

栗原

長崎・広島で白い服を着ていた人の被害が少なかつたからだろうけど、そんな役に立たないですよ。あれだけ空襲警報も発令されていて、火工廠もよく爆弾落とされないで終戦を迎えることができましたよね。ほんとに、いつ落とされてもおかしくない状況でしたから。

終戦、そして川中生の民主主義

岡田

私は終戦の玉音放送をおふくろの実家で聞いたんだけど、わけわかんなかったな。

柴崎

ほんと、わかんなかった。で、聞いた後に回りの大人たちが負けたんだと言ってる。ああ、そうなのかと。で、私はすぐに火工廠に行ってる……

栗原

えー!? えらいね! (笑)

柴崎

だって、明日からどうすればいいかわからないから(笑)。そしたら広場で色々なものを燃やしてるん

ですよ。

岡田

ああ、証拠隠滅だ。

柴崎

そしたら「学生さん、帰っていいよ」って言われて、で、火工廠から家に帰ってきた。そしたらおふくろが皇居前が大変なことになってるようだから、明日見に行つてこいっていうわけですよ。歴史的に大変なことになってるから、それを見ておけ、と。翌日の8月16日に池袋から東京駅まで行つてみたら、もう、焼け野原ですよ。わー、すごいな、こんなにひどいことになってしまってたんだって。で、都心も皇居前まで来た。そしたらひれ伏している人もいるし、とにかく、大勢の人で大変な状態になってる。でも、俺は頭下げるのはここじゃなく、靖国神社だと思った。頭下げるのはここじゃなくて、靖国神社だと思った。ようするに、亡くなった人こそ気の毒だと。もうそのときには伯父も戦死してたんですよ、おふくろの弟がね。で、おやじも兵隊にとられていたからね。で、靖国神社まで歩いて行つて、で、拜んで涙流れてきた。

一同

……ん……

柴崎

で、そのころ天皇はマッカーサーに殺されるだろうと思われていた。生きてられないだろうと。

栗原

玉音放送聞いたときはホッとしたね、ああ、もうこれで終わりだったね。

柴崎

9月のはじめぐらいいかな、進駐軍が朝霞の陸軍予科士官学校跡に入ってきた。マッカーサーの第8軍で優秀な部隊ですよ。その日は町役場から「外

へ出てはいけません」って言われていたんだけど、すごい地響きが聞こえてきて、地震かと思って思っ
て。それにしても長い地震だと思って川越街道に
出てみると、星条旗を立てたすごく大きい戦車が
ババババババってすごい音たてて、それが何台も
ずっと続いていて。これじゃ勝ち目ないって思い
ましたよ。

岡田 当時はアメリカ人を見る機会もないし、教育でも
報道でも、アメリカ人は軟弱だから日本は絶対勝
てるっていうことしか言われてなかったんだけど、
毎日のように空襲警報があったから、もう勝つと
いう感じはしなかったですよ。

柴崎 成増の飛行場にグラマンが攻撃に来た時、アメリ
カ兵が機上に立ち上がって黄色いマフラーをなび
かせて、ダダダターッと突っ込んで行くんですよ。
それを見て、アメリカ兵つてのは勇ましいもんだ
と。聞かされているような軟弱さなんか全然なく
て、特攻隊みたいじゃないかと思って、啞然とし
て見てました。そうするともう、この戦争は負け
るんじゃないかと思ってくる。でも学校では絶対
勝つんだ、特攻隊になるんだぞって先生が言う。

栗原 そのころはもう毎日のようにアメリカの飛行機が隊
列組んで飛んでくるんだから、もう、日本が勝つっ
ていうのは信じられなかったよね。日本の飛行機
は戦場に行くのがやっとなんだから。

岡田 戦争が終わって、学制も過渡期というか、制度がい
ろいろ変って、旧制中学は5年で卒業だったのが、

終戦で4年でも5年でもよくなってるね。私は川中
3年、川高3年と6年間川越で学んだ。

栗原 私は昭和21年で4年、昭和22年で5年生が終わるん
だけど、私は4年で卒業して予備校に行ったんで
す。同級生にはもちろん5年まで行ってた奴いる
けど、聞くところによると、黒板に「勝てば官軍、
負ければ賊軍」って書いて事件になったこともあっ
たって：

柴崎 そう、戦争が終わった9月に学校の2学期が始まっ
て、その時だったな。全部の教室の黒板に「勝て
ば官軍、負ければ賊軍」って書いた川目って5年
生の生徒がMPに逮捕されたんですよ。浦和にG
H Qの出先があって、そこに2日間ぐらい拘束さ
れていたんじゃないかな。密告した奴がいたんだ
ろうな。そのときは、なにかやると憲兵じゃなく
て米兵にやられるんだなど。戦争が終わって変わっ
たんだなど、そういう雰囲気がありましたよ。

岡田 まず、そのときは天皇よりもマッカーサーが強いん
だから。

柴崎 そう、それを見せつけられた。それと、先生たち
が戦後、教師たちも労働者であることを主張する
のに日教組をつくるわけですけど、そのために全
校生を集めてそれを説明しはじめたんです。けど、
それに反発した4年生の生徒が「つい先日まで天
皇陛下のために死ねって言ってた奴が舌の根も乾
かないうちに何事を言うんだ」って先生を吊し上
げるんですよ。私なんかは当時2年生だったから、

やっぱり上級生はすごいなって思ってたんですけど。

岡田 価値観がひっくり返っちゃったね。軍事教練もなくなって、中尉とか少尉とか肩書き持ってた先生たちが学校からいなくなった。

栗原 大人を信じられなくなったよね。

岡田 高校卒業するときはABCDEの5クラスあって、一番最後のEっていうクラスは大学受験しないクラスで、私はそのE組だね。松竹映画館の近くに雀荘があつて、当時は映画館でも雀荘でも米を持って行くと、フリーで入れてくれたんですよ。だから農家の友達に米もつてきてもらつて、クラスの連中が麻雀なんかよくやつてましたよ。川中に佐々木太郎って先生……

栗原・柴崎 ああ、佐々木先生ね。

岡田 そう、佐々木先生が自転車で雀荘まで迎えに行くんですよ。私も先生と一緒に迎えに行きました。「おい、お前らしい加減に学校に来い」って（笑）。よく行きました。そんな時代だったんですね。

柴崎 戦前なら退学もんだ（笑）。

岡田 映画館も米を持って行くと入れてくれましたから、ずいぶん観ましたよ（笑）。

栗原 私は川越中学を戦中で過ごしてしまつて、やっぱり思うのは、平和がいいってことですよ。「戦争にいい戦争はない」っていうけど、本当に、平和が一番ですよ。終戦になって、負けたっていうより、ああよかった、ホッとしたという思いの方が強かった

ですから。

岡田 私の川越中学時代は食糧がなくていつだって腹が減つてるっていう状態だった。給食があるわけじゃない、学食があるわけでもない。街でなにか買えるわけでもない。私は相撲部でしたから先輩にしろかれる毎日で、腹が減つてどうしようもなかった。勉強よりもそっちのほうが強い思い出としてありますよね。

柴崎 ウチは米屋だったけど、やっぱりイモとかそんなのを食べてましたからね。

栗原 もう二度とあんなことはあつてはならないですね。

【記録係から】

学制改革をはさみ、12歳から18歳の6年間、今で言えば中高を川越中・川越高で学んだ先輩もいる。リベラルであった川中も戦火が激しくなると予科練や火工廠への動員で学問どころではない。それでも遠くに派遣された友を想い、亡くなった友を偲び、戦後再び川中・川高に集い、価値観の大転換の中で学び、卒業。そしてそれぞれの人生を充実させていく。その不屈の初雁魂が今の川越高校にも息づいていることを信じて、我々の為すべきことを今一度考え、日々新たにしたい。今回の鼎談が実現できたこと、貴重な機会をいただいた大先輩に深く感謝いたします。



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 増島隆二

1991年 (平成3年)
 春・夏号 第51号



月例会
 中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ビルゼン TEL. 3571-2236

夕べの会
 千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL. 3292-5931

在京初雁会
 事務局長 菅沼伸之
 〒177 練馬区上石神井2-36-6
 TEL. 03-3929-2224



在京初雁会
 (昭和二十八年創立)
 会長 西信之(高一七回)
 二〇一四年(第九十六回)
 春季号二月二十八日発行

在京初雁会
 会長 西信之(高一七回)
 副会長 内藤豊(高一七回)
 顧問 岡田肇(高一七回)
 事務局長 大塚真(高一七回)
 (TEL) 090・5569・0380

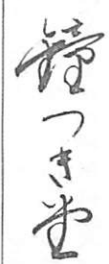
在京初雁会会報

鐘つき堂

現存既刊号全頁



在京初雁会
 会報 創刊号
 [季刊] 48年4月
 在京初雁会
 (中央区銀座6-8-7
 ビルゼン)
 -X-X-X-X-X-X-
 会長 兒玉政介
 副会長 坂田圭司
 運営委員
 石井 新一・内田 静馬
 高橋三四次
 岩泉 進一・佐々木忠一



第2号
 昭和48年
 夏・秋合併号

在京初雁会
 名誉会長 政介
 副会長 坂田圭司
 運営委員
 石井 新一
 内田 静馬
 高橋三四次
 岩泉 進一
 佐々木忠一

で臨んに発刊

会長 児玉政介

ふるさとを離れて年を経れば経るほど、懐旧の情禁じ難いものがあるのは誰しも経験することであろう。ふるさとの山ふるさとの河皆なつかしいものであるが、少年期から青年期へと感受性の強い旧制中学時代、新制高校時代の学生生活は、誰にとっても人生懐古録の大きな頁を占めることであると思われる。

さればこそ私も終戦後社会大変革の時代に当たって、在京の旧友相謀りささやかながら同窓会の会合を持つたのであるが、爾来滿二十年、今日までに毎月の例会を休むことなく二百四十回に及んでいることを見ても、いかにふるさと恋しき旧友の情緒でんめんたるものがあるか、推察に難ないところである。

特に私がこの会合についていつも楽しく感ずることは、中学校を出てからの同窓生諸君はその赴くところ、実に千変万化、年を経て相会すれば社会のあらゆる方面に思い思いに活躍せられる多様性にあり、従って語り合う話題はまことに豊富で、特に在京同窓の会合であるだけに、いづれも社会的に大活動をしておられることは頼しき限りである。

郷土の本家同窓会からも会長など折々遠路参加せられることは感謝に堪えないが、初雁会それはなんとなくつかしい会合であろう。ふるさととなつかしく行き交う雁のたよりを長く続けたいものである。



在京初雁会

会報 創刊号

[季刊] 48年4月

在京初雁会

(中央区銀座6-8-7

ビルゼン)

— × — × — × — ×

会長 児玉政介

副会長 坂田圭司

運営委員

石井源一・内田静馬

高橋三四次

岩泉迪一・佐々木忠一

在京初雁会が昭和二十八年三月銀座のビルゼンに於て結成されてから早くも二十年を迎えようとしている。私は設立者の一人として来し方を顧みて感慨深いものがある。旧制川越中学、新制川越高校の同窓で東京に勤めている社会人は在京者を含めて何千を数える

と思うが五年間を同じ学び舎で過した我々にとっては、たとえ新旧の別はあっても、ただ同窓であることを語り合うだけで、た

ちまちま限らない親しみを覚えるのである。学生生活殊に中学時代にはぐくまれた感傷は永へに失せるものではない。それ程になつかしいものである。

一回も休むことなく毎月八日昼食会を開いて懇親を図って来たが今

発刊に寄せて

坂田圭司

月で実に二百三十八回を重ねた。この五月に会長からの要請もあり、会の組織を強化し、副会長及び委員制度を確立、直ちに運営委員会を発足して新会員の勧誘、名札の掲用、名簿の作事、基金箱の設置等数々の企画を立案、実行に移した。その一つに会報の発行があった。今まで断片的の記事はその都度川高同窓会報や埼玉往來にのせて頂いたが、私の不勉強から遂に会としてのまとまった記録は作るに至らなかった。この度委員佐々木忠一氏が責任者として会報の編集に当られることとなり、奇しくも滿二十周年を記念して創刊号を出すことになったことは欣

快に堪えない恐らく会の運営の状況、会員の動静、趣味の紹介等巾広く取り上げられ、皆さんに喜んで読んで頂けるものと思う。わが初雁会の会員は現在百名位で未だ小規模のものだが、この会報を強固な礎として会員の増加を図り本来の使命である会員相互の親睦を深め、延ては東京初雁会の境まざる発展を熱望して已まない次第である。

随 想 上手に手をとる工夫

二十二回生 島田 斌

「五十になつたら上手に年をとれという。豊かな老後とか、美しき老年というが老いは安易にくるものではない。手放してはこの境涯に到達し難い。五十前後から歯に目に老いの警告があり、命の後を追いかけてくる。この不可避の敵に私なりの工夫を凝らしている。どうしたらモウロクに引込まれず日常を健康の軌道に乗せて三六五日の円を願調に運転していけるか。差し当り体(脚)の健康(アシ)頭の健康(アタマ)趣味に生きる(アンビ)の三のア、3Aが老化防止に役立つと思ひ、実行を心がけている。

1. 体(脚)の健康

「脚の病氣は全身を支配する」体操は己の体を耕すことである。よく耕された畠には雑草は生えぬ人体約二〇〇の骨と筋肉を万遍なく動かし錆のつかぬ体操が理想である。ラジオ体操、西式健康法、自衛、寝床体操を加味考案した我流のものを二十年来実行して

る。快眠、快食、快通であり十年来の強敵喘息も完全に追放した。

2. 頭の健康

「長生きしようと思つたら勉強することだ。たえず脳を刺激してないと長命はできない」

(米 カールソン)

今年のNHK放送で社会党の成田委員長の年頭所感の対談があった。その冒頭で最近テレビで英会話を始めた。それは九十才近い作家の野上弥生子氏がカラーテレビを買ひ英仏の会話を学修するときいて感じたからでもあり、英会話を修得すると言うより頭の訓練のためでもあると言つた。

頭の鍛練には何か研究目標が必ずと思ひ老人問題をかね古来の老人の処遇がどうあつたのか、老人史とも言ふべきものの研究してみる気になつた。老いは人生の廃品と考えられ記録がない。老いは社会の恥部とさえ思われて語ることが欲しない。これでは資料がない。学も能もない者には全くの雑事で

ある。

3. 遊び(趣味に生きる)

「人は遊んでゐることこそ人間らしさがある」(シラー)

最近遊びについて女性の作家や評論家の意見が目につく。好きなことの無いことは一種の貧乏である。(幸田文氏)特に女はひとりて遊ぶ癖をつけることである(曾野綾子氏)

恍惚シ。ボクレは本當の意味でアソビを知らないことであろう

(上坂冬子氏)

私は六十の手習いで墨絵を始めた。毎日墨をすり筆を動かして二年になる。絵によるアマチャの会彩友会の一員でもある。会友から寄せられた色紙を携えて老人ホーム、老人クラブを慰問する。昨年は水戸、長野など十ヶ所近いホームを訪問した。老人に取囲まれて席面を試み懇談し、上手に年をとる工夫も一席、時には次の自作の詩を吟じてみる。

偶成

燕雁去来六十年 彷徨低流尽壮春

人生無限乾坤竊 克服老化生憂患

(四八、三九)

高尾山

葉王院

随 貫主 山本秀順

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

第二三八回例会 (四七、一一、八)

出席者 二十名
新入会員 林季樹氏(高六回卒)
文祥堂勤務
坂田副会長 一年回顧の挨拶に始まる。

五月八日例会に於て、児玉会長より、副会長及び五委員、三川越地区委員指名された。
その後七月の委員会の決定事項に基いて、次の事項が次々に実行に移された。

1. 例会出席者名 札着用の実施
2. 基金箱を作成して寄付を申
3. 会員名簿の作成・彙に石井委員これを作成し、会員各位に凡て自費を以て御送付下さった。
4. 会員の増強、各委員努力
5. 二十周年会報の発刊、佐々木委員これを担当し、来年一月度より発行する。各位の寄稿方依頼さる。



次に本年の行事は次の通りであった。

1. 天覧山大会
六月八日の例会を十一に繰下げ川高同窓会と、共催で飯能天覧山能仁寺で第十四回大会を開催
2. ヨーロッパ親善旅行
佐々木委員の発起により埼玉県人会、川高同窓会との協賛により八月ミュンヘンオリンピック見学を兼ね会員の希望

会務報告

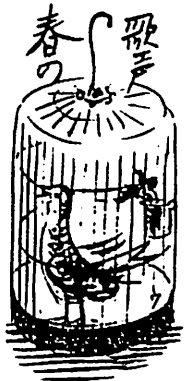
岩泉 旭人

た島田氏の老人ホーム訪問の話、更に、椎名氏の九月ソ連東欧旅行の際の老人ホーム見学の報告会があった。その要旨は次の通り。
○島田斌氏(二二回) 老人ホーム訪問報告
九月に川越、十一月に長野県上田長野、須坂等々五ヶ所の老人ホームを絵画により慰問旅行した。
日本国際親善彩友会々員の一人として、会員の色紙を携行し、又即席で彩管をとり、老人を慰問した。

老花防止のため、三A(三あ)頭、足、遊びの必要性を強調した。
選挙の頃になると敬老が叫ばれるが、選挙が終ると急に軽老になるのは誠に遺憾である。
敬老の日(九月十五日)は昭和四十一年に制定されたが、大正時代迄は辞母に敬老の字が無かった。但し明治天皇は毎年数句敬老の歌を詠れている大昔には食老や葉老の史実もある等興味深いお話を伺えた。尚、最後に老人史の資料あらば紹介して欲しいとの御申出のあったことを付記致します。
○椎名平一郎氏(十五回)
ソ連東欧の老人ホーム訪問報告
八月ミュンヘンオリンピック見学

旅行に続き九月ソ連東欧圏の労組の招待によりモスクワ、チェコ等で老人ホームを慰問した。ソ連では給料の三十五%を拠出して一定年限掛金すると、老人ホーム入居資格が得られるが、子供が結婚すると親は老人ホームに出て行くのであって、敬老とは正に正反對のように思われた。慰問団がホームを去るに当り、老人達門口を出て別れを惜しむ姿は誠に哀れを催した。一定の掛金により入居資格は得られるが、老人ホームは有料で八〇〇円/月の部屋代と、一六〇円/日の食費は負担しなければならぬ。尚ソ連では貯金の利子は十二%も上昇しているの、貯金の意欲は薄かぬ由。

○基金箱の開披結果
金二、五〇〇円也
在京初雁会名儀で大和銀行に預金した。
尚、本会に於て、左記出版物の紹介あり、希望者に次回有償配付する。
1. 「川越の文化財」
2. 内田静馬氏(二二回)著
「木版画の制作技法」
八八〇円
以上



文芸欄

蔵造り (川柳)

原田寿南史

お城下のシンボルめいて蔵造り
あっちこち小江戸が残る蔵造り

アンテナがふさわしくない蔵造り
貝録もゆたか老舗の蔵造り

安んじて鳩睦み合ひ蔵造り

(作者は川柳界に令名高き原田愛
助氏一第二〇回一です。現職は
東洋ゴム化学工業の取締役。)

和歌・俳句・川柳・詩歌
はがきにてご寄稿下さい

個人消息

坂田副会長長日より

私は二月一日以来、下痢から循環器のバランスを失い、加えて軽い心臓の発作を起し、遂に医師から食物の制限の外、風呂、好きな酒、外出等一切禁止を申渡され、目下安静中です。毎日医師(川中の後輩ですがそばに居るので非常に助かりました)の往診を受けておりますが、もうもう心配はないとのことです。何しろ心臓のこととて大事をとって十分静養するつもりであります。

会報の原稿も児玉会長及び北村同窓会長にも頼んでおります。一つのをまとめることは中々容易なことではございませんが何卒よろしくお願い致します。二月十日(これは編集部宛の書信からの一部ですが、ご病床からご懇篤な指示とお励しを頂いておりますことを有難く存じます。ご回復の早からんこととご自愛を切にお祈り申し上げます。)

○会員にお願い
消息、身辺雑記をはがきにてお寄せ下さい。同窓の友垣として。

会員名簿(追加)

○住所変更

中村 正秀(高3)

渋谷区代々木二一三四一

協栄メイゾン代々木五〇三号室

○追加

奥田 武甲(一九回)

港区芝三田二一七一 シャト

ウ三田八〇八電五三・四一七一

峰峯不動産株式会社社長

運営

だより

委員会

○一月の例会：新年親睦会にふさわしく、出席した会員の自己紹介として運動・趣味・嗜好などが披露されたが、会員の親睦が一段と深まった感あり。今後とも折にふれて新旧会員ともども交歓したいもの。

○二月の例会：病中お引籠りの為坂田副会長が不参加、余りの珍しい出来事で会員しんみり、それをひきたてたのは秋田の銘酒「新政」/これぞ椎名氏ご寄贈の名案坂田氏のご全快を祈る。

○三月の例会：二十周年記念会

予告 (編集部)

春米りなば!

○会員家族遠足会のプランは如何ですか。内田静馬兄(二二回)の作品鑑賞会を兼ね、荒川べりの桜草に家族交歓の遠足の案がいつ頃からともなく湧き上りました。いづれ運営委員会からご案内が届く事が期待されます。その節は奮ってご参加下さいませよう。

○ついで乍ら四十八年度の川高同窓会との共催による大会は秩父にて開かれるとの声が届いています。

原稿

募集

☆随想・紀行文・交友録「何に私は凝っているか」。「わが家族のはなし」その他……十五字詰で原稿用紙にお書き下さると助かります。☆文芸作品は、おはがきでお気楽にお送り下さい。

☆会の運営、会務などに付お気づきのことをご投書して頂きたい。

編集部より

カットは内田静馬画伯のご寄稿です。芸術作品として香気の高く漂う所、本誌の誇りです。深謝します。

鐘つき堂

第 2 号

昭和48年

夏・秋合併号

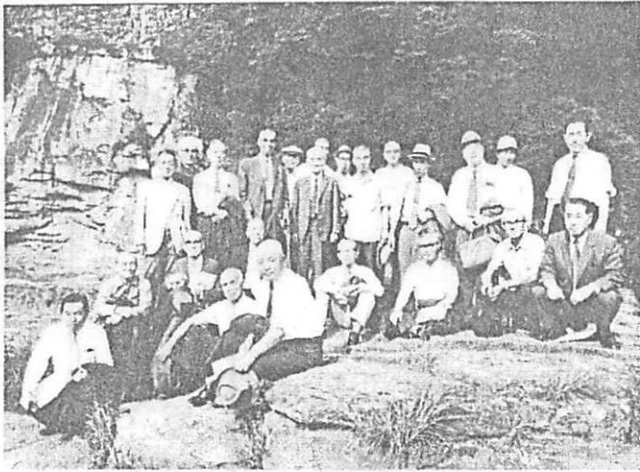
在京初雁会

名譽会長 児玉 政介
副会長 坂田 圭司

運営委員

石井 源一 内田 静馬
高橋三四次 岩泉 迪人
佐々木忠一

長とろにて
(中学時代に遠足で行った
ことが懐しまれた)



奥武蔵散策の会

一川高同窓会と本会共催

恒例の同窓会と本会共催の大会は六月二十四日(日)秩父で開催。この日は夜来の雨もあがり、秩父の風光も緑に映え、参会者四十二名(本会よりは十六名)は快晴の一日を楽しく語り、長とろの清流に遊び、旧交をあたため夕映えをめでつゝ散会した。

会長は秩父市宮側町の竹寿館旅館の階上で北村会長、荻原校長の挨拶と吉村長治郎氏(十四回)の音頭による乾盃で和やかに始められた。荻原校長は秩父のご出身であり、竹寿館の経営者長又重氏は十九回卒

であり、両氏のご配慮により、会食はもとよりのこと、秩父神社参拝に当っては特別昇殿にあずかるなど、行届いたお世話を頂いたことは参会者一同の深く感謝するところで、紙面をかりて厚く謝意を表します。
なおこの会については、埼玉往来二十二巻八月号に岩泉委員が詳報され、参加者全員を卒業年次順に記載されましたことを附記します。

公告

運営委員会は例会出席の会員方のご賛意により、本会の永続と運営及び機関紙発行のため、一ケ年千円の維持会費を納入して頂くこととなりました。ご賛同の上ご協力下さいますようお願い申し上げます。財務担当 岩泉委員

念的には、お解りだと思うのですが、川柳の三要素として、先づ滑稽、それから穿(うがち)、更に諷刺、こうしたものが、考えられているのであります。しかし川柳の持味は、これで終っているわけではありません。更に申し上げますなら、皮肉、人情の機微に触れるもの、或は美しいもの、醜いもの更には、喜怒哀楽の感情、こういったものが、広く川柳の要素として含まれており、取り上げられているのであります。要するに川柳の持味というものは、非常に複雑多岐でありまして、大袈裟に言ひなら、人間生活の凡てを、句の中に折り込んだものであると言えらると思ひます。そんな内容のものでありまして、形としては一応、五七五という十七文字が、決った形になっておりますが、その内容は何を採り上げて、も、差支えない、極めて自由なものであるということが言えます。以上で大体川柳とは、こんなものであると言ひ、ことを申上げた積りであります。ま

てこれから、実物の見本をご覧に入れまして、皆様と一緒に鑑賞してみたいと思ひますので、一応「社長」という題から生れた川柳の見本、これは必ずしも、模範的な句という訳ではございませんが、努めて解り易い、余り説明を要しない句をご覧に入れます。

いゝ社長 現場を 愛相よく通り

たたき上げられた 社長の 物解り

一代で築き 社長の 低い腰

ワンマンに 段々になつて来る社長

結局は 社長の案を 呑まされる

町工場 油だらけで いる社長

これが社長の句であります。社長につきものの女秘書の句をついでお目にかけます。

女秘書 花一輪を 生ける朝

ステッキの 代りにさせる 美人

秘書

ボーナスの 過分がこわい女秘書

女秘書 仕立て下しを うわさされ

女秘書 何かあったか 急に辞め

次に先程、坂田副会長から酒のお話が出ましたが、私も嫌いな方ではありませんが、酒の句は相当作っております。以下私の酒の句の幾つかをご紹介します。

酒の座となると光って 来る男

気前よく なる酒癖を 取り巻かれ

モーニング 昼を芽出たく 酔って
来る

利きすぎた訓示 静かな 酒になり

名分が 立たない酒で 酔いきれず

米席の方が 愉快な 大広間

ほろ酔いの もう人生に 敵はなし

次に時間がありませんので、川柳の
種類について申し上げます。

先づ第一に雑詠というものがあ
ります。これは短歌俳句にも通じませんが
別に課題がなく、折に触れて心に浮ん
だこと、感じたこと、見聞したこと、
そういったものを句にまとめたのであ
ります。

それから題詠、これは今の「酒」と
か、「社長」とか、そういうった課題に
基いて句を作るものであります。

そのほか時事吟というのがありま

す。その時々々の社会現象とか或は出来
事、そういったものを採り上げて句に
するものであります。現在新聞に出て
いる川柳欄の大部分は、時事吟であり
ますが、たゞ時事吟はその時期限りの
ものでありますので、句としての生命
が短いという欠点があります。参考ま
でに、今年の春の国鉄の順法闘争を材
料にした私の句をご覧に入れます。

順法の無法に喘ぐ 通勤者

いつまでも 羊でない通勤者

運転士 ボデイガードが 欲しく

乗り

衆寡敵せず 駅員のおびえる日

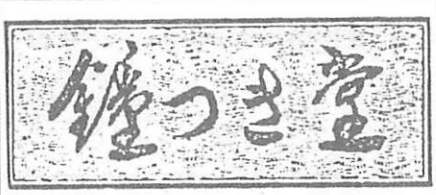
駅のサービス 救急車 待機させ

最後に川柳と俳句の違いについて少
しばかり申上げて見たいと思います。

川柳も俳句も形は十七文字から成り
立っております。その点は全く同じな
のでありますが、俳句には季題とい
うものがあります。その季題を詠み込
まなければならぬという一つの条件
と言いますか約束があるのであります

それと合せて俳句は主として花鳥、
風月といった自然を対象とした句が多
い、これが俳句に対する一般の見方
であります。これに対して、川柳の方
は前にも申上げた通り、人事百般に亘
って何をとりえても差支えない、季題
という条件はない。自由奔走に目に触
れるもの、耳にきくもの、心に感ずる
もの、口で味うもの、何でも材料とし
て取り上げることが出来るのでありま
す。形の上で五七五の制限があるだけ
で、その外は一切無条件である。これ
が川柳であります。

こんなわけで川柳と俳句の違いにつ
いて観念的には一応解りますが、はっ
きりした定義がありません。しかも近
年俳句か川柳か区別のつかない句が随



在京初雁会（創立昭和28年）
会長 坂田圭司

1984年（昭和59年）3月
第34号



城下町の静寂

内田 静馬

** 通信先 *****
〒156 世田谷区宮坂
1-28-14
岩 泉 迪 人
Tel. 429-5677

目黒副会長のご急逝を悼む

会長 (17) 坂田圭司

一月三十一日雪降りしきる朝、佐々木さんから、目黒勝郎さんが、昨日、動脈瘤破裂のため、急逝されたというお電話を頂いたときは、えっと！一瞬絶句して、耳を疑い、迎も信じられない程のショックを受



けた。一月八日の新年会には、何時もの柔和な眼差しで、微笑みを浮かべて、私の体のことを労はって下さった。あの方が、突如襲われた思いがけない病魔のために、僅か半日そこそこの間に、亡くなられるとは、誰だっけ信じられないのが、当然である。私は、今度位人生の無常を、まざまざと、思い知らされたことはない。目黒さんは、中学は私と丁度入れ替わりで、大正八年の入学で、浦高、東大医学部へと、エリートコースを、順調に進まれた秀才であった。卒業後は、保健所、駒込病院、都衛生局と、人生の大半を一貫して衛生行政に、心血を注がれ、その功

績により、五十二年春の叙勲に於て勲三等旭日中綬章受賞の荣誉に浴された。この輝やかしい業績は、永後に後世に語り伝えられることである。目黒さんと初雁会の出会いは、有楽町駅のそばの保健所にお勤めのこと、浅海先輩に誘われて、出席されたのが始めであるから、会が創立されて間もないことである。四十三年衛生局長を退官され、都立立川短大退かれて間もない五十七年四月、本会の総会で、選ばれて副会長となり兼ねて創立三十周年記念事業委員長を委嘱されたからは、国分寺のお宅から、努めてご出席になられ、会に対する熱意と、記念事業に取り組む意欲は十分に窺われた。それ程目黒さんは責任感の強い方であった。又目黒さんの高潔な資性と温かな風貌は、会員に一層の親近感を深めたようである。かくして五十八年三月、学生会館で行われた記念式典には、会長代行として又委員長として、実に見事にその職責を果たされたことは、目黒さんにとっては、嘸ご満悦のことであつたと思うし、私にとつては、この上なく有難いことであつた。今後も会の発展のために、目黒さんの優れた手腕に負うところ多きを期待していた矢先、このような突然なご逝去に出合つたことは、会としては何とも残念であり、哀惜の情に耐えない。殊に仲睦まじくあられた奥さまが、最愛のご主人を、一瞬のうちに天国に召し去られ、永のお別れを告げられたご心中に、思いを致すとき、私にはお慰め申し上げる言葉はない。嘸かし断腸の思いであられたことと

ただただ恐察するばかりである。会
は、眞に宿谷さんを失ない。僅か二
ヶ月余りにして又惜しい方を亡くし
て了った。詢に寂しい限りである。

目黒さん、どうか安らかにお眠り下
さいと、心からご冥福をお祈りする
次第である。

五九、二、二四

追憶

同密会長
当会顧問
(43) 岡村了一

晩秋宿谷さん、年頭目黒さんと、
何れも個性・教養豊かな先輩お二人
と、思いもかけぬ情況裡に夫々お別
れすることとなり、何とも申し上げ
ようがございません。

お二方とも、古い時代（それが本
当に良き時代であったかどうかは分
りませんが）この国に確乎としてあ
った学問の階梯を、しっかりと履踐
された感の深い大丈夫であられました。

宿谷さんとは、逝去數十時間前、
川越渡辺邸の茶席を共にさせて頂き、

思いもよらぬ目黒副会長の御他界
又先頃は宿谷事務局長の御急逝何と
も申し上げる言葉も御座いません。
年代も違いますのでお人柄もよく存
じ上げませんが、会として大変なこ
とと存じます。殊に宿谷君は私の二

初雁の学び舎の縁のゆえに、相会
えて身の幸せと存じ、心より両大兄
の御冥福を祈念申し上げます。

(7) 山崎嘉七

男の親友とか、どうして何の役にも
立たない私などを残して若い方が昇
天されるのでしょうか。替る事が出来
たらかわってあげたい位です。右お
悔みまで

目黒勝郎さんの急逝を悼む

(18) 奥富茂

一月三十日目黒勝郎さんは腹部大
動脈瘤のためご他界されました。あ
まりの唐突であり深く悲しみに堪え
ません。

一月の新年例会には元気で出席さ
れ、最後まで坂田会長はじめ会員と
和やかに歓談されておられました。
憶えばこれが最後の別離となりま
した。

目黒さんは温厚篤実の人格者であ
り、いつも温顔に笑みをたたえられ
て、例会にはかかさず出席され会の
副会長として会の発展に尽瘁されま

在天の目黒さんへ

(20) 鯉沼寛一

二月十七日付の初雁会からのお手
紙は、二十一日に受取りました。何
だろうと思つて、開けて見ると、目
黒先生が一月三十日に御逝去され
たと書いてあり、驚いて、言葉も出ま
せん。私は、去る一月の新年祝賀会
には、出席できませんでしたが、会
長・その他と、温顔に笑をたたえて、
話をされていたそうですね。そのこ
とは、私の眼にも見えるように思
います。

亡くなられたことは、新聞に報じ
ていたようですが、私は、うっかり
して、それを見落して居りました。
亡くなられた原因は、腹部大動脈
の破裂とあります。大動脈の破
裂とは私の知らない病気です
が、そんなに急に悪くなるものな
のでしょうか。生前に、どんな立派な
ことをしても、残された余生は、短
かくてよいのでしょうか。

御家族のお嘆きも、眼に見えるよ
うであります。然し、今となっては
申し上げる言葉も、ありません。只、

御冥福を祈るばかりであります。
また、御逝去を知らずに、今日まで過して来た無礼、お許し願いたいと

目黒君を憶う

(22) 島田 斌

私は大正八年に目黒君と同期で川中に入學した。川越から南十数キロの三芳の田舎から自転車通学であったので、共に話し合うようなことはなかった。クラスも二回程度であったが教室での印象が残っている。

目黒君は数学が抜群であった。二年生のとき、代数の初歩として因数分解があった。先生(猪貝)は教室で出題し即席の回答を求めた。辰巳君もそれは得意であった。二人ともあつという間にできて先生に○をつけてもらった。時には全く同時に先生の所までの先陣争いであった。猪貝先生は何回か検定試験を試みたが失敗して川越を去って行った。それから原富先生が見えた。長身で白面であった。もう四年生になっていた。

目黒君には数学の説明をきくとき一種の癖があった。体を前後にこゆすりしながら、理解度を示すかのよう頭をノックしていたものであった。

原富先生は全身これ数学の虫であった。寸暇をおしんで数学にうちこんだらしい。学歴はなく小僧から勉強強で段階的に検定試験を突破していった。旧高等学校教授の資格を

思います。そして、どうぞ、安らかに、お眠り下さい。

(二月二十一日夜)

得た。この時ばかりは流石の先生もニコニコしながら受験の模様などを話してくれた。富山高等学校の教授として赴任したときいた時は風のよりに消えてしまったあとであった。

原富先生を思うとき英語の田中菊雄と比較するのが常であった。彼は北海道列車のストロブボーイとして苦節を重ね山形高等学校の教授になった。幾多の英学者から選ばれて岩波の英和辞典を完成し好評を博した。数学と英語の二人の先生を思うといまでも頭が下る。

英語は飯沼先生であった。厳しかった。教室は吹き一つ出なかった。発音がやかましかった。拙いと立ったまま次席者の結果を待っている。次々と立往生が続くと「デクノ坊引込め」と雷が落ちてやっど席につく。こんなときは終業のラッパが待ち遠しかった。目黒君は発音も確かであった。デク引込めにはかなり役立っていた。この飯沼先生は無類の努力家であった。教員室で他の先生達からストーブを囲んで雑談中も一人離れてオーバをまどって立ったまま読書が続けていた。この努力が報いら

てか、スペイン語の教授となり大阪外国語学校に赴任された。すでに五十歳を超えていたと思う。

習字は一番安易な科目と思っていたが意外にもそうではなかった。相当の年輩の竹内先生であった。何か気にくわんとトントンとピンタが飛んできた。どのクラスでも一人二人はやられた。なお態度が悪いと反対の手からピンピンと続けざまに往復ピンタを喰ってしまう。どんな暴れん坊も参ったという。濃厚に見えた竹内先生の何処からあんな気が飛び出したのか不思議であった。今の暴力学生、暴力教室を思うとき隔世の感が強い。

目黒君は四年修了で見事浦高に入學し秀才ぶりを発揮した。トップライバルの日吉君は一高を試みたが落ちた。

多趣味の人であったようである。多摩の保健所時代には幅広く謡をやったようだ。俳句も相当年期を積んだのではないが句集も何冊か作ったものがあった。

目黒君の急逝を悼む

(22) 内田 静馬

思われる。句作についてそれは知らない。

都庁に入ってから長から長とエリートコースを昇って行った。都民一千万の保健衛生の長として長く行政を司った。医は最高を極め何万人の生命維持の方策を職とされ、健康づくりについては誰にも劣らぬ体得をつんだ人である。髪は豊にして黒く長身の青年紳士であった。九十、百の長寿を保っても何の不思議もない人柄であったはずだ。しかし生命は不可解にして闇だ、人体の細胞兆億の間に潜んでいた、計らざる伏兵に倒れ、一瞬にして他界されてしまった。残念。

一月三十一日お通夜は珍らしく大雪になり帝都を埋めた。潔白にして誠実の生涯を白一色で覆うていた。天からの白い幕は静かに万感つきない訣別を閉じて行った。
在天の靈よ、広大な天空に永遠の安息の処を得て心安かれと祈るものであります。

大きな功績を残し、そのあと都立川短期大学長として女子の教養に尽されました。奥さんと共に生粋の川越っ子で、川越ペンクラブ同人、また在京初雁会の世話役でもありました。「お鷹部屋と鷹松軒主人」と題し

て、武蔵野ペン一卷二号に書いています。ここに君の母方の祖父が住んでいて、小学時代三日にあげず泊りがけで遊びに行つたという。山のだんごのわきを通つて西へ、相生町を横切ると榮林寺と十念寺の木立

目黒さんを偲んで

(22) 齋 藤 賢 吉

目黒勝郎さんの突然の訃報に接し大変驚きました。謹んで哀悼の誠を捧げます。

目黒さんは、非常な秀才で私などはあまり近よれない輝かしい同級生の星でした。多分、四年修了で浦和高等学校に入學し卒業待遇となつてゐる大秀才で、同級生憧れの進学コースを順調に突破された模範生でした。

こんな大秀才でしたが、試験の時なども勉強した話もしないし、何時

が見え、通りの両側は菜園や茶島、桑島の中に小住宅が点々としてゐるのどかな町はづれの風景であつた云々。君はこの漢学者祖父鷹松軒主人に大正十年中学三年頃まで影響を受けて育つたようでした。

も余裕たつぷりで勉強もしてゐないようでした。いつもニコニコとやさしい眼差しで仲間と交際してゐました。考査(試験)の成績は、私たちのクラスは一般に出来が悪かつたが目黒さんは例外でして何時どこでんな勉強をしたのか今だに私にはわかつておりません。まことに目黒さんは不思議な存在でした。惜しい人をなくしました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

目黒・宿谷両兄の急逝を悼む

(23) 矢 部 義 一

川越中学時代、目黒さんは私の一年上級生であつた。出身小学校が違い、住居も遙く遠く離れており、従つて言葉を交したことは一度もなかつたのに、どうしたわけかあの頃の目黒先輩の面影は六十余年を経た今でも、私の脳裏に鮮やかに残つてゐる。

それは、毎朝集合ラッパを合図に全校生徒が校庭に整列して点呼を受けた時、いつも私等の隣の隊列の先頭に立つてゐた級長、すらりとした白哲、端正な目黒少年の姿である。川中時代からの六十年は進学先と職業と、また勤務地も全く違つて居つたので再見の機会は一度もなかつたのであるが、昨年、在京初雁会の月例会でお遇ひしたときは旧知の友人のような懐しさ、親しさを覚え思はず手をさし出して握手を求めたのであつた。その後、在京初雁会三周年記念大会の準備に際しては岩泉、佐々木両兄と共に自宅に伺うなど交際を深めさせていただいたこともあり、毎月の例会でお目にかかつて雑談を交すのがこの集りに参加する楽しみの一つになつたのであつた。雪の降りしきる一月三十一日の朝

たのであるが、昨年、在京初雁会の月例会でお遇ひしたときは旧知の友人のような懐しさ、親しさを覚え思はず手をさし出して握手を求めたのであつた。その後、在京初雁会三周年記念大会の準備に際しては岩泉、佐々木両兄と共に自宅に伺うなど交際を深めさせていただいたこともあり、毎月の例会でお目にかかつて雑談を交すのがこの集りに参加する楽しみの一つになつたのであつた。雪の降りしきる一月三十一日の朝

目黒勝郎先輩の急逝を悼む

(28) 岩 泉 迪 人

佐々木さんからの電話で目黒さんの急逝の報せを受けたときはどうしたことかと只々驚くばかりであつた。わが在京初雁会のなかの名物男、宿谷喜人君が二ヶ月前にまことに痛ましい死を遂げられたのに続き、更にいま会の柱と頼む目黒さんを突如として失つたことは大きな打撃であり、また会員の一人として痛哭の至りに思ふ次第である。会友諸兄と共に心からご両氏のご冥福を祈ります。

在京初雁会は、昨年十一月から本年一月末迄の短期間に、当会の重責を荷つていられた二人の有力会員を失つた。しかもお二人共誠に唐突の間にお別れすることになり、我々は只々茫然とするのみであつた。お二人は、私にとつては川中、浦高二重の意味での同窓で晩年特に親しくして頂いたので、誠に感無量のものである。そのお一人は目黒勝郎先輩であり、もうお一人は宿谷喜人君であつた。目黒勝郎先輩は、ご夫妻共昔からの知合いであつたが、先輩が都の衛生局長の職務から、都立立川短大の学長に移られ、当会に足繁く出席されるようになられたし、又秋の散策会には、いつも御夫人同伴で来られたので、御夫人にもお会いする機会

が多くなつた。御夫人は、私の中学校の学友の故中根猶彦君の姉上であられる。先輩が当会の副会長兼創立三十周年記念事業委員長になられたからは、矢部副会長、佐々木学兄それに私は、同事業委員として、先輩をお助けすることになつたから、数次に亘り会合を重ね、時に国立のお宅をお訪ねし、御夫人の手料理で御馳走になり御夫妻共に雑談の一時を持ったことは、初雁会々員であつたればこそと、今では懐かしい思い出となつて了つた。

お通夜並にご葬儀は、阿佐ヶ谷教会で取行われた。お通夜の日は、先輩のご昇天の道を清めるかのように朝からの大雪の日であつた。花に囲れた先輩の遺影は五十年代初め、勲三等旭日中綬章を受けられた時の輝

かしいお姿であったが、病院に同伴されて、半日足らずの間に幽明境を異にされた御夫人の御心中をお察ししては、ご挨拶申し上げようとした

急逝の先輩・後輩の悲運

(32) 佐々木 忠 一

目黒先生が急逝された報に接した時は、唯驚き返す言葉がなかった。何しろつい先日、一月八日の新年会で談笑し、夫人巢雨先生の個展のご案内状を少々てれ気味に内懐から出されて「まあおひまでしたら見て下さいよ」「これはこれは、有難とうございます」でこやかにお別れしたのが最後の思い出となっていた。

ご子息が電話でお話しされたことを再び詳しく夫人からご経過について承わり、急逝された日の朝、「では病院へ行ってみるか」と軽にお気持でお宅を出られ、徒歩で国立駅まで歩き、都の局長時代に自ら創設まで関わった府中病院へと向われたとのことで、まさかこれが帰らぬ旅路への門出とは、先生も夫人も夢想だにされなかったとのことで、今更のよう

が、胸つかえるものを覚え言葉にならなかつた。只、心から謹んで先輩のご冥福をお祈りするのみであった。

初めて月例会で先生にお目にかかったのは十年前前で、現職の高官だっただけに、威あってたかからずといた風で、偉い先輩がご出席されているなど隅から談話を聴いていた。後年いつも温和な笑顔で話される先生を、円熟された人格者として接する思いでいたが、これは児玉前会長と一脈相通する気がする。児玉前会長は前知事、厚生次官という高位高官の経歴をもたれていただけに、ピルゼンですくっと起立されて話されるご様子は実に立派でした。二十五周年記念に「功労賞」をお持ちして終焉の場所となられた老人ホームにお伺いし、病床に居ずまいを正して受領された時に与えられた印象は、

副会長として目黒先生は月例会のみならず散策会にも欠かさず参加され、殊に坂田会長が御病氣療養中では会長代行役を果され、昨年春の創立三十周年記念式典では、終始にこや

かに主役をつとめられ、記念事業委員長として労を惜しまれなかつたことでした。私の居住する石神井公園が散策会場となった折御夫妻で参加されたが、私が夫人と親しくお目にかかったのはその時が初めてで、以来ことある毎にお世話になり、委員会もお宅で開かせて頂き、記念品として作品を数点お願いした時もお承諾頂き、ご夫妻ともども在京初雁会のためお尽し頂き感謝に堪えません。目黒先生のご急逝に比べ、宿谷喜人氏の他界を語ることは、何と悲運な最後であったことよと慨嘆せざるを得ない。

宿谷氏がピルゼンに現れたのは数年前であつたに過ぎないが、その有能な手腕はまたたく間に会員に認められ、事務局の雑務を一切引受けられ、銀行業務の経歴から会計まで担当し、文字通り在京初雁会の縁の下力持ちであつた。会の振替口座も宿谷氏に移り、勤務先の事務所長室がそのまま本会の執務の場になり、岩泉副会長も脚繁く宿谷氏を訪ねて会務を共にとおられた。私も川中と京大の同窓だからといって随分お世話になったもので、岩泉氏と同道で拙宅に来られた時も、同じ石神井の住人ということもあり、大いに歓を尽して交友を深めていた。秋の散策会で共に川越で一日を過して別れた許りの二日後に、彼の悲運の最後を遅く十一時の最終ニュースで事件

を知り、翌朝最初のニュースで詳しく報ぜられるに及んで、坂田会長も心痛され急遽お宅を訪ねるようご指示があり、岩泉副会長のお供をして午後早々お宅へ赴いた次第であった。冷い雨の降る中、パトカーや検視関係の警察の車が数台、立入禁止のロープが張ってあつたが、制止の声にもかかわらずロープをくぐってゆき事柄を告げた。警察官は家人は警察署に居るのでこちらへ行くようにと

いって相手にならず、石神井署へ向き、警視庁捜査一課の刑事なる担当官と一時間余話しあつたが、「大そう参考になりました、ご苦勞様でした、これからもご協力願います」と労をねぎらわれたことであつた。その時刑事の話された推察は新聞記事と殆んど同じようなもので捜査の手がかりが履物跡だときいたことも後日事実となつた。警察の科学的調査の実態の一端に触れた思いである。

彼が殺される直前の川越散策会の折、家内が食事のことを心配して訊ね気軽に宅へ遊びに来られるよう話した処、「奥さん、この頃食事は便利になりましたね、不自出してませんよ」と気軽く受け答えしていたよう、更に進んで私が、「君の奥さんのお葬式に東村山に会を代表して参列させて頂いたが、もうそろそろ再婚を考えられても奥さんが許してくれるだろうね」などと言つたがとりあつて貰えなかつた。

たしかに在京初雁会は同窓会の活動としては自他共に誇るに足るものであるが、ビルゼンの月例会やその他の行事のみで、交誼こと足れりとするならば、このような悲劇のさ中にある友人の苦衷も察知できず、その生命すら空しく奪われるような事態になるまで助けの手を差し伸べなかつたとするならば、運営になお一段の努力が求められるのではなからうかと深い自責と反省を覚え、友人が真の価値ある友人となるためには、更に喜びを共にし、歎くものと共に歎く深い交りこそ、生涯の友たる所以だとしみじみ思うものである。目黒先生、安らかに天の都で憩うて下さい。

目黒勝郎先輩を偲んで

(32) 福田龍雄

本年一月九日(月)銀座ビルゼンに於ける新年在京初雁会の席上でその温顔に接し奥富先登ご持参の銘酒多摩自慢に陶然としつつ懇談を重ねたのが目黒さんにお目にかかる最後にならうとは露程も感じませんでした。

その席上同月下旬立川市で開催される目黒夫人菓雨先生の画業廿数年に及ぶ水墨画展の招待状を頂戴し早速拝観させていただきその立派な作品に感銘久しくすると共に目黒ご夫妻の誠に興床しい永年の琴瑟相和す様が偲ばれ一人の感に打たれました。その幸せの永かれと祈りつつ会場を

ろうかと深い自責と反省を覚え、友人が真の価値ある友人となるためには、更に喜びを共にし、歎くものと共に歎く深い交りこそ、生涯の友たる所以だとしみじみ思うものである。目黒先生、安らかに天の都で憩うて下さい。

より悲報をうけて、耳を疑うほどに驚いた。その数日前に先生から自筆のお手紙をいただいたばかりなので信じ難かったが、大動脈瘤の破裂のためと聞いて急逝も止むを得ないことを知り、惜しい先生を失ったことを歎いた。

目黒先生は川越中学生のころ、私より一年上級で、もの静かな親切な先輩だった。秀才のほまれ高かったので、分らないことがあると校庭の一隅でしばしば教えていただいたから、私は学生時代にすでに先生の恩恵を被ったのだった。

目黒先生は、当時川越の唯一人の閣下、公平少将の三男であったが、生れると間もなく母堂の妹さんの目黒夫人に育てられ、そのまま幼児のときに目黒さんの養子になられたということである。

秀才の典型のように、川中四年修了で補高に入り、次いで東大医学部に進まれたが、私は慶応に入ったので、その後はあまりお目にかかる機会がなくなり、そのうえ、東大を卒業されると間もなくブラジルに行かれたので、遠い人になってしまっただけで淋しいことだった。

ブラジルには外務省の関係で行かれた由で、先生は雄大な計画をもっておられたらしいが、ブラジル政府が約束を履行しないので二年で帰国されたのは残念なことだったと思う。先生は、患者の診断治療を主とする一般の臨床医とはちがったレベルの、

健康の管理、病気の予防に重点をおく公衆衛生を強力なものにして多くの人々を健康にしようという、大乗的の観点に立っておられたようである。このことは、帰国されると先ず和歌山で健康相談所を開設して、地域の人々の保健福祉に尽力された業績からもうかがわれる。

ところが丁度そのころ、東京都で保健所を創る企画が始まり、先生は招かれて、東京都が最初につくった青梅の保健所の初代の所長として都民の健康管理に専念され、その後いくつかの保健所長を歴任して、昭和三十八年に東京都の衛生局長に栄進された。

県をいくつも合せたほどの大世帯の東京都の局長として、山なす懸案を進歩的良識をもって円滑に処理された衛生行政の見事な手腕は衛生関係者のひとしく敬服するところであった。

諸種の問題の検討解決のために各種の委員会を作られたが、その一つに私も慶応からの委員となって、会議のたびに都庁に行つて、そこで目黒先生に再会したのだった。そして先生が、多くの委員の様々な意見を勘案してテキパキと裁量される快腕の実際を、私は目のあたりに拝見することができた。十年ほど局長をしておられた間になされた業績は、日本中の各府県市町村の衛生行政の範となり、結局、先生の構想施策は、日本人の健康が世界一流国にまで向

目黒先生を憶う

(23) 浅野誠一

一月三十日、矢部義一さんから電話で、目黒先生が亡くなられたとい

上したことに大きく貢献していると思ふのである。

東京都を定年退官されると、立川短大の学長に迎えられて、温厚で明敏な先生は教育界においても尊敬をあつめておられた。

先生は家庭的にも大へん恵まれた方で、二人の立派な息子さんをもた

OBだより

長年住みなれた衛生局を去つたのが昭和四十三年、その後都立立川短大の学長を任期一パイつとめあげたのが五十四年。今や、齢古稀を過ぎるご六年、ますます健康でいる。現在、定職はない。週三回、非常勤の勤めで家を出るが、そのうちの

一つが都立北多摩看護専門学校の講師である。医学概論の授業を受けもっている。

医学概論という学科は、昭和の初め、私が学生だった頃は、医学教育の中に無かつた科目だが、最近、方々の医科大学で教えられるらしい。看護教育の中にもとりいれられて、看護学講座の中には、日野原聖路加院長や、故神原教授の著書がある。医学概論というのは「医学とは何ぞや」「病気をどういふ」とかといった医学の基本を考究する分野だが、その教科

に学び、卒業後は精神科教室で勉強されたが、父上に似た温厚な秀才であることは同学のよしみでよく知っている。しばらく臨床研究されたのち厚生省に入られて、現在すでに静岡県衛生部長として活躍しておられる。弟さんは東大を卒業されて現在

に陥つたまま、人工心肺装置や点滴装置、鼻腔栄養で生命を維持している患者のごである。名を呼んでも言えない、目も開いていても見えていないのか、家族の認識もないままに、唯、眠うち、呼吸して生き

続ける。このような状態が何カ月も何年も続く。意識の戻るおられない治療の限界が、これか

医学概論の授業

元衛生局長 目黒 勝郎



って必然的につきまたる障壁、生命科の中に潜む矛盾があらわれて来たように見える。たとえば、臓器移植とか、体外受精とか、植物人間として、植物人間といわれる意識障害患者が増えつつあり、厚生省の発表によるら先いつまで続くのか、家庭はどうなるのか。経済的にはどうなるのか。肉親達の心の中にも何か変つて来るものがあるの

ではないか。併し、医療は続けられなければならない。医学技術の限りを尽して努力されなければならぬ。当面する医師や看護婦は考え、手詰まる得ないだろうし、悩まざるを得ないだろう。是は人生観、生命観の基本となるもの故、医学だけで解決されるものではない。哲学とも又信仰とも深い関わりがある。私は結論を持ってはいるわけではないが、若い学生達と一緒に考えようといふことで話を進めている。やがて近い将来、一人前の看護婦になって、ターミナルケアを受け持つべき人達が、熱心に耳を傾け、又応答してくれているのは楽しいことである。この講義を受け持つことになった頃、同学の先輩でもある元の広尾病院長河上利勝さんから贈られた著書「いのちの医学史的考察」は有力な羅針盤になったことを付記する。

東北大学の農芸科の教授であるから、お二人とも立派なことはお羨しいほどである。なお、奥様には何回か川越のペンクラブの会でお目にかかったが、家庭の主婦専門のいわゆる奥さんではなくて、俳句を作られるほかに水墨画の女流画家で、内山雨海画伯の画

本多幸子 (22) 本多昇夫人

会に所屬しておられる。昨年その画会の作品展で奥様の作品を数点拝見したが、その幽雅な美しさに感銘をふかくした。大正の頃から大へんお世話になつた先生を懐しく思いおこし、厚くお礼申上げ、謹んで御冥福をお祈りする。

本年はお寒さ殊の外酷しく雪又雪の続きで日蔭は何時とけることやらと思つております。主人あてお便り頂き目黒先生の突然の御他界の御様子等お知らせ頂き御生前の先生をしのび、只々おなつかしく御冥福をお祈りするのみで御座います。佐々木様よりお知らせ頂きました時信じられませんでした。目黒様とは御奥様とも御一諸に毎年会に参加させて頂きまして楽しい楽しいお話聞かさせて頂きまして思い出も多々もつとのお話承わりたいと思ひまして川越へ来て頂き楽しい一日をと思つておりましたのに誠に残念で悲しみ一杯で御座います。御奥さまのお力落しいかばかりかとお察し申し上げております。あまりにも突然の御他界にてお取込みかと存じましてお彼岸の頃にお悔み申し上げたいと存じておりますし川越で先生の御生前をおしのびする会でも御座いましたら御焼香させて頂きたいと思ひます。御他界の日は何しろ大雪でこちらも79才では出るには殊に危険な道になり思い乍ら大変失礼申上げました。何卒何卒御奥さまお力落しなく御冥福お願い申し上げます。よろしくお伝え下さいませ。いづれ主人も思い出を書くことは存じますが私も深い思い出が御座いますので書かせて頂きました。取急ぎ御悔みまで かしこ

目 黒 勝 郎

明治四十年三月一日生

公平忠吉・けい の三男として、東京市に生る

父・忠吉陸軍少将退役後川越市に居住

幼時 齒科医 目黒寅三郎・母方の伯母目黒彌の養子となる

埼玉県立川越中学校四年終了・浦和高等学校(理・二)二回生をへて

東京帝国大学医学部医学科入学

昭和 六年 三月三十一日 東京帝国大学医学部医学科卒業

九年十一月十六日 和歌山県立田辺健康相談所長

十年 三月三〇日 和歌山県衛生技師

十三年 四月 六日 東京郡衛生技師

十三年 六月 一日 東京府立西多摩保健所長

十五年 九月 九日 学校衛生技師・学務部衛生課勤務

十八年 七月 一日 東京都技師民生局健民課勤務

二十一年 九月 二日 衛生局公衆衛生課母子衛生係長

二十二年一〇月 一日 東京都北多摩保健所長

二六年 八月 一日 淀橋保健所長

二八年 三月 三日 麴町保健所長

三〇年 六月 六日 中央保健所長

三一年 五月十二日 東京都衛生局医務部長

三一年十二月十六日 公衆衛生部長

三八年十二月 一日 衛生局長

四三年 七月 四日 〃 〃 退職

四四年 一月 一日 東京都立立川短期大学教授

四六年 四月 一日 〃 〃 学長

四四年 三月三十一日 〃 〃 退職

三五年十一月 四日 学位医学博士

一五二年 四月二十九日 勲三等旭日中綬章

非常勤 五四〜五七年

青梅市参与

成増厚生病院高等看護学校校長

軽費老人ホーム第三万寿園医務室

昭和五九年一月三〇日 死亡

本人は履歴に書いておりませんが、昭和六年三月三〜九年十一月十六日まで空白になっておりますが、此間都駒込病院勤務。昭和七年二月結婚、昭和七年三月…外務省囑託として、ブラジル リオ デジャネイロに滞在。九年五月帰国。和歌山にまいりましたのは、リオ生れの長男(昭七・十二生)、二男(昭九・一生)が、南国から急に寒い日本になれるため、休養の目的もあつたようです。

田辺保健所勤務の折、近くの村で映画館が火災をおこし、大勢の人が焼死しました。その時の過労で、中心性もうまくえんになり、片眼が見えなくなりましたので、臨床をあきらめ、公衆衛生を志したと思われま

局長時代東京オリンピックでは大変骨を折ったようでございます。

遺族 長男 克己 静岡県衛生部長(慶大医学部卒) 医学博士

二男 照 東北大学農学部教授(東大農学部農芸化学科卒)

妻 農学博士、第五次南極越冬隊員

孫、知己 信州大学医学部今年四年生になります。他四人、うち今年医学部受験者が一人おります。

残された妻の手記

目 黒 寿 子

吹雪の前夜祭にはお寒い中を在京初雁会を代表して、矢部、岩泉副会長の御弔問をいただき有難うございました。

副会長佐々木忠一先生よりの御手紙で次回会報を宿谷さんと主人の追悼号特集として下さるよし、私にも何か書くようにとのことでございました。なお主人の急逝を報道された「鐘つき堂通信」もいただきました。お心づくしを感謝いたします。

在京初雁会の皆様方とお付合は大変楽しいらしく、ビルゼンでの月一回の例会をとて楽しんで出かけました。皆様の御交誼を厚く御礼申し上げます。急なことで臨終を見届けた私でさえ信じられません。がやはり現実でした。昭和五十四年春まで、風邪で休むこともなかった程健康でした。自分でも健康はまずまずとクラス会報にも衛生局報にも書いておりました。一月二七日浦高の同級生の葬儀に松戸にゆき、帰宅後腰痛を訴え、大変疲れた様子でした。併し翌二八日は週二回車で送り迎えをして下さる老人ホームの医務室の仕事に出かけました。私もその日夕方まで外出

をしましたが、夕食は老人ホームでたっぷり昼食をしたからと、あまり食欲はなかったようです。翌日腰痛で仰臥出来ず、終日炬燵で過してました。逝った一月三十日は睡眠不足と便秘のせいか食欲が無いといながらも常の半分位の朝食をとり、軽い頭痛を訴えていました。私も何か気になって病院に行くことを奨めました。主治医に自分で電話をし、自分でひげをそり、着がえもし、家を出たのが十時頃でした。歩いた方が良さそうだと、私も付添い駅まで雑談しながら休み休み歩いてゆきタクシーで都立府中病院に行きました。待合室で看護婦がお顔色が悪いが診察室のベッドでおやすみ下さいと言ってくれましたが、腰かけの方が楽だったのかそのまま待ちました。心電図をとりにゆくのも自分でささと歩き、診察の結果血圧が非常に低く(朝血圧降下剤をのんでいました)ひどい貧血に血液検査をし、点滴をしました。先生は点滴がすめば元氣にお宅に帰えられます。といわれたので私は全く安心をしておりました。点滴の枕辺の廻転椅子で私は編かけの主人のチョッキを編んでいました。腰かけ方が悪くひっくり返りました。それを見て、廻転椅子は深く腰かけないとひっくりかえるものだ、と笑って教えてくれました。その間水がのみたいと申しますので、すぐ終るからそれからという、そうだなとそれっきりにしてしま

ました。今でも水を飲まなかったことが申しわけなくて仕方ありません。点滴の終る頃突然腹痛を訴え二人の先生の診察の結果下腹部のレントゲン写真をとりに自分で歩いてゆき一度ですまづ、二度とりましたが、その間脱着は自分でやり写真の出来るまでの数分間通りかかった顔見知りの職員と談笑していました。車椅子で迎えにきて下さった主治医と診察室に戻り、外科医も来られ、診察室のベッドに腰かけて壁に張った自分のレントゲン写真を見ておりました。とにかく今日は検査のため入院といわれ、先生が机でカルテを書いておられる後のベッドで急に意識を失い、その時はまだ心臓は動いていました。すぐ病室に移され三人の医師と数人の看護婦で応急手当をされ、血液型などの声がきこえたから輸血をされたのかも知れません。

私は外に出され遠くから見えていましたが、二度ほど意識が戻ったようです。手を挙げて私の方を凝視した黒い眼のきらめきが忘れられません。大丈夫かと思つた瞬間又意識を失い人工呼吸も効かずそれっきりでした。意識を失った時息子達に電話で知らせましたが、静岡と仙台では間に合う筈がありません。私だけでも終始付そつていたことは救いました。術生局を退職する時に、置土産にした都立府中病院で先生方に見守られて

逝つたことは本望だつたと思います。解剖の結果死因は腹部大動脈りゅう破裂でしたが、前立腺にごく初期のガンが見つかりました。このガンは転移の早いガンと聞かされ、医者が自分がガンと知つた時の苦しみを知らずに逝つたのはせめてもの救いです。動脈りゅうを持っていたことは私には申しませんでした。後で聞きますと、胸にあることは知っています。他にもあるかを検査し、手術をすることをすすめられたそうですが、絶対にやらぬと言つていたそうです。私への思遣りかも知れませんが医者仲間は大動脈りゅう破裂は実に楽な死に方だと言われます。大往生だと思わねばなりません。年をとりますと夫婦の誰が先になんか最後を迎えるかは大問題です。私が最後を看とれたのは大役を果たしたと思います。常々几帳面な人でしたが、身辺整理は見事でした。この一月は例年になく寒かつたのに方々の新年会によく出席し、ことに一月十二日、二十四日までの私が「たましん」ギャラリからの依頼である大画廊に二十年間の代表作五十七点を並べた初の個展には、二週間の会期でしたが、朝日新聞ごとに毎日新聞には写真入りで報道されましたので、三百三十名の方が芳名録にサインを残されました。その間主人は暇があると暖かい画廊のロビーに来て大勢の方達と一緒に写真に入り、知人、親類、私の友達に逢い、私には大成功だった

よくやったよ。と言ってくれました。「貴女より御主人の方が嬉しそうだった」とは友人の言です。主人への最後の贈物になりました。思い残すことは一番上の孫(今年信州医大四

まのような人を捉まえなきや……」
と言っていました。

あの吹雪の前夜祭に、雪晴れの告別式に、思いもかけぬ大勢の方々の

御参集を得て故人はどんなに喜んでおりましたことでしょうか。厚く御礼申し上げます。
(五九・二・二十五日)

宿谷さんの死に胸痛む

(17) 坂田圭司

昨年十一月九日朝のラジオとテレビは、一斉に宿谷喜人さんの非業の死を報じた。私は、いつものように床の中で、臆気ながら、ラジオを聞いていたが、どうも名前や勤め先が宿谷さんのことを伝えてくるように思われたので、驚破と飛び起きて、テレビに釘付けになったのであった。昨今毎日のように殺伐のニュースが報道されて、荒廃した現在の社会風潮を嘆かわしく思っていたが、よも

やあの温厚な宿谷さんが、このような痛ましい犠牲者の一人となられるとは、夢想だにしなかっただけに、何とお慰めしてよいか全く言葉がない。宿谷さんは浦高、京大経済学部を卒業され、二十二年安田信託銀行へご入行、浜松、新宿西口支店長の要職を歴任、真面目な銀行マンとして活躍され、退職後は、同行OBの親睦団体信交会の事務長として、安穩の裡に過しておられた。初雁会への入会は新しく、五十三年であり、本会は宿谷さんの優れた経験を会

力量を高く評価していたところである。この事件については、数多く報道されたが、大変お気の毒に思うのは、昨年三月最愛の夫人を亡くされたことである。この悲しいご不幸が今まで円満に充実し、恵まれた生活環境を変えたことも事実であろう。お勤め時代を通じて、殆んど嗜まされなかった酒も、寂しさを紛らすために飲まれるようになったそうで、遂にはこれが嵩じて、今回の悲運に繋がったのかも知れないと思うと、返えすがえすも残念なことで、悔ま

宿谷喜人君の死を悼む

(28) 岩泉迪人

後輩宿谷喜人君は、今から五年前の創立二十五周年記念式典施行後のある日、私の弟と一緒にだったのことで、訪ねて来られたのが初対面、これが縁で初雁会に入って頂いた。君は安田信託銀行のOB親睦会、安田信交会の事務長をしていられた。銀行マンであった経験を生かして頂いて、当会の財務担当として、私を助けて頂いた。その後更に初雁会の事務局長として当会活動の中心的役割をも荷なわれるに至った。

例えば昨年三月十七日、丁度当会の創立三十周年記念式典日の前日、それ迄この日の準備で大奮であった君から、永らく入院中であった御夫人の死去を知らされ、後事を託されてならない。宿谷さんは享年六十才、未だ若く、これから好きだった短歌に俳句に又茶道に励まれて、余生を楽しく過ぎられる心組でおられたに違いない。事件の二日前の十一月六日、川越での散策会で同窓相集い、一席の宴を設けたとき、宿谷さんの楽しく談笑している姿を遠くから垣間見ていたが、これが最後の別れとなっていったとは！ 思うだけに身震え胸痛むのである。私は宿谷さんの霊が永へに安らかならんことを願い心から冥福を祈るばかりである。

右 富谷氏 左 岩泉氏



後、蔵の会の茶席に招待されたが、自然の裏に美事な茶人振りを発揮されていた。この日の出会が君との最後の日となろうとは、まことに神ならぬ身の知る由もなかった。

十一月十二日君のご郷里東村山の梅岩寺で葬儀が営まれたが、大勢

ご冥福を祈りつつ

(29) 武田 葛

目黒副会長並びに宿谷さんのご逝去を悼み、ご冥福をお祈り申し上げます。目黒副会長は七十六歳というお年。つい二十年前だったら「十分なお年で」といわれるご年齢ですが、今では「まだまだ」という感じが

宿谷さんの訃と、その前後のご事情は新聞やテレビで知り、また、在京初雁会の席でつぶさにうかがい、皆様と共に黙禱し、ありし日の宿谷さんを偲んだのであります。

宿谷さんは例会の席で何度もお会いしており、その独特な語り口は今も目に浮んで来る思いがします。宿谷さんの訃は胸ふさがる思いで聞いたのですが、それからだいぶ日が経ちまして、昨今となり、新しく思えてくるのは、宿谷さんは寂しくもあられたでしょうけれど、ある面では、仕合わせの時間を持っておられたのではないかと——ということでは、酒場のにぎやかな雰囲気、職場や

の甲問客の中に君を可愛がっていたれた我々高校の恩師市原豊太先生（後に東大教授）の姿もあった。君と、あの世で君を迎えられたご夫人お二人の永久のご冥福をお祈りした次第である。

宿谷さんの想い出

(32) 福田 龍 雄

宿谷さんの勤務先が西新宿、小生の仕事先も当時西新宿と言った関係から時々同氏の事務所へお邪魔して在京初雁会の事務打ち合せやら雑談やらに時を過しました。

在京初雁会創立三十周年記念式典実施に際しては特にその予算の作製、簿名票作り等に協力し進化したことが一番最後の想い出となってしまうました。三十周年記念式典の当日はその前日より奥様の容態が急変された為、突然出席不能となり急拠小生と堀口さんが宿谷さんの代役を引き受けてんやわんやのうちに出入金の収支をどうやら滞りなくメめ終った時には本当にホッとしましたものでし

た。

宿谷さんは特に郷土の風土史に造詣が深く、昭和五十五年十二月八日のビルセンに於ける昼食会卓話に表千家宿谷喜人氏として「狭山茶随想」と題して茶の湯と入間路との係り合

い等に関し蘊蓄を披露されたのも懐しい想い出となっていました。又宿谷さんは俳句も嗜まれ住友信託銀行OB会の俳句同好会に作品を発表されると共にその会のお世話も熱心になさって居られる様子がお世話を訪問する度に深く感じられました。又酒を愛し酒と共に散ったかの感さえある同氏を哀悼するこ

宿谷喜人君の死を悼んで

(35) 藤井 信 男

客年十一月十日朝、私は下関に在住する孫娘の七五三のお祝に駆けつけるべく、家内と連れ立って東京駅から新幹線に乗った。

いなく彼の死であった。私はがく然としてばし声が出なかった。なぜ、彼が……

駅頭で買い求めたY新聞を動き出した列車の中でひろげ、ふと社会面のトップに宿谷君の非業な死が顔写真入りで報じられていたのを見て、一瞬わが目を疑った。しかし、間違

り十一月六日に在京初雁会、川高同窓会合同の恒例の秋の散策会が川越の地で行なわれた。このとき、同窓の彼と顔を合わせた。半年前の五月九日に在京初雁会の会合が東京霞が

関のダイヤモンド社で行なわれたとき以来であった。

実は、この五月の会合の折に、彼の最愛の奥さんが三月ごろ他界されたことを知って、心からお悔みを述べた。人と接するとき、いつも笑顔を絶やすことのなかった彼のその時の表情に一抹の淋しさが漂っていたのを感じとって心から同情し、慰めの言葉をかけたのであった。

話は元に戻るが、新聞等の報道によると彼の死は十一月八日夜、発見されたのは翌九日夜、つまり彼の第二の勤務先であった安田信交会からの無断欠勤の問合せに急拠千葉の勤務先から帰宅したご長男によってであったという。話が前後するが、この彼の死のわずか二日前の六日には川越の蔵づくり本舗で彼と隣り合わせて会食し、一旦解散後、岡村同窓会長のご案内で中原町にある中央公民館分館である渡辺家を十人前後の人々とともに訪れ茶の湯のご接待に預かった。そして、ここでも彼と隣り合せて茶室に座った。

このとき、相手方の女性方に、彼独特の温かな笑顔で、得意の表千家裏千家、千利休の話などを静かに語っていたのを今さらに思い出すのである。

分館を出たのは、夕方四時ごろだったであろうか。私はふと、彼にこう言った、「僕のところへ寄っていかないか……」。彼は「もう遅いからまたにするよ……。」と言いな

がら私と軽く握手を交わして街角を足早やに去っていった。思えば、これが、彼と私の永遠の別離になった。彼は川中在学中は、旧姓当間であった。たしか私の記憶では、とくにこれといったクラブ活動もしないで、当時東村山から毎日通学していた。温和な、どちらかといえば余り目立たない人であったとの印象が残っている。

つまり勉学一本に打ちこんだ努力家であり、一面ユーモラスな学友でもあった。京大卒業後は安田信託銀行のエリートコースを歩んだ。各地を転動していた当時は、年一回の年賀状を交換するだけで、われわれの同窓会にも顔を合わせることもなく、親交が復活したのは、彼が最後の職場となった東京へ戻ってからであったと覚えていた。当時、私も部内の某官庁に勤務し、在京初雁会の末席をけがしていたこともあって、久しぶりに彼と接することができたのである。

あるとき、銀座の月例会を終って、誘われるままに彼の第二の職場、新宿の安田信交会に行き、何人かの〇しに囲まれて中央の事務局長席で小柄な身体を沈めていた彼、そして退職後、趣味趣向を通じて第二の人生を送る人たちのいわゆるお世話役として、結構、第二の人生を楽しんでいたかに見えた彼とコーヒーをすずりながら、お互いに家庭の話、とくに他家に嫁いだ娘さんのこと、一日

も早くお嫁さんをもたらってやりたいと願っているご子息のことなどしみじみ語っていた彼を思い出す。その彼ももうこの世にいない。

宿谷喜人氏の思い出

(36) 堀口武夫

在京初雁会に入会して強く印象に残ったのが宿谷喜人氏。苗字が珍らしいのと、なんと読むのか迷ったのである。博学にして開放されっぱなしの男である。うらやましい限りの行動をしている。

いつでも、どこでも尋ねると、寸時に即妙の返事をされるから。本体丸出しで、明るく人に接している。高尾山登山の日も秋日和の登りおり大僧正を中心に懇談し、会友の方々との和気のある話し。心からの笑いが

われわれ同窓生一同とともに、誌上を借りて心からご冥福をお祈りする次第です。

見られた。スナップ写真にも現在見ているは借りてはっきりしている。

天真らんまん、幼な児のようにすなおです。

「堀口よ、な、お前は俺を助けるために生まれたようなものだ」多くの人の前で、いつも話された。

下山しての新宿・四ヶ所の店でも秋の散策会の楽しさを語り継ぐ。時は過ぎたので帰宅をすすめた。家庭でも、よき父、夫であったことと思う。

宿谷喜人氏

昭和十八年九月 京大経卒業兵役

二二年一月 安田信宅へ入社

三七年三月 証券代行部次長

四〇年五月 浜松支店長

四三年五月 新宿支店長

四六年二月 財産管理サービス

室長

四七年六月七日

停年

安田信交会事務長

宿谷氏遺族連絡先

長男 直人氏

住所 保谷市本町三一三一七

後藤様方

電話 〇四二四一六一一七四四七

短歌

感 応 道 交

宿 谷 喜 人

亡妻よ汝れ六十路入りにし春旣なげに逝けるや吾れを残して
 親族らの並みみて亡妻がなきがらに吾れ泣き叫び果てつ安らぐ
 病床に添ひ寝の吾れに安らげく汝れただひとりぞ頼りてふ妻
 この道を観音経を念じつつ加護やあれかし吾妻病臥に
 あ妻病むいもせ三十余のつかれなんいよよ愛しもひそと懺悔に
 體喰みつ叔母へ吾妻へ語らひぬ学びし西をひとり身のころ
 帰るさに菓子ぞ買ふてと妻の声こころよめたり孫ら明日来ん
 二人目の孫は姪なりお七夜ぞ千尋と名づけ寿ぎにけり
 今日の日ぞ初宮参り初孫の晴れ着に映ゆる妻がひとみよ
 孫ねだる馬のり遊び吾も無心居間を三たびぞめぐり果てたる
 遊ぼうよ孫のかたこと愛しけれ更に一夜を重ねゆかばや
 離の手に曾孫のもみじ手握りつつ笑みしあが母翌ひ逝きたる
 彼岸入り生家おとなへば兄めをと報恩行持や般若湯ちそせる
 盆供とて菩提寺おとなう帰るさの生家の木もりよ吾れは安らぐ
 吾れはしも土用丑の日生まれなり吾れ夏に強し生母が苦をもう
 幼きにすべりひゆ摘み遊びたるさきたま野べのらら恋ひしも
 熊谷草さ庭に咲きて謡ひをり青葉の笛のきんだちあわれと
 旅やどに集へる友ら皆六十路語らひにけり孫可愛ゆしと
 六十路入る友ら集へば入間路の訛ひびかう宴楽しも
 袖の黄の吾れが背丈を超えそだつ眺めさわりつその香夢幻に

俳句

真 如

三ヶ日詠番三味喪に暮らし
 善を美をただひたすらに去年今年
 起承転・結は空刺す茨の芽
 もの芽に先達の声深大寺
 袖子もぎて老先達を訪ねたり
 濡れ縁に万両置きて昼げかな
 それぞれに因柄を選りてお年玉
 古稀を生く姉妹三人炬燵句座
 息吹きせば動く薄氷木の葉乗せ
 雨戸繰る金柑映ゆるあしたかな
 土雛を掌のひらに乗せ老二人
 妻逝きてしだれ咲きをり雪柳
 城あとにとわの今あり桜かげ
 出はらひて彼岸詣での本家かな
 筍の油味噌あえ榻郷かな
 あげぼのとしるす木蓮遊歩道
 義母逝きてさ庭静かに竹の秋
 五月風入れて通夜とふ香をたく
 義父の忌や車前草野みち一人行く
 坂の下までも匂ひて栗の花
 句座和して沸く玉の汗真如かな
 木苺やしだれて赤き灯をともし
 青東風やわらべの声を窓べより
 万葉の歌秘め咲けり滑笈
 莊殿や九輪塔のさまに車百合
 百日紅鈴を振るごと蓄たれ
 片影も幾何学模様都心行く
 颯の庭揺るる紫藤袴

涼風や鯉鳴戸巻京料理
 雲間切れ月みゆと声さ庭より
 晩秋の車窓に走る夕やけ富士
 旧き姓のもみじへこだます同窓会
 天翔けて友と尋ねつ初雁城
 鳥媒や山茶花一片舞ひ落ちぬ
 残照や紅葉散る散る曼殊院
 小石乗せ霜光りをり夢幻なる

会員消息

○鯉沼寛一氏(20) 膝痛川水を抜いて貰ったら痛みはとれたが、

まただんだんにたまる。暖くなったら治るでしょう。それまで例会失礼させて貰います。

○大塚平氏(28) 九月十二月胃の手術のため入院。目下自宅療養中、電話の声は元気でした。

○福田龍雄氏(32) 三月末まで隠退一年、株式投資、水墨画、書道、社交ダンス勉強中。

○中野護央氏(37)

さる十二月の定時協会員総会で社団法人日本証券事業協会常任監事を退任し(社)日本証券業協会東京研修センター、所長所在地、世田谷区代沢二の一〇一二四

(電話)四一二一五七七

に就任

なお昨年は、長男が三井物産に就職し長女が慶応大学に進学しました。

58年度年会費納入者

(58.4.1~59.3.15)

- (7) 山崎嘉七 (12) 田口武次郎
- (13) 中村安五郎 (14) 吉村長治
- (17) 福島茂吉 58.59 坂田圭司 (18) 奥富茂 石井源一 松本茂雄 太田泉 (19) 清水一郎 岩崎清録 稲葉健吉 平野恒 (20) 原田愛助 鈴木知二 (22) 目黒勝郎 中村莊平 島田斌 (23) 古谷喜代治 平井義雄 北村博学 山本昭夫 砂田太三 (24) 船津鴻之助 浅野誠一 (26) 橋本国治 (27) 久保真齒 平岡忠次郎 西川桂之助 山本秀順 中善寺登喜夫 落合忠治 (28) 岩泉迪人 友光正昭 太塚平 根本峰好 柴崎武夫 徳田信夫 落合義作 (29) 松下雄一 武田葛 (30) 深沢義雄 雨宮正秋 山崎重兵衛 (31) 土屋博 仲知之 (32) 福田龍雄 土屋祥平 岩崎靖夫 山本道 新井辰平 (34) 西川莊二郎 (35) 宿谷喜人 藤井信夫 細島博文 増島隆二 (36) 久保田四郎 荻野文夫 西川瀨八 (37) 松本博一 野上正 宮本爵 中野護央 (38) 阿部親興 (39) 佐々木信夫 (40) 中沢清次郎 (41) 星野猛 57.58 (43) 内田幸男 島田嘉夫 (44) 岡村和夫 (高) 岩崎美郷 矢部敬一郎 (高3) 田中崇 中村生秀 (高4) 駒井正明 (高12) 高橋明吉 (高21) 川合善明 横溝高至 以上79名 伸81名 (追加) (17) 新井正直 57.58.59 (19)

吉沢彦三 山本昭夫 59.60 佐々木忠一 32 以上4名 伸6名 (敬称略)

◎会費納入者一名氏名不明

昨年11・5・11・30迄の間納入者で右の列記者に洩れている方岩泉迄お申して下さい。
宿谷氏死去のため振替口座口で受払通知票一枚紛失につき。

編集後記

○二月の例会で、次回「鐘つき堂」を、故目黒氏、宿谷氏お二人の追悼号にすること決定。お二人の同期生を中心に原稿をお願いしましたところ、多数の方々からご送付を頂き、有難うございました。
○締切日以後に送って頂いた原稿も卒業願にはなりませんでしたがのささせていただきました。
○お互い、健康には留意、お二人分迄長生きして、初雁会の発展を期しましょう。

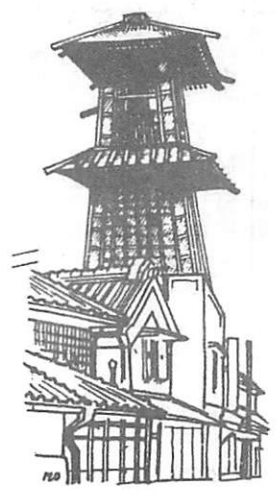


在京初雁会 (創立昭和28年)

名誉会長 坂田 圭司

会長 矢部 義一

1987年 (昭和62年) 2月
第42号



月例会

中央区銀座 6-8-7
交詢社ビル 1F.
ビルゼン TEL. 571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28
学士会館 TEL. 292-5931

在京初雁会

〒340 草加市中央 2-8-45-5
事務局長 福田 龍雄
TEL 0489-24-2644

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

1987(昭和62)年度

総会

4月8日(水)

12:00 - 14:00

銀座・ビルゼン

- 総務報告、決算・監査報告、予算案、年間事業計画、役員改選
 - これをもって総会開催通知に代えます
- ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

定例行事 (予定)

- 4月8日(水)総会
- 5月10日(日)同窓会総会・懇親会 (母校図書館同窓会室及び吉寅)
- 6月12日(金)学士会館夕べの会
- 7月8日(水)ビルゼン
- 8月10日(月)ビルゼン
- 9月18日(金)学士会館夕べの会
- 10月 } 合同散策会又は月例会
- 11月 } ビルゼン
- 12月8日(水)ビルゼン納会

***** 予告 *****

○会報の充実……「鐘つき堂」の体裁を一新し紙面を拡充するよう準備をしています。

会員に高齢者が多いため従来はこの体裁を続けましたが、高校卒の若手会員の増加に伴い刷新する時機到来と考えられます。なおこの機会に新編集者を募りますのでご応募下さるようお願いいたします。(広報部)

今回は役員(任期二年)改選期に当たっておりますので会員の総意をもって執行部を選出し、ますます活動を盛んにし、発展を期したく多数の会員のご出席をお願い申し上げます。なお新規事業のご提案を期待しております。活発な討議に、特に高校部会員の諸氏が奮ってご参加下さるようお願いいたします。

会長 矢部 義一

本号の内容 (秋冬合併号)

- 水の教訓……………会長 矢部我一
- 映画づくり雑感……………金子秀夫
- 8ミリとビデオ……………
- 同窓・こえ・顔……………62・2・20
- 弁護士アラカルト……………中村金秀
- 在京初雁会々員の趣味
- 編集部便り
- 記録 夕べの会
- 写真集 散策会
- 入間初雁会

帖書き
手書き
わが抜き

- その1 -

水の教訓

矢部 義一

(会長第23回卒)

自ら活動して他を動かすは水なり

障害に遭いて激しその勢を百倍するは水なり

常に進路を求めてやまざるは水なり

自ら潔うして他の汚濁を洗い、而も清濁併せ

容るるは水なり

洋々として大海を満たし発しては蒸気となり

雲となりて雨と変じ凍つては冷龍たる氷雪

と化す 而もその性を失わざるは水なり

六然訓

自處超然 處人然 無本澄然 有事斬然

得意淡然 失意泰然

七不可訓 (杉田玄白)

昨日の非は悔恨すべからず

明日はこれを慮念すべからず

動作を勤むるに安きを好むべからず

飲むと噎らうとは度を過すべからず

正しきものに非ざれば苟くも噎らうべからず

壮実に頼りて食を過すべからず

事なきときは薬を服すべからず

「長寿訓言集」

健康十訓

少肉多菜 少塩多酸 少糖多果 少食多齟

少衣多浴 少車多歩 少煩多眠 少怨多笑

少言多行 少欲多施

長寿十訓

飲食は控え目にすべし 一日一升以上の湯

茶を飲むべし 扇めて苦勞を忘るべし

憎悪と嫉妬の感情を抱く勿れ 俳味と諧謔

を失うべからず 努めて若き友を作るべし

智能の向上を期すべし 読書を怠るべから

ず 決して蟹居すべからず

長寿心得

人生は六十から。七十歳にしてお迎えが来

たらいま留守だと言え。八十歳にしてお迎

えが来たらまだ早いと言え。九十歳にして

お迎えが来たらそうせかさずともよいと云え。

百歳にしてお迎えが来たらよい時期をみて

こちらからばつばつ行くと云え。

健康訓 (貝原益軒)

人の身は父母を本とし、天地を初めとす。

天地父母の恵みをうけて生れ、又養われたる

わが身なれば、慎しんでよく養いて損いやぶ
らず、天寿を長く保つ可し

「老人六歌仙」

一、しわがよる ほ黒が出ける 腰曲がる

頭がはげる ひげ白くなる

二、手は震う 足はよろつく 歯は抜ける

耳はきこえず 目はうとくなる

三、身に添うは頭巾、襟巻、杖、眼鏡、たんほ

(湯婆) おんじやく(温石) しゅびん(漉

瓶) 孫子手

四、聞きたがる 死にとむながる 淋しがる

心は曲がる 欲深くなる

五、くどくなる 氣短になる 愚痴になる

出しやばりたがる 世話やきたがる

六、又しても同じ嘘に 子を督める 達者自慢

に人は嫌がる

(追記) 長寿の歌(天海僧正)

氣は長く、勤めは堅く、色薄く、食細うして

心濶かれ

〔編集部より・矢部会長のわが手帖抜き書き
は随時連載して頂くことになっております〕

映画づくり

雑感

金子秀夫(32回卒)

趣味として8ミリ映画を作り始めてからも

15年以上になります。現在は自分で製作するより人の作品を見る方が好きで、川越地区や県の8ミリ映画会長として専らコンクルールの審査を行って居ります。県コンクールは毎年秋に行われて居り今年も10月に行つて知事賞を始め3賞を決めました。扱て映画づくりでプロとアマとの相違は非常に大きいものです。プロは時間と金を惜しみなく使い而も出来上つたものには報酬が付きますがアマは時間も金もなく而も報酬どころか持出しの形になります。又プロは数人のスタッフを組んで映画を作りますがアマは撮影から編集、音入れ迄独りで行うので趣味がなければ出来ない事で、その作品が賞に入る事によって自己満足して居る訳です。

先日学士会館で上映した「娘はしご乗り」は昭和57年度の作品で4年位前のものです。その年の県知事賞に入り又エルモの全国コン

クールにも入賞して全国各地を巡回して上映されたものです。2人の娘さんが梯子乗りをしている姿を見て之は面白い題材になると思ひ映画作りを始めたものです。いろいろ聞いて見ると梯子乗りは川越祭だけでなく一年を通じて各種行事に出て居ると云うので正月の成人式から撮り始め川越祭をラストシーンとした訳です。

完成までには2年位かかって居り季節や天候の変化で色合が変ってくるのでその色合せに苦心しました。プロなら演出をさせて良いポーズをとらせませんがアマでは一般観衆と同じ立場で見た姿を撮るので、失敗も多く、作品の10倍位のフィルムで撮つてその中から編集して作品を作るので大変な仕事です。良い作品は沢山な時間をかけたものが多く、昔秩父祭を5年かけて撮つたという作品を見た事がありました。一年一席として色々な角度から撮れば5年位かかるものと思ひます。

よく8ミリ狂と云いますがその狂が興味の興になり度いものです。

8ミリとビデオ

8ミリの全盛時が去つて10年余り、今やビデオ一色の時代となつてきました。そのビデオも将来は8ミリビデオが主流を占め益々その力を伸ばしてくると考えられます。確かに

手軽さ経済性の面から見れば8ミリはビデオの比ではないが、然し画質や表現手段の点に於いてはまだまだ数段優れた特性を持っています。この点が8ミリマニヤをして、未だにフィルム映像の場を託す大きな要因となつて居ます。然しビデオ技術の進歩は著しく、いつの日か8ミリは衰退し、フィルム映像として残るのは16ミリやプロ用の35ミリだけになつて行くものと思われれます。よく人から8ミリとビデオの違いや、これから始めるのにどちらが良いかと質問されますが、夫々に長所と短所があり、何を撮るかによって選択するのが最適な方法と思ひます。舞台撮影や記念行事はビデオが向いており人物や芸術を画くドキュメンタリー作品は8ミリが向いています。現在の8ミリとビデオの特質をあげると次の様になります。

大映写	8ミリ	多人数で鑑賞できる
編集	8ミリ	簡単な管に制限あり
編集	ビデオ	簡単にできる
画質	ビデオ	編集機で可能
現象再生	8ミリ	物足りない
音質	ビデオ	要2/3日
経済性	8ミリ	即再生可能
回転音	8ミリ	優れない
新機種	8ミリ	費用が高つく
	ビデオ	安くできる
	8ミリ	音が気になる
	ビデオ	音が出ない
	8ミリ	生産中止で出ない
	ビデオ	続々と出る



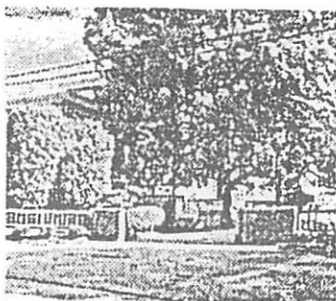
川越高

川越城址に建つ川越高の正門をくぐると、左手に高さ二十二メートル、樹齢百年という二本のクスノキの大樹が迎えてくれる。笛木豊彦もこの木に見守られて、青春の一時期を過ごした一人（昭和40年卒）。笛木と共に川高に学んだ前後（38年―42年卒）の同窓は今

笛木は陸上部のスプリンターとして鳴らしたが、当時の主将、大野邦弘（40年卒）は竹の器を使った季節料理で知られる竹寺（飯能市）の副住職。やはり陸上部の一級下には元埼玉弁護士会副会長で川越市長選にも立った細田初男がいる。

弁護士では細田のほかに町田富士雄（40年卒）、また山川一陽（かずひろ）（38年卒）は四年前に法務省を辞めて弁護士登録、日大法学部助教として民法を講義する。

ほかに大学で教えているのは大東文化大助教授永林博（39年卒）、都立大助教授小林良二（同）、埼玉医大川越医療センター助教



川越高正門。大きなクスノキが威容を誇っている。



小林正幸（38年卒）ら。小林のように大学院にいらるのは東京女子医大の田中健（同）、岩手医大の高野良邦（40年卒）など。山口現朗（38年卒）ら川越市内で開業している医師も数多い。

実業界では中央百貨店（行田市）専務川辺秀夫（39年卒）。

官庁では文部省に入った島崎和男（42年卒）が現在、文化庁芸術課課長補佐。県庁にも高野一雄（38年卒）、山田昌男（39年卒）、小林洋史（40年卒）、井口敏（41年卒）、根岸文雄（42年卒）など多数。

教員も数多いが、母校の教壇に立っているのは、新井利邦（38年卒）一人。マスコミではロイター通信社に森田宗明（42年卒）。ユニークなところでは芸大を出た岡部申之（41年卒）が東京混声合唱団で活躍中だ。

（讀売新聞62・2・20より佐久間勇次氏提供）

弁護士アラカルト

中村 生秀（高3）

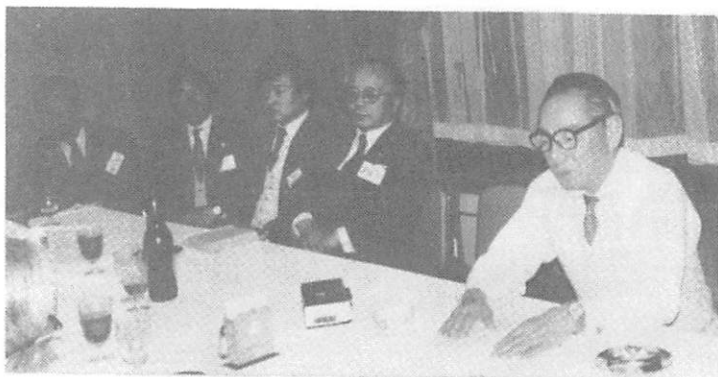
明治・大正から戦前迄は弁護士になる為に苦学力行してその目的を達成することが出来たが現在ではほとんど不可能である。

弁護士になるには先づ司法試験に合格しなければならぬが、この試験への出願者に対して、合格率は極めて低く、1.7%位である。大学別合格者数では早大・東大・中大の三大学が例年一位から三位を占めている。早大・中大は東大等の他大学に較べ受験者数が多いので合格者数も多いのである。弁護士は都市集中型の職業であり、全国的には極めて偏在している。人口十万人に対する弁護士数は、東京四九・三人、大阪二〇・一人に対し山形・奈良・島根・佐賀・鹿児島各県では二・九人である。弁護士の平均年齢は極めて高く、明治・大正生れが30%を占めている。又弁護士の所得は世間一般に考えられているよりはるかに低いのが実態である。

余談ではあるが私の名前はセイシュウと自分で名乗っているが、親が付けてくれた呼び名はタカヨシと読ませるのである。この読み方は「難読奇姓辞典」と言う辞書に記載されているので、いい加減に付けられた読み方は無いと言うことが立証され大いに気を良くしている次第である。五月八日ピルゼンにて

在京初雁会々員の趣味

石川 四郎(12)	ビリヤード	山本 道(32)	テニス, ゴルフ
吉村 長治(14)		佐々木忠一(32)	海外旅行
坂田 圭司(17)	散歩, テレビ観賞(野球, 大角力) 麻雀, 読書	土屋 祥平(32)	ゴルフ, 俳句, 木彫(木目工芸) 折紙
新井 正直(17)	考古学, スポーツ観戦, 書道	福田 龍雄(32)	ゴルフ, 水墨画, 書道, 社交ダンス
菅間 六郎(17)	民謡, 和歌, 相撲(観戦)	金子 紀孝(33)	
石井 源一(18)	読書, ゴルフ	西川 莊二郎(34)	ゴルフ, 小唄, 読書, 旅行
太田 泉(18)	旅行	増島 隆二(35)	ゴルフ
中山 〆(オサム)(18)	磁気治療	藤井 信男(35)	旅行, 囲碁, 写真8ミリ, 油画
清水 一郎(19)		細島 博文(35)	
稲葉 健治(19)		橋本 次郎(35)	読書, 写真
鈴木 知二(20)		萩野 文夫(36)	読書, 音楽鑑賞
鯉沼 寛一(20)	囲棋(2級), 俳句, 歴史(古代史)	西川 溟八(36)	ゴルフ, 観劇, 園芸
浅海 倭夫(21)	川柳, 囲棋, 菜園	久保田 四郎(36)	釣, 麻雀
久保 信吉(21)	書画, 世界改造理論	堀口 武夫(36)	墨絵, 将棋, 写真
島田 文武(22)	日本画(クロッキー) 署名本集, 古 銭, 詩吟朗吟	松本 博一(37)	囲碁, ゴルフ
本多 昇(22)	園芸, 新舞踊, 民謡	宮本 蔚(37)	江戸歴史勉強会むらさき会々員 名所旧蹟寺院訪問 音楽歌唱(カラオケ) 初雁温知会々員
内田 静馬(22)		中野 護史(37)	
中村 荘平(22)		野上 正(37)	小唄, ゴルフ, 碁
齋藤 賢吉(22)	運命学研究, 植木手入, 読書	佐久間勇次(38)	馬術, 狩猟, ゴルフ
山本 照夫(23)	ゴルフ, 園芸	坂田 順一(38)	旅行, 釣
北村 博学(23)	剣道, 短歌, 読書(文芸)	阿部 親興(38)	ゴルフ, プロ野球観戦
平井 義雄(23)		宇津木清茂(39)	
矢部 義一(23)	小唄(春日豊文), ゴルフ	中沢精次郎(40)	
藤林 信一(23)	旅行, 相撲, 野球等スポーツ観戦	星野 猛(41)	ゴルフ
砂田 太一(23)	ゴルフ	保野 昭一(42)	ゴルフ, 園芸
古谷喜代次(23)	俳句	平岡 寿夫(42)	ゴルフ, 麻雀
船津鴻之助(24)	書道, 絵画, 映画	島田 嘉夫(43)	テニス, ゴルフ
安齋 恒男(24)		内田 幸男(43)	園芸, ドライブ, 外国語
橋本 國治(26)	囲棋, ゴルフ	岡村 了一(43)	謡曲, 短歌
金井 俊雄(26)	書道, 園芸, 旅行	岡村 和夫(45)	読書, 旅行
久保 真樹(27)	剣道	田中 隆(45)	巨人ファンの会常任幹事, ゴルフ
中善寺登喜次(27)	水墨画	菅沼 伸之(高2)	
山本 秀順(27)	俳句, 登山	橋本月出松(高2)	
西川桂之助(27)	ゴルフ	矢部敬一郎(高2)	園芸(菊さつき) ゴルフ, パソコン
柴崎 武夫(28)	園芸	岡田 良平(高2)	ゴルフ, 小旅行(史蹟めぐり)
落合 義作(28)	ゴルフ	小龍忠三郎(高3)	ゴルフ, 音楽, 切手収集
渡辺 康(28)	碁(4段)	田中 崇(高3)	
友光 正昭(28)	釣	中村 生秀(高3)	ゴルフ, カラオケ, 音楽
大塚 平(28)	書道, 将棋, ゴルフ	長島 恒雄(高3)	
根本 峰好(28)	囲棋, 水彩画	大川 解(高3)	食味, ゴルフ, 美術
岩泉 迪人(28)	写真, 読書, 旅行	駒井 正明(高4)	ゴルフ, 麻雀, 柔道, テニス
松下 雄一(29)	囲碁	松井 頼敏(高4)	旅行, スキー登山
武田 葛(29)	ゴルフ, 園芸	染谷 潔(高5)	
小峯 芳平(29)	ゴルフ	甲斐野孝久(高12)	ゴルフ
野沢勝三郎(30)		高橋 明吉(高12)	絵画鑑賞, 写生, 旅, 庭いじり
深沢 義雄(30)	謡, 囲棋(5級)	笹崎 能輝(高18)	読書, 落語, 映画, 温泉巡り
野上 完一(30)	ゴルフ, 散歩	新井 宏明(高18)	ゴルフ, テニス, 囲棋
仲 知立(31)	ゴルフ	横溝 高至(高21)	テニス
土屋 博(31)	8ミリ映画, 旅行, ゴルフ	川合 善明(高21)	スキ, ゴルフ
金子 秀夫(32)	囲碁		
岩崎 靖夫(32)	俳句, スポーツ観賞		
新井 辰平(32)			



(右より) 講師西川教授、同窓会長
岡村了一、横溝高至、中村生秀、
野上完一一の諸氏



(左より) 岩泉副会長、野上正氏、
松下副会長、松井穎敏氏 (英文毎日
編集部長)



(右より) 浅野誠一医博 (前慶応大
学医学部教授)、矢部会長、本多昇
農博夫妻

夕べの会 (六一年一月二十四日)

「高齢化と健康」 講師

医博 西川 溟 八氏
日本大学医学部教授

(36回)



(左より) 松下副会長、松井氏、
小山堯氏、金子紀孝氏



(右より) 岡村、横溝、中村各弁護士
と堀口武夫氏(堀口氏は本会広報
部のカメラマンとして活躍されてい
る)



(左より) 菅沼伸之氏、矢部(敬)
副会長、増島隆二氏、駒井正明氏



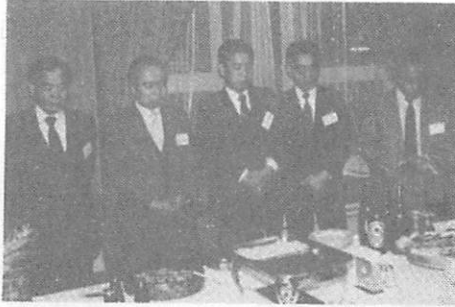
(右より) 野上完一氏、堀口武夫氏、
金子紀孝氏



(右より) 本多昇ご夫妻、安斉恒男
氏、山本照夫氏、砂田太三氏



高齢化社会に因む話題だけに、含蓄に富んだ講演のあとの質疑応答も極めて活気を呈し、浅野医博のご発言もあり、有益な一夕であった。

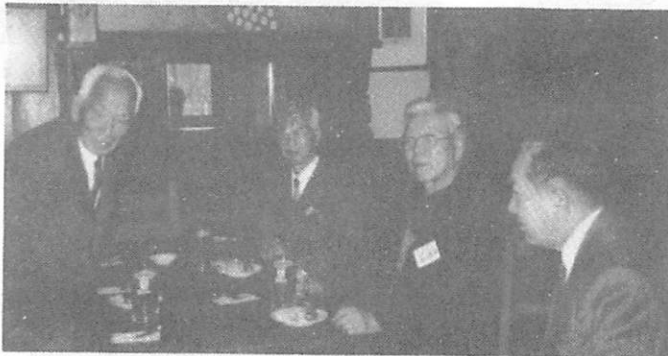


在京初雁会の活性化の原動力・
高校部の新鋭諸氏



西川講師（旧中36回卒・
東大医学部出身）

																出席者氏名（敬称略）											
横	岡	小	松	駒	中	菅	日	矢	岡	野	堀	増	金	福	佐	野	松	岩	浅	安	矢	砂	山	本	本	大	田
溝	田	山	井	井	村	沼	出	部	村	上	口	島	子	田	木	上	下	泉	野	斎	部	田	本	多	多	田	
高	良	穎	正	生	伸	哲	敬	了	武	隆	紀	龍	忠	完	雄	迪	誠	恒	義	太	照	幸	泉	昇	泉	泉	
至	平	堯	敏	明	秀	之	郎	郎	一	正	夫	二	孝	雄	一	一	一	人	一	男	一	三	夫	子	昇	泉	
(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高	(高
21)	4)	4)	4)	3)	2)	2)	40)	37)	36)	35)	33)	32)	32)	30)	29)	28)	24)	24)	23)	23)	23)	23)	22)	18)	18)		



（左より）坂田名誉会長、佐々木、
福田、岩泉副会長

ピルゼン月例会にて
福田龍雄氏（32回卒。本
会事務局長）が「趣味と
人生」を語った日のスナ
ップ（60・3・10）

夕べの会

11月14日

「中国を再訪して」

野上 正氏 (37) 回卒

講師は朝日中国文化学院長。
日本大学講師。



今回の訪問で中国は観光化しつゝあるとの印象を強く受けた。かつては商業活動もすべて官営であったが、今は私営も認められたので個人商店が多くなった。そのため観光地などでは土産物などは値切って買うことができた。衣食住のうち最も著しく変化したのは衣で、衣料切符制はとうになくなり服装もたいそい派手になってきている。

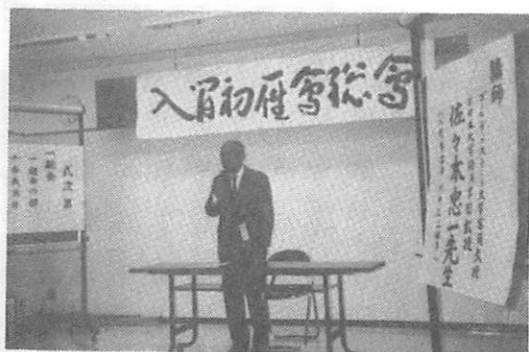
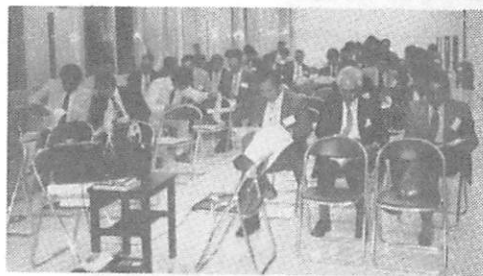
建国三十年にして中国は近代化の様相を濃くしつゝあるように見受けられた。対日感情も友好的で日本にとっても有望なマーケットとなるであろう。

(文責記者)

出席者名簿 (敬称略)

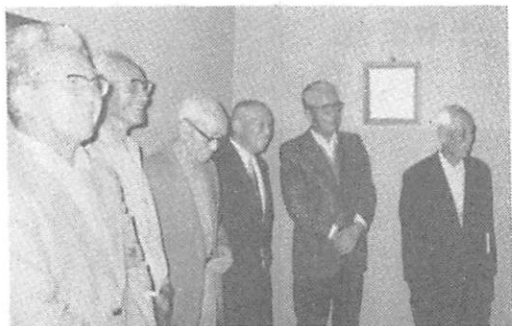
- 矢部 義一 (23)
- 友光 正昭 (28)
- 松下 雄一 (29)
- 野上 完一 (30)
- 佐々木 忠一 (32)
- 福田 龍雄 (32)
- 堀口 武夫 (36)
- 野上 正 (37)
- 松本 博一 (37)
- 管 沼 伸之 (高2)
- 内 田 紀成 (高2)
- 益 子 弘道 (高3)
- 駒 井 正明 (高4)
- 秋 庭 敏男 (高7)
- 横 溝 高至 (高21)
- 井 上 道男 (高21)
- 内 藤 豊 (高21)

同窓会活動



入間初雁会の六十八年度総会が五月十八日新築された入間市文化産業会館で開かれ、六十余名が出席、盛会であった。文化講演会の講師として招かれた佐々木忠一副会長は、「ツタンカーメンの墓陵物語」と題して講演し、エジプト再訪の折撮影した小型映画を上映、興を添えた。

ある日ある時



長老会員意気さかんなり
 (右より)坂田名誉会長、矢部会長、新井正直、
 福島茂吉の両氏ともに坂田氏と同期のトナ会員
 (17回、大正8年)山田辰、福田龍雄両氏は32回卒



右 矢部義一 会長 (大正14年)
 左 矢部敬一郎 副会長
 (昭25・高2回)

群馬県立女子大学長就任の弁
 柴崎武夫氏 (昭5・28回卒)



司会をする岩泉副会長



中央・開会の挨拶を述べる矢部会長

十七会 (トナ会) の三長老
 ↓
 坂田名誉会長
 福島茂吉氏
 新井正直氏



↑
 矢部会長

61年度
 同窓会秋季散策会

— 10月26日 —
 平林寺
 懇親会……むさし野

右より
 管沼 伸之
 矢部 夫人
 岡田 良平
 岡田 夫人
 伊藤 敬一郎
 矢部 豊



矢部副会長を中心に高校同窓と夫人方

60年度同窓会秋季散策会

— 11月10日 —

秩父神社社頭にて



昭和60年11月10日 在京初雁(協賛飯能・入間)散策会

前列右より 梅沢教諭、野上完一氏、太田泉先生
太田先生の背後は市川飯能市長(飯能初雁会長) その背後は岩泉副会長。

編集部便り

- 会報の発行が遅延しましたことをお詫び申しあげます。編集者の身辺事情のため、余裕がなく、やむなく、秋・冬号を合併しました。何卒ご諒承下さい。
- 会員の趣味の一覧表を掲載しました。同好の方々相誘い合って同窓親睦のよすがとして頂けましたら幸いです。この表は会員原票に基づき、岩泉副会長が作成されたものです。その労を多とするものですが、同氏はこの表を編まれて後罹病されました。同氏のご療養生活とご一家の上に天来の恩寵を心から祈ります。
- 本号はグラフの頁が多く楽しいものとなりました。写真は主として堀口武夫氏の労に負うものです。この機会に同氏に深い謝意を表したく存じます。
- 会報へのご寄稿には専用原稿用紙をご利用下さい。請求は電〇三一九九五一四三五。(佐々木)です。よろしく。

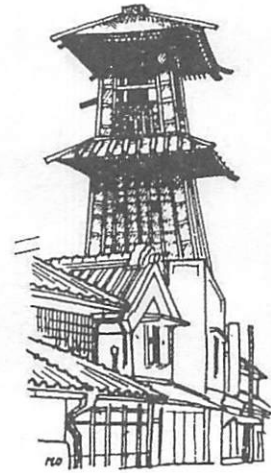
刷 印

千代田区西神田二一七五二〇四
有限公司 信 州 社
(電)三三四一三八二七

鐘つき堂

在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 増島隆二

1991年 (平成3年)
 春・夏号 第51号



月例会

中央区銀座6-8-7

交詢社ビル1F

ビルゼン TEL 3571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28

学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

事務局長 菅沼伸之

〒177 練馬区上石神井2-36-6

TEL 03-3929-2224

会長就任

ごあいさつ

増島隆二

(中三五同卒)

母校川中の同窓会である本会に、今は亡き同期の当間君の紹介により、入会させて頂いたのは、やはり、懐かしい川中時代の想い出の故でした。私の川中生活は水汲み、球拾いの二年間の補欠時代を含む五年間の野球生活でした。つまり五年間野球をなに飯能から川越へ通ったようなものでした。甲子園の夢こそ実現出来ませんでした。飯田先生、伊丹さんのご恩と、良き先輩、仲間のお陰で一回の準優勝を除いては全部県下優勝

という、それは良き時代でした。その川中も戦後川高になり、以来四十年も経過いたしました。

川中より川高へと人事を一新することは、本会発展のかぎであると言う認識は、役員の皆様的一致したものでした。その方針に基づいて準備も着々と進んで参りましたが、川高初期の方々が丁度脂の乗りきった多忙な生活を送っていらつしやる故、川中から川高へ橋渡をするのをもう一期待つと言うことが急遽決まりました。その結果、私に会長と言うお話になり、予測しなかったことの進展に戸惑いながらも謹んでお受けすることになりました。この上は来る二年間、輝かしい歴史をもつ本会の維持発展のために微力を尽くす所存でございますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほどをお願いいたします。

本号の主要記事

会長就任のごあいさつ	増島隆二	1
会長退任のごあいさつ	矢部 義一	2
事務局長退任の辞	福田 竜雄	2
石井源一・福島茂吉両氏のご逝去を悼む		3
名誉会長	坂田 圭司	3
故岩泉さんと築館町	佐々木忠一	4
会務報告		5
夕べの会		8
会員消息		8
編集後記		8

会長退任のご挨拶

矢部 義一

去る四月八日の定例会員総会の任期満了を機に私は会長を退任いたしました。顧みますと、本会の生みの親、育ての親として畏敬する坂田圭司先輩の後任会長として選任されたのは昭和五十九年四月で齢既に喜寿を超え世俗では隠居の身、また、本会としては前年の創立三十周年を契機として新しい時代に適応、発展を目差す機運に向っている際であり、自ら省みて相応しくないと思いましたが会員諸兄のご推挙に従い取り敢えず次の世代への当座の繁き役として微力を捧げることにしたのでありましたが思いがけなく七年もの長い間会長の職を汚してしまいました。

その間ご熱心な執行部諸兄のご盡力により本会の案内書とも云うべき在京初雁会『入会の栞』『二十年史』『会員名簿』等の刊行頒布を行なうことができました。これらの置き土産はこれから首都圏在住の旧川中、川高卒業生諸兄への入会勧誘に役立てて、頂けるものと期待して居ります。

私の後任会長には川中三十五回卒の増島隆二氏にご就任いただくことになりました

た。同氏は川中在学当時は野球部の花形選手として大いに活躍されたスポーツマンで、また、本会内に於ても多年に亘り運営に参画して来られた温厚、誠実な仁であり、これから同氏を中心として会員一同が協力し合って清新の気漲る活気溢れる内容の在京初雁会に変容発展されることを期待して居ります。

私はこれからも本会の諸会合には努めて参加し会友諸兄との交友をますます深めてゆくことを目差し、健康の維持に心掛けてゆこうと思つて居ります。どうぞ変わらぬご交誼の程お願い申し上げます。

（あいさつ）

福田 竜雄

私は此度事務局長を菅沼氏と交替し、六月二十六日「夕べの会」終了後事務引き継ぎを致しました。難聴の身を以て何とか大過なく任務を果すことが出来、ホッとしている次第です。長い間大変お世話になり有難く厚くお礼申しあげます。

相変わらず難聴に悩まされておられ、会合へ出席しても殆んど聞きとれませんので欠席勝手となりますが不悪ご諒察の程お願い致します。

会務報告

本年度の総会は四月八日、月例会場である銀座ピルゼンにて

開き、諸報告承認後、役員の変更を行いました。本会規約第六條により顧問に前会長矢部義一氏、新会長に増島隆二氏、新副会長に田中隆氏、新監事に横溝高至氏、副会長は岡田、菅沼三氏は重任。事務局長は福田竜雄氏の辞任により菅沼副会長が兼任と決まりました。

名誉会長

中一七回 坂田 圭司

顧問

中二三回 矢部 義一

会長

中三五回 増田 隆二

副会長（総務）

中四五回 田中 隆

同（企画）

高二回 矢部 義一

同（広報）

高二回 岡田 圭

同（財務）

高二回 菅沼 伸之

事務局長（兼任）

高二回 菅沼 伸之

監事

高二回 横溝 高至

協力

中二九回 松下 雄一

幹事

中三二回 佐々木忠一

参与

新会長増島隆二氏は東亜大学

卒、元アメリカ銀行ロンドン勤務、前ケムコリース代表取締役。副会長田中隆氏は日本大学医学部教授。監事、菅高至氏は弁護士です。

哀悼の記

名誉会長 坂田圭司

一 石井源一さんの

逝去を悼む一

石井さんは、幼少の頃、私の家の近くに
住んで居られたので、お互いに源ちゃん、
信ちゃん（私の旧名）と呼び合う程の仲
で、九十年近く交友を深めた唯一人の友で
あった。それだけに、この度のご逝去は、
言葉に云い尽くせない程、残念で限らない
寂しさを感じている。石井さんは、川中
（十八回）を出て、東京高工（現東京工大）
建築学科を卒業され、直ちに日本土木会社
（現大成建設株式会社）へ入社され、広島札
幌各支店長を経て、常務に昇進、大阪支店
長に栄進されたが、三十八年役員を退き、
子会社の成和機械（株）社長に就任された。十
三年から四十三年間一貫して、大成建設を
盛立て一流の建設会社の発展に寄与された

功績は大きい。石井さんは大倉財閥解体に
伴い、持株委員会に押さえられていた株が
二十四年社員に開放されることになった絶
好の機会に、札幌支店全員に株を持たせ、
自らも収入の大部を投じて公開株を獲得さ
れ、後年会社が発展を重ね、株式が市場に
公開されるや、株は値上りし株式の恩恵に
浴した社員からは喜ばれ石井さんも会社の中
での大株主となった。石井さんは今で云
う財テクの大家と云うべきであろう。扱
て、石井さんが三十一年十月、常務大阪支
店長から本社へ転勤となるや、直ぐに私を
訪ね久瀧を叙し早速在京初雁会に入会して
貰った。石井さんは昔からの関係もあり、
私を助け協力を惜しまず例会の都度沢山の
ハガキを寄贈された、そのご厚意は今でも
忘れられない。入会後は毎回出席され、四
十七年六月、財務担当副会長になってから
も物心両面にわたって会の発展のために尽
くされた。その功績は会にとって実に大き
いものがある。

四十二年戦後の混乱期も過ぎたので、石
井さんは、従弟の浅野誠一医博と相図り、
戦前立派に運営されていた温知会を復活さ
せたいものと意見が一致して、四十二年藩
主周防守の墓地のある川越市光西寺で会合
を開き、更に翌年の総会に於て正式に名称
を初雁温知会と決定、石井さんが初代会長
に就任された。翌年から春秋二回総会を開
くこととし旧松平周防守の事蹟や祖先の遺
徳を偲ぶことを主たる目的としている。名
誉会長に十七代の後裔の松井康輝氏を名誉
会長にご令弟松井康博氏を推戴している。
総会にはお二方は勿論ご令室のご臨席を頂
いている。現在の会員は百六十余名毎回の
出席は六十名を超える盛況である。これも
偏りに石井会長の強い熱意と物心両面にわ
たるご協力の賜物で会に尽くされたご功績
は到底言葉には云い尽くせない。この程川
越市に博物館が完成するや、温知会は館内
に石井会長のご厚意により、松平周防守と
川越藩の特別展示のため一室を設けたが、
石井氏がこの完成を見ずして亡くなられた
ことは、一番の心残りであったと思ってい
る。長らく腎臓を患われ、人工透析を続け
られていたが十二月三日肺炎の為遂に八十
九才の生涯を閉じられたことは洵に残念の
極みで哀惜の念に堪えない、殊に温知会に
とっては、かけがえのない功労者を失って
了った。

ここに石井さんの在京初雁会及び初雁温知会に尽くされたご功績を讃え、謹んで心から哀悼の意を表しご冥福をお祈り申し上げる次第である（合掌）。

哀悼

福島茂吉君を偲ぶ

三月三日の朝、散歩から帰ると、すぐ、福島夫人から、主人が今朝亡くなったという電話がかかって来た。私は一瞬耳を疑い、暫し茫然自失、声にならない応対で、一先ず切って、嘸お歎きであろう奥様に、お慰めの手紙を書いて差上げた。何でも大手術をしたということであったが、あの頑丈な福島君が、そんなに急に亡くなるのは夢にも思っていないかった。とな会は十二月に中沢幸作二月に仲篤司、三月に福島茂吉、坂西多郎、五月に関根整司の五君を、僅か七ヶ月の内に失って了った。天の配剤というか大きなショックというより、むしろ死に対する恐怖感を感じて了った。今年には恰かも皆が卒寿なので、そのお祝をこの三月に開くことになっており、その日をどんなにか楽しみに待っていたのに、よもやこんなことになるとは、誰一人思うものなく、全く奇蹟として諦める外はない。

中学五年生のとき、探険家の管野力夫と

いう偉丈夫が現われて講演をしたことがある。彼はアマゾン川の偉大さを讃え、日本人はすべからく世界に飛躍する勇気を持つべきだと話されたが、福島君はその話しに非常な感動を覚えたように思う。それが因でもあるまいが、川中卒業後は東京外語（現東京外国語大学）の西班牙学科に入学され、優秀な成績で卒業された。在京初雁会へは、創立当時から出席されたが、僅か九ヶ月経った二十八年十二月の例会で、今度ドミニカ代理大使として赴任することになったと挨拶された。そしてドミニカから南米、キューバ、ブラジル、アマゾン川で十余年を過し、四十二年帰国、九月の例会で、その体験談を披露され一同に深い感銘を与えた。彼の性格は几帳面で堅実であった。外交官としては寡黙の方だと思っていたが、同窓で故中貞男君が社用でキューバに彼を訪ねたとき、彼の活躍振りを眼の当り感じたと聞いた。福島君は長期にわたり総領事、公使、大使を歴任した功績を認められ、勲三等瑞宝章を受賞する栄誉に浴した。初雁会も出席者全員が署名した金箔の色紙を贈呈してお祝とした。彼は帰国後も一度も欠席することなく初雁会の監事として又とな会在京代表幹事として、新井正直君と共に会の推進役となって大いに活躍してくれた。

その彼を失ったことはとな会にとつてはかけがえのない損失である。ここに福島君のみ霊に対し深甚なる甲意を表し心からご冥福をお祈り申し上げる次第である（合掌）。

追憶

佐々木忠一

東京築館会のふるさと訪問の旅に参加して去る八月下旬親族十一名で東北の地を訪れ、久々に築館の町を歩いた。私の家内は初めて私の祖先のゆかりを尋ねたことになった。

故岩泉さんはこの築館の町で出生された。岩泉さんは本会の副会長在任中四年前の十二月四日長い闘病生活後長逝されたが、今なお私達会員によって円満な暖かいお人柄が懐かしまれている。殊に私は親交が深く、拙宅での談笑も、忘れ得ぬ思い出である。

岩泉さんのご尊父は私共川中在学当時校長で修身を教えられたが、私の父は築館中学で英語を習った。東大卒業後の最初の任地がこの宮城県立築館中学であり、岩泉さんはご長男として此処で出生されたのでした。

在京初雁会平成2年度決算報告

(自平成2年4月1日 至平成3年3月31日)

平成3年4月8日

財務担当 松下雄一
全 菅 沼 伸 之

項 目	実 績		予算金額 (円)
	金 額 (円)	備 考	
収入の部			
繰越会費	325,713	基金15万円を含む	325,713
年	225,000	納入者91名中前年度に納入済3名	250,000
		2,500円×86名=215,000円	
		5,000円×2名=10,000円	
預金利息	4,738	定期3,231円、普通1,507円	4,000
雑収入	100,000	寄付 矢部会長 50,000円 落合義作氏 50,000円	
計	655,451		579,713
支出の部			
会報(鐘つき堂)	196,318	合併号(第50号)	160,000
新企画		200部印刷	
(在京初雁会20年史)	247,818	基金15万円と今回の寄付金を充当	50,000
慶弔費	29,286	香典6件	20,000
夕べの会	13,718	4回の補助分	20,000
月例会	2,170	5回の消費税、新年会蜜柑代	5,000
会議費	12,175	役員会	20,000
振替手数料	4,080	@60円、68名分	4,000
通信費	85,356	前年度分のずれこみ	50,000
事務費	5,909	初雁会20年史の送料	15,000
雑費	8,100	ピルゼンへの心付け、他	8,000
計	604,930		352,000
残額(次年度繰越し)	50,521		227,713

監査 平成3年4月8日

増 島 隆 二

在京初雁会平成3年度予算案

(自平成3年4月1日 至平成4年3月31日)

平成3年4月8日

項 目	実 績 (円)			平成3年度 予算案 (円)
	昭和63年度	平成1年度	平成2年度	
収入の部				
繰越金	202,572	263,863	325,713	50,521
年会費	245,000	232,500	225,000	250,000
預金利子	4,516	3,504	4,738	4,000
雑収入		13,000	100,000	
計	452,088	512,867	655,451	304,521
支出の部				
会報(鐘つき堂)	75,800	95,630	196,318	130,000
新企画			247,818	50,000
慶弔費	8,000	10,286	29,286	20,000
夕べの会	34,900	5,988	13,718	15,000
月例会		4,295	2,170	2,000
会議費	15,680	18,884	12,175	15,000
振替手数料	3,700	3,960	4,080	4,000
通信費	31,120	29,555	85,356	50,000
事務費	14,335	12,956	5,909	9,000
雑費	4,690	5,600	8,100	5,000
計	188,225	187,154	604,930	300,000
残額(次年度繰越し)	263,863	325,713	50,521	4,521

年会費納入のお願い

本会の運営は会員の年会費(¥2,500)の収入を主たる財源としております。本紙に振替用紙が同封してありますのでご利用下さい。11月末までに払い込み下さいますようよろしくお願い申し上げます。

会の

夕べの

6月26日

在京初雁会の平成三年度の第一回夕べの会は六月二十六日(水) 学士会館にて開かれまして。前回及び前々回は懇談会式に会員が思い思いに語り合いました。今回は久しぶりに講話方式で、早川岩男氏(高2・旭化成)が「宇宙開発の夢」を話されました。同氏は東大工学部卒、工学博士の学位をもつ専門家で、昨年会入されました。今後本会の発展のため、ご協力頂くことと期待致します。

ご報告

松下雄一

六月二十六日の夕べの会には、元氣を回復された矢部前会長をはじめ、左記の方々が出席されました。

早川岩男さんは、ロケットを中心に花火のことも話され、手品の披露までであり、手品は今後も折にふれ行なうとのことで、夕べの会に楽しみが増しました。

出席者

- 矢部義一、安斉恒男、鈴木善男
- 松下雄一、福田竜雄、増島隆二
- 堀口武夫、矢部敬一郎、岡田良平
- 岡田夫人、早川岩男、荒井利治
- 菅沼伸之、内田紀成、小熊忠三郎
- 長島恒雄

なお夕べの会の記事の就いて原稿の依頼がありました。講師に直接お願いした方が会報読者にとって有益なものとなるでしょう。

会 員

消 息

坂田 名誉会長

本会の最高年長ですがご健勝にて編集部のご依頼原稿もすぐ様ご執筆下さいました。何分、本会長老の石井・福島先輩については、編集者は勿論お親しくして頂いたものの到底追悼文は書けず有難く存じます。

福田 竜雄氏(中32) 事務局長を退任し

気が楽になられし由。会合へ出席しても難聴のため、諸兄の懇談の内容が殆んど聞きとれないので今後の会合への出席も辞退させて頂くが、会員は継続し、「鐘つき堂」を通じ会員諸氏のご活躍を伺うことが出来ることをせめてもの慰めとしたいとお便りです。同氏は難聴を除けば極めてご健康で殆んど毎日ように午前中約一時間ゴルフの練習を楽しんでおられ、一ヶ月二、三回はコースに出てプレーを楽しんでおられます。

駒井 正明氏(高4) 元松岡汽船(株)東京

事務所長、国際エネルギー輸送(株)を六月末退任、七月より新栄船舶(株)に勤務されました。新勤務先は中央区日本橋室町三ノ一ノ二〇、三井別館(電話三三四一―五一八六(代表))

編 集 後 記

○会報発行の再々遅延、会員諸賢に対し陳謝します。坂田名誉会長には随分とご心配頂き、増島新会長には大そうご迷惑をおかけしました。ここに深くお詫び申し上げます。

○本年度総会で役員が替り若返りました。新機軸をもって活発に会が運営されることと会員方のご協力を切に要望致します。

○矢部前会長には随分とお世話になりました。とてもお元氣な若々しい方で読書力の強さには頭が下がります。ゴルフが得意で毎週のようにリンクへお出かけと承りました。

○増島新会長は就任以来、人が変わったかと思われ程に張り切って活躍され、沈滞気味の会運営の活性化を計られ、会員増加と夕べの会の発展に力を注いでおられます。来る十一月の夕べの会に先づそのご敏腕が発揮されます。ご一同さま、乞ひ期待!

○松下前副会長には幹事として後輩の後見役となつて頂きました。何卒お手柔らかな程を。

○福田事務局長は温厚篤実、会務に精励され長年ご尽力下さいました。その労を深謝し、ますますのご自愛を念じあげます。

○本年度会費(二千五百円)納入よろしく。(納入は同封の振替用紙でお願いします。)

刷 印

千代田区西神田二一七―五―一〇四
有限会社 信 州 社
TEL(三三四一―三二七)

坂田名誉会長のご招宴



左より(前列)坂田操子夫人・坂田圭司氏・佐々木忠一・松下雄一氏(後列)矢部義一・増島隆二の諸氏

鐘つき堂

在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 増島隆二

1991年 (平成3年)
 秋冬号 第52号



月例会
 中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル 1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

タベの会
 千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

事務局長 菅沼伸之
 〒177 練馬区上石神井2-36-6
 TEL 03-3926-2224

在京初雁会の役員交替に当り十一月二十三日(平成三年・勤労感謝の日)坂田名誉会長は新旧役員、矢部義一、松下雄一、増島隆二、佐々木忠一の四氏を招かれ、会の活動につき懇談、午餐の宴を催されました。

坂田さんはとても卒寿を迎えられたご高齢とは、お見受けできない程ご達者で、贈られた飯能銘酒「天覽噓山」を大そうお喜びで、会員諸氏のご消息を次から次へと楽しそうに話されました。来訪に備え邸内も植木屋さんの手で整えられ、宴席もご愛顧の料亭に設営され厚いおもてなしには全く恐縮、感謝の言葉も知らず、一同夕刻に所沢の坂田邸を辞したことでした。

なお当日、坂田さんは本会の発展を祈念して金一封(捨万円)をご寄付、増島会長は会を代表して恭しく受納し深甚の謝意員会を表されました。この貴重なご芳志はいづれ役員会の議を経て基金の一部として受納し、その果実を会の発展のため運営されること、なりました。(佐々木記)

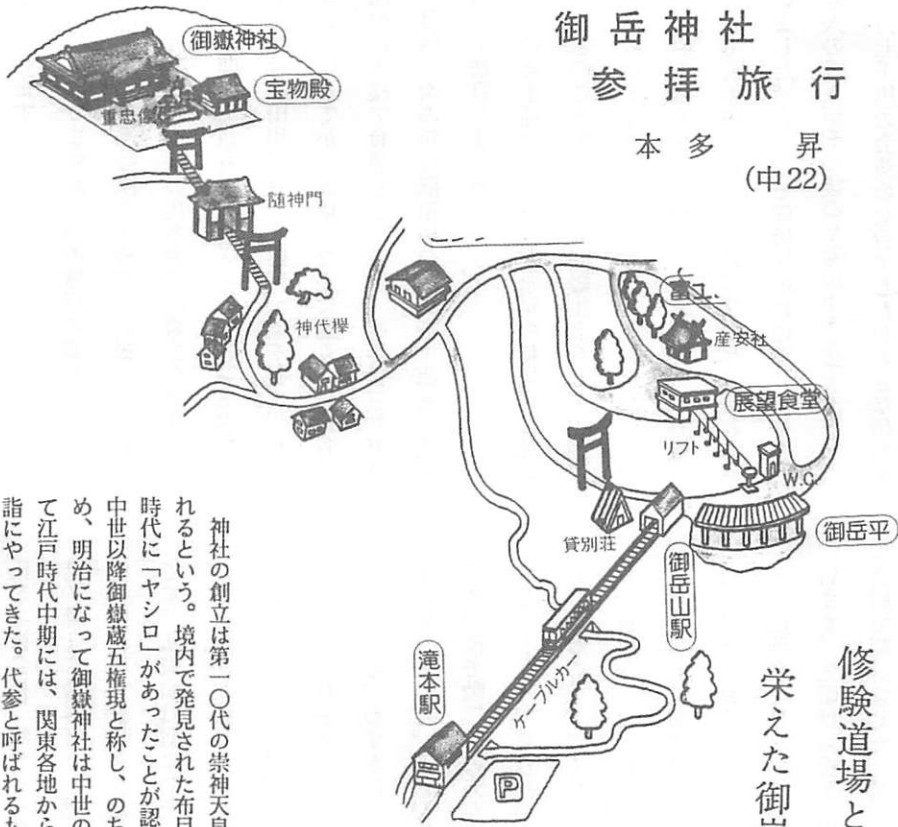
寄附金

本号の内容

坂田名誉会長のご招宴	1
御岳神社参拝旅行	2
鬼才岩崎勝平	4
内外情勢と掃海部隊	5
コミュニケーションひろば	6
会務報告	10
グラフ(坂田邸・散策会)	12

御岳神社 参拝旅行

本多 昇
(中22)



起源は古く、

修験道場として

栄えた御嶽神社

神社の創立は第一〇代の崇神天皇七年と伝えられるという。境内で発見された布目瓦から、平安時代に「ヤシロ」があったことが認められている。中世以降御嶽蔵五権現と称し、のち寺を神社と改め、明治になって御嶽神社は中世の修験道場として江戸時代中期には、関東各地から多くの人が参詣にやってきた。代参と呼ばれるもので、遊山を兼ねた信仰登山である。そのため山上には多くの宿坊ができ、現在三六坊が残っている。(佐)

川高同窓会の秋の散策会は私が楽しみにしている三つの旅行の一つです。先日の御嶽山登山の懇親会で一分間づつの自己紹介と活動の一端を述べることでしたので、いつものじょう舌を反省して、今日の会は愉快、愉快、愉快、感謝、感謝、感謝の一言に尽きますと二回くり返して終わりました。その際私が八七才で、参会された最も若い方との年齢差はまさに半世紀であるとの話もあったので、私の長命についての目に見えぬある力への感謝もあるとつけ加えました。私は明治三八年九月二四日に生まれたので来年秋の散策会に参加出来れば、その後平均六年の余生を一九四才まで一生きる可能性があるかと相権威ある説を信頼しています。(この記事をスクラップした記憶はあるのですが失っています。)

つぎに、私は八三才の時前立腺肥大で大手術を受けた人の余命が長くなるとテレビで聞いたが何年かは聞きもらしたとのことでしたので、私の信奉するモラロジーの川越事務所の主任さんに話しましたところ二十年と聞いたとのこと

です。私の場合どうも長すぎますが一応気を良くしています。

話はおどりますが三つの旅行の楽しみの一つの旧千葉県立高等園芸学校での同級生（昭和二年三月卒）のうちの長寿者の同級生会です。去る三年間は浅草吾妻橋近くの漁民荘で会食し、ある年は隅田川下りで浜離宮公園を見て、増上寺を参拝してから東京タワーに登り、日比谷公園の松本楼で食事して、解散、次年は三社祭りの見物、次の年は隅田川の花火を上流と下流と合せて鑑賞しました。

その後土浦に住む友人が永年の糖尿病で死の寸前とのことで、最後の同級生会をして土浦市の東武ホテルで、やっと寸時、同君と会い、翌日同君の自宅をたづねて、なき奥様の観音像を拝して長年の同君の労（高等学校長）をねぎらいました。ところで同級生の長命者一夫婦と一老人の五人がその後湯ヶ原のホテルで会合して、一万七千円の会費の会費でしたが大きな伊勢エビも出て大満足でした。この次またどこかで会う予定です。

三つ目の旅行は明治維新直前の川越藩主松井氏を名誉会長、浅野誠一博士を会長とした、当時の藩士の後エイが旧藩の歴史をしのぶ旅行ですがテレビで放映されたほど楽しく有益な旅行です。私夫婦は宿にステージがあれば必ず踊るので皆さんが楽しみにしておられます。

ところで、去る九月の川越老人会（二一〇位）の一部会の代表として「湯島の白梅」を踊りましたところ、わずか四分足らずの間に五回も拍手が起りました。連合会長が八七才の岡山大学名誉教授で勲三等の方が率先して立派な踊りを演じて下さって有り難いと感謝して下さいました。一般の見学者も今日の七〇余りの踊りのうち一番良かったとほめて下さいました。

老人は趣味に生きることが大切です。拙宅では一八年前から拙宅でナツメロ、民謡、歌曲などの勉強会をひらいており機会ある毎に唄っています。先頃は「誰か故郷を思わざる」を市民会館で唄いました。最近では故三浦環さんのご指導を受けた老婦人が指導して下さい先ず三高生の「ピワ湖周航⁷の唄」とか「知床慕情」を習

っています。いずれ川越市老人会の歌唱グループとして登場する日もあるでしょう。

さて先の散策会で毛呂山病院で昼食の御接待にあずかりましたが、その際病院院長

が川高の卒業生は郷土に寄与するという気概がないと指摘されましたが同感の至りです。私は来年度からはじまってアジサイ苗（三五品種）三千本を埼玉県に寄贈したいと申し出ておりますが、御縁のある同窓生の御助力をお願い致します。

さて、学閥ということは弊害もあることも承知ですが同じ校風・校歌で育った同窓生同志の各種協力、後輩への援助、指導、誘えきが望まれます。佐々木先生が英語で講演されたことは有名ですが、同窓会総会でお話された多くの方々のお話は、学問の先端、川越の歴史、若い方々の国際生あるお話、雑誌の編集など色々生徒の進路指導にも役立つでしょうし、また卒業後の同窓会志向も高まることと思いますが如何でしょうか。（編集部より、ご存知の方は毛呂山病院長につきご教示下さい。）



湯上がり 1933年

川越の生んだ

鬼才 岩崎勝平

浅海 倭 夫 (中21回)

同期(21回)の画家岩崎勝平の遺作展が本年

十月、十一月と市の博物館で開かれ、十一月七日にはNHKはテレビで紹介してくれました。

その間三万七千八百人の入場者があり、それだけの人達が関心を持って下さった事は有り難いことです。

途中河北倫明、小林誠両氏の岩崎に関する講演会があり、いづれも満員でした。

河北氏に依れば岩崎は一時期前天才画家と言われた青木繁を同じ様に画壇に入れられず苦しい日々を送っていたと云うのです。画壇の連中から恐れられたというフシもあります。

面倒見て呉れた父や叔父の福沢桃介が世を去った後、同期の伊藤長三郎が色々世話をして

居りました。

旅行先から、ルフランの何々を何本送れ、ニュートンの何々色をと云う電報が来ると、神田の文房具堂まで行って送らせた事が度々あった様です。

途中小松太郎も一役買って、朝鮮で成功して居た親戚の方々に紹介して彼の地での勉強を続けさせて呉れました。

私の好きな「壺を持った朝鮮婦人」の画はこの時のものです。

岡田三郎助、藤島武二等々の大先輩に接して得た事、川端康成、河北倫明の様な人の知遇を得た事等考えると必ずしも不幸とばかりは言えないのではないでしようか。

親朋無一字 老病有孤舟

と唱った杜甫と比べて考えています。

川崎市立博物館(郭町二丁目)

電話 〇(五)四二一22―五三九九

で岩崎勝平画集を出して居ます

定 価 二、五〇〇円

送 料 三二〇円

岩崎に関する情報を得られたら、どんな事でも結構ですから博物館にお知らせ下さい。

内外情勢と掃海部隊

岩崎靖夫

(中 32 回)

在京初雁会にはいつもながらお世話になり、恐縮至極に存じます。久闊を深謝します。

皆様ご壮健にてご活躍の事お慶び申し上げます。

私、年頭より体調不順のため、家内と共に入院三ヶ月余、目下自宅療養中なるも一応安定状態にあります。ご放心下さい。

本年は国の内外において色々な出来事がありました。

雲仙普賢岳の自然異常による噴火と火砕流の流出による災禍、証券業界の不祥事による金融経済界の大揺れ、又実りの秋を迎え夏からの日照不足と多雨による秋野菜の高騰、台風による青森リングの落花被害など、生産者、消費者ともに受難でした。

世界的な大変動として、八月ソ連共産党の崩壊と東西独乙の統一実現。多国籍軍による湾岸戦争後の湾岸機雷除去作業のため、ペルシャ湾への海上自衛隊掃海部隊の派遣が行なわれました。日本が初めて海外に自衛隊を派遣した意味

は(人的貢献)湾岸各国は勿論のこと、全世界各国が高く評価していると思います。派遣部隊

である第一掃海隊群は、旗艦掃海艇母艦(はやせ)など六隻で編成され、派遣隊員は総勢五十一

名で、戦後わが国にとつての初めての派遣であり、東支那海、印度洋を経てペルシャ湾までの行程は一三〇〇軒、目的地到着に約一ヶ月

余を要すること、遠航不向きな艇にとり大変労苦がともなうものと航路並びに掃海が心配されました。

第一掃海隊群の指揮官は、一等海佐落合たおさ(防大7期)で、沖繩戦で海軍沖繩方面根拠

地隊司令官として戦死された太田賢海軍中將の三男で、母方の家を継ぎ、落合姓を名乗っており

ます。童顔温容で泰然としておられるところは、父親とそっくりだといわれています。

落合群司令官は、ご尊父のかつての統轄地域であった、奄美群島東方海上で艇隊を組み、世界の注視を浴び、国民の期待を担いながら、ペ

ルシャ湾での機雷三十四個を処理し、任務を終

えて約六ヶ月ぶりに無事帰国されました。海部首相は、帰国歓迎式に出席し、「諸君の活躍は、新たな時代におけるわが国の国際貢献の輝かしい先駆として、長く国民の記憶にとどめられよう」と訓示、功績をたたえました。私は心からご苦労さまでしたと申し上げさせていただきます。

平成三年も旬日を出でずして暮れようとしております。暖冬の日々ですがお風邪など召さぬようご自愛専一にして下さい。

除夜の鐘を聞きながら新しい良い年を迎えようではありませんか。ご多幸とご健勝ならんことを切にお祈りいたします。

平成三年二月二日記

〔編集部付記・筆者は元自衛官です。〕

編集室 だより

坂田名誉会長ご執筆の貴重
な資料「在京初雁会二十年史」
に会報が創立二十年を記念し

て発行され、72年四月八日に「鐘つき堂」が創刊号を出したことが述べられています(27頁)。編集者は77、78年松本博一氏、あとは小生でした。

本52号を以て小生退任し、後任は岡田良平氏(高2回)です。長年のご支援を深謝し、新編集者にあたたかいご助力をお願い申上げ、ご挨拶と致します。
(佐々木忠一記)

網島 博文氏

現在、私は週の中、三日は学校の非常勤講師を（東京工専電気工学）他の二日（三日は二つの会社の顧問としての仕事をして居り、精神的にも時間的にも余裕のない生活をして居ります。それで初雁会の皆様には大変御無沙汰致して居ります。

先年、古稀を迎え、本年申年は、丁度私の年に当たります。私はこの頃私なりに事を思い、感じ、そして憂えることがあります。その一端を述べさせていただきます。

一年程前、某テレビ局の北方四島に関する番組で外務省のある局長が「人類の歴史では如何なる大帝国といえども滅びなかつたものはない。従つて我々は二島などと言わず根気よく四島返還の要求を貫きます」と述べたその言葉に深い感銘を受け「この頃の若い人は……」などとは言えない頼もしさを感じました。その後、間もなく世界の大国であるソ連邦が崩壊してしまいました。これまで予想もしなかつた大国ソ連邦の崩壊まで眼の当たりにする事など、まことに感無量です。

世間では「二十世紀を迎えるに当り……」とはよく聞く言葉ですが敗戦により占領軍から与えられた六・三・三の教育制度を実施して半世紀近くになります。然しこのままで我が国のこれまでのような繁栄を維持し、国の秩序を保ちそしてその安全を守ることが出来るのでしょうか。それについて思ひ出すのはドイツの大統領ワイツゼッカーのことです。ナチスドイツの敗戦四十周年記念日に「過去を忘れる国民は未来を持たない」と、そして又東西ドイツ統合の記念演説で「一緒になるという事は、共に分かち

合つことである」と国民を諭したというワイツゼッカーのことです。わが国には、このような偉大な指導者は居ないのでしょうか。

最近米国大統領の側近には数名の歴史を専攻した人々が高官或いはブレンとして活躍しているという事を聞きましたがこれ等も大いに考えさせられる事です。

このような事を折りにふれて考えるきょうこの頃です。ことしも、皆様にとつてよいお年でありますよう。（中 35回）

砂田 太三氏

三ヶ月程の入院治療中の妻に急逝されて以来、臍抜けの様な状態になってしまいました。

六十年近くも共に生きて来た間、妻に対する感謝の念など特に感じた事もなく、その存在は当り前であるとして過して参りましたが、妻に先立たれ、独り身になってみて、始めてその存在の大きさ、有り難さがわかりました。強く胸にこたえるものがあります。

単調な家事の繰り返し、掃除、洗濯、食事の支度、たゞそれだけの事と思つて居りましたが、それらの事自体随分と骨の折れる仕事であると云うことも判りました。

後になって悔やんでも間に合いません。どうぞ皆さん奥さんを優しくいたわり感謝の気持ちをもって遇してあげて下さい。

そして、なか睦じい毎日を過されますよう祈ります。（中 23回）

内田 静馬氏

平素在京初雁会の皆様様に御無沙汰をいたしております。年末は私の所属の日本版画会が終

ったところですが。本年二月中旬に当桶川市の公民館主催で版画展を開いて下さつて盛会でした。私も何時の間にかやら老齢期に入りましたが勝手きままなことをやらせて下さる周囲の方々には平素感謝の心で一杯です。今年も長男共暫くこちらの土地に落付きました。時折折田の初雁会夜の会に出席させていたゞいておりますので盛況を聞きます。どうぞよろしく御交誼の程を先づは近況まで
十二月吉日
（中 22回）

中村 莊平氏

近況は

暫くは流れに

浮いた落ち葉かな

やがて一雨来れば……

と云う處です

皆様の御健勝祈り上げます
（中 22回）

藤村 信一氏

前略 お便りありがとうございます。

母校同窓会長を引き受けられさぞや御苦労のこと、推察し感謝して居ります。

本年も漸く師走半ばとなりましたが学友、友人の喪中報告が頻繁にあり淋しい限りです。

小生年初めより頑固な湿疹になやまされましてが今のところ小康を得て居ます。（中 23回）

船津 鴻之助氏

マッカーサー司令で潰された旧制浦和高等学校の開校七十周年総会祭が去る十一月十日浦和市で盛大に行われました。

（註）大正十一年四月開校。川越市制が施行さ

れた年で当時県内唯一の市でした。

川中(川高)も、あと七年で開校百年を迎えますので盛大な記念祭を挙げるよう、若い後輩諸君にお願いします。(中 24回)

中禅寺 登喜次氏

今年の十一月七日で、満八十才になりました。大学の講義は、今年で終わることにしました。設計室が平河町なので、出来るだけ出勤するよう努めています。

目下のところ埼玉県の景観形成に関わる、景観審議会と、さいたま景観賞の審査に力を入れております。地元熱心な人達と、外国の人達との交流を図るために Tokorozawa International Family という会を作って活動しています。

健康の許す限り努めたいと思います。
以上近況まで 早々 (中 27回)

落合 義作氏

御陰様で頗る元気、会社の方は娘婿にバトンタッチして喰べること、飲むこと、遊ぶこと凡て程にして周囲に迷惑をかけない様心がけ楽しい余生を送るべく努力して居ります。

最近新聞紙上で賑って居るバブルの崩壊、当り前の結果だと思えます。「共存共栄」の原則を守らず自己過信、欲望過多、見えを張り、個人の限界を知らずの果てだと思えます。老後を楽しく過ごすためには「心の安らかさ」と「分相応の生活力」と「健康」があれば充分だと思えます。時代の流れにそうて在京初雁会の発展のために回数、場所、会費も考えて楽しみに出席出来る様にしては如何でしょうか？(中 28回)

深沢 義雄氏

年越すればやがて七十八才になります。「衰朽猶肯惜残年」の心境で消光しています。永日遅遅、日日好日の脱俗境には程遠いのですが、せめての望みは、

幸有余力 願以楽文
というところです。初雁会諸兄のご多幸を祈ります。 '91年歳晚 (中 30回)

野上 完一氏

拝復 初雁会のため同窓会長が自ら御盡力いたゞき誠に有難く深く感謝申し上げます。さて「鐘つき堂」への記事、今回はご勘辨下さい。実は私心不全を宣告され、安静を命ぜられております現在で、先日の学士会館へも出席と返事しながら欠席した次第で申し訳なく存じています。 先はご返事迄 (中 30回)

山崎 重兵衛氏

前略

お手紙まさに拝受いたしました。
ご返事遅れて申しわけございません。
ご活躍のよし心からお喜び申し上げます。実は、私事で申し訳ございませんが、ちょっと体調悪くして伏せておりますので、ごぶさたを重ね恐縮に存じます。お許し下さいませ。何とぞよろしく。 早々 (中 30回)

山崎 豊弘氏

拝復

此の度は御多忙中の中御親切にも在京初雁会の資料を多数御惠送賜り有難く厚く御禮申し上げます。早速二十年史を拝誦の処、父

の寫眞や記事が多数掲載され、更に小生が47年に一回出席した時のことも記載されていて、なつかしく想いだしております。

処で鶴見宮川さんに時折お見えになる由、拙宅は駅前の富士銀行脇を登った二三分の山の上にありますので是非御立寄り下さい。又会にも既に三回出席し様子もわかりましたので今后とも何卒宜しく御指導賜り度願上ます。簡單長ら御禮 早々 (中 35回)

橋本 次郎氏

昨年の秋、市の老人検診を受けたら精密検査を要望されて心臓のこともあって、杏林大学附属病院で検査を受けた。本年一月に結果がでて、直腸に悪性の潰瘍があり、早急入院となり内科と外科で共同担当されて、開腹して見ないとわからないが、万が一のことも考えられると家内達には内密で医師より注意があった。二月に手術を受け悪性潰瘍が三ヶ所にあり約2.5厘米切除して完全摘養するまで脇腹に人口肛門をもつけられて三月末に飯退院となった。七月に再入院して人口肛門を閉じる手術を受けて八月末外科より引き続きいて眼科に移り老人性白内障の手術を受けて九月に退院できた。二ヶ月を過ぎた十一月に左眼が眼底出血を起して手術を受けて今日この頃自宅でのんびりと静養の日々を送って、今年病にたたられた年であった (中 35回)

山下 嘉雄氏

前略

十数年前に何回か出席したことがあるのですが、当時なかなか雰囲気になじめず以後欠席が続いています。最近同期の増島君が役員になられた由、応援団の一人として君も出席せよ

と、山崎豊弘（龜の次男坊）からも電話を受け
ておりますが小生は陸士卒、先の戦いのお先棒
をかっいだ敗軍の将ですので、余り大きな顔を
して世に出られる人間ではありませんのでと答
えて居きました。最近は謡三昧（宝生流）で近
隣の方に教えたりして余生を楽しんでおります
南房の千倉に小屋を建て行ったり来たりしてい
ます。乱筆にて。
（中 35回）

齊藤 順吉氏
皆さん！しばらくでした。ごきげんいかがで
すか。この間、京都の人文書院から「道教と日
本文化」を求め、老・莊・易の三玄の学を基底
におく道教の日本文化への軌跡を考察しようと
興味を持ちました。読んで忘れ、忘れてはま
た、読むのも楽しみです。お笑いだだければ長
寿生の一途と信じています。
（中 35回）

浅野 誠一氏
近況片片 七首
激動の時世をこえて運つよく八十四の未歳ゆく
八十を越え生きをれば友ら逝き寒暑霜きび
しくめぐる
痛をもつ胃を切りて無事の春秋や未だ延びい
る命愛しむ
胃切後の工合よけれどときをりは食後苦しむ
ダンピング症
ちちのみの秩父三峯秋たけて赤き黄いろもみ
じ群れ映ゆ
参道のわきに向きあふ石狼の蹲踞に射せる冬
の日さむき
直ぐに立つ杉の林のま下より荒川溪も瀬音ひ
びかふ
（中 24回）

福田 龍雄氏

お陰様で小生も難聴を除けば至極元気で相変
わらずゴルフ・水墨画・書道・俳画と下手な横
好きを楽しんでおります。本年満七十六才を迎
えるに当たりいささか考えるところがありまし
て此度、靖国神社奉賛会終身会員入会、及び日
本尊厳死協会入会を致しました。又平成四四年
頭に際し賀詞に添え次の通り感懐を書きました。
「心残りのないようにあわてることはないけれど
ゆっくりしてもいられない」この文言は何かで
読んだものを少し加筆したのですが、思えば
太平洋戦争に五年半も従軍し、その間病氣らし
い病氣もせず、負傷らしい負傷もせず、敗戦後
の混乱の中で、代用食で飢えをしのぎながら今
日まで大過なく生きて来たことは誠に幸運とし
か言い様がないと思えます。
（中 32回）

新井 辰年氏

拝復御状ありがとうございます。益々御健
康御活躍の由何よりと御慶び申し上げます。私
も無事と申し上げたい処ですが、昨年心臓を悪
くいたした六ヶ月程入院只今自宅療養中ござい
ます。日常生活は支障ありませんが遠出外出が
許されて居りませんので隠居生活と言つて居
ります。元気にいたして居りますので他事乍御放念下
さい。御元気で御活躍の貴兄とは比べようもあり
ませんし意気地なき限りです。まあ無理をせず
病氣と仲良しになって過ごして参り度と存じま
す。向寒の折益々の御自愛を念じ上げます。
（中 32回）

も医者通いを続けております。又快くなりまし
たら御連絡致します。今は近況とてありません。
何卒悪しからずご諒承下さい。元気で御活躍の
程御祈ります。
（中 32回）

武田 葛氏

川越の歴史の証言者になりませんか。在京初
雁会の方々は、川中・川高に学ばれた頃のかず
かずのこともを、胸に秘めておられることで
しょう。八日の例会のとき、あるいは夜の会で、
その一端を語られては如何でしょう。歴史の証
言として。
（中 29回友）

新入会の会友ご紹介

前略、この度は東京初雁会に会友として入会
をお許し頂き光栄に存じております。何卒今後
共々宜しくご指導下さいませようお願い申し上
げます。また、初雁会の諸資料ご送附賜り有難
うございました。兄や父のこと共々よろしく、
有難く更に子供の頃伺った先生方、諸先輩のお
名前も川越に居るのかのように思い出されて参り
ました。今後の会合が楽しみに待たれる気持ち
で居ります。なお佐々木先生には学士会館囲碁
室で確かに会いました。敬具

横浜市緑区朝居四ノ三三ノ一二岩泉惟人

この度岩泉惟人氏を（中35回）会友としてお
迎えることになりご同慶の至りです。同氏は
故副会長岩泉迪人氏のご令弟でご尊父は母校の
校長の故岩泉善太郎先生です。川中より浦中へ
転校されました。東大卒。

会務報告

夕べの会

三年十一月二十六日(火)

「最近の心臓病について」

講師 田中 健氏 (高15回)

田中隆副会長の司会により、田中健博士が表記の演題の下に講演。日頃の関心事だけに熱心な質疑応答も行われ有益であった。同氏は心臓血管研究所にあり多くの研究業績をあげつつあります。

出席者18名

矢部義一・安齊恒男・鈴木義男・松下雄一・佐々木忠一・同夫人・増島隆二・田中隆・菅沼伸之・早川岩男・岡田良平・内田紀成・矢部敬一郎・駒井正明・西田守・川合義明・石川正樹・山崎豊弘

秋の散策会

三年十月二十日

青梅・御岳山

同窓会員四十三名。学校側鈴木校長他校内理事七名の先生方が参加され盛会であった。

なお四年度の秋の散策会は人間初雁会のお世話で実施予定。

在京初雁会の参加者

矢部義一、鈴木義男、佐々木忠一、増島隆二、堀口武夫、荻野文夫、平野寿作、保野昭一、田中隆、菅沼伸之、日出間哲郎、矢部敬一郎、小熊忠三郎、松井頼敏、本多昇、他夫人方

月例会

一月は八日、二月は十日それぞれピルゼンにて午餐会食。坂田氏ご寄付の報告あり。明93年3月は本会の創立四十周年に当たるので記念行事、事業を行うため役員にて実行委員を挙げその準備に着手するよう提案があった。会員諸賢のご提案を期待します。

夕べの会

三月二十四日(火) 学士会館

「川越観光あれこれ」田中義之氏(中35回)

講師は旅順師範卒・芳野中学校長で退職。現在川越観光のシルバークライド会会長。NHK・TV、埼玉TVでその活躍ぶりが紹介された。現会員二十名の会長。

会費受納報告

事務局長

菅沼 伸之

平成三年度分納入者 (五十音順)

浅野誠一、浅海俊夫、阿部親興、新井正直、新井辰平、新井宏明、荒井利治、安齊恒男、井上道男、岩崎美郷、岩崎靖夫、石井源一(故)、石川正樹、内田紀成、内田幸男、宇都野正章、岡田良平、岡村了一、岡村和夫、大川解、落合義作、荻野文夫、大館廣、川合義明、金子紀孝、金井俊雄、小熊忠三郎、駒井正明、佐々木忠一、坂田順一、笹崎能輝、坂田圭司、斎藤賢吉、清水順一、柴崎育久、柴崎武夫、島田嘉夫、鈴木善男、菅沼伸之、砂田太三、高橋克治、高橋明吉、武田葛、田中隆、中善寺登喜次、土屋実雄、友光正昭、長島恒男、中村莊平、中野護央、中村生秀、西田守、根本峰好退会、野沢勝三郎、野上完一、野上正、早川岩男、橋本日出松、橋本国治、橋本次郎、平野寿作、平岡寿夫、日出間哲郎、平井義雄、福田龍雄、福島茂吉(故)、藤村信一、船津鴻之助、深沢義雄、堀口武夫、本多昇、細島博文、星野猛、松下雄一、増島隆二、松本博一、間間田重信、松井頼敏、矢部義一、矢部敬一郎、山本秀順、山本道、山崎重兵衛、横溝高至、山崎豊弘

計八十五名 中学五六・高校二九

謹告

故人となられた本会々員
のご遺族よりのご挨拶

故石井源一氏(本会副会長)未亡人だより

拝啓「鐘つき堂」五十一号お送り下さいまして有難く拝読致しました。坂田名誉会長様の故石井源一に賜りました身に余る追悼の御言葉を御掲載下さいまして遺族等誠に光栄に存じ謹んで御礼申し上げます。

早速佛前に備え「鐘つき堂」の彌栄を祈念申し上げます。右寸言をもって御礼迄申し上げます。かしこ 石井 富美

故福島茂吉氏(本会監事)未亡人だより

初秋の候御会の皆様には御健勝にて御活動の事と存じます。本年三月永眠致してしまいました主人も在りし日は皆様との交流を楽しみにどんなにか生き甲斐のある生活をさせて頂いた事でしょう。九十年の生涯の中で三分の一は海外に大過なく快適に過す事の出来ましたのも友人知己の皆様のお陰様と亡き主人共々常に感謝の申し上げて居ります。ここに故人に対する、皆様の生前の御支援に深謝申し上げます。

福島 緑

会員消息

夕べの会宛

返信はがきより

本多 昇(中 22回)

先頃の散策とても楽しい御座いました。お世話有難う御座居ました。夜出にくくなりました。とてもいいお話ですのに残念です。

船津鴻之介(中 24回)

八十二才と十月月。益々元氣県裁判所の委員は全部退任。若い鑑定士の取り損った飛球を追っています。

柴崎 武夫(中 28回)

「夕べの会」の御案内ありがとうございました。心臓病に関する御講演是非うかがいたいです。が、時間の都合がつかず、残念です。御盛会でありますよう。

久保 眞齒(中 27回)

御案内状を頂き誠に有難うございました。いつも御無沙汰を致して居り申し訳ありません。ところで今回は、当日は、私の家の関係から青森の方に行って居り、出席出来ませんでしたので申訳ありません。皆様に宜しくお伝え願います。

野澤 勝三郎(中 30回)

喜寿も間近となりましたが幸い健康にも恵まれゴルフ等を楽しみながら家内と共に過ごして居ります。幹事の皆様のお骨折りに感謝して居ります。

深沢 義雄(中 30回)

鐘つき堂51号、同窓会報47号、本日拝見しました。いろいろの情報に接することができました。夕べの会のご盛会を祈ります。

新井 辰年(中 32回)

平素は大変お世話をかけまして深謝申し上げます。小生目下心臓を悪くし自宅療養中ですので残念乍欠席させて頂きます。当日の御盛会を祈り上げます。

野上 正(中 37回)

心臓の持病を持っていますので是非お話を伺いたのですが、火曜は週一回の授業日に当たりますので、残念ながら欠席させて頂いたいただきます。

予告

平成四年度総会

四月八日(水)正午より

銀座ビルゼンにて開きます

会員諸氏にはご出席下さい

訂正

前号2頁下段(紹介)

増島会長・東亜↓東北大学

印刷

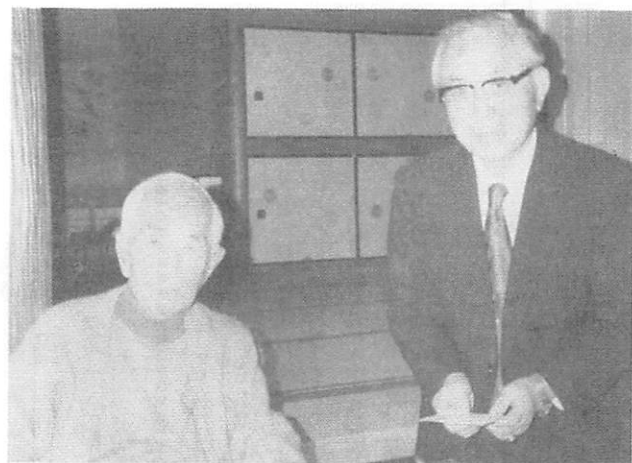
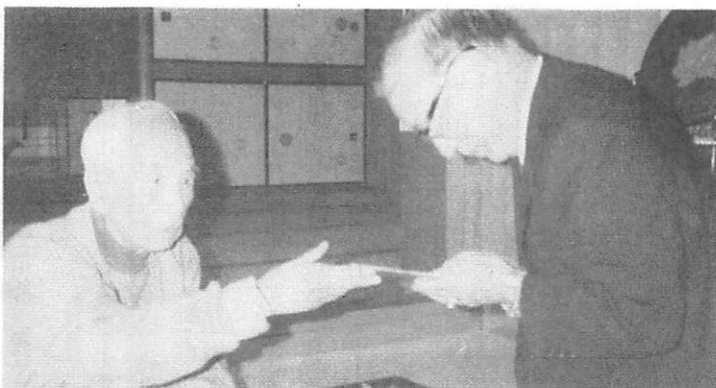
千代田区西神田二一七五二一〇四

有限会社 信州社

TEL(三三三四)一三八二七

坂田名誉会長のご寄付
増島会長有難く拝受

坂田名誉会長は十一月二十三日、所沢のご自邸に招かれた本会の新旧役員懇談の席上金一封を本会の発展に資するためとてご寄贈され、増島会長が有難く拝受しました。



左より(上)佐々木、矢部、田中、鈴木、増島、同夫人、田中夫人、(下)矢部(敬)、同夫人、田中、佐々木、松井、同夫人



秋季散策会

平成三年度川高同窓会の秋の散策会が秋晴れの十月二十日(日)青梅の御岳神社にて催され、本会からも15名が家族同伴にて参加し楽しい交歓の一日を過ぎました。前年度と同様、飯能初雁会(会長は前市長の市川氏)に大そうお世話になり豪華なバス旅行に一同大喜び。ここに厚くお礼申しあげます。



午餐会の会場(御岳山荘・中26回金井俊雄氏経営)前にて。心づくしの美味佳肴でした。

鐘つき堂

在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 増島隆二

1992年 (平成4年)
 春・夏号 第53号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

事務局
 菅沼 伸之 (財務・事務局長)
 〒177 練馬区上神石井2-36-6 ☎03-3929-2224
 矢部敬一郎 (企画・総務)
 〒157 世田谷区北鳥山6-20-22 ☎03-3307-8513
 岡田 良平 (広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 夜間 ☎1815

四十年の歴史

会長 増島 隆二

御彼岸を過ぎた静かな武蔵野の一夜、孤燈の下、時折虫の音に耳を傾けながら、坂田名誉会長の「二十年史」を改めて通読し、川中、川高の卒業生が在京初雁会と云うフィルターを通して結ばれて来た姿がくつきり浮び上って参りまして当会の歴史の深さを感じた次第です。

来年三月は、発足以来満四十年を迎え、更

に「鐘つき堂」は発刊されてから二十年、坂田さん方式をお借りして、月例会の回数で云うと実に四百八十回近くになります。

この輝かしい歴史を築かれた諸先輩に心から感謝の意を捧げます。私の出身校旧制第二高等学校の同窓会、軍隊関係の戦友会は先行き細る許りですが、川中は川高に引き継がれ当在京初雁会は両者の同窓会員の懐かしい集いの場として、新しい血、若い原動力により綿々として発展を続けて行く存在である事は大慶の至りであります。

もくじ

四十年の歴史……………増島隆二	1
四国の遍路……………菅沼伸之	2
会員消息……………	4
在京初雁会事業報告(平3)……………	8
在京初雁会決算報告(平3)……………	9
在京初雁会予算案(平4)……………	10
在京初雁会事業案(平4)……………	11
母校だより・例会……………	12

四国路の遍路について

菅沼伸之（高2）



人間みな一度は遍路の旅にあこがれるといわれているが、この春、会社を定年退職したのを機に四国八か所遍路の旅を始めた。昔は全行程千四百余、*をすべて歩いて回ったのであるが、最近はずべて歩いて回ったのであるが、最近はずべて歩いて回ったのであるが、歩いて回る（十九泊を二回）のまで、その折中案を含めていろいろなやり方がある。

私が参加したのは、朝日本歩け歩け協会主催、朝日新聞社後援で三年前から始められた「空海のみちウォーク」である。昔、弘法大師が半僧半俗の修行者として、修業と悟りの道場を選んだ八八霊場を点とし、今は四国のみちとして整備された旧へんろ道を選んで歩くことと一部区間バス利用を線とする短期の巡礼ウォークである。毎年三月から六月まで阿波・土佐・伊豫・讃岐の順に一月に一国（県）づつ回る（各五〜六泊）ものである。一年で全部回るか、何年にも分けて回るかは自由である。

今回は香川県コースに参加したが、参加者はほぼ全国に及び、総勢一四〇名で男女の比率は半々、年齢的には男Ⅱ六、七〇代、女Ⅱ五、六〇代がほとんどで、三分の一が夫婦連れ、初参加からベテランまでいろいろであった。服装は

普通のハイキング姿が大部分で、白装束は一割程度だった。願うところは、いま流行のウォーキングにより心身を鍛練し、ヘルシーな現世利益を得ることのようである。参詣のスタイルも各人の自由ということ、先達に従って古来からのきまりどおりに参拝する人から一人しずつにただ頭を垂れる人まで様々であった。共通しているのは、人生を見直し弘法大師にあやかろうという心と健脚という二点であった。

遍路即人生、歩く宗教

一般に聖地といわれる所は、エルサレム、メッカ、ベナレス等みな点であるが、四国は面であり、宗派を超越した大師信仰による人生問題の救済の場である。

人生に挫折した人、疲れた人、社会の落伍者、身体に障害のある人たちは、みな日常生活にこだわりを持っており、非日常的な信仰の世界に身を投じ、行雲流水とともに歩きながら生きることを通じてよみ返ろうとする。遍路の心というのは、人を信じ、人に施し、人を愛すること

に尽きる。

遍路は人生そのものであり、そこには人生のすべてがある。独りて生れ、そして独りて死んでいく人間の無限の寂しさと苦しみ、喜びと憧れを秘めている。死装束で四国の霊場を回るということは、逆境の人には、魂の安らぎを得て、起死回生の道場となる。昔から遍路は①生前に世の苦行を先どり体験して罪障消滅の功德を積み、後世の安楽を願う行である。②先祖、先人の死霊の冥福を祈る菩提の行である。③豊作、病氣治癒、諸願成就を祈る信仰の行であるといわれる。もっぱら名もなき底辺の大衆に受けつがれてきたので、正式な記録などはあまり残っていない。これにひきかえ、観音信仰は場所が畿内であり、天皇、豪族、武士、高僧が信者だったのでいろいろと記録類も残っているのである。

（注）一般に札所を巡る人を「巡礼」、このうち番号順に巡る人を「順礼」というが、なぜか四国の場合だけは、特に「遍路」と呼んでいるのである。

千余年庶民とともに

四国は山岳修験道場として大昔から知られていたが、遍路の始まりは弘法大師の高弟真済が大師の遺跡を慕って巡ったのが始まりということになっている。

室町期にいたり、それまで行基信仰、念仏信仰、補陀落信仰…といろいろあったものが、貴

族仏教庶民化の接点は空海（弘法大師）である
ということでは八八か所がすべて「南無大師遍照
金剛」へと一尊化され、各札所に大師堂が建て
られた。しかし、まだ信仰は特定の宗教者にか
たよっていた。

江戸期になり、プロの宗教者が減り、代りに
百姓・町人・女・子供など庶民の信仰と観光の
中心へと移っていった。幕藩体制の仕打ちに対
する逃避として寺社詣での旅に自由を求める風
潮、年貢米の豊作祈願とも一致したのである。

そして、まな文化の伝播者としても大きな役目
を果たした。特に三百年前、宥弁真念により基
本ガイドブック「四国遍路道指南」が発行され
るに及んで、四国遍路はますます盛んになって
いった。ところが修行に名を借りて門づけ、乞
食をしたり、病弱者に対する口減らしとしての
遍路行等が横行するに従い、四国へ入る関所で
身許調べをし、路銀の用意のない者や乞食は追
い返せという布令が出たこともあった。

明治に入り、廃仏棄釈で、神仏習合と現世利
益をとく眞言・天台は壊滅的打撃をうけた。さ
らに遍路排斥すべし、乞食逐換すべしが追打ち
をかけ、大正のころまでつづいた警官による遍
路狩り等々ですっかりさびれてしまった。

しかし、第二次大戦後世相の安定とともに徐
徐に復活、昭和四八年の弘法大師生誕千二百年
祭を機にさらに盛んになり、今日に至っている。
最近では「このころの時代」とかいわれ遍路も見直
されてきたようである。

遍路の基本マナー

必ず山門から入り、まず口をすすぎ手を洗う。
はじめ、本尊に灯明と線香を供えて参拝、般若
心経をはじめとする経文をあげてから、参拝報
告の意味で納め札を供える。同様にして大師堂
に参拝する（普通寺だけは大師堂が先）。その後、
境内の諸堂を拝礼してから納経所で朱印とご本
尊御影をうける。（最近では般若心経の写経の奉
納は省略する人が多い。）

鐘は到着してすぐならついてもよいが、参拝
後帰り際にはつかないことになっている。金剛
杖についてはいる場合、橋を渡るときに橋上では
杖をついてはいけない。橋の下に大師が休んで
いるので、これを妨げてはならないというのが
そのいわれである。また杖そのものが大師の化
身という考えから、夕方宿についたら杖をきれ
いに洗い、出発まで宿の床の間に安置する。
参拝者同士が会ったら「南無大師遍照金剛」
とことばを交わすことになっている。

（注）納め札には、参拝年月日と住所・姓名を
記入して納札箱へ入れるが、参拝回数に
応じてその地色が指定されている。六回
まで白、七回以上は黄、十回以上は赤、
二十回以上は金となっている。なお五十
回以上は赤の肩衣を着用、昔は道中の宿
泊料が無料であった。

八八はどこからきたか

八八という数字はどこからきたかということ
については諸説があり、はっきりしない。鎌倉
期にはすでに定まっていたようだが、起源につ
いてはこんな説がある。

① コメという文字から、米寿の延命と年貢米の
豊作祈願をイメージした。
② 八塔の倍数。昔、インドでは釈迦の火葬骨を
八国に分骨して仏塔を建て、これを巡る風習
があったのでこれにあやかった。

③ 見惑八八使からとった。

④ 三五仏と五三仏を合わせた数をとった。

⑤ 厄年の数の合計からとった。（男142、女133、子13）

⑥ 昔盛んだった熊野詣でにちなみ、道中の熊野
王子九九か所にならって、これに次ぐ限定数
として八八を採用した。

（注）観音信仰の三三三は、観音の三三身普門示
現1観音さまは三三三の姿に化身して人間
を苦悩から救うによる。なお、秩父札所
が三四なのは西国、坂東と合わせて日本
一〇〇観音とするためである。

ひそかなる 心を持ちて 終りけむ
命のきわに いうこともなく

（釈超空）

今日もまた 心の鉦を 打ちならし
打ちならしつづ あくがれて行く

（牧水）

— 合掌 —

会員

コンドミニアム・ジョイント・ビル

9月28日第二回夕べの会の
返信消息欄の記事を掲載さ
せていただきました。

(順不同・敬称略)

増島隆二(中35)

雨が降らず野菜畝に水をやる近頃です。

山崎豊弘(中35)

家族は私達夫婦と長男夫婦の4人暮らし、家はJ
R鶴見駅西口から徒歩5分位の山の上、曹洞宗
の本山総持寺やベイブリッジはすぐ近くです。

御蔭様で健康で晴耕雨続の生活ですが、週一回
位のゴルフ、月一回程度の長距離ドライブは続
け、カメラを愛しております。庭に猫の類程の
小さな畑を作り家庭菜園を楽しんでおります。
故郷川越には2月に一回位行つてます。72才。

矢部義一(中23)

両親のお蔭で生れつき病氣知らず、川中生活5
年間も無欠席無遅刻が唯一の取り柄であった。
気がついたら85回目の誕生日は過ぎていた。長
い月給取り生活を了り、毎日気休に退屈もせず
過しています。余命は知る由もないが、健康自
己管理により天命を完うすべく、有らゆる健康

法を日課に入れて努めています。

田中 隆(中45)

10月より日本大学板橋病院院長に就任致します。
任期3年間、忙しくなりますが出来るだけ出席
致します。

野上 正(中37)

このところ毎日一時間以上の散歩が日課です。
その他は市の公民館を利用し、中国史教室、中
国語会話教室などに出席、別に書道も始めまし
た。この一、二年、弟妹や親戚、同窓を集めて
は中国旅行に励んでいるので、行く先々の歴史
や名勝など「案内書」書きが仕事です。

松下雄一(中29)

この夏の猛暑に辟易しながらも、ますますの状
況で過ごしています。過去の資料や写真を整理
していますが、往時のことを思いの外、鮮明に
思い出し、懐しく感じます。山九餉で手がけた

「重畳物運搬船の荷役方式特にモジュールのロ
ールオン／ロールオフ方式」を折を見て夕べの
会でお話できるようまとめたいと思ってい
ます。

矢部敬一郎(高2)

友人にすすめられて、新しい仕事にこの4月か
ら就いてますが、60才すぎたらやりたいことを
夢みてましたので、4日勤務、3日を好きなこ
とにと思つての転換期の毎日です。

早川岩男(高2)

昨年末、旭化成工業株を定年退職し引続き、現
在業界団体の「日本火薬工業会」に勤務中です。

菅沼伸之(高2)

8月27日、夜、脳梗塞の発作に襲われました。
辛い症状は軽かったのですが、CT検査の結果、
即刻入院加療ということになりました。「人生
一寸先は闇」とよくいますが、しみじみとこ
の言葉を味合っている今日この頃です。

日出間哲郎(高2)

元氣です。60才をすぎると多少氣力、身体的に
衰えるのを感じています。そろそろ花道を考えの
んびりしたい心境なり。

橋本日出松 (高2)

会社を辞めて、ちょうど一年たちました。一年間は何もせず、わが家の歴史、でもまとめようと虫食いのひどい資料を調らべていましたが、結局は、会社や市の依頼で結極せわしい一年となりました。光陰矢の如し、というよりもとても長い一年だったように思えてなりません。ご返事が遅れ恐縮の至りです。

横溝高至 (高21)

民事事件、商事事件について、毎日いろいろな相談を受け一生懸命がんばっております。健康管理のため、市内のソフトボールゲームに参加し、毎週日曜日には必ず練習し、数多くの試合にも出場しております。

川合善明 (高21)

今年4月から、事務所の名称を「飯田橋法律事務所」と変えて、パートナー弁護士を迎えて一緒にやっております。次から次へといろいろな事件があり、人の世の複雑さを痛感しています。

高橋明吉 (高12)

50才を越え、緊張感等の持続力の低下、目の衰え(老眼)を初めて感覚として捕え、老いとい

うものを身近に感じるようになりました。特に職業柄、目は大事、先に老眼になった妻(同業者)の大変さを実感で分るようになりました。馬車馬の如く走ってきた40才台、ゆとりを持ち新らたな方向を見い出そうとしている今日、この頃です。

浅海倭夫 (中21)

仲村さんのお話聴かせて頂き度いのですが、入院中で伺へません。残念ですが、失礼させて下さい。89才。

中善寺登喜次 (中27)

81才になりますが幸い健康にめぐまれておりますので、東京の平河町の事務所には週3、4日は出勤しております。尚、さいたま景観賞審査委員長、埼玉景観審議会々長は続けてお手伝いしています。大学の講義は昨年でやめました。

本多 昇 (中22)

無事に暮していますが、年が年でするので出席することは無理になりました。

船津鴻之助 (中24)

過日、曾祖父船津蘭山の川越城御殿襖絵を中心とするお城関係文化財の展覧があり、久振りに母校の周辺を散策致し懐旧の念禁じ得ず、てし

た。

深沢義雄 (中30)

年のせい、変なことを考えます。人は生まれたときのこと、死ぬときは、記憶もできないし従って、自ら記録もできない。人にとって最初と最後は全く不明である。孔子は、未知生、焉知死と言ったが、ほんとうだ。すでに余生。せいぜいわかるころだけでも充足しておきたい。そんなつもりのごころです。

柴崎武夫 (中28)

今年の3月、教員生活55年を終り、教える生活が終ったと思ったら、まだ一つ、土曜日毎に日比谷の弁護士会館で弁護士さんたちと英語の小説を読んで微妙な人間心理を探求する面白さを味わう。そんな楽しい仕事が残っていた。私が死ぬまで続けるつもりらしい。私も力の続く限り続けて行きたいと思っている。

落合義作 (中28)

自宅がよみうりランド前の山の上の家なので、夜の満員電車、坂上りがきつくなりました此頃です。健康維持に努力して未だゴルフもぼつぼつやって居ります。心安らかな生活を楽んで居ります。

福田龍雄(中32)

難聴以外は極めて健康です。御出席の諸兄によりしく御伝言下さい。御盛會を祈ります。

新井辰平(中32)

平素は色々とお世話をかけ深謝申し上げます。私儀2年程前心筋梗塞を患い、その後自宅療養中ですが、御蔭様で無事に過して居ります。益々の会の御発展と皆様の御健康を祈り上げます。

岩崎靖夫(中32)

あの夏の暑さも納まり、秋の気配を感じる今日この頃です。いつも役員事務局の皆様にお世話お電話になっており有難く感謝しております。連絡をいただきましたが、老化現象が現れまして体調が整わずいつも欠席させていたお体です。同窓会々員、戦友会の計報記事も機関誌に年々増加しております。意気なしますが、何とか克服して生き続けたいと願う昨今です。皆様の御勝祥とお多幸とをお祈りいたします。

野上完一(中30)

自身の心不全に加え8月21日肺線維症のため恩妻を亡くし、少々ガツクリしています。御盛會をお祈りいたします。なお本年度会費納入のため振込用紙々あればお送り下さい。

橋本次郎(中35)

御案内を頂き有難うございました。ここ数年に心臓手術に続き直腸潰瘍の手術と大病にて入院生活を長くして今年は落着いて自宅で静養して居ります。少しづつ仕事について生活をして会合は失礼して皆様によりしく。

細島博文(中35)

何時もいろいろとお世話になり厚く御礼申し上げます。この度は都合つかず、残念ながら欠席させていただきました。只今、工専は夏休みで一息ついていますが、この外に二つの会社に関係していますので時間的に余裕のない生活を送っています。

松本博一(中37)

日本大学国際関係学部は2月末定年となり、週一日出講しています。新しい本務校では国際文化論を講じています。

内田幸男(中43)

本年3月末、眼科学主任教授を定年退職、東京女子医科大学常務理事に変わりました。

岡村和夫(中45)

4月からNHKの部外解説委員となり月に、TV、ラジオそれぞれ1本程度の解説番組を担当

しています。

岩崎美郷(高2)

4月1日、政令都市移行に伴い稲毛区が新たに加わり、新しい住居表示が千葉市稲毛区弥生町4-1-31になり、郵便番号も2660から2663となりました。名簿をご訂正下されれば幸いです。小生相変わらず元気に暮しております。

高橋克治(高2)

本年3月末に定年退職し、嘱託員として豊島区教育委員会に勤務。職務の主な内容は、科学教育室で、小中学校の理科教育関係のお手伝いというところです。なお、4月から年金生活者の仲間入りをし、現役ではない、退職したのだということを実感しています。

長島恒雄(高3)

今年5月末に還暦を迎え、一応現役を引退した形になりました。しかし新日本証券、新日本調査センター両社の顧問に加え、日本証券業協会や日本証券アナリスト協会の委員も兼任しており、多忙な毎日を送っています。その他新聞や雑誌への寄稿も続けています。

西田 守(高7)

日本で初めての「余暇生活開発士」の資格を取

りました。文部省の外部団体の日本レクリエーション協会主催の通信教育で1年2ヶ月の教育です。全国で合格者274名の中に入りました。合格と同時にいろいろの企画、打合せ等が多く、落ちつくまで時間がかかりそうです。

土屋賢雄(高7)

昨年9月、32年間勤めた毎日新聞社を選挙定年で退社し、現在は新宿にある広告代理店産報通信社に勤務しております。

野澤勝三郎(中30)

お蔭様で健康にて日々恙なく老夫婦共々過して居ります。平素は欠席のみ致し申し訳ありません。役員の皆様のご尽力を感謝致して居ります。

清水順一(中48)

池袋で20年、創立32年になりました。母校の部屋の設計、川越蔵造保存コンペ(建築学会主催)の入賞等、楽しみながら仕事に励んで居ります。

砂田太三(中23)

今年は何となく程の酷暑に見舞われ、いささか老体の上、独り居の身には殊の他こたえました。何とかこの暑さも乗り越えることが出来たので、これからは特に健康の保持に留意し

て行きたいと考えて居ります。

笹崎能輝(高18)

いつもご苦勞さまで。9/19、10/2迄、Europe、ドイツへ参ります。夕べの会に出席できませんが、皆様によりしくお伝え下さい。

坂田圭司(中17)

今年の連日残暑の厳しさには参りましたが、至って元気で過しております。毎日の散歩は欠かさずやっておりますが、昔のようにはとても歩けなくなりました。毎日の生活としては読書の外はプロ野球のテレビ観戦が楽しく、セリーグでは巨人、パリーグでは西武を応援しております。十三日からは大相撲が始まるのでこの方も欠かさず見ております。殊に外国人力士や若貴兄弟の目覚しい活躍には熱が入ります。在京初雁会にはすっかりご無沙汰しておりますが、若い方々のご活躍は嬉しく頼もしい限りです。今後一層のご発展を御祈り申し上げます。

橋本固治(中26)

体調不良(心筋梗塞の気あり)

安斉恒男(中24)

近く84才の誕生日を迎えます。段々と耳が遠くなって来ましたが、通常生活は元氣一杯自適の

日々、無為に墜ることのない様自らを戒め過して行きます。

間々田重信(中39)

千葉県下、千天つづき酷暑の毎日でした。無事息災に、家内と二人して生活しており、時偶、子供たちの来訪がある静かな起居です。

武田 葛(中29)

いつも、会のこととお世話になり、ありがたうございます。例会にも欠席つづきて失礼しております。皆様によりしく、川越中学に通っております。皆様によりしく、川越中学に通っております。縁で当時の級友との交遊が復活しております。(中学29回卒業生と同期)

平野寿作(中40)

元気で70才を越えました。

岡田良平(高2)

印刷関係の仕事をはじめて35年になりますが、このところのバブル崩壊で厳しい状況にありますが、我が愛する阪神タイガースの活躍に勇気づけられています。七年ぶりの優勝なるか、一喜一憂の毎日です。在京初雁会には昼のピルゼン、夕べの学士会館と万難を排して出席するよう心がけています。

在京初雁会平成3年度報告

平成4年4月8日

総務担当 矢部敬一郎

1. 会員の動向

イ. 会費納入者 85名 (中学56、高校29)

※年度末における未納者 9名 (2回督促済)

ロ. 物故会員 (中27) 落合忠治氏

ハ. 新入会員 (中35) 山崎豊弘氏 〒230 横浜市鶴見区豊岡町10-15

(高2) 清水順一氏 〒350-02 坂戸市南町20-11

(ノ) 柴崎育久氏 〒158 東京都世田谷区用賀2-5-14

2. 行 事 (月例会=ピルゼン、夕べの会=学士会館)

4月8日 月例会 出席6名	
5月12日 母校同窓会、佐久間旅館で懇親会	「中東情勢をめぐって」 佐々木会長
6月26日 夕べの会 出席16名(内、夫人1)	「日本の宇宙開発の現状」 早川岩男氏(高2)
7月8日 月例会 出席6名	
9月25日 夕べの会 出席20名(内、夫人2)	「ヒマラヤトレッキング」 西田 守氏(高7)
10月20日 秋季散策会 出席19名(内、夫人3)	御岳山
11月26日 夕べの会 出席19名(内、夫人1)	「最近の心臓病について」 田中 健氏(高7)
12月9日 月例会 出席7名	
1月8日 月例会(新年会) 出席7名	
2月10日 月例会 出席6名	
3月24日 役員会 出席6名	
3月24日 夕べの会 出席28名(内、夫人1)	「川越観光あれこれ」 田中義之氏(中35)

3. 会報の発行

第51号 (春夏号)

第52号 (秋冬号)

在京初雁会平成3年度決算報告

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

平成4年4月8日

1. 一般会計

財務担当 菅 沼 伸 之

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰 繰 金	50,521	50,521	
年 会 費	250,000	220,000	平3=85人、平成2=2人、平成4年=1人
預 金 利 子	4,000	5,632	
雑 収 入	—	5,000	故石井源一、福島茂吉両氏からの 会費を振替
計	304,521	281,153	
支出の部			
会 報 印 刷	130,000	131,368	300部×2回
新 企 画	50,000	0	
夕 べ の 会	15,000	14,711	
月 例 会	2,000	4,630	
慶 弔 費	20,000	3,000	落合忠治氏(中27)
会 議 費	15,000	9,260	
通 信 費	50,000	52,299	
事 務 費	9,000	3,682	
振 替 手 数 料	4,000	3,720	
雑 費	5,000	6,800	
計	300,000	229,470	
残 額 (繰越)	4,521	51,683	

2. 特別会計 (基金)

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	—	100,000	坂田圭司氏(中17)寄金
支出の部	—	0	
残 額 (繰越)	—	100,000	

平成4年4月8日

上記のとおり相違ありません。

監 事 横 溝 高 至

在京初雁会平成4年度予算案

(平成4年4月1日～平成5年3月31日)

一般会計

項 目	実 績 (円)			4年度 予算案 (円)
	元 年 度	2 年 度	3 年 度	
収 入 の 部				
繰 越 金	263,863	325,713	50,521	51,683
年 会 費	232,500	225,000	220,000	220,000
預 金 利 子	3,504	4,738	5,632	1,000
雑 収 入	13,000	100,000	5,000	0
計	512,867	655,451	281,153	272,683
支 出 の 部				
会 報 印 刷	95,630	196,318	131,368	70,000
新 企 画	—	247,818	0	30,000
夕 べ の 会	5,988	13,718	14,711	10,000
月 例 会	4,295	2,170	4,630	2,000
慶 弔 費	10,286	29,286	3,000	15,000
会 議 費	18,884	12,175	9,260	15,000
通 信 費	29,555	85,356	52,299	58,000
事 務 費	12,956	5,909	3,682	5,000
振 替 手 数 料	3,960	4,080	3,720	4,000
雑 費	5,600	8,100	6,800	10,000
計	187,154	604,930	229,470	219,000
残 額 (繰越)	325,713	50,521	51,683	53,683

(注) タベの会の会費は、1人5,000円(夫人は2,000円)とする。(参加者負担の原則)

年会費納入のお願い

本会の運営は会員の年会費(¥2,500)の収入を主たる財源としております。本紙に振替用紙が同封してありますのでご利用下さい。11月末までに払い込み下さいますようお願い申し上げます。

月例会(ビルゼン)

12月8日(火)・1月8日(金)・2月8日(月)

の

交詢社ビル1F **ビルゼン**

御 案 内 !

正午より1～2時間で会費は1500円です。

御連絡はしませんが、たまには銀座でビールで乾杯//

平成4年度計画

- 4月8日(水) 例会 (ピルゼン)① 総会
5月10日(日) 母校同窓会総会 (川越高校)
6月23日(火) タベの会① (学士会館) 16名 「四国路の遍路について」 菅沼伸之氏 (高2)
7月8日(水) 例会 (ピルゼン)②
8月 休み
9月29日(火) タベの会② (学士会館) 25名 「感動環境創造産業の一翼を担って」
仲村永靖氏 (高20)
10月18日(日) 散策会 入間・加治丘陵
11月24日(火) タベの会③ (学士会館) 「運搬船の荷役方式」 松下雄一氏 (中29)
12月8日(火) 例会 (ピルゼン)③
1月8日(金) 例会 (ピルゼン)④
2月8日(月) 例会 (ピルゼン)⑤
3月23日(火) タベの会④ (学士会館) 役員会

(注)まとめ… { 例会 5回 母校同窓会総会 1回
タベの会 4回 散策会 1回

事業内容の充実のために

- 1. タベの会のあり方
 - ・参加者の増加策—一口コミの活用等
 - ・参加費の引上げ(4,000円→5,000円)
 - ・参加予定者の不参加の場合の取扱い
(3日以上前に連絡があった場合は、それで
よいが2日前以降は所定会費を収受する。)
- 2. 名簿の作成
 - ・その後会員の変動により新たに名簿を作成。
 - ・名簿作成を機に会員増強につとめる。
 - ・入会の葉を追加印刷しては?。

秋季散策会に奮っての参加を!!

本年度は入間・加治丘陵(円照寺・桜山展望台・グリーンロッジ)の史跡と自然探訪です。説明御案内は清水仁恵氏(中40)です。入間初雁会の企画の下、素晴らしい懇親会が実施されること期待しています。奮っての御参加を期待しております。(係より)

平成4年度秋季散策会 日時 平成4年10月18日(日)
場所 入間・加治丘陵
(懇親会) 入間グリーンロッジ 会費 6,000
※連絡先 川越高校同窓会係 0492-22-0224

母校だより

今年の五月十日に開催されました平成四年度の川高同窓会で配布されました会報よりの抜萃です。既にご覧になられた方もあると思いますが、少しでも母校の現状が分つてもらえるかと思ひます。

左の表は大学合格状況の一部ですが、今年度の大学合格者延数は現役二三八、浪人一七二の合計一五一〇人です。

卒業生大学合格状況 (92・4・16)

大学名	現役	浪人	大学名	現役	浪人
公立大学			私立大学		
東京大学	4	6	早稲田大学	35	131
京都大学	2	2	慶応義塾大学	13	61
大阪大学	5	23	上智大学	23	117
名古屋大学	5	8	法政大学	11	90
北海道大学	13	22	中央大学	5	37
東北大学	7	7	立教大学	14	52
北九州大学	7	15	山手学院大学	18	70
筑波大学	2	3	清泉女子大学	9	31
北海道教育大学	1	4	日本女子大学	3	56
	1	2	法政大学	6	84
	1	2	中央大学	5	21
	1	2	立教大学	1	35
	1	2	上智大学	4	30

同窓会役員

会長 佐々木忠一 (32回)
副会長 増島隆二 (35回)

市川宗貞 (27回)
駒野昇 (37回)

松本博一 (37回)
清水仁恵 (40回)

山根豊 (44回)
石山豊 (45・46回)

染谷潔 (高5回)
中野清 (高6回)

岩井徳十 (高9回)
金剛秀房 (高10回)

馬場正弘 (高12回)
梅沢邦夫 (高45・46回)

鈴木誠 (高9回)
星野誠 (高9回)

吉田圭司 (高13回)
坂田圭司 (17回)

岡村了一 (43回)
顧問 岡村了一 (43回)

名譽会長 鈴木良栄
(校長)

叙勲・褒章

中36回 宮原和夫 (三年春)
勲四等瑞宝章

高2回 駒井恒次
平成三年度教育者

高4回 武村節雄 (三年春)
文部大臣表彰

高4回 藍綬褒賞
藍綬褒賞

中41回 原宏 (四年春)
藍綬褒章

夕べの会

第一回夕べの会 (平成四年)
六月二十三日(火) 学士会館

「四國路の廻路について」
菅沼伸之氏 (高2)

以前から歩け歩け運動で活躍されてい
ました氏が、この春定年退職されたの
を機に「空海のみちウオーク」に参加
された体験談をもとにお話を伺うこと
ができました。

詳細は本誌2頁に掲載されています。
当日の参加者は左の一六人です。

鈴木一男 松下雄一 増島隆二
山崎豊弘 岩泉惟人 堀口武夫

菅沼伸之 早川岩男 高橋克治
日出間哲郎 横溝高至 川合善明

矢部敬一郎 野口准史

第二回夕べの会 (平成四年)
九月二十九日(火) 学士会館

「感動環境創造産業の一翼を担って」
仲村永晴氏 (高20回)

アウンデザイン(架空開発部長
花博のテーマ館、マリオンの中からくり

時計、ショッピングセンターの企画デ
ザイン等と国内はもちろんのこと、海

外でも大活躍の仲村氏のお話はディス
プレイ、デザイン業界の一端を知る有

意義な一時でした。出席者は二十五名
と多く盛会でした。

矢部敬一 鈴木善男 松下雄一
佐々木忠一 増島隆二 野上正

田中隆 岡田良平 菅沼伸之
橋本日出松 早川岩男 上西正人

日出間哲郎 矢部敬一郎 岡部延夫
駒井正明 高橋明吉 横溝高至
野口准史 石川正樹 西田守
増島夫人 矢部夫人 岡田夫人

次回の夕べの会は11月24日(火)です。
講師は常々会の発展のために御尽力を

いただいた、今も幹事として御活躍の松
下雄一氏(中29)です。

ライフワークとしてたずさわられてきた
「船」のことについて興味あるお話が

承まわれるものと期待しております。
是非共大勢の方の参加をお待ちしてい

ます。

編集後記

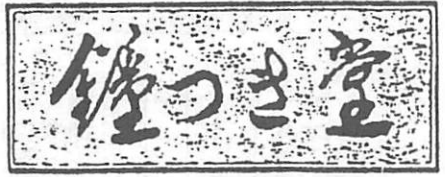
○佐々木大先輩より広報を引きうけて
以来、「鐘つき草」の発行が遅いと先
輩役員から激をとばされ、事務局三人
男(矢部、菅沼、岡田)が、何度か会
合を持ち、汚名挽回と何とか第53号刊
行にこぎつきました。従って何かと不
行き届きの個所もあらうかと思ひます
が、ご容赦下さい。

○その中で会員の皆様(四五名)の近
況を掲載できましたので会員同志の連
絡の契機になれば幸いです。

○当会も夕べの会を中心に少しではあ
りますが、参加者の層が拡大をみせて
います。特に来年は創立四〇周年の記
念すべき年です。一人でも多くの会員
が増強されますよう皆様方の絶大なる

ご協力をお願いします。最後に会員諸
氏の平素のご支援を感謝し、ご健勝を
お祈り致します。

(〇)



在京初雁会 (創立昭和28年)
名誉会長 坂田圭司
会長 増島隆二

1993年 (平成5年)
新春号 第54号



月例会

中央区銀座 6-8-7

交詢社ビル1F

ピルゼン TEL 3571-2236

タベの会

千代田区神田錦町 3-28

学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

事務局

菅沼 伸之 (財務・事務局長)

〒177 練馬区上神石井2-36-6 ☎03-3929-2224

矢部敬一郎 (企画・総務)

〒157 世田谷区北鳥山6-20-22 ☎03-3307-8513

岡田 良平 (広報)

〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811

夜間 ☎ 1815

一九九三年の新春を迎えて

会長 増島 隆二

今年、昭和二十八年三月十八日、銀座ピルゼンに於て、在京初雁会の発会式が行われてから四十年という、当会に取ってお目出度い意義ある年です。幾多の同窓先輩の弛まないご尽力の積み重ねのお陰で、今日の当会がある訳で、心から感謝を捧げます。

幸い、川中を引き継いだ川高は大にして着実な発展を続け、我々卒業生の母校への誇りと郷愁との源泉であり、支えともなっています。それを反映してか、そこそこで新しい初雁会の

誕生の話しを伺う今日この頃ですが、誠に大慶の至りです。

確かに、当会は川中川高卒業生の青春時代の想い出のヒルタ一であり、我々の心に潤いを与えてくれるサルーンで、時には励ましや、力添えも生まれる処にその意味と価値があるものと愚考いたします。

新しい年を迎え、当会の益々の発展と会員の皆様の「ご多幸を祈り上げます。

在京初雁会——タベの会・ピルゼンの会とともに残念なことに参加者が少なくなっています。一人でも多くの方の参加をお待ちしています。又、新しく会員になれる方を「紹介下さい。」

★お知らせ…在京初雁会の総会を4月8日(木)正午よりピルゼンにて開催します。

同窓会秋季散策会

平成四年度の同窓会秋季散策会が10月18日(日)に入間・加治丘陵で行なわれました。60数名と参加者も多く、在京初雁会からも増島会長をはじめ15名の皆さんが元気に参加されました。

高正寺の清水住職さん(入間初雁会会長)の別掲のようなお話しの後、加治丘陵を散策し桜山展望台に登り、四方の景観を楽しみました。尽食を兼ねた懇親会は入間のグリーンロッジで盛大に行なわれ大いに懇親を深め、楽しい一時を過ごし、来年の日高での再会を楽しみに散会しました。

◎曹洞宗 高正寺
入間市仏子二五一

(名称) 諏訪山 萬齡院 高正寺
(創立) 今から約八百年程昔、健保(一二一三一八)の頃
(開基) 金子余市近範

近範は武蔵七党村山党に属し、金子十郎家忠の弟。
☆当時、裏山の加治丘陵は金子家の荘園で、金子兄弟はこの山で砂鉄を採集し製鉄業を担当していたと云われる。兄家忠の菩提寺は加治丘陵の西端、入間市木蓮寺瑞泉院である。

☆開草当時、高正寺は真言密教道場であった。

☆金子家はその後、四国伊予(新居浜)に転封され当地には遺物は殆どない。

※近範公の法号 高正寺殿閼叟常鉄大居士
(室) 萬齡院殿

☆戦国時代(大永年間)

甲斐禪宗の東遷により、現青梅市・入間市の一部寺院が「禪宗」に改宗。高正寺は菊蔭瑞潭禪師を中興開山として「曹洞禪宗」となり、現住は菊蔭禪師から数えて二十四世にあたる。

☆江戸時代

当、仏子村は、旗本松平流鈴木家の采地として高正寺は寺領四石の朱印寺となる。

※鈴木家は、三河以来の徳川家家臣で四代義忠は幕府大番頭に列し仏子村、落合村、平松村、田木村四村五百五十石を知行す。現在高正寺に鈴木家歴代の墓地あり。

月例・ピルゼンの会

十二月八日(火)

増島 隆二 12時より 矢部 義一 山崎 豊弘
鈴木 善男 菅沼 伸之 岡田 良平

一月八日(金)

矢部 義一 12時より 鈴木 善男 佐々木忠一
山崎 豊弘 増島 隆二 岡田 良平

二月八日(月)

矢部 義一 12時より 佐々木忠一 増島 隆二
山崎 豊弘 鈴木 善男 岡田 良平

三月八日(月)

横溝 高至 菅沼 伸之
矢部 義一 佐々木忠一 増島 隆二
田中 隆 山崎 豊弘 鈴木 善男
矢部 敬一郎 菅沼 伸之

★最近、月例・ピルゼンの会の出席者が少なくなっています。陽気も大分良くなっていますので、たまには銀座でビールで乾杯!! 次回は4月8日(休)です。

夕べの会

第三回夕べの会(平成四年)

一月二十四日(火) 六時より
「重量物の船積方法のあれこれ」

講師 松下 雄一氏(中29回)

矢部 義一 鈴木 善男 松下 雄一 増島 隆二
佐々木忠一 山崎 豊弘 上西 正人 内田 紀成
岡田 良平 岡部 延夫 菅沼 伸之 早川 岩男
橋本 日出松 日出間 哲郎 矢部 敬一郎 田中 隆

※尚、松下雄一氏の「重量物の船積方法のあれこれ」のお話の詳細につきましては、次号に掲載いたしますのでご諒承下さい。

平成四年度在京初雁会総会

四月八日(休)12時より銀座ピルゼンにて在京初雁会の平成四年度の総会を開催いたします。

記

- 一、平成四年度の決算案並びに事業報告
- 一、平成五年度の予算案並びに事業報告
- 一、任期満了につき役員を選出
- 一、その他

皆様の御出席を心よりお待ち申し上げます。尚、次期会長候補として田中 隆(中45)氏(現日大板橋病院長)が推薦されています。

在京初雁会40周年!!

昭和28年先輩有志によって発会されてより本年でめでたく40周年を迎えます。今年の秋に開催すべく準備をすすめています。ご意見などありましたら事務局まで御連絡下さい。

在京初雁会会員

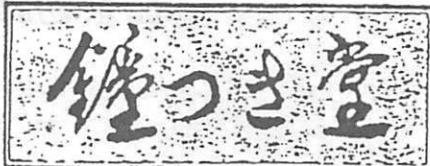
平成4年度

平成5.3.1

回次	氏名	回次	氏名	回次	氏名
17	新井正直	33	金子紀孝	高2	岡部延夫
	坂田圭司	35	橋本次郎		柴崎育久
21	浅海倭夫		細島博文		清水順一
22	内田静馬		山崎豊弘		菅沼伸之
	本多昇		岩泉惟人		高橋克治
23	砂田太三		増島隆二		橋本日出松
	平井義雄	36	堀口武夫		早川岩男
	藤村信一		荻野文夫		日出間哲郎
	矢部義一	37	中野護央		矢部敬一郎
24	浅野誠一		野上正	高3	宇都野正章
	安齋恒男		松本博一		大川解
	船津鴻之助	38	阿部親興		小熊忠三郎
26	橋本國治		坂田順一		中村生秀
27	久保真齒		佐久間勇次		長島恒雄
	中善寺登喜次	39	間々田重信	高4	駒井正明
	山本秀順	40	平野寿作		松井穎敏
28	落合義作	41	星野猛	高7	鈴木勇
	柴崎武夫	42	平岡寿夫		土屋実男
	友光正昭		保野昭一		西田守
	鈴木善男	43	岡村了一	高12	高橋明吉
29	松下雄一		内田幸男	高18	新井宏明
	武田葛		島田嘉夫		笹崎能輝
30	野上完一	45	岡村和夫		橋本秋穂
	野沢勝三郎		田中隆	高21	井上道男
	深沢義雄				大館廣
32	新井辰平	高2	岩崎美郷		川合善明
	岩崎靖夫		内田紀成		平井通雄
	佐々木忠一		上西正人		横溝高至
	福田龍雄		荒井利治	高22	野口准史
	山本道		岡田良平	高25	石川正樹

中学……54名

高校……35名



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田 圭司
 会長 田中 隆

1993年 (平成5年)
 春号 第55号



月例会
 中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

夕べの会
 千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎(企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田 良平(広報)
 〒157 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅 " 1815
 事務局
 菅沼 伸之(財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-5 ☎03-3307-8513

会長就任にあたって

田中 隆
 (中45・46)

この度計らずも四月より在京初雁会の会長に推薦されました。今から二十年前位になります。友人から在京初雁会に行ってみないかと誘われました。毎月八日の正午に銀座のピルゼンで開催しており、多くの先輩が交流を図っているとのこと、しかし考えてみると週日の正午に集まることは、現役のサラリーマンは無理であり、そのまま聞き流していた。それから十数年経って大学の西川鎮河八教授より日大初雁会に出席するようにと話があり、そこでお会いしたのが佐々木先生で、それ以

来夕べの会にも出席することになった。私どものクラスは旧制中学45、46期で、一期下のクラスは高卒一期生(渋谷同窓会長のクラス)で、丁度中学と高校の境目にあたり、今回の会長就任も高卒の人達の橋渡しの存在と考えております。幸いに高校二期生の矢部氏、菅沼氏、岡田氏が副会長として御協力いただき、秋に開催します四十周年記念行事の準備に入ることに致します。末筆ながら、二年間の任期を皆様のお力添えを頂きながら務めさせていただきます。

プロフィール

- ・ 日本大学医学部板橋病院長
- ・ 同 第三外科学教室主任教授
- ・ 巨人軍ファンの会 会長
- (長嶋親子、松井選手の毎日の活躍に一喜一憂している。)

もくじ

会長挨拶	1
平成四年度事業報告	2
平成四年度決算報告	3
平成五年度予算	4
平成五年度事業計画	5
重量物の船積み方法のあれこれについて	6
青い空、青い海	9
空海のみちウォーク	9
菅沼伸之	9
母校同窓会	10
夕べの会開催他	10

夕べの会開催

6月22日(火)午後6時より学士会館にて開催
 詳細は10頁参照

在京初雁会平成4年度 事業報告

平成5年4月8日

総務担当 矢部 敬一郎

1. 会員の動向

イ. 会費納入者 90名 (中学55、高校35)

ロ. 物故会員 中村莊平 (中学22)

ハ. 新入会員 上西正人 (高校22) 岡部延夫 (高校2)

平井道雄 (高校21) 野口准史 (高校22)

2. 行 事

・月例会 6回

・夕べの回 3回

・その他 (母校総会、散策会) 2回

4月8日(水)	月例会① ピルゼン、総会 (出席者8名)
5月10日(日)	母校同総会総会 (川越高校)
6月23日(火)	夕べの会、学士会館(16名) 「四国路の廻路について」 菅沼伸之氏(高2)
7月8日(水)	月例会② ピルゼン (出席者7名)
9月29日(火)	夕べの会、学士会館(25名) 「感動環境創造産業の一翼を担って」 仲村永晴氏(高20)
10月18日(日)	散策会、入間加治丘陵 (出席者13名)
11月24日(火)	夕べの会、学士会館(15名) 「運搬船の荷役方式」 松下雄一氏 (中29)
12月8日(火)	月例会③ ピルゼン (出席者6名)
1月8日(金)	月例会④ ピルゼン (出席者7名) 40周年記念事業実行委員会
2月8日(月)	月例会⑤ ピルゼン (出席者8名) 同上
2月20日(土)	40周年記念事業実行委員会 (東方会館5名)
3月8日(月)	月例会⑥ ピルゼン出席者8名

3. 会報の発行

第53号 (春夏号)

第54号 (秋冬号)

在京初雁会平成4年度決算書

(平成4年4月1日～平成5年3月31日)

平成5年4月8日

財務担当 菅 沼 伸 之

1. 一般会計

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰越金	51,683	51,683	
年会費	220,000	230,000	平3 = 4人、平4 = 88人
預金利子	1,000	1,171	平3繰越601円を含む
雑収入	0	0	
(計)	272,683	282,854	
支出の部			
会報印刷	70,000	60,000	鐘つき堂 No 53、54
新企画	30,000	0	名簿作成 (繰越)
夕べの会	10,000	△26,924	
月例会	2,000	△ 5,289	
慶弔費	15,000	3,000	中村莊平氏
会議費	15,000	10,437	
通信費	58,000	44,664	
事務費	5,000	6,368	
振替手数料	4,000	4,320	
雑費	10,000	4,944	
(計)	219,000	101,520	
残 額 (繰越)	53,683	181,334	

2. 特別会計 (基金)

定期預金 10万円 収支なし。

平成5年4月8日

上記のとおり相違ありません。

監事 横 溝 高 至

在京初雁会平成5年度予算

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

財務担当 菅 沼 伸 之

1. 一般会計

項 目	実 績 (円)			5年度 予算案 (円)
	2年度	3年度	4年度	
収入の部				
繰越金	325,713	50,521	51,683	181,334
年会費	225,000	220,000	230,000	230,000
預金利息	4,738	5,632	1,171	4,000
雑収入	100,000	5,000	0	0
(計)	655,451	281,153	282,854	415,334
支出の部				
会報印刷	196,318	131,368	60,000	80,000
新企画	247,818	0	0	170,000
夕べの会	13,718	14,711	△26,924	10,000
月例会	2,170	4,630	△5,289	2,000
慶弔費	29,286	3,000	3,000	10,000
会議費	12,175	9,260	10,437	15,000
通信費	85,356	52,299	44,664	58,000
事務費	5,909	3,682	6,368	5,000
振替手数料	4,080	3,720	4,320	4,000
雑費	8,100	6,800	4,944	10,000
(計)	604,930	229,470	101,520	364,000
残額(繰越)	50,521	51,683	181,334	51,334

※新企画=会員名簿、40年史作成、川高OBへのPRほか

2. 特別会計

基金10万円は据置。利息は一般会計へ繰入れる。

年会費納入のお願い

本会の運営は会員の年会費(¥2,500)の収入を主たる財源としております。本紙に振替用紙が同封してありますのでご利用下さい。6月末までに払い込み下さいますようよろしくお願い申し上げます。裏面通信欄をご活用ください。

月例会(ビルゼン)

7月8日(木)・12月8日(水)・1月10日(月)

の

交詢社ビル1階 **ビルゼン**

2月8日(火)

御 案 内 !

正午より1～2時間で会費は2000円です。

御連絡はしませんが、たまには銀座でビールで乾杯!!

在京初雁会平成5年度事業計画

平成5年4月8日

総務担当 矢部 敬一郎

1. 事業内容を充実するために次の事業を実施する

- イ. 会員増強運動を展開する。
- ロ. 名簿を作成する。
- ハ. 40周年記念祝典を開催する。

2. 月別の実施計画

4月8日(木)	総会、月例会①(ピルゼン)
5月9日(日)	母校同総会(川越高校)
6月22日(火)	夕べの会(学士会館)
7月8日(木)	月例会②(ピルゼン)
(8月休み)	
9月21日(火)	夕べの会(学士会館)
10月17日(日)	散策会(日高)
11月24日(水)	夕べの会(学士会館)(注)
12月8日(水)	月例会③(ピルゼン)
1月10日(月)	月例会④(ピルゼン)
2月8日(火)	月例会⑤(ピルゼン)
3月22日(火)	夕べの会(学士会館)

(注) 在京初雁会設立40周年祝典を秋期(10月~11月)に予定しております。

平成4年度総会開催!!

在京初雁会の平成4年度の総会が4月8日ピルゼンにて12名参加のもとに開催されました。4年度の事業報告、決算報告並びに5年度の事業計画案、予算案がそれぞれ承認可決されました。その後、任期満了による役員改選に移り、増島会長の退任により新たに田中 隆さんが会長に就任されました。他の役員は次の通りです。

名譽会長 坂田 圭司(中17)
 顧問 矢部 義一(中23)
 増島 隆二(中35)
 会長 田中 隆(中45・46)
 副会長 矢部 敬一郎(高2)
 菅沼 伸之(高2)
 岡田 良平(高2)
 監事 横溝 高至(高21)
 幹事 松下 雄一(中29)
 参与 佐々木忠一(中32)
 総会後、ビールで乾杯し懇親会に移り、40周年の件や低迷気味の会員増強等について種々意見が交わされ、盛会のうちに無事終了しました。

出席者… 矢部 義一・鈴木 善男
 佐々木忠一・増島 隆二・山崎 豊弘
 堀口 武夫・間々田重信・田中 隆
 矢部 敬一郎・菅沼 伸之・岡田 良平
 柴崎 育久・高橋 克治・小熊忠三郎

(敬称略)

重量物の船積み方法のあれこれについて

松下 雄一(中29)

(昨年十一月四日夕べの会の講演發言です)

船積みされる重量物には最近非常に大きく重いものが現われてきた。単体の機器類でも数百トンに及び、海洋構造物やプラント装置などでは二千トンを越えるものまで取り扱われている。従来の荷役方法と異なった目新しい船積み方法が開発され、これに用いられる船舶や車両、機材、荷役設備なども専用化したものが多くなっている。

山九㈱に在籍中、これら各種の船積み方法による輸送を多数手がけて来たので、その代表例についても付記する。

船積み方法としては、揚貨装置で吊り上げ積み込む方式(リフトオン方式)、回転体よって積み込む方式(ロールオン方式)、すべらせて積み込む方式(スライドオン方式)、船自身を沈め浮体を積み込む方式(フロートオン方式)の四方式がある。

一、揚貨装置で吊り上げ積み込む方式
重量物貨物船ではヘビーデリックの吊り上げ

能力が増加し、三百トン以上のものが我が国に十隻、最大はあとらす丸、まらつか丸の六百トンである。ヘビーデリックも操作が単純で人手を要しないよう改良されている。船倉内に収められない嵩張った重量物は、上甲板上に船側よりはみ出して搭載されることになる。五百トンの門型クレーン二基を装備したオランダ船ドックエキスプレスは特殊な構造をした多目的船で活躍している。

デッキバージでは長さ百二十米前後、一万五千トン級のものが、重量物の搭載に多く用いられ、クレーン船や陸上のクレーンなどによって積み込まれる。クレーン船も吊り能力が強大になり、千五百トン以上が七隻、最大は三千五百トンの第五十吉田丸である。

重量物貨物船やクレーン船は、十分なバラストタンクを備えており、重量物を吊り上げた時に生ずる船体傾斜を、この中の水を移動させて修正している。

二、回転体よって積み込む方式

「ころ」を用いウインチによって引っ張り込む方法が採用されていたが、最近ドーリートレーラー(多軸タイヤ式トレーラー)を採用することにより、このロールオン方式が脚光を浴びるに至った。

ドーリーの荷台はジャッキ機構により上下でき、複数台を組み合わせ、適当に配列し、コンピュータ・コントロールにより、一台の車両のように同調させて前後左右自由自在に一人の運転手で操作できるのである。

重電プラントや化学プラントでは、装置全体を機能を損うことなく輸送の面から都合よく単位に分けて製作する所謂モジュール工法が採用されているが、このドーリが移動に用いられ、そのまま船積みし、所定の位置に運んだ後、ドーリは下船し、モジュールは船上に固縛された後出航する。現地の港に着岸すると、モジュールの解縛、ドーリの乗船、ジャッキアップしたドーリと一体でモジュールのロールオフ、建設現場への横持ち、据付け位置でジャッキダウン、ドーリ引き出し、据付け完了となり、製作工場から現地据付けまでの海陸一貫輸送が可能となる。

重量物に対する補強は、船積みに対して特に

必要なく、前述のリフトオンの場合に比べて軽くすみ、重くなる程この効果は大きい。海上輸送時の動揺に対する補強、固縛は両者とも同じである。

船体を海底に着底させてロールオンを行う場合もあるが、一般には船体を浮かした状態で行う。従って重量物がランプウェイを渡って船上を移動し始めると、船の姿勢に変化が生ずる。これを調整するため、バラストタンクの水を排水したり、タンク間に水を移動したりする。

ロールオンを行うには、このバラスト調整を考慮のうえ、岸壁と船の甲板面にかかるランプウェイがほぼ水平になるよう、船の姿勢を調整しておかなければならない。

重量物を載せたドーリが完全に船上に乗り移れば、一安心と言う訳で、これに要する時間を普通ロールオン時間と称し、三十乃至四十分位で終るように計画する。これには潮の干満が大きく関係するので、これを考慮に入れ、ロールオンの場合には上げ潮、ロールオフの場合には下げ潮で行う方が、バラスト調整量が少なくすむので、特に重量が嵩む場合にはこの時間帯を選ぶことになる。

初期にはポンプ能力のあるデッキバージを用いていたが、最近ロールオン専用船或いはこれ

を兼ねた前述のドックエキスプレスのような多目的船が建造され、活躍している。専用船の主なものを挙げると

ガルフブリッチ (六千九百トン)

シーブリッチ (一万一千トン)

サンライズ (一万トン)

スニモスエース (二万千八百トン)

スニモスキング (二万千八百トン)

三、すべらせて積み込む方式

陸上と船上に面一となる固定台または軌条を

設け、この上を滑走台と共に重量物をすべらせるもので、牽引にはウインチ、滑車、ワイヤ等を用い、滑動し易くグリースを介することが多いが、テフロンやボールベアリングを用いることもある。

石油掘削用ジャケットの船積み、海上投下。この方法が採られており、専用のランチングバージには、甲板上に常設の固定台があり、船尾にはこの海上投下を容易にするためのピンで支えられたロッカーアームが取り付けられている。主なものを挙げると

あがの (一万トン)

ヘーレマー (一〇九 (六万九百トン))

エムー四四 (五万九千五百トン)

四、船自身を沈め浮体を積み込む方式

非自船の浮体が多いが、耐航性のない作業船やオイルリグなども被曳航より安全性が高いので、この方式による場合が多い。

船体を海底に着底させて積み込み水切りをする着底式と、浮力室を備えその浮力により半汲水の状態で積み込み水切りをする半汲水式の二通りがある。

着底式の二万乃至二万トン級のデッキバージが早く出現したが、最近半汲水式の船舶が建造され活躍している。主なものを挙げると

スパーサーバントー (一万三千五百トン)

マイテイサーバントー (二万五千トン)

ダンムーパー (一万三千三百トン)

ドックエキスプレス (一万三千トン)

いずれの場合も船体を沈下浮上させるのが主作業であるため、強力な注排水装置を備えている。浮上し終る途中で復原力が小さくなるので、特におだやかな時を選んで行う。

五、甲板積み重量物船の特徴

ロールオン、スライドオン及びフロートオンを行う船舶、バージは甲板上に超重量物を搭載するので、全体としての重心位置が非常に高くなる。従って航海中の安全を図る上から一般貨物船に比べ幅の広い深さの浅いものとなる。長さと幅の比をみると一般貨物船の平均六前後に

対し四前後となり、すんぐりしている。幅と深さの比をみると一般貨物船の平均一・八前後に對し四前後となり、平べったいことが分かる。なおヘビーデリックを持った重量物船は一般貨物船と殆ど差がない。

甲板強度は極めて高く一平方米当り十五トン程度のもが多い。

甲板下には多くのバラストタンクを配し、強力な注排水装置を持っている。

上甲板は平滑で突起物を極力少なくしている。搭載した重量物の固縛には、甲板との溶接が要求される。従つて甲板下には火気を嫌うもの、例えば油タンクや電線などを近づけないよう配慮する。

船尾をカットアップし、これにスケッグをつける。自航船では背の低いエンジンを据え双螺旋になるが、一般貨物船に比べ推進性能は劣っている。

六、重量物の船積み実施例

(一) リフトオン方式

昭四七 アスカのヘビーデリックでバージ百六十トン二隻を甲板上に搭載した。

昭五六 ドックエキस्पレスのクレーンで三

菱三原のプラント類を倉内、甲板上に搭載。

昭五三 ボルテクススキッパーの甲板上にク

レーン船で四百トンの洋上居室二個を搭載。

昭五三 デッキバージにクレーン船で三百五十トンの洋上居室二個を搭載。

(二) ロールオン方式

昭四七 第二ゆきかぜでバキュームタワー五百五十トンを目立笠戸でロールオン、日石室蘭でロールオフした。ころ曳きによつた。

昭五五以降ドーリートレーラーによるプラントモジュールのロールオンを始めた。

メジナ向け造水発電プラント、三菱長崎 一万五千トン級バージにモジュール三千百トン搭載し、五航海。最大は千三百四十トン。

アルジュベール向け造水プラント、三菱広島及び三原。一万五千トンと二万五千トン級バージにモジュール四千トンと四千三百トン搭載し、十六航海。最大は千六百六十トン。

東新潟火力発電所向け排ガスボイラ、三菱長崎。スニモスエースにモジュール四千百トン搭載し、三航海。最大は八百三十トン。

ラビー向け発電プラント。三菱長崎。スニモスエースにモジュール五千トン搭載し、四航海。最大は二千百トン。

アルジュベール向けエチレンプラント。バブコック日立。スニモスキングにモジュール四千八百トン搭載し、一航海。各千六百トン

(三) スライドオン方式

昭四九 新日鉄ひびき灘で阿賀野向けジャケット二千百トンをあがのに引き込んだ。

昭五六 日本鋼管津でノースランキン向けジャケット二万二千トンの一部六千トンを陸側へ引き込んだ。ヘーレマー一〇九への搭載は鋼管が施行した。

昭六一 新日鉄ひびき灘で北海向けジャケット千九百八十トンを目立のまま二基をスニモスエースに引き込んだ。

(四) フロートオン方式

昭五一 東京港十三号地で一万五千トンバージ、フェデラルを着底させ、第二国栄丸、クレインバージ、アンカーボート及びタグボート二隻を積み込み水切りした。

昭五六 三井玉野沖で前記フェデラルを着底させ、ドリリングプラントフォーム八千七百二十トン積み込み水切りした。

(五) 追記

これらの船積み作業は、無事に遂行されたが、その前後の段階では次のようなトラブルがあった。

昭五三 デッキバージにクレーン船で搭載した洋上居室は、その構造自体が外洋で受ける動揺条件に対して不十分であると検査官から指摘

を受けた。このため居室上部の動きを制限するための支柱をその周囲に追加した。

昭五五 ドーリートレーラーを西独から購入した。来日した技術指導員が長崎で調整中車輪の間に挟まれ、大事故になった。

昭五五 メジナ向け第二次航でのボイラー一千三百四十トンのロールオンを行っている時予定の潮位に上昇せず、むしろ下降気味になり、バラスト調整が追いつかない状態になった。長崎ではあびき現象と称し低気圧の中心が近くを通り過ぎる時、潮位が異状に下がることがあるそうである。丁度これに遭遇したことになる。短時間で回復したので事なきを得たが、予想していなかっただけに非常に驚いた。

昭五六 フェデラルには上甲板に一部木甲板が張ってあった。ドリリングプラットフォームの受け台をこの上に釘づけした。沈下したら木甲板ごと浮かび上がってしまった。木甲板をすべてはがし、受け台としての角材を甲板に溶接した平鋼で強固に釘づけし直したが、始めの考えが甘かったと反省している。

備考

船名の下()内のトン数は載貨重量を示している。なお昭和六十一年までの記録によって記述したものである。

青い空、青い海

空海のみちウオーク

菅沼 伸之(高2)

私は、(脚)日本歩け歩け協会および朝日新聞大阪本社主催による「青い空、青い海、空海のみちウオーク」に参加した。折々の自然に明るく映える四国路の山野を自分の足(一部バス利用)で一巡し、このほど結願したので、高野山奥の院へ、その報告とお礼のお詣りをすませて一区切りをつけることができた。自分でも何故かよく解らないが、なんとなく気が充実してきたような感じがして、喜びにひたっている。

四国は、千二百年の昔、人間として限りなく優れた弘法大師空海が生まれ、育ち、そして修業した道場である。現在は、長距離自然歩道「四国のみち」が四国を結び、歴史と文化のウォーキングフィールドを形成している。私が参加した会は、その昔、空海が修業のため歩かれた八十八か所の霊場をチェックポイントとして、これらをつなぐ「みち」を自分の足で歩き、その遺徳を偲ぼうというものである。一周千四百余^{キロ}のうち、現在も残っているへんろ道を中心に延三百^{キロ}弱を歩いて、自然に親しみ、人に親しみ、体力づくりもして歩く文化の興隆をも目指している。自然がいっぱいの山野と霊場をめぐり、見る、観る、聞く、聴く、話合う、考える、悟る、萬物に感謝する……ということ、昔も今も変わらぬ人間修業の原点であり、理くつ抜きにすばらしいことである。

私は、昨春会社を定年退職して自由の身になったのを機会に発心、六月にまず讃岐コース二三か寺を巡って、よし、全部を回ろう、と決意したが、八月末に脳梗塞の発作に襲われてしまった。幸い軽症ですんだ

が、体力が大幅にダウンしてしまい、自分の足で回ることはもう絶望かと観念した。しかし、気をとり直し、リハビリに精進し、若干体力も回復したので、この三月、主催者に事情を説明して万一の場合の救援方をお願いして、阿波コースに挑戦した。幸いに、これというトラブルも起きず、いろいろとアドバイスをいただいただけで、なんとか完歩することができた。これに意を強くして、四月の土佐コース、五月の伊予コースとつづいて参加、体力的にはきつかったが、なんとか独力で完歩することができた。

運営責任者は「この会は、大師信仰の篤い方には、各札所での本尊、大師堂における動経(おつとめ)が一唱しかできない、ウォーキング愛好者には、途中のスピードが遅く、札所で動経を待つのが長過ぎる」といっているが、参加者はみなそこに満足しているようである。歩くことによる健康増進、見知らぬ人との出会い等々、現世利益は充分期待できるようである。最近のへんろは九九%が車利用であり、歩いて回る者はごく少ない。しかし、歩くことはすばらしい。大へん疲れるが、いろ／＼と発見もある。まさに同行二人を裏切ることができるのである。

この会を継続して欲しいという希望者が多く、来年以降も続けようという方向づけがなされている。参加の条件は、一日二〇^{キロ}以上歩けること(以外には特にない)。歩行速度は時速に換算して平地で四^{キロ}五^{キロ}、山地で二^{キロ}くらい、普通の脚力があれば対応可能である。宿泊の半分は寺の宿坊利用であるが、その場合の早朝の動経に出るかどうかは個人の自由である。従来、三月から六月にかけて、毎月一回、前泊共五泊五日で、八^ツ九^ツ〇^ツを歩いて、一國(県)巡りをして全部を終了するが関心のある方は、二一報いたただければ説明申上げる。

—合掌—

母校同窓会開催!

新緑が目にしみる5月9日の第2日曜日母の日に川越高校同窓会が本校同窓会室にて60数名参加のもとに開催されました。中22回の本多先輩をはじめ高27回まで中・高半々の出席でした。在京初雁会からも本多昇、鈴木善男、佐々木忠一、山崎豊弘、増島龍二、堀口武夫、岡村了一、田中隆、矢部敬一郎、岡田良平、日出間哲郎、橋本日出松、笹崎能輝の13名の各氏が出席されました。役員改選では佐々木会長に変わって新たに高1回の渋谷 健氏(前川越高校校長)が選任されました。又、増島氏に変わって田中隆氏が副会長に就任しました。

最近、坂戸、志木に初雁会が結成されました。特に志木初雁会ではこの日の総会に合せて朝8時に志木駅を歩いて出発、井下田会長以下10数名の皆様が元気に会場に到着し大きな拍手に迎えられました。各地で初雁会結成の機運があるようです。伝統ある我が在京初雁会も新会員増強を目指し、40周年に向けてガンバリましょう。尚、毎年同窓会の日時は母校に帰ると言うことから5月の第2日曜の母の日に決まっています。母校も6年有余でめでたく百周年を迎えるとのこととす。

夕べの会開催ご案内

6月の夕べの会は「いも」研究家として著名な井上浩氏をお招きして左記のように開催いたします。

川越といえど「いも」と古くから庶民に愛され親しまれてきた食べ物ですが、知られざるもの魅力について興味あるお話が聞けるものと楽しみにしています。お誘い合せの上ご出席下さるようご案内申しあげます。

記

日時 6月22日(火)午後6時から
場所 神田・神保町・学士会館
講師 井上 浩(川越いも博物館館長)
参加費 五千元(同伴者二千元)

会員消息

母校同窓会総会終了後、当会創立時から貢献され、ご指導いただいた浅海倭夫(中21回)氏を同氏の甥に当たる柴田祐孝氏(高2)のご案内で市内宮下町の自宅に訪問、しばし歓談することができました。

昨年六ヶ月余の入院治療をされたとのことでしたが、今はすっかりお元気になられ、広い庭の手入れ、菜園での野菜づくりを楽しまれてお

りました。

また体調を崩され治療中の当会幹事松下雄一(中29回)氏も治療に成功され、お元気になられた由、直接電話いただきました。近いうちにピルゼンでお会いできそうです。(矢部)

40周年記念行事今秋に開催!

11月に予定されています在京初雁会40周年記念事業についてご意見、ご提案などございましたらとどしどし事務局までご連絡ください。

準備委員は増島隆二、田中 隆、矢部敬一郎、菅沼伸之、岡田良平の5氏です。

秋季散策会にご参加下さい

本年度は日高初雁会の企画による高麗郷の史跡と自然探訪です。巾着田には最近、水車小屋や万葉歌碑が建てられたそうで、様変わりした高麗郷散策が楽しめることと存じます。奮ってご参加ください。

平成5年度秋季散策会

日時 平成5年10月3日(日)
場所 高麗郷
コース 高麗駅一巾着田一かわせみ街道一
聖天院一高麗神社(昼食)
懇親会 高麗神社参集殿

詳細は後日連絡いたします。



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 田中隆

1994年 (平成6年)
 新春号 第56号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎(企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田 良平(広報)
 〒157 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅 ☎1815
 事務局
 菅沼 伸之(財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

明けましておめでとございます

会長 田中 隆

平成6年は戌年、愛される(愛犬)、忠実である(忠犬)という良い意味での明るい年であることを願っている。先日、或医学雑誌社から「全国の愛犬ドクターの写真集を計画したところ、或先生からの推薦があり、先生の愛犬を取材したい」との申出があった。簡単に考えて応じたところ、愛犬物語と題して全国各地8人のドクターの中選ばれ、しかも雑誌の

正月号第一頁に掲載されてしまった。

犬を愛することは人類始まって以来続いており、その信頼関係は忠犬ハチ公を例にとるまでもないことで、また愛犬家に悪い人はいない等々悪い話はない。

わが在京初雁会でも多くの愛犬家が居るはず、その内一夜の話題にしたいと思っている。

成年の年頭に於いて一言述べさせていだいた。今年三月に40周年記念会を計画しました、皆様の積極的なご参加を期待しております。

目次

会長挨拶	田中 隆
サツマイモの文化史	井上 浩
コミュニケーションひろば	
高麗の里をのんびり 散策会	
思い出のスコアカード	矢部義一
母校だより	
スナップ写真	
例会・夕べの会他	

12 11 10 8 7 5 2 1

在京初雁会創立40周年記念

夕べの会 ご案内

日時 3月22日(火) 午後6時
 場所 東京・神田 学士会館
 (詳細は後日ご連絡いたします)

川越中心、サツマイモの文化史

井上 浩(高2)

(サツマイモ資料館館長)

(6月22日・在京初雁会タペの会の講演より)

一、世界唯一のサツマイモ資料館

川越に和風のサツマイモ料理専門店「いも膳」がある。

川越はよく「イモの町」と言われるが、サツマイモ料理の専門店はなぜか昔からなかった。それを残念なこととした川越っ子の神山正久氏が一九八二年(昭和五十七年)に開いたまだ若い店だが順調に発展、早くも川越にはなくてはならない店の一つになっている。

その神山社長がサツマイモ文化高揚のため、一九八九年(平成元年)に「いも膳」のまん前に建てたのがサツマイモ資料館。

木造二階建て、一二〇平方メートルというささやかなものながら、この種のものとしては世界唯一というのが自慢。

よく「市立?」とか「第三セクター?」と聞かれるが民営。

十時―十七時。火曜休館。入館無料。

二、原産地は熱帯アメリカ

当館には毎日全国各地から百人前後の人が来てくれる。大部分は「いも膳」に食事に来たついでという人たちだが、サツマイモの原産地を聞いてみると面白い。

「鹿児島」が一番多い。違うと言うと「沖縄」とか

「中国」になる。

「実はメキシコからコロンビア、ベネズエラへかけての熱帯アメリカの広い地域です」と言うと、たいていの人が「へーえ、そんなに遠くだったの?」とびっくりする。

コロンブスが新大陸を発見したのは一四九二年だった。去年は一九九二年(平成四年)。それから五百年になるというので、世界各地で様々な記念行事が催された。

そのコロンブス以降、新大陸原産の作物が世界中に伝わった。

トウモロコシ、サツマイモ、ジャガイモ、トマト、ピーマン、トウガラシ、インゲン、タバコなどなどだ。

三、プエブラのカモテ

熱帯アメリカはサツマイモの原産地とは言うものの、本気で栽培している所は少ない。

ちよつとでも作ってあればいい方で、それも農家の庭の片隅に作ることもなく作っている「捨て作り」が多い。

ところがメキシコ市の南にあるプエブラ市だけは例外だ。「プエブラのイモ野郎」と言われるほどサツマイモで有名な所で、広大なイモ畑を持ち本気で作っている。

昨夏ここを訪れた川越の矢島隆夫氏によると、プエブラ市の入り口にはイモ菓子入りの小箱を抱えた売り子が大勢たむろっていて、乗用車やバスが来るとワァーツと取り囲み、「カモテ」、「カモテ」と売りつける。

カモテとはサツマイモのこと。とにかくそれを買わないことには町の中へ入れないという。まさにイモによる洗礼だ。

そしてやっとな町の中に入ってみると、大通りに面して堂々たる構えのイモ菓子店「カモテリア」が十数軒も並んでいる所があったという。

埼玉県とメキシコは姉妹関係を結んでいる。プエブラはイモの町だし、川越もそうだ。そこで矢島氏があるカモテリアの主人にそのことを言い、「両市が姉妹都市になるのはどうか?」と聞くと、「大賛成だ、ぜひそれで行こう」と大喜びだったという。

四、フィリピンのサツマイモ

新大陸のサツマイモはスペインなどの南欧へ入ったが気候が向いていなかったからであろう。特にどうということはなく、さらにアフリカやアジアへと運ばれた。

東南アジアのサツマイモで目立ったのはスペインの植民地だったフィリピンの島々だった。ここにはスペイン船が本国から来ただけでなく、メキシコのアカプルコとルソン島のマニラを直接結ぶ太平洋航路があったのでサツマイモの伝来も普及も早かった。フィリピンの人たちは好んで米を食べるが水田が少ない山岳地方や平地でも台風の通路に当たっているような所では今でもサツマイモを食べている。

まただれでもその葉や葉柄を野菜として好んで食べるので、市場にもよく出ている。

ただフィリピンに限らず、熱帯、亜熱帯ではアリモドキゾウムシという害虫が猛威を振って、サツマイモ作りは難かしいものになっている。

日本でも種子島以南にはアリモドキソウムシが多く、最近の沖縄では九州などからサツマイモを買っているような状態だ。

五、陳世元の「金薯伝習録」

現在の世界のサツマイモの総生産量は一億二千万トンほどだが、中国はその九〇パーセント近くを生産している。「サツマイモ天国」だ（日本はたったの一パーセント余）。

その中国への伝来コースはインドシナ半島から雲南地方へ入ったものとか、フィリピン島の島々から福建地方に入ったものなどが知られている。

明の万暦の頃のこと、福建の商人、陳振龍はフィリピンのルソン島でサツマイモを知り、作り方を教わった。そして苗を故郷、福建に持ち帰り普及に当たった。

万暦二十二年（一五九四）の同地は大飢饉だった。この時、巡撫、金学曾はサツマイモの作り方を奨励したので、人々は感謝し、それを「金薯」と称した。こうした史実から陳振龍がサツマイモを福建へ持ち込んだのは万暦二十二年以前だったということになる。

振龍だけでなく陳家の子孫は金薯の普及に熱心で代々商用を兼ねて普及活動に当り、中国の内陸部にまで広めた。

その実績は振龍の子孫、陳世元の「金薯伝習録」に詳しい。同書の初刻は一七六八年、清の乾隆三十三年だった。

六、福州の琉球館

江戸時代の鎖国時代にも、琉球から中国への進貢貿易は続いていた。進貢船は福建省の福州に入ったが、そこには「琉球館」があり進貢貿易の拠点になっていた。

そんな関係から福建へ入ったばかりの珍らしい作物、サツマイモがすぐ琉球へ伝わった。

伝えたのは「野口総管」。「野口」は沖縄本島の現北谷町野国。「総管」は進貢船の事務長のこと。つまり野口出身の進貢船の事務長が一六〇五年にサツマイモを持ち帰ったことがはっきりしている。

実名は伝わっていないがその意義は大きく、記念切手まで出ている。本土復帰前の一九五五年（昭和三十年）に琉球郵便が出した四円切手で、「野国総管 甘諸伝来三百五十年記念 一六〇五—一九五五」とある。

わが国でサツマイモ関係の切手といえばこれだけのようだ。

七、コックスさんのイモ畑

文献上、九州で最初にサツマイモを試作したのは平戸のイギリス商館長、リチャード・コックスだった。その日記によると一六一五年、琉球産のイモを手、商館近くに畑を借りて試作している。

長崎県は一九六一年（昭和三十六年）、そこを史跡に指定、「日本最初の甘薯畑」として保存に当っている。

それを見て同県佐世保市で菓子製造販売をやっている草加屋では「コックスさんのイモ畑」なる商標を取り、その畑をイモ菓子シリーズで埋め尽くそうと工夫を重ねている。

八、南蛮渡りのサツマイモ料理「ヒカド」

九州へのサツマイモの伝来はスペイン船やポルトガル船、つまり南蛮船によるものもあったことが考えられる。それを推測させてくれるものの中に、今なお長崎県下で作られている郷土料理「ヒカド」がある。「ヒカド」とはポルトガル語でものをこまかく刻む意。なべに水をたっぷり入れ、こまかく刻んだ野菜と肉を入れて煮込む。

野菜はサツマイモ、ニンジン、ゴボウ、ダイコンなど。肉はもともとは牛肉や豚肉だったが日本では使えば嫌われたので、その味に一番近い魚を探し、

マグロやブリに変えたのだという。

この料理の特色は、生のサツマイモをすりおろし、野菜が煮えたらパッと入れてトロミをつけること。そして味付けはしょう油。

簡単に作れるし、体にも良く、味も良い。「いも膳」でも看板料理の「いも懐石」の汁ものとして「ヒカド」を出しているが、客の評判は上々だ。

埼玉県で最初に市になったのは城下町、川越だった。一九二二年（大正十一年）のことで、当時の「国民新聞」は「芋の川越町がいよいよ市になる。埼玉県では初めての市」と全国に報じた。

「城下町」ではなく「芋の町」としているところが面白い。昨一九九二年（平成四年）はそれから七十年になるというので様々な記念行事が行われた。小中学生への記念学校給食もその一つだったが、その献立は「ヒカド」だった。

九、徐光啓の「甘藷十三勝」

わが国の文化は昔から中国の影響を強く受けてきたが、農学も同じだった。

日本最初の本格的な農書といえ一六九七年（元禄十年）刊の「農業全書」だが、これも江戸時代の初め、一六三七年（寛永十一年）に出た徐光啓の「農政全書」の影響を強く受けている。

徐光啓は同書で中国の農書の集大成を図っただけでなく、当時中国に入ってきたばかりの作物でも見込みのありそうなものは積極的に取り上げている。サツマイモもその一つで、利点を十三も数えあげ「甘藷十三勝」としてその普及を願っている。

単位面積当りの収量が非常に多い。風水害や虫害凶年に強い。あまくてうまい。酒にもなるなどなどだ。

宮崎安貞が「農業全書」を出した頃は、日本ではサツマイモはまだ珍しかった。それでもその将来性に期待「甘藷十三勝」をそのまま載せている。

またそれから四十年近くも後の一七三五年(享保二十年)に、青木昆陽が幕府に献じた「蕃薯考」にも、「甘藷十三勝」がそのまま入っている。

つまり新来の作物、サツマイモの効用を説き、普及を図ろうとする時「甘藷十三勝」ほど便利なものはなかったのだ。

川越にはサツマイモをこよなく愛する有志の会「川越いも友の会」(一九八四年発足、ペーリ・ドゥエル会長、百人)がある。遊び心でさまざまなことをしてきたが、一九八七年十月十三日を「サツマイモの日」とし、記念事業を始めたのもその一つだった。

その十三日についてよくこう言われる。「十三日は『栗(九里)より(四里)うまい十三里』から来てるんでしょ?」

記念日はできるだけ多くの人に覚えてもらいたいので、それでもいいのだが本当はもっと深い所、つまり徐光啓の「甘藷十三勝」から来ている。

十、青木昆陽と目黒不動

コロンブスの新大陸発見からサツマイモが九州に入るまで百年かかった。ところが九州から関東に入るまでに、さらに百年もかかっている。

サツマイモはタフで、これまで水田にも畑にもならなかった所ででもよくできた。海岸の砂浜、やせた火山灰地、山の急傾斜面などがそれだった。

ただ熱帯原産の作物だけに寒気には情ないほど弱かった。関東では享保期に入るとサツマイモの試作が各地で始まるが、冬が長く厳しい所だけに難しく、失敗の連続だった。

そんな手詰まり状態の時に現われたのが青木昆陽だった。「蕃薯考」を幕府に献じた昆陽は江戸でのサツマイモの試作を命じられ、小石川養生所とその菜園の地にイモ畑を作って試作、一度で成功してみせている。享保二〇年(一七三五年)のことだった。

だがやってみようまいかなかったのに、昆陽がなせ一度で成功したのは分らない部分が多い。ただ幕府はそれに力を得、全国でのイモ作りを奨励するようになる。

サツマイモを将軍お声かかりの推奨作物にした昆陽の功績は大きい。

東京大田区目黒に目黒不動尊がある。「甘藷先生」青木昆陽の墓があることから、十月二十八日は「甘藷祭」となっている。広い境内の一角に生イモやイモ菓子、イモ料理などイモ関係のものを扱う露店だけの特別区が設けられ、イモファンで終日こった返す。

十一、川越イモはなんで有名なの?

昆陽後、関東のイモ作りはすぐ盛んになったように思われがちだが、やはりむずかしく試行錯誤を繰り返していた。

そんな事情もあったからであろう、江戸に初めて焼芋屋が現われたのは遅く、昆陽から六〇年近くも後の寛政五年(一七九三年)のことだった。

あまくて香りがいい、安くてうまい焼き芋は冬のスナックとして江戸っ子に受けたたちまち焼き芋屋のない町はないほどになった。

それとともに江戸周辺の村々の余剰甘藷が江戸に向かいだした。

焼き芋はイモを蒸し焼きにするだけのものだから、イモそのものの優劣がものを言う。江戸っ子の評価によれば「川越イモ」と「千葉イモ」がダントツだった。

ただ諸国名物番付の類をみるとサツマイモは川越で、千葉はない。「江戸一なれば日本一」で、天保期(一八三〇—一八四四)の川越イモはすでに日本一のイモになっていた。

サツマイモはもともと救荒作物として普及した。その後米麦を浮かすための自給作物になったが長い

間そのままだった。ところが武蔵野台地上の川越藩領のイモは違う。最初から江戸向けの売るイモとして、商品作物として細心の注意を払いながら作る特殊なイモだった。

十二、川越はまだ先進地

明治維新後、川越イモは全国に出回るようになり一層有名になった。川越の甘藷農家、赤沢仁兵衛は明治期に最良の川越イモの増収方法を研究、その技術を「赤沢仁兵衛実験甘藷栽培法」(明治四十三年)として公刊した。

それは当時のわが国のサツマイモ栽培技術の最高水準を示すもので、農文協の「明治農書全集第四巻畑作」にも収録されている。

ただこうした人物は偶然に現われるものではない。それを生むだけの基盤があったことで、川越には早くから他所には見られないイモ作り文化の蓄積があった。

ところが太平洋戦争後は事情が急変した。一九六〇年代より経済原則によってイモ畑が激減、最近では一枚のイモ畑を見つかるのも難しいほど少なくなっている。

それにもかかわらず川越の町の中はサツマイモで燃えに燃えている。イモ菓子やイモ料理を売る店が軒を並べ、新商品の開発にしのぎを削っている。

川越がイモそのものの生産地から、イモを買って加工する加工地への転換に成功したからで、イモの町のイメージはかえって高まってきた。

そのせいであろう、サツマイモになんらかの関心がある人の頭にまず浮かぶのは川越のようだ。

サツマイモ資料館に勤めているとそれがよく分かる。全国のさまざまな人から毎日さまざまな問い合わせがくるからだ。

それが続き、応えられるうちが華と、「いもびたり」の毎日を楽しんでいる。(一九九三・六・二二)

会員

コンクリートゲームのつぼ

11月25日第三回夕べの会の
返信消息欄の記事を掲載さ
せていただきました。
(順不同・敬称略)

矢部義一(中23)

最近腰痛を感じるようになったので骨盤矯正による治療所に通って居ります。老骨にはチトキツイ療法ですが除々によくなってきています。実際は台になった積りで治ったら皆さんに報告します。(腰痛と云っても日常生活にはなんら支障ない程度です)

鈴木善男(中28)

村山党の史跡を歩いて廻りました。

○平頼任武蔵国国司、任期後京都に帰らず村山氏と名乗った。山口に城をかまい山口氏となる。

○宮寺氏館跡(入間市)頼任の二男で宮寺五郎。西勝院

○金子十郎(入間市木蓮寺、瑞泉院)

源頼朝に仕え戦功をあげ幡磨国の地頭職、畠山重能長女

○南波田氏 富士見市

松下雄一(中29)

病後のアフターケアに努めており、安定したようですが、寒さに向かうので、一抹の不安があります。暇にまかせて、八十年の回顧を書き始めましたが、裏づけ資料を求めのに苦労し、中々はかどりませんが、頭の体操になり、温故知新の一助と思いつつ行きます。

山崎豊弘(中35)

御陰様で元気でおります。先般川高同窓会主催の秋の散策会に参加し、好天に恵まれ、その上高麗地方の歴史の話を伺い大変勉強になりました。来年は坂戸の方とかを企画される由今から楽しみに致しております。又在京初雁会の早川さんのマジックも面白く敬服しております。同窓会がたのしくなりました。

荻野文夫(中36)

いつもご連絡いただき、深謝いたします。

阿部親興(中38)

ご案内有難うございます。体調が不安定の為、お返事が遅れ申し訳ありません。ご容赦下さい。

野上完一(中30)

依然心臓の調子悪く、切角ですが欠席いたします。御盛会をお祈りいたします。

新井正尊(中17)

川中十七回卒九十二才、健全なるが歩行困難、皆様によろしく。

佐々木光一(中32)

十、十一月中は毎木曜は夜七時より九時まで東久留米市生涯教育「成人大学」の外人クラス

に出講して居ります。各位によろしく。今年の夏は英国に赴きケブリッジ大学の古いカレッジ(学寮)の客員宿舎に滞在勉強いたしました。ケンブリッジもオックスフォードと同じくチューター制で所謂教室はありません。一人の教授に一人〜八人位まで学生がきます。全く日本とアメリカと違っています。

島田嘉夫(中43)

御無沙汰しております。晴天の日は近くのグリーンプラザテニス倶楽部でテニスを楽しんでいます。会友の皆様によろしくお伝え下さい。

岡村了一(中43)

当日別途の会議あるため

橋本次郎(中35)

御案内を頂き有難うございました。小生まだ体調がよくなく失礼致します。皆様に宜しく。

岩泉惟人(中35)

何時も大変お世話に預り有難うございます。生憎当日所用あり失礼させて頂きます。皆様に宜しくご風声願います。初雁会にお世話になっておりました兄連人も十一月七回忌を迎えることとなりました。それにつけても川越のことどもが思いだされて参ります。皆様もご健勝の程。

岩崎靖夫(中32)

漸やく晴天が続き秋らしくなりました。いつもご案内をいただき感謝しております。相変らず体調が整わず欠席せざるを得ません。何とぞ悪しからずご了承下さい。以上の次第ですので皆様によろしくご伝声下さい。

松本博一（中37）

御案内有難うございました。都合悪く出席できませんが、ご出席の皆様には宜しくお伝え下さい。

細島博文（中35）

何時も大変お世話になりました。都合悪く御礼申し上げます。折角のお招き、誠に残念ですが当日は都合が悪く欠席させて頂きます。

橋本国治（中26）

体調不良

浅海倭史（中21）

脳コーソク、時々足がフラつきませんが空元気
で意張っています。皆様によろしく。

砂田太三（中23）

肩痛膝痛と悩んで居ります。老人病でしょうか。残念乍ら欠席致します。皆さんに何卒よろしく願います。

安藤恒男（中24）

寒い時の夜間外出は差控えていますので残念ながら欠席いたします。体調はよく毎日五千歩をノルマプラスαの歩行を実行健康保持に努めています。御盛会を祈念して

浅野誠一（中24）

高齢で体調不良（不整脈頻発）のため欠席いたします。

船津鴻之助（中24）

八十四才九ヶ月。元気で現役鑑定士として働いています。但し腰痛で歩行に若干支障あり。

落合義作（中28）

小田急線が混んで夜の外出が臆空になりました。元気です。ゴルフ其他で日々楽しく暮して居ります。皆様によろしく。

野沢勝三郎（中30）

残念ながら欠席致します。年を重ねることに夜の会合には出席しなくなってきました。役員の皆様には何時もお世話になって居ります。よろしくお伝え下さい。

坂田順一（中38）

十ヶ月ぶりに退院致しました。皆様によろしくお伝え下さい。

間々田重信（中39）

拝復 夕べの会の案内状頂戴しました。他の会、先約があり、今回も残念乍ら欠席致します。お参加の皆様によろしくご鳳声下さい。

平野寿作（中40）

元気です。

清水順一（中48）

仕事は息子の方に任せただけですが、世界の国々に遊びも兼ねて建物の見学をしております。昨日イタリヤから帰国しました。二週間地方の都市の古い建物を見て参りました。二月か四月にトルコに行く積もりです。

岡部延夫（高2）

毎々お世話になります。

いつも会の運営にご苦心されておられることと存じます。今後共よろしく願います。

柴崎育久（高2）

幹事御苦労様です。

今年10月15日佐久間旅館に泊って川越祭を楽しみました。考えてみると戦中戦後の通学ではあのような立派な山車をみるすべもなかったわけですね。

日出間哲郎（高2）

秋の散策会どうもありがとうございました。横田氏の貫禄にはあっと言われました。私もかくありたいと思ひ反省しきり。さて当日冬期賞与金闘争、団交がなければ出席致したく願います。

橋本日出松（高2）

二日の朝、またおかしくなり自由に動けません。腰から脚がマヒしていて情けない限りです。まだ十日程ありますので、出席できるよう心がけます。二、三日前に電話します。血圧が高く、眠れない夜が多く、私もオシマイかと心細い限りです。

高橋克治（高2）

前回は、失礼致しました。転居等により通知が遅れたせいか？最初の予定の日に行つて了い、流会、残念至極でした。今回は出席できそうですので、よろしくお願い致します。ご盛会を祈念致します。

高橋明吉（高12）

いつも御高配頂き感謝しております。近々、時間を取りピルゼンに出向きたいと思っております。皆様の御健康と御多幸を祈念しております。

野口准史 (高22)

不況感が日増しに強くなって行く感じがします。皆様御健勝のことと思いますが、小学生時間の都合がつかず欠席させていただきます。お祈り致します。

石川正樹 (高25)

当日は下田の裁判所へ出張のため欠席させていただきます。

長島恒雄 (高3)

平常丈夫なのだけが取柄と書いていましたが、先日ダウン暫く入院しておりました。暫く静養したいと思っておりますので、今回は欠席させていただきます。出席の皆様方に宜しくお伝え下さい。

松井頼敏 (高4)

今回は出席できると思っていたのですが、「英検」準一級の面接担当で28日の試験の打合せが同時刻になってしまいました。毎度の欠席心苦しく思っております。

鈴木勇 (高7)

毎回、欠席で申し訳ありません。業務の関係で、夜の会合が多く当会の開催日とバッティングのケースがほとんどです。ご参加の皆様のご健勝をお祈り致します。

内田紀成 (高2)

父(内田静馬氏)が突発性難聴で耳がきこえなくなり、入院中なので欠席させていただきます。他は健康なので心配はありません。御健闘祈ります。

岩崎美郷 (高2)

前略 折角ご通知頂きましたが、生憎都合悪く欠席致します。

横溝高至 (高21)

いつもたいへんお世話になっております。高21回卒三年C組で、来年の二月一日、二日、温泉で一泊し、ゴルフをする会をすることになりました。

高麗の里をのんびり

本校散策会

十月三日、朝の天気はよい。高麗駅に降りるとすでに大勢集まっている。あいさつもそこそこに第一の目的地きんちやく田を目ざして出発する。総勢三〇名ほど、それぞれに顔見知りとあって、あちこちに話の花が咲く。裏道とあって車の心配もなく、のんびり歩くことができる。ほどなく国道二九九号線にいたり、しばらくは車に緊張する。高麗川を渡り、右折してきんちやく田の入口に至る。すでに川越組が待ちかねている。合流してそのまま、奥武蔵自然歩道を南下する。

途中に昔なつかしい水車小屋があり、のどかに回っている。さらに行くと、萬葉の歌碑があり、展望台がある。三々五々登って四方を眺める。ここで事務局があいさつをし全員の点呼をとる。総勢八〇名ほどが並んで出発する。自然

歩道から分れ、高麗川の堤防を歩く。彼岸花の大集落が続く、赤一色といいたところだが、すでに十日ほど遅い。五分ほどで、そこを抜け、第二の目的地・聖天院を目ざす。

たまに車を通る程度ののどかな山村の道を知った者同士がおしゃべりしながらのんびり歩く。十分ほどで聖天院の参道に立つ。山門をくぐり、本堂に詣でる。住職の横田井明師が私たちの揃うのを待って、高麗郷の生いたち、聖天院のいわれ等々について説明する。聖天院というのは本堂の左端にあり、朝鮮の神さまだそう。本堂正面に十六弁の菊の御紋章があるのできいてみたが、昔からあるもので別に変ったものではないという。広い境内には、いろいろ由緒あるものが散在している。帰りに高麗王・若光の墓に詣でてから、高麗神社へ向かう。

歩くこと五分ほどで、神社につく。参詣後裏へ周り、今は市の文化財になっている葺ぶきの住居(旧宮司邸)を見学する。宮司夫人が、かつての住人としての立場からいろいろと説明する。広さ約四〇坪ほどだが、夏はともかく、冬はたいへん厳しい住環境であると思った。

このあと、神社の会館に上り、澁谷同窓会長、駒野日高同窓会長、高麗神社宮司からご挨拶をいただき、懇談に移る。みな積る話に時間のたつのを忘れて話しあう。席上、来年の散策会は坂戸地区ということが決まった。

よかった天気もいつしか曇り、いまにも降出さんばかり、川越方面、飯能方面その他に分れ、再会を約して、それぞれ宴を辞した。(菅沼)

思い出の Score Card

(日米開戦当日のゴルフ記録)

Dec. 8, 1993 矢部 義一

私の手許に古びた一枚のゴルフカードが大切に保管されている。EL CAMINO GOLF COURSE, San Bruno California (別紙コピー参照)日付Dec. 7, 1916(昭和16)(このコースは今は無)日本海軍の真珠湾猛攻の最中、遙か東の米本土カリフォルニア州の田舎ゴルフコースで何も知らずにワンラウンドを楽しんだときの記録である。

プレーヤーは三井物産サンフランシスコ出張所の店長代理中尾幸雄、雑貨課長香川卓一、ロスアンジェルス駐在員飯野と船舶部出張員矢部義一の4人。

このスコアカードは、この日の夕刻支店長社宅(California St, Sanfrancisco)今井精三支店長と中尾、香川、矢部の3人が米国FBIに逮捕されたとき私のポケットから押収され、他の私物と一緒にワシントンの関係当局に送られ検閲の上1946年(昭21)迄保管されておったようでその年、漸やく私の手許に返還された。戦事中の米国内抑留邦人から押収した本人の私物(personal effects)は戦後に本人に返還されることになり長浦(横須賀港の西隣)の米軍駐屯所で鎌倉の鶴岡八幡宮の小さなお守り札2個と共に受取ったが他の目星しい携帯品(モバード腕時計、コダック8ミリカメラ、財布、其他)は何一つ返還されなかった。(我我を移民局へ連行したFBI官吏がくすねたものと推定される)このスコアカードに関連する1946年12月7日、日曜(現地時間)の早朝ゴルフワンラウンド以後の思いがけない出来事は半世紀以上経った今でも猶ハッキリと私の脳裡に残っている。序でに記してみよう。

昭和7年の日本をバックとする満州新政府の樹立、続いて昭和12年に起った日支事変拡大と日独伊三国関係緊密化等は米国内閣を強く刺激し、その対日政策は悪化の途を辿った。

昭和14年7月26日 日米通商航海条約の破棄通告

昭和15年12月10日 鉄、鉄製品の対日禁輸

昭和16年7月25日 対日資産凍結

昭和16年8月1日 対日石油類禁輸

パナマ運河の対日封鎖

斯る状況下、在米日本商社の米国内商活動は停止状態に陥り、店舗閉鎖、社員は日本に総引揚げに決定、三井物産サンフランシスコ、シアトル両店の社員は昭和16年12月14日ロスアンジェルス入港予定の竜田丸で帰国の本店指令を受けた。

サンフランシスコ店は今井精三店長、中尾幸雄代理、星野礼二会計、関喬一郎庶総、香川卓一雑貨、久場郁造金物各課長と矢部義一船舶部出張員の7名。

そのなかの中尾、香川、矢部の3名は離米1週間前の7日(日曜日)にお名残りゴルフをすることを申し合せた。これに既に閉鎖されたロスアンジェルス駐在員事務所の飯野氏が加わり当日早朝近郊San BrunoのEL CAMINOゴルフクラブに集合、快晴、静穏のなか1ラウンドを正午頃に完了、昼食後更にハーフラウンドを楽しむこととしてクラブハウス二階の食堂に入った。

食後、階下のWCに行った飯野氏が席に戻り下のバーに居る白人達が日本軍がパールハーバーを空襲していると騒いでいると云う。他の三人はそんなことがあるものか、ワシントンの日米交渉が行塞っているので酔っぱらいが日本人の飯野氏を見てからかったのであろうと言いつつ。暫くして階下からラジオ放送の高い声が流れてきた。現地からの実況放送のようで興奮したアナウンサーの早口の声である。

勿論ゴルフどころではなく一同急ぎ帰宅の途に就いた。香川と矢部はCalifornia St. のヤマトホテルに住んでいたが此処には直行せず同じStreetの上手に在る支店長社宅に今井支店長を訪ね緊急対応策を協議することにした。中尾氏は一旦下宿に戻り着換えた上これに合流した。一息入れて間もなく玄關にFBI官吏が現れ居合わせた3人共々移民局に連行され留置所に抑留されて了った。

その際身ぐるみ脱がされた上身につけていた物、携帯品など全部押収されたがそれらの終戦後の始末は冒頭記載の通り。 以上

U. S. G. A. Rules apply, with the exception of following local Rules:

No. 1—Out of Bounds: Line of stakes to right of first, ninth, fourteenth and fifteenth fairways, line of trees to right of second, third, fourth, seventh, eighth and tenth fairways, fence to right of sixteenth fairways. Also road behind fourth and fifth greens. Penalty distance only.

No. 2—Drain Ditch: Between the stakes to left of second and eighth fairways, ball may be lifted and dropped, not nearer the hole. No penalty.

No. 3—Barrancas: All barrancas are water hazards. Player may lift and improve lie where ball ender hazard, within two club lengths of hazard and nearer hole. Penalty one stroke.

No. 4—When ball is driven into barranca from tees numbers 11, 16, and 18 player may have option of re-teeing for third shot.

No. 5—Lost ball or ball out of bounds: Penalty distance only.

No. 6—A ball in or near any hedge protecting a tee must be played as it lies or the player may drop to either side, no nearer the hole, with penalty one stroke.

No. 7—Each player must provide himself with an individual set of clubs.

Week Days and Saturday A. M.	\$.50
Saturdays P. M., Sundays and Holidays	1.00
Any day after 4 P. M.	.50
Monthly Card (for week days and Saturday A. M.)	3.00
Students Monthly Card (week days only)	1.50
Monthly Fee, Single	3.50
Monthly Fee, Double	7.50
Monthly Fee, Family	9.50

25M-3-40

Replace the Turf

SCORE CARD

EL CAMINO
GOLF COURSE

San Bruno California

Member of
California State Golf Association
Northern Calif. Golf Association

Read the Rules and
Play the Rules

12

OBSERVE AND PLAY TO RULES					REPLACE DIVOTS																
NUMBER	YARDS	MEN'S PAR	LADIES' PAR	HANDICAP	中 飯 香 矢				NUMBER	YARDS	MEN'S PAR	LADIES' PAR	HANDICAP	中 飯 香 矢							
					SELF	PART-NER	OPP.	OPP.						SELF	PART-NER	OPP.	OPP.				
1			4	16	5	7	6	4	10	348	4	4	17	5	6	6	6				
2	367	4	4	10	6	6	7	5	11	360	4	4	(4)	7	8	(6)	6				
3	360	4	4	12	8	7	6	4	12	365	4	4	(1)	7	9	9	(4)				
4	315	4	4	8	7	7	7	5	13	183	3	3	15	5	1	(3)	4				
5	182	3	3	14	6	3	4	3	14	405	4	5	9	8	7	7	(6)				
6	452	5	5	(3)	8	7	(5)	6	15	492	5	5	6	9	8	7	7				
7	434	4	5	(2)	6	7	6	5	16	118	3	3	18	5	(4)	5	5				
8	410	5	5	(5)	6	7	8	5	17	487	5	5	7	8	7	7	7				
9	190	3	3	13	4	5	5	5	18	357	4	4	11	8	6	6	5				
OUT	3060	36	37		56	53	54	42	IN	3145	36	37		62	63	56	50				
TOTAL DISTANCE 6205. MEN'S PAR 72. LADIES' PAR 74.														SCORES				56	53	54	42
DATE <u>Dec. 7, 1941</u>														TOTALS				118	115	110	92
SIGN <u>矢部 義一</u>														HANDICAPS							
ATTEST _____														NET SCORES							
																		2	2	3	6

6 INCHES

母校だより

会員の皆様方へ

日頃 同窓会活動に多大のご支援を賜り感謝いたして居ります。

さて、本年五月の総会で佐々木前会長の後を受け、会長の要職にご推薦いただき、爾来五ヶ月ほど経過いたしました。もとより浅学非才にて、充分な、ご期待にそい得る活動が出来ず、会員の皆様に申し訳無く存じて居ります。しかし、何とかこれから精一杯努力をいたし、責任を果たしたく思いますので、一層のご支援をお願い申し上げます。

ところで、皆様方もご承知の通り、母校川越高校は明治三十三年（一八九九年）県下三番目の中学校として開校以来、早くも九十余年、来る平成十一年（一九九九年）には創立百年を迎える事になります。県下屈指の伝統校、進学校として地域社会の信頼を集めて参りましたことは、ご同慶にたえません。岡村元会長のお骨折りで同窓会名簿の発行を見ましたが、今度の百周年に際しましては、区切りの年でもあり、何か記念に残る事業を実施いたしたく思います。

実は、過日、学校・PT会・後援会そして同窓会の四団体代表が相集い、百周年記念準備委員会を開催し、実行委員会結成までの諸準備をはじめることになりました。意義ある記念事業にはどの様なものがよいか、その中で同窓会としてどう貢献したらよいか等々の意見を、次回に持ち寄って各団体の意見調整をはかりたいと思っております。つきましては、会員各位から数多くの建設的意見と、お知恵をいただきたいと思っております。又、各地区初雁会、各回同窓会等の機会を利用していただき、この趣旨の徹底をはかり、会員各位に關心を持っていただきたいと存じます。

百周年記念事業の成功の為、皆様方のより強力なご協力をお願い申し上げます。

平成五年十月

川越高校同窓会長 渋谷 健

同窓会役員

- 会長 渋谷 健 (中47・高1回)
- 副会長 田中 隆 (中45・46回) (在京)
- 市川 宗貞 (中27回) (飯能)
- 駒野 昇 (中37回) (日高)
- 清水 仁恵 (中40回) (入間)
- 高山 孝 (高7回) (坂戸)
- 井下 慶一郎 (中35回) (志木)
- 松本 博一 (中37回)
- 山根 豊 (中44回)
- 石山 豊 (中45・46回)
- 染谷 潔 (高5回)
- 中野 清 (高6回)

平成5年度大学合格状況

大学名	合格人数	現役人数	大学名	合格人数	現役人数
国立大学			私立大学		
東京大学	12	6	早稲田大学	191	41
京都大学	4	0	慶応義塾大学	84	21
大阪大学	21	6	同志社大学	162	35
名古屋大学	12	2	立教大学	99	14
北海道大学	29	13	中央大学	73	14
東北大学	12	4	法政大学	56	15
関東大学	13	5	法政大学	97	27
東京大学	13	7	法政大学	105	10
東京大学	13	1	法政大学	60	6
東京大学	12	5	法政大学	58	3
東京大学	7	6	法政大学	37	9
東京大学	6	2	法政大学	40	5
東京大学	6	1	法政大学	37	5
東京大学	6	1	法政大学	22	5

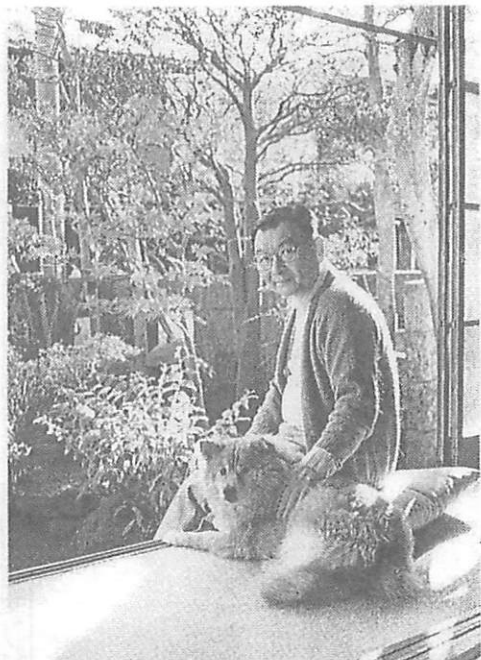
- 名誉会長 (校長) 鈴木 良栄
- 顧問 岡村 圭司 (中17回)
- 理事 坂田 了 (中43回)
- 理事 佐々木 忠一 (中32回)
- 理事 岩井 德十 (高9回)
- 理事 金剛 秀房 (高10回)
- 理事 馬場 弘 (高12回)
- 理事 伊藤 豊 (高2回)
- 理事 吉沢 義和 (高8回)
- 理事 梅沢 正寿 (中45・46回)
- 理事 鈴木 邦夫 (高6回)
- 理事 星野 誠 (高9回)
- 理事 吉田 矩康 (高13回)
- 理事 坂田 圭司 (中17回)
- 理事 岡村 了 (中43回)
- 理事 佐々木 忠一 (中32回)



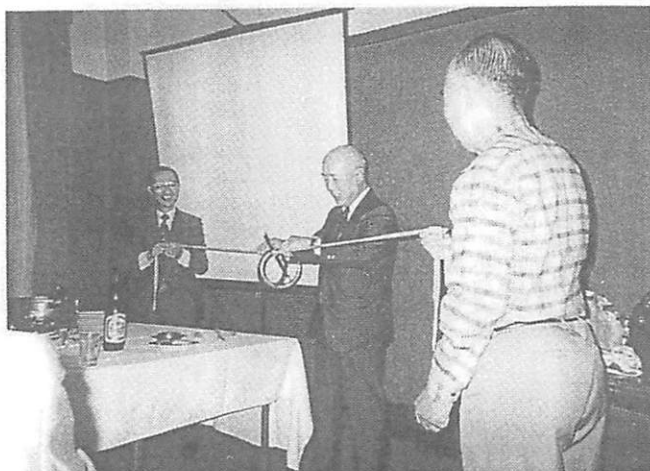
聖天院横田師を囲む高2の仲間達と田中会長 '93 散策会



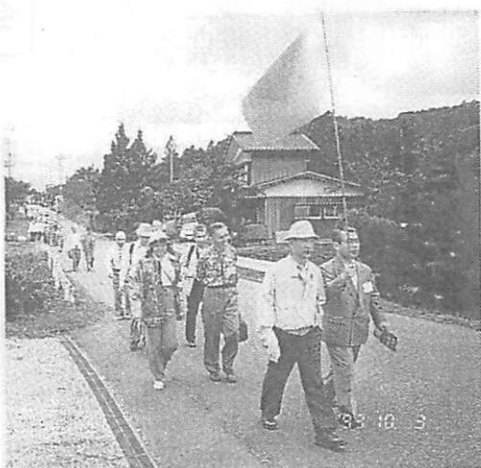
坂田氏宅を訪問 矢部、坂田夫妻、佐々木、田中の各氏 外に菅沼、岡田



愛犬エリーナと西陽を浴びながら縁側でくつろぐ
田中会長 (1頁参照)



↑早川氏のマジックと妙技にみとれる参会者↓ タベの会にて



風呂敷旗を先頭に秋の高麗郷を歩く
◎在京初雁会からは田中会長夫妻をはじめ
16名の参加がありました。

「タベの会・マジックシヨウ」
タベの会での早川岩男氏のマジックも
もうすっかり恒例になりました出席者
全員が大変楽しみにしています。毎回
一つ、二つと種明かしをしてくれるの
ですが、なかなか覚えられません。
今度はどんなマジックを見せてくれる
のか、興味津々です。皆様も是非タベ
の会に参加して一緒にお楽しみ下さい。



ピルゼンの例会にて 左より山崎、増島、矢部、鈴木の各氏。

夕べの会

第一回夕べの会 (平成五年)
六月二十二日(火) 六時 学士会館

「サツマイモの文化史」
井上 浩(高2)

浦和高校、松山高校教諭を経て平成四年春よりサツマイモ資料館々長、サツマイモ料理店「いも膳」が経営する世界唯一のサツマイモ資料館。
(講演内容の詳細は2頁)

- 矢部義一 鈴木善男 松下雄一
- 佐々木忠一 山崎豊弘 阿部親興
- 田中 隆 荒井利治 上西正人
- 内田紀成 岡部延夫 高橋克治
- 岡田良平 早川岩男 菅原伸之
- 柴崎育久 駒井正明 横溝高至
- 川合善明

第二回夕べの会 (平成五年)
九月二十四日(金) 六時 学士会館

「心血管外科の最近の進歩について」
塩野元美氏(高24)

塩野氏は長いことアメリカに留学され心血管外科の若手のホープとして現在日本大学医学部第二外科講師として、ご活躍中です。田中会長のご推薦で忙しい中を、我々会員の最も関心の深い心臓の病気について最近の外科症例をスライドを使ってお話をいただき、会員の質問にも分かりやすく説明をされ大変有意義な夕べの会となりました。
矢部義一 鈴木善男 松下雄一
松下夫人 増島隆二 増島夫人
山崎豊弘 田中 隆 上西正人

- 岡田良平 岡田夫人 岡部延夫
- 菅沼伸之 矢部敬一郎 早川岩男
- 橋本日出松 日出間哲郎 駒井正明
- 鈴木洋雄 川合善明 石川正樹

第三回夕べの会 (平成五年)
十一月二十五日(木) 六時 学士会館

今回は久しぶりに講演はなく、出席者全員が一言ずつ近況やら、趣味のこと健康や今勉強していることなど、それぞれに楽しく語り合い親睦をよりいっそう深める夕べ、会となりました。
矢部義一 鈴木善男 松下雄一
増島隆二 増島夫人 山崎豊弘
荻野文夫 阿部親興 田中 隆
荒井利治 岡部延夫 岡田良平
早川岩男 菅沼伸之 矢部敬一郎
小熊忠三郎 横溝高至

月例・ピルゼンの会

四月八日(木)	ピルゼン	14名出席
五月八日(土)	〃	7人出席
七月八日(木)	〃	10人出席
十二月八日(水)	〃	7人出席
一月十日(月)	〃	6人出席

最近ピルゼンの例会も参加者が少なく主な出席者は
矢部義一 鈴木善男 松下雄一
山崎豊弘 増島隆二 田中 隆
矢部敬一郎 菅沼伸之 岡田良平
の各氏と淋しいかぎりです。十二月八日の会では矢部さんが、五十数年前の太平洋開戦時のアメリカでの思い出等(鐘つき堂参照)をお話しになられ、興

味深く承りました。是非大勢の皆様のご参加をお待ちしております。次回は二月八日(火)を予定しています。

坂田名誉会長宅訪問

十一月二十日、田中隆会長と矢部、岡田、菅沼(事務局)が、佐々木忠一氏のご案内で、坂田圭司氏宅をご挨拶を兼ね訪問しました。
会創立四〇周年の節目にも当るので、当会創立時の様子やその後四〇年の長い間、会の活動に熱い思いを寄せられご指導いただいた数々のお話をお聞きして時間の経つのも忘れ、夕刻近くまでお邪魔をしてしまいました。

当日は、奥様共々おもてなしいたげた上に、わざわざ料亭にてご馳走にお陰様で、三月二十二日の記念の夕べには、ご教育いただいたことなど反映させていただき、ご好意に報いたいと思います。(矢部)

このほど「川中とな会」(17回卒同窓会)が解散、その精算残金二万二千二百五拾円が坂田圭司さんより当会に寄付されましたので有難く頂戴しましたことをお知らせします。

事務局3人衆近況

四〇年ぶり、世田谷から郷里の川田谷に転居しました。この年合での引越

はきつかった。最近漸く、生活にも慣れて、澄んだ空気と緑(畑)の中で、土に親しみ草花を育てる楽しさを味わって、春の来るのを待つ心境です。

勤務の方は、京橋で、ピルゼンまで歩いて10分、月例会のレギュラーになってます。是非ご参加下さい。(矢部)
脳梗塞の発作から一年、健康状態もやや落ち着いてきたので、リハビリを兼ねて昨秋、東京都中野区にある都立高等職業訓練校表具科(高令者コース)に籍をおき、六十の手習いを始めた。

六カ月コースで、襖の張替、屏風の作成(大、小)、掛軸づくり、和額等を習っているが、なにせ物を作るのは初めての経験とあって何事もとまどうばかり、その難かしさに神経をすり減らしている毎日である。三月二十五日の閉講までに一つでも自分のものにしたいたい努力している。(菅沼)

昨年ストレス潰瘍のため日大に入院し田中先生に大変お世話になりました、すっかり元氣を取り戻し、恒例になっております伊勢参りに行って来ました。大晦日の夜七時の新幹線で名古屋経由で伊勢まで行き、外宮、内宮に詣で、神楽殿にて大神楽をあげ、新しく出来たおかげ横丁でお酒で冷えた体を温め、又名古屋経由の朝一番の新幹線で戻るという大変ハードな初参りです。今年には選宮のすぐ後ですのお宮も新しくなり大変な人出でした。商売繁昌、家内安全を祈って参りましたが、少しもご利益にあずかればと期待している(岡田)



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 田中隆

1994年 (平成6年)
 初夏号 第57号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎(企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田良平(広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅 " 1815
 事務局
 菅沼伸之(財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

在京初雁会四十周年にあたって

会長 田中隆

去る三月二十二日、在京初雁会創立四十周年記念夕べの会が盛大に開催された。創立は昭和二十八年ということ、この間当会のために長い間ご尽力いただいた大先輩の方々に感謝状と記念品をさしあげました。考えてみると発会当時は今で言う発展途上国並の状況であり、東京は戦後復興の真最中でお互に忙

しい時期であった。自分自身をふり返ってみるとインターン生として国家試験に向って勉強していた時代で、この会の有ることも知らなかった。

当時の若かりし先輩達も各分野で活躍中の忙しい中での会合で、今以上に血気盛んな会であったことと思はれる。折角のすばらしい在京初雁会、次は五十周年、百周年に向けて更なる発展に努力したいと考えている。

会員の皆様この機会により一層の御協力、とくに新会員のご紹介をお願い致します。

もくじ

会長挨拶	田中隆	1
在京初雁会四十周年記念夕べの会		2
会員コミュニケーション		5
平成5年度決算報告		6
平成5年度事業報告		7
平成6年度予算		8
平成6年度事業計画		9
母校・例会だより他		10

夕べの会開催

6月21日(火)午後6時より学士会館にて開催
 詳細は別紙参照

在京初雁会創立40周年記念夕べの会開催

平成6年3月22日・学士会館

祝 在京初雁会創立40周年記念

平成6年3月22日



三月二十二日夜、神田一橋の学士会館三〇二号室で、在京初雁会創立四十周年記念パーティが三七名参加の下に盛大に開かれた。集ったのは、中学23回から高校25回にまたがる同窓の十三二名と同伴の夫人五名、久しぶりの再会に思い出の花が随所に咲き、最後まで和やかな雰囲気会場を包んだ。

パーティは、定刻十八時に矢部副会長の司会で始まり、まず田中会長が「諸先輩が基礎を築かれた本会もすでに創立以来四〇年を経過し、誕生の趣旨に則った活動を地道につづけてきたが、これを機会にさらに諸先輩の意図されたことをふり返り、創立五十年さらには一〇〇年と益々盛んになるように微力を尽くしたいと思いますので、みなさんも出来る限りの協力をお願いしたい。」と開会の挨拶を述べた。

つづいて岡田副会長から、記念パーティの開催が一年ほど遅れたことについて諸般の事情説明があつてから、感謝状と記念品の贈呈にうつる。まず田中会長から坂田名誉会長へ（高齢のため欠席、岡田副会長が代理受領）つづいて矢部元会長、増島前会長、佐々木「鐘つき堂」前編集長、松下前副会長、福田前事務局局長の順に感謝状と記念品が贈られた。記念品は、受賞者がみなさん奥様共々で健在ということでオシドリの子七宝焼の文函とした。なお坂田名誉会長へは、三月二十六日に田中会長が岡田・菅沼両名を同道して所沢のご自宅へ参上し、お渡しした。またビルゼンの斉藤社長には、四月八日総会会場（店内）において田中会長から感謝状と記念品をお贈りして、日ごろのご協力に対し、変らぬご支援をお願いした。

このあと、矢部元会長の音頭で乾盃、懇談に入る。出席者の半数はレギュラー、残り懐かしい顔ぶれとあつて、受賞者について全員が一言づつ自己紹介した。つい話が長くなり司会者からブレイクがかかることも再々あった。席上（高3）小熊さんから特に発言があり、本年三月十日発行の高3生選歴記念誌「おい桶よ」の紹介があつた。和やかな中に全員の発言も終り、好例の早川さん（高

2）のマジックショーにうつる。日ごろより場所もや、広く、時間もたっぷりということである。と出し物も工夫して用意され、次から次へとみんなの度胆をぬく。いつどこで身につけられたのか、驚くばかりである。そうこうしている中に予定の時間も過ぎ、最後に全員で記念撮影をしてから、菅沼の閉会のことばで、この意義あるパーティもお開きとなった。

当会は昭和二十八年三月十八日、当時都内で活躍していた同窓生有志が相寄り、卒業年次をこえて情報交換をし、親睦をはかろうということになり、銀座交詢社ビル1Fのビルゼンで生まれたもの。今は亡きビルゼンの前齊藤社長が同窓ということもあつて会場を提供して下さい、以来今日まで四〇余年、代が変つてもそのまま、お世話になつてゐる。

昨年春、創立四十周年ということで記念パーティの話も有志の間で話題となり、準備に着手したところで、関係者の病氣等もあり沙汰やみとなつてしまつたことがある。健康も回復、秋も深まるころ、記念パーティの話が再燃、一年以内なら将来のためにもやつた方がよいということになり、田中会長の決断で準備を進めてきた。諸般の事情により実施日が四十一周年を過ぎてしまつたが、とにかく長い歴史の中で一つのケジメをつけることができたということで関係者はほっと一息ついている。

（出席者名、敬称略）

- （中23）矢部義一、（中28）鈴木善男、（中29）松下雄一、（中32）佐々木忠一、福田龍雄、（中35）山崎豊弘、増島隆二、同夫人、（中36）堀口武夫、荻野文夫、（中38）阿部親興、（中40）平野寿作、同夫人、（中43）内田幸男、（中45）田中隆、同夫人、（高2）荒井利治、岡田良平、同夫人、岡部延夫、菅沼伸之、高橋克治、早川岩男、日出間哲郎、同夫人、矢部敬一郎、（高3）宇都野正章、槽谷熊、小熊忠三郎、長島恒雄、松村祐二、（高4）駒井正明、松井頼敏（高7）西田 守、（高18）笹崎能輝、（高21）横溝高至、（高25）石川正樹

（菅沼）

祝 在京初雁会創立40周年記念

平成6年3月22日



増島さん

福田さん

矢部さん

佐々木さん

松下さん

田中会長

感謝状



記念品のおしどりの七宝焼 文箱

感謝状
松下雄一郎
貴殿は本会創立40周年を以て、本会の事業運営に尽力され、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

感謝状
坂田圭司
貴殿は本会創立40周年の事業運営に尽力され、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

感謝状
福田龍雄
貴殿は本会事務局長として、会の事業運営に尽力され、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

感謝状
矢部良一
貴殿は本会にわたり本会会長として活躍され、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

感謝状
齊藤誠
貴殿は本会創立以来、本会会員の懇親の場を設けられ、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

感謝状
佐々木忠一
貴殿は本会にわたり本会活動のさうなご活躍の場を設けられ、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

感謝状
増島隆二
貴殿は本会会長として活躍され、本会発展に多大の貢献をされました。このたびは本会創立40周年の記念日にあたり記念品を贈り感謝の念を表します。
平成六年三月二十日
在京初雁会
会長 田中 隆雄

祝 在京初雁会創立40周年記念

平成6年3月22日





田中会長より感謝状を受ける矢部氏



坂田名誉会長宅にて

感謝状受賞者より

坂田 圭司（中17）

三月二十二日に創立満四十周年記念の夕べの会が開催されました事は創立者の一人として誠に感慨無量、心からお目出度うを申し上げます。又本日の会の発展に絶大な貢献を尽され、感謝状と記念品をご受領なさいました方々に対して衷心よりお祝い申し上げますと共に



お喜び申し上げます。今後とも会の一層の発展のためにお力添えを下さいますことをお願い申し上げます。

三月二十六日には田中会長を始め岡田、菅沼両氏がわざわざご来訪下さいました。その節は在京初雁会発足四十周年に当り、私にまで感謝状及び記念品を戴き何とも恐縮に存じ御礼を申し上げる言葉もございません。先生が感謝状を親しく朗読の上お渡し下さいました時は感激も一入でした。厚く御礼を申し上げます。又記念品は七宝焼の高級品で素晴らしい立派なものでもったいない大事に保存させていただきます。

感謝状は家宝として早速見える高い所へ飾りました。生憎家内が不在のため大変失礼してしまいました。四十周年の大会ご成功のご慰労を兼ね、初雁会四十年の歩みや会員（故人）を含むの人物月旦などを主に四方山のお話しを語り一層のご懇親を深め度存じております。お会い出来るのを楽しみにしています。

矢部 義一（中23回）

このたびの本会創立四十周年祝賀会にあたり会の運営上の功労者として鄭重な感謝状と立派な記念品をお贈りいただき身に余る光栄に存じて居ります。本会創立の昭和二十八年当時私は三井船舶のニューヨーク店に在動中でした。東京に戻ってからも多忙に紛れて学友高橋三四次君からの熱心な誘いにも応えず漸く還暦を超えた昭和四十五年頃

から川中同期卒の故北村博学君等数名と埼玉学生誘校友会寄宿舎の先輩浅海倭夫、故原田愛助氏等と会えるのを楽しみにビルゼンの例会に出るようになってきた次第で会員としては怠け者でしたが、これからは健康の許す限り欠かさず出席しようと思っています。

松下 雄一（中29）

この度の創立四十周年記念パーティーでは図らずも功労者の一人として感謝状と記念品をいただき恐縮しております。会の運営に熱心だった岩泉さんが突然脳梗塞で倒れたので、私はそのあとを引き継ぎ数年間その穴埋めをしたに過ぎないのです。多年この会のために尽力された他の功労者の方々に伍して一人この感を深くしております。

幸いにもこの間矢部元会長さんの提唱された会の若返りが実現し、役員の構成はもとよりビルゼンの昼食会のほか年四回の夕べの会が定着し、現役の方方の出席が多くなりました。特に最近講演のあと早川さんの手品の披露などの新趣向が加わり一段と楽しいものになりました。鐘つき堂の記事の充実と相俟って今後の発展を期待しております。七宝の文箱を座右に置き、長く記念として使わせていただきます。改めてお礼を申し上げます。併せて記念行事をつつがなく遂行された役員の方々の労を多とし、この会の一層の発展を祈念致します。

佐々木 忠一 (中32)

坂田名誉会長ご執筆の「在京初雁会二十年史」は創立三十五周年記念として刊行された貴重な文献であります。その21頁に私が昭和四十六年九月七日の月例会に初めてビルゼンに赴き出席し、その場でイスラエル視察談を話したとあり、今更汗顔の至りです。

翌年五月八日に児玉会長が本会に初めて役員を設けられた折、委員の末席に私を指名され、この会には名簿も会報もないのですか」との発言に、直ちにその席で、「では君が作りなさい」と命じられました。児玉会長は背の高い威厳ある方でしたから私はたゞ「はい」とかしこまって、遂に4頁建ての「鐘つき堂」創刊号を二十周年を記念して四十八年四月八日に発行した次第でありました。



早川氏の見事なテクニックに魅せられる参会者の皆さん

福田 龍雄 (中32)

過日は思いもよらず感謝状を頂戴致し身に余る光栄と厚く御礼申し上げます。思えば二十数年前、会社を定年退職した頃、在京初雁会の存在を知り早速入会致しました。会には佐々木忠一氏を初め数名の同期の方々の名簿に名を連



祝 在京初雁会創立40周年記念
平成9年5月22日

ねており、何かホッとした感じでした。入会後は二度目の勤務先が虎の門でありましたので毎月八日の「ビルゼン」の昼食会に欠かさず出席し先輩諸兄の警咳に接し大いに啓発されたことでした。その後学士会館に於ける夕食会が企画実施され、昼食会とは異った盛り上りを見せ楽しく出席させていただきました。その間岩泉副会長の御逝去に依り事務局長を委嘱されましたが、数年勤めさせていただきましたが、残念ながら老人性難聴に冒され会話の聴取が不自由となり、電話の聴取も不調となりましたので心ならずも退任させていただきました。その後引き続き一会員として「鐘つき堂」の到着に依り皆様のお話をうかがい僅かに慰めとし又楽しみに致して居ります。末筆ながら会の益々の発展を祈念致します。

増島 隆二 (中35)

此の度創立四十周年記念夕べの会に於て思いがけなくも賞を頂戴し、恐縮致しますと同時に大変な光栄と感激致しました。

夕べの会が盛会であったことは誠に喜ばしく在京初雁会の益々の発展を祈念してやみません。

川中時代の良き思い出とすこやかな生長を続ける川高への愛を胸に会員の皆様の御健勝を祈り上げます。

(敬称略)

40周年によせて

創立40周年に欠席された方々の返事の葉書から掲載させていただきました。

(敬称略)

浅海倭夫 (中21)

四十年になりましたか。坂田さんはじめ皆さんのおかげ様と感謝いたします。この記念すべき日に出席し皆様にお目にかかりたいのは山々ですが、身体の工合いを考へて失礼いたしますので不悪。口だけは達者ですので御放心下さい。

藤村 信一 (中23)

体調をこわして居りますので、欠席させていただきます。矢部義一君によるしく。

浅野 誠一 (中24)

老齢となり、あまり外出できなくなりました。皆さんよろしく。
(疲れると不整脈のため苦しみます)

安藤 恒男 (中24)

高齢の為此の時期夜間外出を差控えています。残念ですが欠席させていただきます。

ご盛会を祈念申上げております。

船津鴻之助 (中24)

二月十一日(記念日)満八十五才。川中野球部投手として活躍したのが大

(10頁へつづく)

在京初雁会平成5年度決算書

(平成5年4月1日～平成6年3月31日)

平成6年4月8日

財務担当 菅 沼 伸 之

1. 一般会計

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰越金	181,334	181,334	
年会費	230,000	212,000	85名分
預金利子	4,000	4,387	
雑収入	0	212,500	寄付金7件
計	415,334	610,721	
支出の部			
会報印刷	80,000	105,760	第55号、第56号
新企画	170,000	196,228	40年記念式典、新名簿作成
夕べの会	10,000	16,903	
月例会	2,000	2,258	
慶弔費	10,000	6,000	故中善寺登喜次氏、岩崎靖夫氏
会議費	15,000	0	
通信費	58,000	55,550	
事務費	5,000	896	
振替手数料	4,000	4,509	
雑費	10,000	13,338	
計	364,000	401,442	
残 額 (繰越)	51,334	209,279	

寄付者(敬称略) 増島5万、堀口1万、とな会(坂田)2万2,500
田中5万、堀口5万、福田1万、増島2万

2. 特別会計(基金)

定期預金 10万円(利息3,802円は通常会計へ計上)

平成6年4月8日

上記のとおり相違ありません。

監 事 横 溝 高 至

在京初雁会平成5年度事業報告

平成6年4月8日

総務担当 矢部 敬一郎

1. 会員の動向

- イ. 会費納入者 85名 (中学51名、高校34名)
- ロ. 物故会員 中善寺登喜次 (中学27)
岩崎靖夫 (中学32)
- ハ. 新入会員 なし

2. 行 事

- ◇鐘つき堂 1993年春号第55号 (5月)
1994年新春号第56号 (1月)
- ◇在京初雁会名簿作成 1994年3月
- ◇月例会 5回
- ◇夕べの会 4回 (40周年記念行事)
- ◇その他 2回 (母校総会、散策会)

●行 事 (月例会=ピルゼン、夕べの会=学士会館)

4月8日	総会・月例会 14名参加	
5月9日	母校同総会(川越高校)13名参加	
6月22日	第1回夕べの会 19名参加	「サツマイモの文化史」 井上浩氏(高校2)
7月8日	月例会 10名参加	
9月24日	第2回夕べの会 21名参加	「心血管外科の最近の進歩について」 塩野元氏(高校24)
10月3日	秋季散策会(高麗の里)16名参加	
11月25日	第3回夕べの会 17名参加	会員懇親の夕べ
12月8日	月例会 7名参加	
1月10日	月例会 6名参加	
2月8日	月例会 9名参加	
3月22日	第4回夕べの会 38名参加 (学士会館)	40周年祝賀会

在京初雁会平成6年度予算

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

平成6年4月8日

財務担当 菅 沼 伸 之

1. 一般会計

項 目	実 績			6年度予算
	3 年 度	4 年 度	5 年 度	
収入の部	(円)	(円)	(円)	(円)
繰越金	50,521	51,683	181,334	59,729
年会費	220,000	230,000	212,500	200,000
預金利子	5,632	1,171	4,387	5,000
雑収入	5,000	0	212,500	0
計	281,153	282,854	610,721	264,729
支出の部				
会報印刷	131,368	60,000	105,760	120,000
新企画	0	0	196,228	10,000
夕べの会	14,711	△26,924	16,903	20,000
月例会	4,630	△5,289	2,258	3,000
慶弔費	3,000	3,000	6,000	10,000
会議費	9,260	10,437	0	10,000
通信費	52,299	44,664	55,550	60,000
事務費	3,682	6,368	896	3,000
振替手数料	3,720	4,320	4,509	4,600
雑費	6,800	4,944	13,338	15,000
計	229,470	101,520	401,442	255,600
残 額 (繰越)	51,683	181,334	209,729	9,129

5年度発生繰越金のうち15万円は特別会計に繰り入れる。

2. 特別会計

基金10万円に繰越金から15万円を加えて25万円とする。利息は一般会計へ繰り入れる。

在京初雁会平成6年度事業計画

平成6年4月8日

1. 事業内容を充実するため次の事業を実施する。

- イ. 会員の増強運動を引き続き行う。
- ロ. 行事内容の改善に努める。
- ハ. 参加しやすい環境づくりに努める。

2. 行 事

- | | |
|------------|--------------------|
| ◇鐘つき堂 2回発行 | ◇夕べの会 4回 |
| ◇月例会 5回 | ◇その他 2回 (母校総会、散策会) |

3. 月別計画

- 6年4月8日(金) 総会・月例会① (ピルゼン)
5月8日(日) 母校同窓会 (川越高校)
6月21日(火) 夕べの会① (学士会館) 別掲参照
7月8日(金) 月例会② (ピルゼン)
9月20日(火) 夕べの会② (学士会館)
10月16日(日) 本校散策会 (坂下) 同窓会報参照
11月22日(火) 夕べの会③ (学士会館)
12月8日(木) 月例会③ (ピルゼン)
7年1月9日(月) 月例会④ (ピルゼン)
2月8日(水) 月例会⑤ (ピルゼン)
3月22日(水) 夕べの会④ (学士会館)

年会費納入のお願い

本会の運営は会員の年会費(¥2,500)の収入を主たる財源としております。本紙に振替用紙が同封してありますのでご利用下さい。6月末までに払い込み下さいますようお願い申し上げます。裏面通信欄をご活用ください。

月例会(ピルゼン)

の

御 案 内 !

7月8日(金)・12月8日(木)・1月9日(月)

交詢社ビル1階 **ピルゼン** **2月8日(水)**

正午より1~2時間で会費は2000円です。

御連絡はしませんが、たまには銀座でビールで乾杯!!

正十五年。光陰矢の如し、この頃しきに當時が思い出されます。

橋本 國治(中26)
体調不良残念ながら出席できかねます。

柴崎 武夫(中28)
80才で現役を引退したとたん体調がおかしくなり入退院を繰返しています。しかしまだまだしぶとく生きるように頑張るつもりです。

落合 義作(中28)
在京初雁会四十周年記念夕べの会のご案内戴き有難とうございました。初代矢部会長から矢部会長までの諸先輩の交流の中で得たものが少くありません。それを身につけ生かし、今日まで来られました事を感謝して居ります。

武田 葛(中29)
四〇周年記念おめでとうございます。伝統のある在京初雁会のみすますの発展をお祈り申し上げます。川中時代の旧初雁城跡の風趣をなつかしく思い浮べております。数年来の作業である年史制作のツメの作業のため出席できず残念に存じます。

野上 完一(中30)
いつも御手教をおかけし申訳ございません。心臓の調子不良のため欠席いたします。御盛会をお祈り申します。

野澤勝三郎(中30)
何時も欠席を致して居りまして申し

訳ございません。遂々夜の会合は儼却になってしまいます。お陰様で恙なく過して居ります。どうぞ皆様よろしくお伝え下さい。

山本 道(中32)

今年三月を以て喜寿を迎えました。特に感慨もありませんがよくまー長生きしたものだと思っています。腰や膝が時々痛む程度で健康状態は概ね良好。六年前から墨絵を始め、老後の趣味と致しております。近年の政治、経済、社会の大変化には目を見張るものあり、これも生甲斐の一つです。今回は残念ですが所要の為出席出来ません。皆様宜しく。

金子 紀孝(中33)

都合つきかねますので、申し訳ないが欠席と致します。ご諒承を。

細島 博文(中35)

何時も大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。折角のお招き、誠に残念ながら当日、他の会合に先約してしまいましたので欠席させて頂きます。御盛会をお祈り致します。

岩泉 惟人(中35)

何時も大変お世話に預り有難うございます。お陰様で二年来の腰痛も大分良い方向に向っておりますが、尚十分とはいえず失礼させて頂きます。皆様宜しくご風声願います。

橋本 次郎(中35)

御案内を頂き有難うございました。

小生入退院のくりかえしでまだ療養中で失礼致し皆様にも宜しく。殆んど外に出られなく内です。粘土を使って小品を手がけて居ります。昨年の叙勲(勲三等瑞宝章)を拝受しました。

松本 博一(中37)

古稀越えてなお大学の教員をしています。折角お招き頂きましたが卒業祝などの行事に追われていますので今回も失礼いたします。御出席の皆様宜しくお伝え下さい。

間々田重信(中39)

「四〇周年夕べの会」ご案内戴き有難うございました。古稀を迎えましたが健康状態は極く上々です。丁度三月二日高等商船の会と重なり、先約しておりますので残念乍ら欠席致します。御集り同窓の皆様によりしくお願います。

佐久間勇次(中38)

東北大学農学部に十三年、日本大学農獣医学部に三十二年、合計四十五年の大学生活でした。本年、古稀を迎え定年退職。晴耕雨読、耕は畑がないので、ゴルフ場通いにします。

御盛会を祈ります。

平岡寿夫(中42)

三月中旬下旬にかけて旅行に出かけますので欠席致します。会の盛会を祈ります。

島田 嘉夫(中43)
四十周年お目出度うございます。会の益々の御発展を祈ります。

川高も有数の進学校となったそう。腕白坊主が走りまわっていた昔とは隔世の観だそう。卒業生。なんて云うのが辱かしいようです。

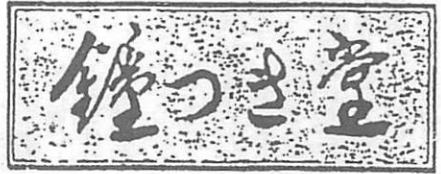
母校同窓会

新縁に映える5月8日の第2日曜日(母の日)に母校同窓会が本校同窓会室にて78名(中29・高49)参加のもと盛大に開催されました。在京初雁会からも矢部義一氏、田中会長をはじめ13名の方々の参加がありました。議事後、深谷新校長の紹介、叙勲された方々への記念品の贈呈があり、ついで、(株)あさひ銀行専務取締役・田中正(高6)の「当面の経済情勢について」の記念講演がありました。懇親会は場所を佐久間旅館にうつし、酒を酌みかわしながら旧交を暖め、校歌を歌って散会となりました。

当会会員の橋本次郎氏(中35)が平成5年春に勲三等瑞宝章を授与されました。心よりお祝い申し上げます。

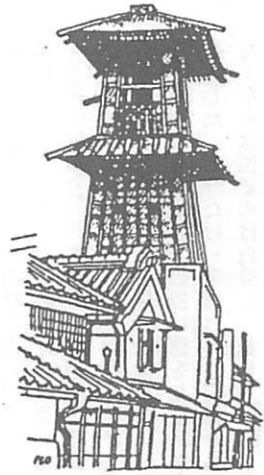
編集後記

名簿の作成、そして40周年記念行事と無事に済み事務局一同ホッとしている所です。次回は11月頃に発行する予定です。ぜひご投稿下さい。(岡田)



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 田中隆

1995年 (平成7年)
 新春号 第58号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

タベの会

千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎(企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田 良平(広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅 ☎1815
 事務局
 菅沼 伸之(財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

明けましておめでとーございます

会長 田中 隆

昨年の今頃は四十周年記念行事を開催すること
 ことで会員の皆様にご理解をいただいております
 ましたが、記念祝賀会も3月22日に無事終了
 致しました。

本年の目標は会員の増強と、次年に行なう
 秋期散策会の決定であります。前年の夕べの

会で種々ご相談致しました案として、池袋・

護国寺雑司が谷案、両国・東京江戸博物館・
 芭蕉記念館案、銀座散策案などが考えられま
 すが、いづれも昼食会場のことで一長一短が
 あり、皆様のご意見を伺った上で決定したい
 と考えております。

これを機会にぜひ会員を増やしていただき、
 より一層散策会を盛り上げていただきたいと
 思っております。

本年もよろしくお願い申し上げます。

もくじ

- 会長挨拶……………田中 隆…1
- 紀伊國屋文左衛門にみる
平成バブルの崩壊……………日下英元…2
- 秋期散策会……………菅沼伸之…3
- I Love 遊……………岡部延夫…4
- 例会だより……………8

夕べの会開催

3月22日(水)午後6時より学士会
 館にて開催
 詳細は後日連絡します。

紀伊国屋文左衛門にみる 平成バブルの崩壊

日下英元(高16)

東京大学法学部卒、御古河
電工経営企画、管理部門を
経てサンフ母松監査法人勤
務後、現在精工エム・ビー・
シー(コンサルティング会社)
にて活躍中。

'94.6.21

江戸時代の日本地図を眺めていると、武蔵野国・上野国等と多くの国に別れている。これは現在の国際社会に似ている。江戸の徳川幕府はアメリカ合衆国だろう。日本は赤穂浪士にならないようにと願いたい。

私は江戸時代、それも元禄から享保時代を中心にした経済史を研究している。元禄時代の日本人口は約1千万人、幕府の年間予算は1兆円も無かったろう。この時代に財政立直しに荻原重秀の貨幣増発説を採用した。13年間に渡って50兆円から100兆円の増発をした。物価は暴昇りである。商人は在庫を持つほどに大儲けした。民心は緩み江戸の大火がインフレに火を掛けた。この頃の大火の規模は品川で出火した火が銀座から浅草を焼き尽くし千住まで飲み込んだという。元禄11年の勃額火事である。こんな大火が13年間に3度あった。

5代將軍綱吉が逝去し、家宣が6代將軍に着くと新井白石が登用された。白石は徹底的なデフレ政策を採った。デフレ政策は8代將軍吉宗の享保の改革まで35年間採り続けた。幕府の威信を高めるにはデフレ傾向が得策だからである。ところが新井白石の登用を知った紀伊国屋文左衛門は店を閉めてしまった。デフレ対策の一つである。

この流れを見ると、昭和末期の超インフレと平成

デフレ不況はこの時代の再現に過ぎない。物質文明は見違えるほど進んだ。しかし、人の心は少しも進歩して無いのだろうか。世界的に地球の資源は有限であることを意識し、儉約ムードが基調になった。これからの時代は、発展途上国を除けばデフレ基調が続く。しかし、我が国の先人達は経験をしたのである。欧米では戦争が勃発してしまつたから、長期間のデフレは海外に無い日本独自の貴重な経験である。

多くの企業はデフレを乗り越えずに倒産した。奈良屋茂左衛門も5代目で潰れた。これ乗り越えたグループが住友・三井・鴻池である。鴻池は三和銀行野村証券グループの母体である。このエネルギーは何だったろうか。商売の基本を教えるものである。三井の創業者三井高利は本年が没後300年である。高利は「買って下さい」と頭を下げて来た者からも5%以上の値引きをしてはならない。儲けられずとも2割以上の掛け値をしてはならないと指示した。自分だけ一時儲けても業界から人材が居なくなれば困るのは自分だ。業界が繁栄して自分も栄えられるのである。しかし、社員には勉強させた。呉服を商う上には糸の値段から染物から縫製までを理解させた。その上で5%以上の値引きをしてはならないと言うのである。儲けは何か? どんなこと

があっても絶対に損をしないことだという。住友の初代は僧侶に始まる住友政友である。浮いた利益を追ってはいけない。三井高利と同様の話をする。この厳しさと包容力・精神力がデフレを乗り切るのである。鴻池の初代は山中鹿之助の長男新八である。造り酒屋から始まり回船問屋、両替商へとシフトした。デフレは物価より貨幣の価値が高くなる。両替商はデフレで大きくなるのである。

紀伊国屋文左衛門は店を閉めた後は文化活動を行った。五十嵐千山は氏の号である。松尾芭蕉に継ぐと言われる。

西に行く。道もあるかし 桜どき
辞世の句である。デフレ時代は世情が暗くなりがちだ。文左衛門は深川八幡宮に神輿を3体寄付した。その内の一体を平成2年に復元した。20億円掛かったそうであるが主として佐川急便の寄贈によるという。

紀伊国屋文左衛門が店を閉じると、その兄は番頭と共に熊谷に移った。江戸に対して武蔵国熊谷はデフレの影響が少なかった。目を転じれば中国はインフレが激しいというようなものである。

インフレは付け加えれば良かった。デフレは取り去る。しかし、機能維持し芸術的にと考えれば「佗び」「寂」の境地を理解しなければならぬ。思想的には石門心学の祖石田梅岩である。

紀伊国屋文左衛門始め三井・住友・川村瑞賢等江戸時代の財界人は紀伊半島から多い。伊勢神宮や熊野大社に文明文化の粋を誇る都の人々が通る。街道筋の人々は直接最新文明に触れた。紀伊半島は都に近く急峻で追っ手の手が届きにくかった。逃げ延びた人々がほとぼりが冷めたころ里に降りて暮らした。平和の値段、平和のありがたさが分かるから先を眺

み手を打った。また、領主は武力で民衆を制圧できないから知恵と工夫が必要だった。

現在では、世界の最新技術や情報が得られるのは東京近くなければならない。知恵と工夫が必要なのは大都会よりその周辺だろう。このように考えれば、

秋季散策会

昨秋10月15日、好例の秋季散策会が坂戸初雁会(高山孝会長、高7回卒)の主管により盛大に行なわれた。当日は天候にも恵まれ、かつての初雁健児九九名が久しぶりの再会を楽しんだ。(当会からは会員一五名と夫人四名が参加した。)

定期10時に東上線若葉駅東口に集合、ただちにバス三台で出発する。交通量の少ない道路を東方に二㎞ほど走ると忽然として左手に異国情緒豊かな大きな建物が出現、ここでバスを降りる。ここはまだ地図にもつていない造営中の道教のお寺のようなものである。みな一様にそのすばらしさに息をのむ。聖天宮三清道壇といひ、台湾人の資産家が個人でつくっているのだという。

材料の石や木・金物等はすべて中国のもので、それを中国の職人が加工したのだという。基礎工事は日本の業者が施工したが、その他はすべて台湾の職人を連れて来てやっている。道教のものとしては、神戸に似たようなものがあるが、おそらく日本最大

川越の地は江戸時代の紀伊半島にあたらなないか。春から秋に掛けての体育の授業で上半身裸で鍛えた川高精神も狙うところは石門心学と同じだ。初雁の野に巢立つ心を生かすことが、これからの日本経済を支える基盤となることだろう。長時間御静聴ありが

聖天宮三清道壇

大宮住吉神社

竜護山大智寺

'94.10.15

でしようと言っていた。

建設地としてここが選ばれたのは、易者の見立てによりここが日本の中心に当たるといわれたからで、しかも緯度的にもここは中国の道教の絵本山的な所と同緯度ということも後で分ったという。先祖の霊をまつるために私財のすべてを投げうってつくるのだというだけあって、とにかく「すごい」の一語につきる。建設者の子息が今年中には完成の予定と聞いていたが果してどうなることやら注目したい。場所は、坂戸市 越五一、周囲はまだひなびた農村地帯であるがこの先どう変ることやら……。

三〇分ほど見学してから次の目的地へ向かって歩く。墓道と思われる畑の中を行くが、車は勿論のこと通行人にもほとんど行き交わない。またこんな静かな所があるのかと嬉しくなる。北へ向かって約一㎞、鎮守の森に着く。ここは大宮住吉神社、静かな良い神社である。須呂秘宮司(高2回卒)が夫人、氏子有志とともに出迎えてくれる。歩いた後の熱い

とうございしました。

筆名 山木 育 著書「会社を救った八十の知恵」「こうして儲けた社長の仕掛け」「会社を伸ばすオーナー社長学」「三井の創業者精神」「紀伊国屋文左衛門の生涯」他

お茶はうまい。さらに市内伊勢屋製菓店主の斉藤孝さん(高2回卒)から甘辛の焼団子の差入れがあり、いただく。なつかしい味だ。一休みしてから境内を見学する。神楽殿にはわざわざ伝承の大宮住吉神楽のスナップを展示してくれた。社殿にも入って見た。同社は天徳三年(西暦九五九)当国の住人山田長

慶の宿願により山口県一の宮の住吉神社のご分霊を奉遷したのに始まるという。古来から皇室はじめ將軍家その他武門・民間の信仰あつく、鎌倉時代には北武蔵十二郡の総社の指定をうけ、かつ勅願所として尊崇された。神宮須呂氏は武蔵三神官の一人として代々大宮司をつとめ、また二郡の神職触頭に任命された。そんな関係で、二月の大祭には二郡の神職が参集し、これを助けたという。やがて大宮住吉神楽が創始され、当初は神官等により奏上されたが、後世にいたり、氏子有志により継承され、現在にいたるまで古伝を守り、神楽本来の姿を伝えている。專業でない神楽師が相伝しているのはたいへん珍しいという。なお源義家公奉獻のご陣鉦、源頼朝公奉獻の獅子頭等が現在に伝えられている。越二四一。境内は約一萬坪ある。

三〇分ほどで次へ向かう。途中二回ほど車の通る道を横断したが、後は実に静かな所である。神社から西へ二・三㎞ほどで寺の境内に入る。ここが三番目の見学地、真言宗豊山派の竜護山大智寺(住職

大塚正見氏、中43回卒)である。入間三山といわれ、越生報恩寺、高麗聖天院と並ぶ智山派関東諸寺の筆頭格の名山である。本堂はモダンさと荘厳さをあわせもつ特異なつくりである。

寺伝によれば千二百余年の昔、大同二年に日教上人により開基されたものという。日教上人がまつた文殊菩薩が有名である。慶安年間に二〇石、境内三万坪のご朱印を賜わり、明治以前は六〇を超える末寺があったという。戦後落雷により本堂を焼失、

その跡にいまのアルミ合金による単管シェル構造で、さらに屋根・外壁のすべてにアルミ材を使った前衛的な外観を持つ本堂をつくった。本尊は大日如来でステンドグラスを通した陽光が降り注ぎ、超常空間を形成している。山門脇に鐘楼、文殊堂等がある。所在地は坂戸市石井二三三一、正面は大きな道路に面している。

見学後、庫裡に上り懇親会を開く。坂戸、日高、飯能、入間、志木、在京の各初雁会代表から近況報

I love "遊"

岡部延夫(高2)

一橋大学経済学部卒業後、富士銀行入行、いわき支店長、富士銀行コンピュータサービス常務を経て、御ナムコ入社、取締役総務部長を経て現在、知的所有権審査長。

'94.9.27

一九九二年九月の「在京初雁会」で、アウンデザイン株式会社(の仲村永靖氏から「空間デザイン」が

ビジネスとして成立する、即ち、建築に從属するものでもなく土木に奉仕するものでもない、従来にはない一つのビジネス分野のお話を伺いました。

このようなビジネスが成立するというのは、それを生み出すような社会・経済環境の変化、人々の意識の変化があるわけです。

演劇・映画など古くからある「遊び」ビジネスのほかに、同じような理由で、新しい「遊び」ビジネスが成立しています。

一 産業構造の変化

(一) 就労人口の変化

日本経済新聞は、一九九四年九月一八日の一面トップで「サービス業、製造業を抜く」という記事を掲載しました。

この記事は、サービス業の従事者数が、製造業の従事者数を超えたということ伝えてあります。

日本経済新聞の一面トップ記事ですから、これはかなりの意味のあるニュースです。

古くから一次産業(農林水産業など)、二次産業(製造業など)、三次産業(卸小売、飲食、医療、教育、その他サービスなど)という産業分類があります。

いまから三〇年ほど前にイギリスの経済学者ウィリアム・ペティが提唱し、その後コーリン・クラ

告があり、次回は志木の担当ときまる。また坂戸市長・宮崎雅好氏(中42回卒)が公務の合間をぬってかけつけ、最近の坂戸の市勢について話をした。懇親の途中で、前記の斉藤さんが黒のタキシードに着替えてマジックを披露して好評だった。大広間の随所に話の花が開き、名残りはつきなかつたが、15時全員で校歌を斉唱、再開を約してお開きとなった。(菅沼伸之)

ク、サイモン・クズネッツという学者がそれを発展させた考えですが、経済の進歩につれて第一次産業から第二次産業へ、第二次産業から第三次産業へと、資本・労働および所得の比重が増大していく(ペティイロクラーク・クズネッツの法則)という経験的法則です。乱暴な言い方をすれば、カネもヒトもカセギも高次産業の方に集まっていくということです。現在では、第三次産業就労者の全就労者に占める割合は、アメリカで七五%、イギリスで六五%、日本で六〇%を超えるといわれています。

戦後、瓦礫と焼け野原の中から日本経済は急速に立ち直ってきました。バブルの崩壊に至るまで、幾度かの停滞はあったにせよ、日本経済はほぼ一貫して右上りの成長を続けてきました。この間に、わが国の就労人口の構成は大きく変化してきました。

政府は、一九四六年(昭和二十一年)から毎月十万人を対象に「就業構造調査」を行っています。それによれば、一九六四年(昭和三十九年)に製造業が農林業を抜き、それ以降三十年間製造業は業種別就労人口のトップでした。これに対して、第三次産業のなかのレジャー、教育、医療等のサービス業は高度

成長期には製造業のほぼ半分でしたが、その後一貫して増え続け、一九九一年(平成三年)に飲食業を抜き製造業に次ぎ第二位になり、一九九四年(平成六年)の見込みでは製造業を抜いてトップになったというわけだ。

このことは、日本経済の構造変化を示すものでもあり、また、いわゆるソフト化経済の進展を示すものでもあります。

(二) 新しい「遊び」ビジネスの成立

「遊び」がビジネスとして成立するためには、それなりの条件が必要です。

ダイエーの中内社長が次のように述べられているということを知ることがあります。

昭和三十年代は、モア(More)の時代(もっとモノが欲しい)

昭和四十年代は、ベター(Better)の時代(よりよいモノが欲しい)

昭和五十年代は、ディフレント(Different)の時代(他の人とは一味違ったモノが欲しい)

昭和六十年代からは、レス(Less)の時代(モノはもういらぬ。欲しいのは精神的な満足感)

このように経済的な基盤が充実してきたこと、そして人々の意識が変化してきたこと、「遊び」ビジネスとの間には非常に大きな関係があると思えます。

豊かな社会は、週休二日制の普及、可処分所得の増大、生活意識の変化などにみられるように、人々に時間のゆとり、カネのゆとり、心のゆとりをもたらしました。

戦後の経済復興をなし遂げ豊かな社会になった最大の要因の一つに、生産技術の向上、特にエレクトロニクス技術の向上があります。エレクトロニク

スの進歩は、演劇・映画・遊園地・スポーツ・囲碁・将棋・小唄・マジックといった従来型の「遊び」とは違ったタイプの「遊び」だとせばテレビ・ゲームとか通信カラオケをもたらし、子供たちの遊びがすっかり変わっただけでなく、若者たちは従来型の遊園地からハイテク技術の固まりである新しいテーマパークへ集まっています。

新しいタイプの「遊び」ビジネスは、「ゆとり」と「エレクトロニクスの進歩」に支えられているといつてよいでしょう。

二 「遊び」からの連想

子供のころ「遊んでばかりいないで勉強しなさい」と言われたことはありませんか。何かしている時に「遊び半分じゃあこの仕事は片付かぬ」と言われたことはありませんか。

どうも我々の育った時代は、「手本は二宮金次郎」の環境だったようです。寸暇を惜しんで勉強し臨目も振らずに「勤勞」に励むことの尊さと、その対極にあるもの・排斥されぬまでも奨励されぬものとしての「遊び」、「マジメ」の反対側の不誠実と紙一重のものとしての「遊び」という観念がついて廻っています。

三 「遊び」の哲学

ところが、「遊び」こそ人生にとって不可欠なもの、人間の文化は「遊び」の中から生まれてきたと、マジメに「遊び」を考えた人々がいいます。

オランダの文化史学者ヨハン・ホイジンガーとその説を継承し発展させたフランスの社会学者ロジェ・カイヨワがそうです。

ホイジンガーはこう考えました。「一九世紀以降、

工業的・技術的な発展が著しくこの発展の中に文化の進歩があると人々は考えるが、果たして人間の文化はこのような背景のもとでのみ発展することが可能なのだろうか？」

ホイジンガーはオランダのライデン大学の学長を務めた人で、その学長就任演説のテーマは「文化における遊戯とまじめの境界について」というものです。彼は、そのテーマを發展させ、一九三八年に「ホモ・ルーデンス」という著書の中で「遊び」の本質を追求し、カイヨワは一九五八年に著した「遊びと人間」の中でホイジンガーの考え方を更に發展させました。「ホモ・ルーデンス」は中公文庫、「遊びと人間」は講談社文庫に入っています。

この二人の主張は必ずしも同一とは言えませんが、共通事項を大胆にくくりまますと、次のようになります。

(主張) 「遊び」は人間にとって根源的な生のカテゴリーのひとつである。人間は「遊ぶ存在」(ホモ・ルーデンス)である。

太古、人間生活が根源的な状況にあっては、「遊び」が生活を規定していた。人間の文化は「遊び」の中において「遊び」として展開し發展してきた。

(要素) 「遊び」は、①人々にとって自由な行動に基づく(自発性) ②日常のあるいは本来的なものではない(非日常の世界) ③空間・時間による制限があり(完結性と限定性) ④規則性・約束事がある(ルール) ⑤やってみなければわからない要素(未確定の要素・期待・想像を刺激するもの)が含まれる。

勤勉やマジメの蔭に隠れてコソコソしているの

なく、「遊び」が大手を振って歩いていきます。そして、カイヨワは、「遊び」を次のように分類しています。(カイヨワによる「遊び」の分類)

① アゴン(競争)

機会の平等、すなわち平等のチャンスを与えられている遊び。陸上競技などのスポーツ、囲碁・将棋など。サッカーやバレーボールなどのコートチェンジなどもこの考え方から出ています。

② アレア(運のゲーム)

アレアとはラテン語でサイコロ遊びという意味だそうです。「遊戯者の力の及ばない独立の決定の上に成り立つ遊び」。ルーレット、ポーカー、宝くじ。

③ ミミクリ(模倣)

演劇、子供のままごと、汽車ごっこなど。人が自分を自分以外の何かと信じたり、他人に信じさせたりする遊び。

④ イリンクス(陶醉・恍惚)

例えばジェットコースターなどに乗った時の感覚。カイヨワは、「一時的に知覚の安定を破壊し、明晰であるはずの意識を官能的なパニック状態におとし入れる」と言っています。

面白い遊び、人気のある遊びは、この四つ分類の幾つかを複合的に持っているにお気づきになるかと思えます。例えば、Jリーグのサポーター。彼らが扮装して応援し、試合の成り行きに一喜一憂するのは単に試合を見ている(アゴン)だけでなく、自らがチームの一員となり(ミミクリ) 陶醉・恍惚(イリンクス)の状態を楽しんでいるのです。

ここでちょっと脇道にそれますが、人気のJリーグのチーム名をご存知ですか。プロ野球のチーム名

とは全く違います。新しさを出すという意図、あるいはありきたりのネーミングではチームグッズ(キヤクター商品や応援用の小旗など)の商品化の時に商標登録が取りにくいなどの理由があるのかは知りませんが、とにかくプロ野球の巨人とか虎とか獅子とか鷹とかというそのものズバリの名前ではなく、ひとひねりしたネーミング、遊び心とゆとりでのネーミングのように思います。これも時代の流れなのでしょう。

英語系

JEFユナイテッド市原——東日本旅客鉄道(JRE)と古河電工(F)が母体なのでJEF連合。

鹿島アントラーズ——アントラーズは鹿の枝角。鹿島神宮の鹿と茨城の「茨」が鹿の枝角に似ていることから。

浦和レッズ——母体の三菱自動車のマーク、レッド・ダイヤモンド。

清水エスパルス——エスは清水、静岡、サッカーのエス。パルスは心臓、中心。

名古屋グランパスエイト——グランパスは鯨、エイトは名古屋市の市章が末広がりの「八」。

ポルトガル語系

ヴェルディ川崎——ポルトガル語の「緑」からの造語。ユニフォームも緑。

ジェビロ磐田——ポルトガル語の「歓喜」。

スペイン語系

横浜マリノス——日産自動車が母体なのになぜか「船乗り」。いかにも横浜。

レイソル柏——レイは王、神。ソルは太陽。「日立」のイメージ。

セレッソ大阪——セレッソは「桜」。桜は

大阪市のシンボル樹。

その他

ASフリーゲルズ——AはANA(全日空)

Sは佐藤工業の両母体会社の名、フリーゲルズはドイツ語の「翼」。

ガンバ大阪——イタリア語の「足」。頑

張れ大阪にかけている。

サンフレッチェ広島——サンは日本語の「三」、フレッチェはイタリア語の「矢」。毛利元

就の故事から。日伊合成の「三本の矢」。一四チーム中の最高傑作のネーミングでしょう。

ベルマーレ平——ラテン語、ベラム＝美しい、マール＝海。

四 「遊び」ビジネス

「遊び」が人間にとって欠くことのできないものであり、また、昔から人々は何らかの形で「遊び」を楽しんできたわけですから、「遊び」の道具や場所あるいは「遊び」そのものを提供する産業があっても不思議はありません。

「遊び」は、時代とともに変わってきます。パチンコは戦前には駄菓子屋にあって子供の遊ぶものでした。エレクトロニクス技術の発達は今までにないタイプの「遊び」を創造してきたことは前にお話したとおりです。

現在の「遊び」を提供する産業を、Harold L. Vogel 著 ENTERTAINMENT INDUSTRY ECONOMICS, 1986(内藤篤訳)を参考にしながら、この産業の特性などを見ましましょう。

(一) タイプ別の分類

① メディア依存型——映画(ビデオ)、音楽

放送（テレビ、ケーブルテレビ）、玩具、各種のゲームなど。アミューズメント施設内の業務用ビデオゲーム機やファミコンに代表される家庭用テレビに接続するゲーム、パチンコなどもこれに入ります。

② ライヴ——スポーツ、演劇（コンサート、オペラ）、競馬、キャンブルなど。

③ 遊園地、テーマパーク——豊島園、東京ディズニーランド、長崎ハウステンボスなど。最近注目を集めているのは、二千坪前後と、従来の遊園地などに比べると極めて限られた面積で高性能のコンピュータ制御の機器を中心とする、いわゆるハイテク・テーマパークです。ナムコのワンダーエッグ（二子玉川）、セガのジョイポリス（横浜山下公園）がその代表的なものです。なお、ナムコ、セガはいずれも東証一部上場企業です。

いずれのタイプにせよ、今までのような与えられた「遊び」を受け身で楽しむタイプから、自分たちが積極的に参加できる「遊び」への欲求が強くなっています。これからは、いわゆるマルチメディア機器の発達とともに、参加型タイプへの欲求がまた新たな「遊び」を創造していくことも予想されます。

(二) 特性

① ゆとりと豊かさが存立の基盤

ヴォーゲルもまた、「遊び」は多くの人々にとって、衣・食・住に次ぐ重要なもので、日常的に多くの時間と経費がそれに費やされると述べています。前に申しましたとおり、「遊び」のための時間と経済的負担、「遊び」に心を向けるゆとりのない社会では、「遊び」はビジネスとしては成立しないもの

です。平和で豊かな社会こそがその存立の基盤ということになります。

② ソフトが決め手

人々が「遊び」ビジネスの各タイプ、あるいはそのタイプの中でどの「遊び」をどう選ぶかは、いわば各人の自由裁量時間内の競合関係にあります。テレビの普及と映画産業の衰退などはこのようなどれを取るかの一例でしょう。

いかに立派な道具や設備を持つとしても、その中味が人々の意識・欲求を満たさないもの、あるいは代替するものが簡単に身近にあるようなものでは、ビジネスとしての永続性がありません。その意味では、ハードウェアも重要ですがより決定的なものはソフトウェアであるということです。

東京ディズニーランドは、一九八三年（昭和五八年）四月の開場以来十一年目の一九九四年（平成六年）八月に入場者数が一億五千万人を超えました。ここの二年の年間入場者数は一千六百万人です。一日平均で四万四千人にもなります。これは、単に広い場所・立派な施設があるということではなく、一步園内に入れば「ここはアメリカ！古きよき時代！」という遊びの基本的要素のひとつである「非日常の世界」を巧みに演出しているソフトの力です。「コンピュータ」、ソフト無ければただの箱」ということは「遊び」ビジネスにそっくり当てはまります。

③ 技術的發展が支える

アミューズメント施設にある業務用ビデオゲーム機は最先端のコンピュータ技術の固まりです。三次元の映像やコンピュータグラフィックによりまったく別の空間を作り出すヴァーチャル・リヤリティの技術など、最近のハイテク・テーマパークの演

出はエレクトロニクスの進歩抜きには考えられませんが、これは、従来型の遊園地のジェットコースターや大型の乗り物にも当てはまります。

④ 資本費用が高い

いずれのタイプ、例えばスポーツ施設にせよ、テーマパークにせよ、初期投資あるいは追加投資はかなりの高額になります。このため、大型企業による寡占化の傾向が避けられません。家庭用テレビゲームあるいはいわゆるマルチメディア対応機などでも、任天堂、セガ、ソニー、松下、日電などハードウェアを提供できる企業はごく限られてきます。また、「遊ぶ人」は気まぐれで移り気ですので、「遊び」にはライフサイクルがあります。「遊び」を提供する企業側としては、ライフサイクルに合わせて新製品、新ソフトを提供するためその開発に膨大な人員、費用をかけなければなりません。

⑤ マクロとミクロの乖離

「遊び」が人々の生活から切り離せない以上、そして現在の経済状況が続くかぎり、「遊び」ビジネスは、産業としての将来性に恵まれているといつてよいでしょう。ただし、その中において、企業間の競争はますます激しくなっていくことは避けられません。

マクロ的に見れば前途は明るいといても、ミクロ的にはさまざまな企業間の競争と格差があります。前項に申しましたとおり、資本費用が高い企業構造を本質的に持っているわけですから、ひとつの失敗が大きな痛手を受けることがあります。

いかに新しい技術と人々に満足を与える仕組みを作っていくか各企業は常に努力しています。人を遊ばせるために骨を折るのが「遊び」ビジネスの宿命です。

夕べの会

豊富な話題で楽しい交流

'95.11.22

当会では、年4回の夕べの会を開催しています。そのうち3回は同窓生による講演を中心に運営しています。今回は山席者が自由に発言する夕べの会を11月22日に学生会館で開催しました。(出席者は18名)

久しぶりに大勢の方から発言があり、興味の深いお話、文化の香り高い話、日本の将来を案ずる話など盛り沢山で皆さんから大好評でした。そこで二、三話題をご紹介します。

折もおり、巨人が日本一になった余韻が残っていましたので、巨人軍後援会長の、田中隆氏(中46)から巨人優勝の喜びの声があつて大拍手、日本経済の景気回復のハズミになったとか。又、モロッコ訪問の土産話には、ジェットロに勤務したところのある高篠平太郎氏(中36)から関連のお話がありました。又、荻野文夫氏(中38)からは戦前の朝鮮における日本の諸政策について「識見」が披露され、日本は美味しい米作りの為に貢献した。そのような大事な事が見逃されていることに目を向けた話など興味ぶかく伺いました。さらに日下英元氏(高18)から急激な円高の進行でこのままでは日本産業の空洞化が進み、世界第2位のGNP国が21世紀には8位(今の英国)の姿になってしまふと言う警告、これには経営人を自負する面々も驚き恐れ入った感がありました。いずれも時間があつたらゆつくりと聴きたい話の連続でした(紙面の都合上割愛

させていただきます)。

尚、夕べの会の楽しみの一つに早川岩男氏(高2)のマジックがあります。今回は年末を控え、参加者の忘年会の余興対策として、手とり足とりの指導で大変好評でした。この場を借りてお礼を申し上げます。(矢部啓一郎)

「夕べの集い」

第1回 6月21日(26名)

・紀ノ国屋文左衛門に見る平成のバブル崩壊
・(懶エム・ビー・シー)取締役

日下英元氏(高16回)

矢部義一、浅野誠一、鈴木善男、松下雄一、佐々木忠一、山崎豊弘、荻野文夫、堀口武夫、平野寿作・せき子、田中 隆・文代、内田紀成、岡田良平・泉、岡部延夫、菅沼伸之、早川岩男、矢部敬一郎、吉田裕美、小熊忠三郎、糟谷 熊、長島恒雄、駒井正明、西 信之、横溝高至
第2回 9月27日(21名)
・I love 遊!

(懶ナムコ取締役 知的所有権室長

岡部延夫氏(高2回)

矢部義一、鈴木善男、松下雄一、増島雄二、山崎豊弘、堀口武夫、松本博一、田中 隆、内田紀成、岡田良平、柴崎育久、菅沼伸之、橋本日出松、早川岩男、矢部敬一郎、糟谷 熊、駒井正明、西 信之、笹崎能輝、横溝高至、石川正樹

第3回 11月22日(20名)

・自由交歓と早川さんのマジック
矢部義一、鈴木善男、増島隆二、荻野文夫

佐久間勇次、高篠平太郎、田中 隆、堀口武夫、内田紀成、岡田良平、岡部延夫、菅沼伸之、早川岩男、日下間哲郎、矢部敬一郎、松井顯敏、日下英元、西 信之、横溝高至、鈴木洋雄

「ビルゼン月例会」

4月8日(7名)

矢部義一、鈴木善男、松下雄一、田中 隆、岡田良平、菅沼伸之、矢部敬一郎

7月8日(6名)

矢部義一、鈴木善男、岡田良平、菅沼伸之、矢部敬一郎、高篠平太郎

12月8日(4名)

矢部敬一郎、田中 隆、増島隆三、荻野文夫
1月9日(6名)
増島隆二、荻野文夫、高篠平太郎、岡田良平、菅沼伸之、矢部敬一郎

阪神大震災へ義援金

この度の兵庫県南部の大地震による災害は想像を絶するものであります。在京初雁会でも役員が協力により会として僅か参万円ではあります。★今年度の鐘つき堂は夕べの会の講演を中心に会の活動にまとめてみました。

★現在の会員数は中学45名、高校36名の計81名です。新会員増強に皆様のご協力を宜しくお願ひします。(岡田)

鐘つき堂

在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 田中隆

1995年 (平成7年)
 初夏号 第59号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン TEL 3571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28
 学士会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎(企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田 良平(広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅 ☎1815
 事務局
 菅沼 伸之(財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

総会の席に今年は鈴木善男さんのニコニコ顔がない。学士会館にも、ピルゼンにも皆勤だった鈴木さんがこの2月に亡くなられました。歴史が好きで、一人旅で色々な事を現地に行っては調べ上げ、問わず語りに先人にもつわる歴史を熱心に話してくれた姿が思い出され、誠に淋しく残念でなりません。ご冥福をお祈りいたします。

在京初雁会も今年で43年目になります。会員消息欄にもありますように中学卒の会員の中には健康状態が思わしくなく、夕べの会等への出席は無理という方も多くありますが、

会費のご負担をいただき、時には激励の手紙で当会発展のために絶大な声援をおくって下さる先輩諸兄には感謝の気持ち一杯です。とは申せ、昨今会員数は減少気味にあります。会合への参加者も固定化されつつある現況では一人でも多くの新会員増強が事務局の急務であります。今年も別掲のように年5回の月例会と4回の夕べの会を企画しています。皆様方のご協力をいただき一人でも多くの方々にこの会を知って頂き伝統ある在京初雁会が活性化され益々同窓の輪が広がり末長く親睦が深まることを願ってやみません。(事務局)

もくじ

嗜好品と赤ちゃん	高島敬忠	2
会員消息欄		2
平成6年度決算書		7
平成7年度予算書		8
平成6年度事業報告		9
平成7年度事業計画		10

夕べの会開催

6月20日(火)午後6時より学士会館にて開催
 詳細は後日連絡します。

嗜好品と赤ちゃん

高島 敬忠 (高10)

3月22日夕べの会の講演要旨です。

医学博士・(財)東京都
保健医療公社東部地域
病院小児科部長・日本
大学医学部兼任講師

95.3.22

嗜好品とは栄養物ではないが、香味や刺激等の快感を与える飲食、喫煙物であり、酒、タバコ、茶、コーヒーなどということが出来ると思えます。

ところが、嗜好品の中でも、主として母体が摂取することによって、妊娠中の胎児に悪影響を与える物もあります。その代表がお酒です。胎児性アルコール症候群の我が国における第一例(一九七八年)を報告したのが演者であります。

欧米諸国において、一九七〇年代になってから、主に慢性アルコール症の母親から次々にこがらて、特徴ある顔付きをし、知恵遅れを伴う子供が産出してきました。

一番の問題は中程度の知恵遅れを合併することです。国民の質の低下につながると不安を感じた米国では一九八六年秋以降、全てのアルコール飲料のラベルにその危険性を記した政府警告文を記載することが義務付けられております。我が国の現状を申し上げますと、我々の第一例目の発表以来、約一〇〇例近くの報告があります。その予防対策に酒造会社や健康財団などが、パンフレットやポスターを作つてアルコールの胎

児への危険性をアピールしておりますが、若年層へのアルコール文化の浸透が問題になってい折、その知識の普及が急務と考えられます。

次にタバコは催奇形的に胎児には作用しないようですが、妊娠中を通して、一日五本以上喫煙している母親からは、小さな赤ちゃん即ち未熟児が産れやすい等の結果が出ております。

お茶、コーヒーの中枢神経作用の主成分はカフェインです。カフェインの胎児に与える影響は催奇形性の問題はないようです。しかし、カフェイン含有飲料を多量に長期に渡り摂取していますと、妊娠率の低下がみられるとも云われています。カフェイン含有量はコーヒーより玉露茶が一番多いようです。

最後に嗜好品と血圧との関係を見ますと、過度の飲酒は血圧を上昇させますが、一―二合程度の軽度飲酒者では血圧が低く、冠動脈疾患の発生も少いという報告もあり、適正飲酒ならまさに百薬の長の存在です。喫煙は循環器疾患の主要危険因子の一つであります。コーヒーは慢性飲用でも血圧の上昇には関与していません。

会員消息

3月22日夕べの会の出欠ハガキより。

坂田圭司 (中17)

夕べの会のご案内ありがとうございました。会長さん始め役員の方々の熱誠のご努力により在京初雁会も創立以来一回も休むことなくつづけられて来ましたことは、恐らく我が国高校同窓会としては日本一と思ひ誇りを感じております。どうかこれからも頑張つて益々盛大に永続することを望んで止みません。

扱て私は三月で満九十四歳を迎えました。最近足腰の不調が著しくなり、杖をついて家中をやっと歩ける状態となりました。しかし食欲は不相変旺盛で、殊に健康のパロメーターである日本酒は毎晩一合、最後の終までおいしく賞味出来ますことは現在の私の何よりの楽しみです。何とぞご安心下さい。それから三月十二日から始まる大相撲三月場所やプロ野球の観戦をたのしみしております。

内田静馬 (中22)

長年に渡り在京初雁会が継続し懇親を深めておりました御同慶のいたりに存じます。只小生健康上、毎回止むを得ず欠席して申訳ありません。

今回は高島敬忠氏の有益なお話しのようですが講演の要旨でも「鐘つき堂」で知らせて下さると幸堪に思います。

藤村信一 (中23)

病氣療養中に付、欠席させていただきます。矢部君、砂田君によろしく。

砂田太三 (中23)

米寿を迎えましたが、まだく若い人達には負けないぞと云う心がまえて、日々を過して参りましたが、先般来ひざ痛、肩、腕痛と続き、先日今度は就寝中、左腰に激痛が走り一晩中苦しみを味わい、やはり年令には勝てぬものとおつくづく体力の衰えを感じさせられました。これからは精々自重して、所謂老人の生活を心がけて進んで行き度いと思つて居ります。

矢部義一 (中23)

鈴木善男さんの思いがけない訃報、これと前後して大学の同窓四人が相次いで亡くなり、他人事ではない心細さを感じている。わが人生のゴールは有り難いことに、まだ見えないが勝手に廿一世紀の初頭と定めて、あと五年の間は現在の健康を維持して終りを完うしたいものと思つて居ります。

船津鴻之助 (中24)

二月十一日(紀元節)で満八十六歳となりました。不動産鑑定士では全国最年長で、二月十六日付第十回の更新登録を致しました(鑑定業

者は三年毎に登録を更新することになっていました。唯、最近腰痛で歩行にやゝ支障あり困っています。

安齊恒男 (中24)

高令となりましたので毎日一時間(五―六汗歩)のウォーキングをノルマとして実行、お蔭で健康保持できていますように思っています。只夜間の外出を控えていますので欠席勝ちをお詫び申し上げます。

橋本国治 (中26)

昨年暮、風邪で体調を崩して以来、専ら医者通いの状況です。

山本秀順 (中27)

近年身体不調にて静養中でありませう。故郷のこと、昔話等が一番嬉しいようであります。(代筆致しました)

落合義作 (中28)

年をとってからの手術なので回復に時間がかかります。夜間の会合には小田急線が混みまますのでご辞退して居ります。

最近好成绩で在京初雁会に出席して居られた隣り村の旧友鈴木善男君のご逝去に接し哀悼の意を表します。後輩のご活躍を祈ります。

柴崎武夫 (中28)

八十歳まで県立女子大学に現役で勤務していたが、引退した途端に体調が崩

れて入院、その後は家の内でも杖をついてよちよち歩きのみちめさだが、ありがたいことに妻と長男夫婦、大学生の男の孫が二人、六人家族でしょっちゅう軽口をたゝいて笑いあっているのが気分が明るい。この調子なら外を歩けるようにもなるうかと楽しみにしていると云うところである。

武田 葛 (中29)

ご連絡ありがとうございました。いつもユニークな企画で、会の充実を図られますご努力、感謝いたします。なかなか例会にも、夕べの会にも出席できずにおりまして失礼いたしました。皆様のご清福をお祈り申し上げます。

松下雄一 (中29)

二月下旬に前立腺肥大症治療のため入院、経尿道的前立腺切除術を受けました。術後の経過順調で今週中に退院の予定ですが、尿のものがあるので当分自宅で静養します。腰つい麻酔で約一時間、手術そのものは早くすみました。その夜は身体を動かさないので苦しみ、その後もおむつの世話になるなど閉口しました。老化現象の一つとして受けとめています。

野上完一 (中30)

身体不調(心不全)のため通院しております。初雁会も永いこと欠席で申し訳ございませんが、益々の御発展をお祈りいたします。

野澤勝三郎 (中30)

「案内載き有難うございます。当日は予定がありませんので欠席致します。お陰様で家内共々恙なく過して居ります。皆様によろしく。」

福田龍雄 (中32)

相変らずの難聴ゆえ失礼致します。耳以外は健康を保って居り、ゴルフ・水墨画・俳画・書道等の趣味は一応こなして居ります。会の益々の発展を祈念致します。御出席の皆様によろしくお伝え下さい。

橋本次郎 (中35)

御案内を頂き参席できなく失礼致します。腎臓を悪くして入院等をくり返し、今歩行に不自由して、外出は医師より注意をうけて居ります。又心臓の大手術後、会合等はひかえるようにと専ら家の中で過して居ります。皆様には宜しく又御身を御大切に。

山崎豊弘 (中35)

お陰様で息災しております。平素は晴耕雨読の生活、幸いにもこの年(75歳)までメスを体に当てられたことなく、齒は何んとか80→20を確保出来そう、更に眼はメガネなしで運転免許更新をパスしております。80歳迄は年寄りと思わず、これからも色々なことにチャレンジして余生を楽しもうと思っております。去二月八日のピルゼンの会に出席の処、僅か四名(矢部大先輩・増島前会長・矢部幹事と私)若干淋しき感でした。

岩泉惟人 (中35)

腰痛も逐次好転しておりますが、夜間外出は暫く要注意ということ、どちらにも失礼させて頂いております。悪しからずご諒承願います。皆様方のご健勝をお祈りいたしております。

細島博文 (中35)

日頃はごぶさたしております。新年度の勤務も昨年度とほぼ同様、多忙な毎日になりそうなので御無沙汰勝ちになるかと思えます。

何卒よろしくお願い致します。

荻野文夫 (中36)

いつも御連絡頂き、ありがたく御礼申し上げます。昨年長男一家がアメリカシカゴより帰国狭い処ですが二世帯同居することになり、目下改築中、その間近所のアパートに仮住い中で今月(三月二十五日)引越予定。雑用多く、今回は欠席させて頂きます。

松本博一 (中37)

御案内有難うございました。都合悪しく出席できません。目下、新しい国際関係についての著書を執筆中です。

佐久間勇次 (中38)

三代目「初雁の杉」順調に成長しています。平成五年四月二十九日 緑の日に記念植樹をしました。三芳野神社裏です。杉苗は日本大学演習林寄贈です。

阿部親興 (中38)

在京初雁会「夕べの会」のご案内を賜わり有難く御礼申し上げます。真に申し訳ありませんが都合により欠席させて頂きます。なお御返事の大変遅れました事を併せてお詫び致します。

間々田重信 (中39)

房総半島の中間に位置する、ここ君津。埼玉のような秩父おろしの枯っ風は吹かず、早春をしらせる水仙、紅・白梅、椿とつき／＼に咲いています。同窓の皆様にもお逢いして、楽しい川中時代の花も咲かせたいと思い乍ら、まだ七十一歳、風邪に勝てず失礼致します。

高篠平太郎 (中40)

本年三月開学以来勤務(国際関係論)した山村女子短大(比企郡鳩山町)を定年退職致しました。願れば、戦時下の川中の「皇国史」の授業で、「フランシスコ・ザビエルの渡来」や「邦人の南方発展」、果ては「長崎出島」や「下田のハリス」に殊の外、興味をもった私は、その後ユネスコや新渡戸稲造研究の学生時代、ジェトロそして山村国際文化学科と参りました。当時の川中生では少数国際派?に属していたのかなと反省するこのごろです。今後よろしくご交誼の程をお願い致します。

平野寿作 (中40)

元気です。

星野 猛(中41)

毎度御連絡頂き有難うございます。日々元気に過して居ります。

平岡寿夫(中42)

元気に過して居ります。仲々スケジュールが合わず、ついでに欠席して居りますが、会が益々発展される様祈ります。

内田幸男(中43)

ご連絡有難うございました。一応毎日、女子医大本部の方に出しております。当日残念ですが学内の会があり欠席させて頂きます。盛会を祈ります。

岡村了一(中43)

月例ビルゼンの会で「日中は仲々出難い。夕刻の会でも出来れば」と申しあげたのは二十余年も前のことでした。齢を加えながら、その夕べの会にも仲々出られぬのは不覚悟の事と反省しております。定命も思わず東奔西走は決して止められたことではありませんね。皆さんのご自愛を祈ります。

田中 隆(中45)

二月二五、二六日と宮崎の巨人軍陣中見舞に行ってきた。その折二軍スタッフとの懇親会で今年から外野守備コーチに就任した仁村(兄)君と話合った。彼は川越商業から早稲田大学を卒業後、プロに入り巨人には六年間在籍していた。現役当時から郷土の出身でもあるので応援し

ていたが、巨人を辞めてから実家で家業(農業)を継いで頑張っていた。今年になって松本二軍監督の要請でコーチに就任した由。人を教える立場となった仁村君の今後の活躍を期待し、盃を重ね、忘れ得ぬ旅行となった。巨人ファンの皆さん、二軍もぜひ応援して下さい。

清水順一(中48)

当日、(地ちん祭)所用により欠席致します。毎回、御連絡有難うございます。未だ現役に働いて居ります。

岡部延夫(高2)

元気だけが取り柄で、毎日カバンを下げて通っています。「遊びをクリエイトする」会社で若い人が多いので老け込むヒマがないのかもしれない。

日出間哲郎(高2)

中学生頃から柔道、山登りで鍛えた体力が貯金のように残っていて、皆様より体力があると自信を持っていた。然しそれは過信であって、現在残高はゼロに近く無理がきかなくなった今日この頃である。自分の醜さが目立たぬ前に現役を去りたいと思案中です。

矢部敬一郎(高2)

目下、桶川(川田谷)から京橋まで通っています。ビルゼンに近い(歩いて一五分)ので、八の日の例会には、常連の一人となっています。参加者があと二三人多いと遠くから出席され

る先輩によるこんでいたゞけると思っています。毎回でなくとも是非ご参加下さい。

休日は草花づくりに精を出しています。春が待ち遠しい今日此頃です。

内田紀成(高2)

この間NHKテレビで三浦三崎の料亭でカブト焼きが紹介されたのを見て「アナウンサーが仲居さんに「おいしい所はどこですか」と聞く」と目のおくの白い肉でドコサヘキサエン酸という不飽和脂肪酸があり、頭をよくする効用があります」と専門の用語をすらすらと話した事に感心しました。又鮪の頭が以前は捨てられていたものが、現在のグルメの社会によくも出されたものだと思っております。皆様の御健勝念じております。

橋本日出松(高2)

ご案内ありがとうございます。すっかりごぶさたして申訳ありません。相変わらず調子がわるく、折角のご案内ですが、欠席させて頂きます。ご容赦下さい。

早川岩男(高2)

よろしく。

柴崎育久(高2)

残念ながら台北へ行っています。台湾の人々と俳句で交流して来ます。台北で二度ほど日本語で句会を催しますが、このツアーどうなるかとやら興味深々です。

長島恒雄 (高3)

勤務先の会社の方は非常勤になりましたので、週二、三回顔を出しています。新聞や雑誌から頼まれた原稿を書いたり、二、三の研究会に出席したり、のんびりした生活を送っています。今回の在京初雁会には都合が悪く出席できません。ご出席の皆様になしく。

糟谷 熊 (高3)

返事がおくれまして申しわけありません。

中村生秀 (高3)

高校三回生の同窓会が平成七年二月二六日、川越の「山屋」で開催され、八〇名余の参加者があり盛会でした。

小熊忠三郎 (高3)

神戸大震災と東京大空襲。五十年前の三月十日浅草での東京大空襲体験者として、いろいろ考えさせられる。一瞬の地震と一夜の空襲で五千四百人と十万人の命を奪うこととなった天災と人災。誰も考えなかったたった十秒間の神戸と予想はされたがまさかのB29三百余機による焼夷弾爆撃の東京。学童集団疎開から中学進学のため帰京三日目の災難で幼い命を失った国民学校時代の学友と被災地の小学校で明るく授業を受ける神戸の小学生。戦争と平和などなど。

駒井正明 (高4)

去る二月十八日(土)川越プリンスホテルで盛大に開催された川高柔道部総会に出席し、久々

に初雁健児の息吹に接してまいりました。

松井頼敏 (高4)

三回目の米国ユタ州訪問から2月25日帰りしました。禁酒、禁煙、禁コーヒー、禁お茶。つまり真面目人間でないとは滞在できないので、私が毎年学生と一緒にホームステイに出される訳です。昔の日本のいゝ所だけが残っている安全なアメリカがあります。

鈴木 勇 (高7)

企業の宣伝活動も上向きとなり、広告業界にも活気が戻りつつあります。私の担当する雑誌業界も新雑誌の創刊が相次ぎます。ただ、どのジャンルも読者数は頭打ちとなっており、きびしい生存競争が続くものと思われまます。広告集稿という窓から各誌の栄枯盛衰をのぞくことになりまます。

鈴木洋雄 (高15)

当日どうしても都合がつかまません。皆様によりしくお伝え下さい。

西 信之 (高17)

平成六年六月二十一日の「夕べの集い」に初めて参加して、早や一年が経ちまます。先輩諸兄の貴重な講演を聞き、美味なる御馳走にあづかり、大層有意義な時を楽しんでおります。私(高十七回)を含めて中年(?)が少ない気がまます。今年には仲間達に声をかけたいと思っております。

笹崎能輝 (高18)

ご案内ありがとうございます。当日より中国に参る予定です。残念ながら欠席させていただきます。

川合善明 (高21)

二月二五日に事務所を移転し、これまでより広くて、駅(飯田橋駅)に近くなりました。四月からは、新しい弁護士も入り、更ににぎやかな事務所になりそうです。

〒162 東京都新宿区揚場町2番18号

川島ビル2階

TEL 03 (3267) 2421(代)

横溝高至 (高21)

お世話様になります。昨年夏イギリスに行ってきました。ロンドンだけでなく、エクセターといういなかの町にもよりました。伝統を重んじる国であることをつくづく感じました。本年三月にフィリピンに行く予定です。外国を見、少しでも勉強してみたいと思っております。

野口准史 (高22)

残念ながら研修期間中のため参加できません。またの機会を楽しみにしています。

石川正樹 (高25)

本年一月より事務所を独立開業しました。

在京初雁会平成6年度決算

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

平成7年4月10日

財務担当 菅沼 伸之

1. 一般会計

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰越金	59,729	59,729	
年会費	200,000	200,000	80名分
預金利子	5,000	2,961	
雑収入	0	28,000	阪神大震災義援金として田中1万、岡田4千、矢部敬・菅沼各3千。阿部氏夕べの集い欠席分の会費受領 岩崎氏香典郵送満期持ち戻り
(計)	264,729	290,690	
支出の部			
会報印刷	120,000	114,000	第57号、第58号
新企画	10,000	30,000	阪神大震災発生で緊急役員会により義援金を拠出
夕べの会	20,000	△29,879	
月例会	3,000	6,735	
慶弔費	9,000	10,000	故 岩崎精夫氏 鈴木善男氏
会議費	10,000	0	
通信費	60,000	55,196	
事務費	3,000	5,968	
振替手数料	4,600	3,960	
雑費	15,000	2,781	
(計)	254,600	198,761	
残額(繰越)	10,129	91,929	

2. 特別会計(基金)

定期預金 25万円(利息は通常会計の収入として計上)

平成7年4月10日

上記の通り相違ありません。

監事 横溝高至

在京初雁会平成7年度予算

(平成7. 4. 1～平成8. 3. 31)

財務担当 菅沼伸之

1. 一般会計

項目	実績			7年度予算案
	4年度	5年度	6年度	
収入の部				
繰越金	51,683	181,334	59,729	91,929
年会費	230,000	212,500	200,000	230,000
預金利子	1,171	4,387	2,961	5,000
雑収入	0	212,500	28,000	0
(計)	282,854	610,721	290,690	326,929
支出の部				
会報印刷	60,000	105,760	114,000	120,000
新企画	0	196,228	30,000	50,000
夕べの会	26,924	16,903	△29,879	30,000
月例会	△5,289	2,258	6,735	8,000
慶弔費	3,000	6,000	10,000	15,000
会議費	10,437	0	0	20,000
通信費	44,664	55,550	55,196	60,000
事務費	6,368	896	5,968	5,000
振替手数料	4,320	4,509	3,960	4,500
雑費	4,944	13,338	2,781	5,000
(計)	101,520	401,442	198,761	317,500
残額(繰越)	181,334	209,729	91,929	9,429

年会費納入のお願い

本会の運営は会員の年会費(¥2,500)の収入を主たる財源としております。本紙に振替用紙が同封してありますのでご利用下さい。6月末までに払い込み下さいますようよろしくお願い申し上げます。裏面通信欄をご活用ください。

月例会(ピルゼン)

の

御案内!

7月10日(月)・12月8日(木)・1月8日(月)

交詢社ビル1階 **ピルゼン** 2月8日(木)

正午より1～2時間で会費は2000円です。

御連絡はしませんが、たまには銀座でビールで乾杯!!

在京初雁会平成6年度事業報告

(平成6年4月1日～平成7年3月31日)

1 会員の動向

- イ 会費納入者 80名(中学44名、高校36名)
ロ 物故会員 鈴木善男(中28)
ハ 新入会員 高篠平太郎(中40) 吉田栞美(高2) 糟谷 熊(高3)
大野一良(高10) 鈴木洋雄(高15) 日下英利(高16)
西 信行(高17)
ニ 脱会者 野上 正(中37) 高橋克治(高2) 橋本秋穂(高17)
高橋明吉(高12)

2 行事

- * 鐘つき堂 1994年初夏号57号(6月)
1995年新春号58号(1月)
* 月例会 5回
* タベの会 4回
* その他 2回(母校同窓会、散策会)

参考：月例会の内訳

- ・ 4月8日(金) 月例会・総会(ビルゼン) 参加者7名
- ・ 5月8日(日) 母校同窓会(川越高校) 参加者15名
- ・ 6月21日(火) タベの会(学士会館) 参加者27名
『紀国屋文左衛門にみるバブルの崩壊』日下英利(高2)
- ・ 7月8日(金) 月例会(ビルゼン) 参加者6名
- ・ 9月27日(火) タベの会(学士会館) 参加者21名
『I love 遊』岡部延夫(高2)
- ・ 10月16日(日) 本校同窓会・散策会(坂戸周辺)
- ・ 11月22日(火) タベの会(学士会館) 参加者24名
- ・ 12月8日(木) 月例会(ビルゼン) 参加者4名
- ・ 1月9日(月) 月例会(ビルゼン) 参加者6名
- ・ 2月8日(水) 月例会(ビルゼン) 参加者4名
- ・ 3月22日(水) タベの会(学士会館) 参加者18名
『嗜好品と赤ん坊』高島敬忠(高10)

平成7年4月10日

総務担当 矢部敬一郎

在京初雁会平成7年度事業計画

- 1 事業内容を充実するため次ぎの事業を実施する。
 - イ 会員の増強を引き続き行う。(入会の菜等作成)
 - ロ 行事内容の改善に努め魅力のあるものにする。
 - ハ 参加しやすい行事に一部変更する。
 - ニ 平成8年度の「散策会」を当在京初雁会の企画により東京都内で行なうための準備をする。
- 2 行事
 - * 鐘つき堂 2回発行
 - * 月例会 5回
 - * タベの会 4回(うち1回は他会場)
 - * その他 2回(母校総会、散策会)
 - 3 月別計画
 - 7年 4月10日(月)月例会・総会(ビルゼン)
 - 5月14日(日)母校同窓会(川越高校)
 - 6月20日(火)タベの会(学士会館)
 - 7月10日(月)月例会(ビルゼン)
 - 9月19日(火)タベの会(場所未定)
 - 10月15日(日)本校散策会(志木初雁会)
 - 11月21日(火)タベの会(学士会館)
 - 12月 8日(金)月例会(ビルゼン)
 - 8年 1月 8日(月)月例会(ビルゼン)
 - 2月 8日(木)月例会(ビルゼン)
 - 3月19日(火)タベの会(学士会館)

平成7年4月10日

総務担当 矢部敬一郎

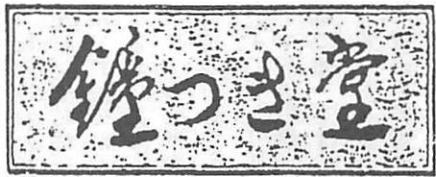
編集後記

世の中に絶えて桜のなかりせば
春の心はのどけからまし
明日ありと思う心のあだ桜 夜
半に嵐の吹かぬものは 昔から
桜にまつわる歌は沢山ありますが
皆さん今年のお花見はいかがで
したか。私も千鳥ヶ淵公園の夜桜見
物に行ってみりました。ライト
アップされた満開の桜と塚の向う
にピンクに霞む夜桜の風情は昨今
の物騒な世情をも忘れさせるそ
れは見事なものでした。その桜もあ
つという間に散り、新緑が目にし
みる爽やかな季節となりました。
5月14日(日)には本校の同窓会が
開催されます。お暇がありましたら
是非お出掛けください。川越の
蔵造り街も電柱がなくなり大変美
しい街並みになりました。

事務局3人衆も矢部君は最近ギ
ックリ腰になりましたが今は元氣
で京橋まで通っています。菅沼君
は会社のOB会で5月の末頃中国
雲南省昆明方面に旅するそうて張
り切っています。私も先日田中会
長と東京ドームで巨人・阪神戦を
観戦しました。会長ご自慢の巨人
5点打線実らず我がタイガースの
快勝に美味しくビールを飲みほし
ました。

次回の鐘つき堂は11月頃を予定
していますので皆様からの投稿を
お待ちしております。

(岡田)



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 田中隆

1996年 (平成8年)
 新春号 第60号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ビルゼン TEL 3571-2236

タベの会

千代田区神田錦町3-28
 学生会館 TEL 3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎(企画・総務)
 〒963 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

岡田 良平(広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅 " 1815

事務局

菅沼 伸之(財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

明けましておめでとーございませす

会長 田中 隆

今年の干支は丙子(ひのえね)です。今さら干支
 でその年を易うつもりはありませんが昨年は余り
 にも悪い年であったためかいつい今年のことか
 心配になり矢部先輩からいただいた文献コピーを
 読ませていただきました。そこで丙については「か
 まどの内で火が燃えて明るくなる」という意味が
 あり、また子は十二支のスタート、子の字は了(お
 わり)と一の合成文字で事始めの意味があり丙も
 子も先行明るい年であるようで古くから一陽来福
 の可能性を持つ年であるとされている。

以上のことを考えてみると今年はおウム事件も
 解決して昨年のような物騒なことも無いはず、ま
 たどん底景気も改復の兆がはつきり出てくるはず、
 明るい年になってくれることと思います。わが在
 京初雁会も今年是一段と飛躍し一陽来福の年にな
 るはず、秋には散策会を主催することになってお
 ります。暖くなったら早速粗案を練って皆様と相
 談したいと思っております。開催場所としては同
 窓会総会で要望のあった東京下町散策ということ
 に決定しておりますが交通・昼食会場のことを考
 えこれから具体案を考えなくてはなりません、い
 ずれにしても会員皆様のご協力が無いと出来ない
 ことであり、よろしくお願い申し上げます。

もくじ

- 会長挨拶……………田中 隆…1
- 回想の
イスタンブール……………高篠平太郎…2
- デフレ乗り切り策……………日下英元…3
- 会員消息……………菅沼伸之…5
- 秋季散策会……………菅沼伸之…8
- 例会だより……………10

3月19日(火)タベの会は

西田守氏(高7)の

『チベットの紀行』

回想のイスタンブール

高篠平太郎氏(中40)

'95.6.20

高篠平太郎氏は、今から二十年程前の約四年間(一九七三—一九七七)、当時のジュネロ(日本貿易振興会)イスタンブール海外事務所長として、家族四人を伴なって現地駐在された。国際情勢はその後大きく変化したので、今日のトルコ、イスタンブールを語ることはいさゝか僥越だとして、いわば「回想のイスタンブール」のタイトルで卓話をお願いした。もともと、当日配布された氏の旧著「武威野に帰るの記」の中に、すでに同名の章節があるので、それを転用されたのかも知れない。

古来、東洋と西洋の交差点といわれたイスタンブールは世界で最も古い都の一つである。今世紀の初めまではオスマン帝国の首都であり、それ以前、十五世紀中ばまでの約一千年は東ローマ帝国の都コンスタンチノープルとして、さらに遡っては、ギリシア人ビザスの都ビザンチウムとして栄えて来た。したがって、その歴史的遺跡も多重性に富み、世界の名峽ボスポラスに沿い、ローマと同様七つの丘からなるこの古き都はつきぬ歴史の厚みを感じせしめ、中でも、

ローマ水道、アヤ・ソフィア、ブルー・モスク、地下水道、ルーメリ・ヒサール、ガラタ・タワー、トプカプ宮、ドルマバフチェ宮殿などは余りにも有名である。一方では、古代テオドシウス城壁の苦むした崩落の姿にオスマン軍のコンスタンチノープル最後の攻撃の激しさを彷彿させ、クリミア戦争の廃兵院を訪ねてはナイチンゲールの赤十字精神を偲ばしめ、或いは又、トプカプ宮を彩る伊万里焼の逸品に遥か東方、日本の江戸期美術を目のあたりに見るのである。

さて、ケマル・パシャ以後今日までのトルコは、近代化・西歐化を国是として改革を進めているところから、道路、港湾、工業、観光等の整備が進み、著るしく解放されたが、社会の内側、裏側に入ればなお旧きものが名残りを留めているのは何れの国も変りはない。それらの中の幾つかは、早朝や昼下り、さらに夕方に聞かれるイスラムの祈りの街中に流れる響きであり、モーツアルト等「トルコ行進曲」の源流ともなったトルコ軍楽隊の勇壮な吹奏楽である。或いは又、ガラタ、ベヨール地区に残る中世以来の



イスタンブールのモスク

デフレ乗り切り策

日下 英元 (高16)

東京大学法学部卒、明治河
電工経営企画、管理部門を
経てサンワ専務監査法人助
務後、現在株式会社・ビー
シー(コンサルティング会社)
にて活躍中。

'95.11.27

長期間のデフレ経験を有するのは世界でも日本だけである。江戸時代、新井白石による正徳の治(一七一一年)から八代将軍吉宗による享保の改革(一七四五年)に至る三五年もの間、我が国はデフレ政策を採り続けた。

幕府の意図は台頭する商人の勢力を削ぐことであつた。まさに、現在は合衆国から同じ課題を押し付けられたのである。江戸時代はこのデフレ政策のお蔭で大きな事業体は住友・三井・鴻池の三つが残っただけだつた。

先に、元禄の凄まじいバブルの時代が十三年間も続いた。この中で呉服屋をしながら儒教・神道・仏教・老子・荘子の思想をマスターし、考え続けた男がいた。それは石田梅岩である。氏の思想は都鄙問答と儉約齊家論にまとめられる。この思想を西洋と比較すれば、比較的類似しているのがジョン・スチアート・ミルの功利主義論だろう。

しかし、ミルの思想は土地や水・空気が欠けている。梅岩は宇宙に根差している。また、功利主義論の中心は節約であり消費の概念から出

ていない。梅岩の節約の目的は活用であり、生かすことである。

リストラに例を取れば、五人でした仕事を四人で済むようにした。合理化である。問題は不要になつた一人を如何にするかである。功利主義なら解雇も有り得る。しかし、儉約論では他に生かす職場を提供しなければ目的を達成してはいないことになる。

最近の日本の大企業は、功利主義に基づいたリストラに走つた。結果として、需要を過度に抑制してしまつた。デフレの輪廻の渦を加速してしまつたのである。

それでは乗り切る策は何か。相撲では心技体が必要という。以前、大鵬という力士がいた。横綱になつて間もなく三場所ほど休場した。その休場明けに三場所連続全勝優勝したのである。確か五五連勝ほどしたと思う。優勝回数に更にその後も伸ばした。ところで、休場していたとき、氏は三島の龍澤寺で禅の修行をしていたのである。心が開けたのだろう。従来は相手の動きを肉眼でしか見てなかつた。その結果、体全

ベニス、ギリシア、アルメニア人教会のたたずまいである。かつて東西貿易に栄えいまなお残る胡椒市場の中で、インドやアフリカの強い臭いをおくこともできる。そこは又、かつて東洋に憧られた西欧人士が降り立ったオリエント・エクスプレスの終着駅シリケジの広場から程近いといつた具合なのである。

さらに、氏は現代トルコが抱える問題にも言及する。氏は昨平成七年三月まで山村女子短期大学(比企郡鳩山町)教授の職にあつて国際関係論を担当した立場から、自著「地域研究としてのトルコ」をも持参配布され、その中で、特にトルコの民族問題及び国際経済問題にふれ、実に永年にわたるEC(EU)加盟を悲願としながら、その経済の恒常的不均衡とその文化のイスラム的特質とが、「ヨーロッパ」という同一性に対する阻害要因ともなつて、いまなお実現し得ないでいる。確かに、ビジネスにせよ、日常生活にせよ、イスラム社会に於て常に感じかつ反省したことは、「何事もあせらず、あわてず、あきらめず、あてにせず、あんしんせず」、すなわち「五あず」ということであり、性急な日本人に為めになつたことである。最後に、氏は、在土四年間対日感情は良好で、悪意によるいやがらせを受けたことはなかつた、と述べ、「是非、飛んでイスタンブールへ。」とこの卓話を結んだ。

「おわり」

体で見えるようになったのである。すると、身体は自然に相手の動きに対応するようになった。国や企業で技は教育による学力・経験や知識・コンピュータを使った情報処理能力等だろう。また、体は経済力や軍事力等である。さて、問題は心である。心を開くには他力ではできない。禅でもスポーツや芸術に耽るも良い。自力で心を開くことがデフレ対策の主眼である。次に、このことをデフレ対策として詳細に見よう。

第一は、自分の位置を確認することである。氏系図の中における自分・地域社会の中における立場・社会全体の中から見た自分の仕事の位置・職場での役割等をしつかりと確認することである。これは孔子が集大成をしたと言われる易経が中心である。易と言っても占いではない。羊を見て、羊の本姓を見抜く力である。

第二は、正直であり真実を見る心を備えることである。不良債権は政府の発表で四十兆円という。各銀行が隠しているから実額が判明しない。百兆円以上という説が正しいようだ。日本の失業率は職業安定所の求職者数を有効労働人口で割って算出している。雇用保険受給期間が切れて職業安定所に行かなくなれば失業者ではない。働く意志がないという。しかし、数字にだまされ、真実を見え難くしているのではなからうか。

第三は、亡霊にだまされるということ。私は子供の頃、怖い話を聞くと一人でトイレに行

けなくなったことがある。亡霊によって行動や思考が停止するのである。

大人になっても責任・権威・権限等の亡霊に悩まされてはいないだろうか。経済学の対象から土地は除かれている。ところが、その経済学者に地価の高騰対策を諮問した。優秀な教授という肩書に任せて従った。お蔭でバブルは見事に弾いたのである。

神道に三種の神器がある。中心は鏡である。渡会家行という室町時代の伊勢神宮外宮の神官が神道の思想をまとめたと言われる。その説では「神とはカガミを縮めたもの」という。自分の顔がよく写るように磨けと言う。神の本質は自分の真の心である。毎日見れば自分の健康状態をも知ることができる。そして、草薙の剣である。これは己の邪心と他からの誘惑を断ち切れと言う。勾玉は本来の胎児を意味する。これは氏系図の内での自分の立場の尊さを示すものである。

さて、以上のことを基にして、従来の仕事のビジョンを再認識するのである。そして、周囲の状況を見直す。海外に工場を移転した企業は、自分勝手な打算だけに走っていないだろうか。節約で止まっては居ないだろうか。

長期計画を立てられていない企業が多い。長期計画は過去のデータに基づいて作成するものではなく、経営者の哲学や指針を示すものである。長期計画がしっかりしていればバブルの途中で方向を変え、在庫の整理ができたはずである。

また、日本の空洞化もこんなに早くは進まず、デフレも緩和されていたろう。

さて、デフレからの脱出には、国家レベルで考えると、ウソやごまかして固められた官公庁や政治からは不可能だ。大手企業も同様である。対応の早い中小の中堅企業から始めなければならない。

もう一つは、国民の一人一人からである。政治家は儲かるのか？そのような人を選んだのは国民の総意である。鎮守の社殿に向かい、願いを込めて折る。神頼みに賽銭を奉納する人は少なくない。その賽銭はあらたかな神への賄賂では無いだろうか。フランスの核実験反対を唱える人は多い。しかし、日本のフランスからの輸入額は昨年より二割ほど伸びているという。早急に国民各自の心を開き、自覚を促さなければならぬようである。終

日本経営の原典

石田梅岩

デフレ時代を生き抜く知恵

山木育



日下英元氏(山木育)の著書

会員消息 (順不同・敬称略)

11月27日夕べの会の出欠ハガキより。

武田 葛 (中29)

いつもご尽力ありがとうございます。夕べの企画、設営等、並々ならぬご尽力と存じます。出席の都合がつきませんのを残念に存じます。ご盛會を祈ります。

笹崎能輝 (高18)

当日は残念ながら北海道へ出張のため伺えません。皆様によりしくお伝え下さい。

PR 「お歳暮にサイボクハムをヨロシク」

鈴木 勇 (高7)

定年退職者の送別会の為欠席いたします。

10月29日、川中野球部育ての親、飯田亮先生の記念碑建立60年祭を野球部OB会の主催で母校校庭で行ないました。当日は川中20回卒という大先輩もお見えになり、又、深井校長、渋谷同窓会長にもご出席いただき、大変楽しく有意義な会合となりました。

西田 守 (高7)

当初、チベットの文化使節団のご報告を予定しておりましたが、当日函館に行くことになってしまいました。

「日本海から太平洋まで」糸魚川から塩の道を

歩いて九十九里の白子町に達する計画、10月28日からいよいよ出発しました。来年五月白馬の麓を歩きます。皆様も参加下さい。詳細はTEL下さい。

高島敬忠 (高10)

前略 学会等で多忙につき失礼いたします。役員の方々は勿論の事、会員諸兄も御存知の事と思いますが、田中会長が今秋日大医学部教授並びに板橋病院院長を御停年にて御退職されましたことを御報告申し上げます。では御盛會を祈念申し上げます。

石川正樹 (高25)

会社の倒産事件が入り処理に追われております関係上、欠席させていただきます。

内田静馬 (中22)

在京初雁会の御案内を毎回いただき恐縮です。銀座に職場のあった頃ビルゼンには同じみでしたが現在八十八才の老令で出かけられません。日下英元氏の講演もいずれ「鐘つき堂」にて読ませて下さらば幸。初雁会員御一同の御健闘を祈ります。

岡部延夫 (高2)

当日、横浜で会議があり、終る時刻が午後六時頃なので已むを得ず欠席させて頂きます。法務全般と知的財産権(特許・商標など)を担当しておりますが、最近は特に米国内での知的財産権関係のクレームの対応が増えています。

米国内での訴訟は日本では考えられないほどの弁護士費用などがかかりますので、どの辺が相手の落としどころかを見極めながら交渉をする必要があります。おかげ様で体調はますますです。

砂田太三 (中23)

在京初雁会夕べの会開催、何時も乍ら大変御苦勞様に存じます。小生お蔭様にて何とか元氣にはして居るのですが、何分にも老令であり、なお体調のこともありますので夜は出歩かぬ様にして居りますので残念乍ら欠席させて頂きま。会員の皆様に何卒よろしく願ひ上げます。

安齊恒男 (中24)

毎日のウォーキングを続けている関係か健康を保っています。寒くなりましたので夜間の会合は差控えております。ご盛會を祈念申し上げます。

船津鴻之助 (中24)

八十六才五ヶ月、腰痛のため歩行にやや支障あり。欠席させて頂きま。

亡父長喜(大正十一年まで二十五年間仙波村長、市制後は副議長)の伝記が川越市博物館より近く発刊される予定です。

橋本國治 (中26)

体調不良のため。

浅野誠一 (中24)

老体の体調不良(来年九十歳)のため出席で

きません。寝たり起きたりしています。皆さんによろしく。

在川越ですから在京初雁会の資格ないでしょう。

平岡寿夫(中42)

先約がありますので残念乍ら出席致しかねます。御了承下さい。

内田幸男(中43)

ご連絡有難うございました。都合がつかず申訳ありません。欠席させて頂きます。

小熊忠三郎(高3)

早大台湾同学会(同窓会)の招待で八年ぶりに高雄と台北へ行く機会がありました。バイクはもとより、自動車の数が多くなったことに驚かされました。ベンツやBMWの高級車から世界各国の車にあふれ、この国の経済発展ぶりがしのばれました。

ご返事おくれ申しわけありません。

岡村了一(中43)

先約会議のため欠席します。

藤村信一(中23)

平成七年十月十六日、夫、信一八十七才にて永眠致しました。

長年お世話になり、どうも有難うございました。

星野 猛(中41)

健康に過して居りますが、東京に行くのは億

劫になって居ります。

間々田重信(中39)

十月も去って行きました。秋の聲音が日に日に深まってゆきます。埼玉から千葉に移居して三十一年、天与も川越は再参訪れています。子鳥達は巢立ち、古巣には親どり2、72才67才と健在です。

松本博一(中37)

御案内有難うございました。都合悪く欠席させて頂いていただきます。今夏「国際関係の思想と現実」(高文堂出版)という本を出版いたしました。

荻野文夫(中36)

いつも御連絡ありがとうございます。あいにく当日、親戚の用事先約あり、やむを得ず欠席させて頂きます。次の御連絡を楽しみにしております。

岩泉惟人(中35)

何時も大変お世話に預り有難うございます。良い時候になりましたが皆様益々ご健勝の御事とお慶び申しあげます。

細島博文(中35)

何時も大変お世話になりました。有難うございます。残念ながら当日は他と会合を先約してしまいましたので欠席致します。御盛会をお祈り申し上げます。

橋本次郎(中35)

御案内をいつも頂き有難うございます。小生体の調子がまだ不十分で参席できなく残念です。皆様には呉々も宜しく。

時節柄呉々も御大切に。

金子紀孝(中33)

高令のため、失礼します。

野上完一(中30)

いつも乍ら体調不良の為欠席いたします。御盛会をお祈りいたします。

野澤勝三郎(中30)

晩秋の候となりました。日毎に寒さが加わって参りますがご健勝の事と存じます。何時もご連絡を戴き有難うございます。残念ですが欠席させて頂きます。

小生恙なく過して居ります。

橋本日出松(高2)

折角のご案内ですが、同じ日の同じ時間に日本経済新聞社の販売局OB会がありますので参加の返事を出してあります。申訳ありませんが、ご容赦下さい。

先日は、志木の散策でご厄介になりありがとうございました。

吉田裕美(高2)

大学研究発表会の為。

松下雄一(中29)

氣候の変動について行けなくなり、体調をくずしています。在京初雁会にも欠席がち、特に夜間の外出は自信がなくなりました。八十年の回顧をまとめていますが、社会人になってからは仕事一辺倒で、その記述も殺風景なものになりそうです。

松井顯敏(高4)

授業が終るのが6時になりますので。

朝夕の気温が十五度位で、低湿度の米国ユタ州で八月下旬から九月上旬を過したせいかい陽氣を一度トクしたような氣になっています。酒、タバコ、コーヒー、紅茶なしの生活の楽しさを思い出しているところです。大学というところは半年以上も先のことを決めるところで、現在多忙です。

長島恒雄(高3)

現在新日本証券顧問など二社の顧問と一社の監査役を勤めています。また幾つかの新聞、雑誌の時評を担当しています。現役時代に比べるとかなり暇にはなりましたが、一日一万歩を目標に『晴歩雨読』の生活を送っています。

中村生秀(高3)

富山出張につき欠席致します。いつも欠席で申し訳ありません。

皆様によりしくお伝え下さい。

落合義作(中28)

いつも御案内いただき、有難うございます。手術後約一年三ヶ月経過しましたので体調はよくなって居りますが歩行が若干悪く、夜は特に小田急線が混雑しますので他人にご迷惑をかけてはと思い残念乍ら欠席させていただきます。

田中 隆(中45)

十月七日をもちまして任期満了により院長を退職いたしました。今後は総合科学研究所教授として研究指導、診療を続けております。

柴崎育久(高2)

毎度幹事様ご苦勞様です。先回は欠席で失礼いたしました。

堀口武夫(中36)

(本を読む人もあれば味う人もあるが皆さんは) 　　また、生きていたのか……三六回生も萩野君と二人づれ。カメラをもたないと手もち無沙汰のよう志木市まで三十五回生にたつぷりと聞かされて参った。石田梅岩の本、三十年振に再読。当時から実用の書として小生を支える。さつかくに生きる世の中とも言えそうです。

佐々木忠一(中32)

健康診断なるものを十年ぶりで受けました。十年前の診断は大学の規定で義務づけられておったので医学部のドックでした。十年ぶりで受けたのは専任(常勤)学院長となって初めて義務を果たしたまでのことでした。そして結果

は、何一つ注意することはありませんとの医師の仰せでした。因みに3ヶ月後80才となります。

高篠平太郎(中40)

前回、秋の夕の会は急用生じ、欠席致し残念でした。

今回は忘年会には一寸早いようですが繰合せ出席致したいと思っています。トルコの話も放言しっぱなしで申し訳ありません。幹事さんご苦勞様です。

阿部親興(中38)

ご案内有難うございました。体調に著しい支障のない限り出席させて頂きます。

西 信之(高17)

仕事の調整ができましたので参加いたします。尚、同期の関口君(大東文化大勤務)東松山在住を誘っております。宜しくお願いいたします。返事が遅くなりまして申し訳ありません。

駒井正明(高4)

七月より富士汽船(株)常勤監査役として左記に勤務して居ります。

近くにお越しの折は、是非お立寄り下さい。

新宿区富久町十三-十九

電話 〇三(三三五) 一一九一

矢部義一(中)

あと一ヶ月余りで九十歳の春を迎えることに

なりました。これまでさしたる病氣にも罹らず
予想外の長寿に恵まれているのは有り難いこと
です。元日の朝には背瀾瀟沢栄一翁、九十歳の
年頭作の左記漢詩の書を床の間に掲げて感新
たにしようと思つています。

義理何時能両全 每逢佳节思悠然
回頭愧我少成事 流水開花九十年

己巳元旦書感 青瀾逸人

(訳)

義下理下何レノ時カ能クフタツナガラ全ウセ
ン 佳节ニ逢ウ毎ニ思イ悠然 コウベヲメグ
ラシテ我方成事ノ少キヲハズ 流水開花九十
年 (昭和四年)

内田紀成 (高2)

キャンペーンの仕事で土曜にかり出された長
男が晩ごはんの時間に帰って来ないので、嫁に
「いつ帰って来るんだい」と聞いたら「今夜は
超おそくなるよ」と答えた。「だいぶおそくなる
よ」という三文字が二文字になり会社の忙がし
さが、言葉にも表現されるのだろうか。忙中の
閑を必要とする時代であると思う。

山崎豊弘 (中35)

毎度御案内を頂き有難う御座います。前回の
紀伊国屋を面白く拝聴しましたが、今回の演題
も期待しております。小生お蔭様で元気でおり
ます。去る十月八日(日)川越で中学三十五卒業の

川越高校同窓会・秋季散策会

志木の里に百余名集う

'95.10.15

昨秋の十月十五日(日)に志木市内で、恒例
の川越高校同窓会の散策会が、志木初雁会(会
長・井下田慶一郎氏(中35回卒)の主管で盛大
に行なわれた。当日は絶好の秋晴れにも恵まれ、
中32回から高35回まで半世紀にわたる同窓生が
夫人を含め一〇二名参加、交々に昔を思い出し、
近況を語り合い、楽しい一日を過ごした。当会

からは、田中会長はじめ会員十二名と夫人二名
が参加した。以下はその日のメモである。

十時に柳瀬川駅集合ということであったが皆
の出足は早く、十分前に着いたら係員に「後五
人だけです」といわれ、あわてて受付をすま
す。駅前広場では、懐かしい顔が三々五々にグルーブ
をつくり思い出話に夢中である。同駅は柳瀬川

同窓会が開催され二十二名出席し、約六十年の
タイムトンネルをくぐって若返り、川中時代の
想い出話に花を咲かせてまいりました。

山本 道 (中32)

ここ十年来老化現象でしょうか時折腰や膝に
激しい痛みを覚えると、その都度ハリ治療で治
しております。ハリなどと初めは馬鹿にしてい
ましたが松下幸之助氏から勧められて始めまし
たこの東洋医学は私にとっては効果靨面で、今
や無くてはならないものとなっております。間も
なく七十九才になります。ゴルフ、墨絵等で何
となく日々を過しておりますが政治問題やオウ
ム等で時には怒り心頭に達して血圧を高めてお
ります。

右岸の水田地帯に設けられた駅であるが、駅周
辺は開発も進み、中層マンションを中心にビル
や住宅がたくさん建ち並び、昔の姿を想像する
ことはできない。

定刻十時、志木初雁会の役員から道中の交通
安全についての注意があり、会旗を先頭に出発
する。駅前道路を横断するとすぐに柳瀬川、堤
防を上がり右岸の道路を川下へと下る。眺めは
よし、空気はうまいとあって思わず深呼吸する。
ほどなくして堤防から外れ、ゆるい坂を上り高
台に着く。

駐車場になっている広い空地の中に大きな桜
が一本、木柵で囲われ「市の指定文化財・長勝

院の桜」という標識が建っているだけである。建物はなにもない。ここは昔、当地を治めていた川而長者長勝の館跡で、長勝院という藤原長勝の菩提寺のあったところ、友人の在原業平と長勝の娘の悲恋物語等について、同行の神山志本市文化財保護委員長（中47回卒）から説明をうける。高台だけあって、北や西の眺望がよく、昔はそれなりに長者の館にふさわしい場所であったようだが、今はその面影もない。

ここを出て、曲りくねった裏道をしばらく歩き、真言宗智山派の宝幢寺に着く。境内も広く、整っている。山門の右手に先輩が訪中記念に寄進した観音様がある。ここはかつて徳川家光公が鷹狩りのとき休憩所として使用した朱印寺だったという。本会の橋本日出松さんは、かつて川中入学当時、ここで試胆会があったことを思い出し、さかんに往時を懐しんでいた。本尊の延命地藏菩薩参詣後、志木初雁会から湯茶の接待に預かる。名物の焼団子と甘党向きに用意されたタイ焼がサービスされる。しばらく歩いた後とあって、その美味かったこと、しばらく童心にかえり、ただ無心に頰張る。

小憩後出発。静かな住宅街をしばらく歩き、昔野火止用水が通りのまん中を流れていた商店街を横断、ほどなく敷島神社に着く。まず、志木のお富士さんとして有名だった田子山富士が、目で解った。明治五年、富士山信仰の篤かった地元の醬油屋さんが一念発起して周囲に呼びかけ、自らも手伝って高さ十層ほどのミニ富士

山を数年がかりで築き上げた。以来、周辺の富士講信者を集めて参詣が盛んだったが、大正の末に願主が亡くなり、その後次第にすたれたという。今は危険防止のため登山禁止となつていいる。その隣りには志木の商家の鎮守ともいべき敷島神社があり、宮司を担当している川中の先輩から説明があった。

その後、建設中のいろは親水公園を通り、新河岸川にかかる富士下橋を渡り、左岸を北上する。ここらは、幹線道路沿いを除いてのどかな田園地帯である。昔、野火止用水の活用を思いたち、新河岸川を横断する水路（48個の木製の樋、延長二三〇メートル）をかけ、当時不毛の地だった東に広がる宗岡地区の農業用水にしたという故事の名残りである伊呂波橋跡をみながら更に北上する。ここら辺りは、コスモス街道の名のとおり、堤防上に延々とつづくコスモスの花の群がわれわれを歓迎してくれる。

ほどなく、懇親会場の市民総合センターに着く。三階の大広間が目ざす会場である。敷島神社で隊列を整えた筈なのに、隊列は大きく乱れ、先頭と尻では相当に開いてしまったが、とにかく全員無事にゴールインする。道中の要注意箇所では、係員がそれとなくいろいろ気を使ってくれているのが嬉しい。

定刻十三時、全員が着席し懇親会になる。まず渋谷会長の会務報告、深谷校長の母校の近況報告につづいて、井下田志木初雁会会長が「東上鉄道というのは、初め終点は上越長岡だった

が、それが渋谷に、更に高崎にと変わり、最終的には今の寄居になったという」。先代から聞いた話を披露した。

その後は自由懇談ということで、広間いっぱい話の輪ができ、初対面同士でもあたたかも百年の知己のようにざっくばらんに語りあう。大いに盛り上がったが、時間の関係もあり、皆で輪をつくり、紫匂う武蔵野の——と伝統の校歌を大声で二番まで斉唱、またの再会を約し、名残りを惜しみながら散会した。（菅沼）

今年の秋季散策会は

東京下町で！

10月に行われる同窓会の秋季散策会は在京初雁会が当番で実施されます。皆様方のご協力をお願い致します。

* 年始に川越のお菓子頂きました。その包装紙に懐しい名前がのつていました。50年前通学の行き帰りに遊んだ八幡神社、校内マラソンで走った伊佐沼など。皆様はどこにどんな青春の思い出があるでしょうか。

甘藷造り時の鐘 桂屋稲荷寺 養老寺
菓子屋橋町 氷川神社 三芳野神社
本丸御殿 日枝神社 成田山別院
浅間神社 五百羅漢 富士見橋
川越大師善多院 中院 長徳寺
仙波東照宮 常楽寺 大蓮寺
八幡神社 川越夜叉姫 熊野神社
東明寺 伊佐沼 広清寺

「夕べの集い」

第1回 6月20日(18名)

・回想のイスタンブール(トルコ)

前、山村女子短大教授

高篠平太郎氏(中40)

矢部義一、佐々木忠一、増島隆二、山崎豊弘、
荻野文夫、阿部親興、田中 隆、岡田良平、菅
沼伸之、早川岩男、矢部敬一郎、糟谷 熊、駒
井正明、高島敬忠、鈴木洋雄、西 信之、川合
善明、石川正樹

第2回 9月22日(15名)

・会員の近況報告と相互懇談

矢部義一、増島隆二、荻野文夫、岡田良平、岡
部延夫、菅沼伸之、橋本日出松、早川岩男、矢
部敬一郎、大河原義重、鈴木洋雄、笹崎能輝、
横溝高至、内藤 豊、小谷野八弘

第3回 11月27日(22名)

・デフレの乗切り策について

(株)エムピーシー取締役

日下英元氏(高16)

矢部義一、佐々木忠一、山本 道、増島隆二、
山崎豊弘、堀口武夫、阿部親興、高篠平太郎、
田中 隆、内田紀成、岡田良平、菅沼伸之、早
川岩男、矢部敬一郎、糟谷 熊、駒井正明、大
河原義重、鈴木洋雄、西 信之、関口栄一、内
藤 豊、横溝高至



「ピルゼン月例会」12.8. 左から矢部、岡田、菅沼、高篠、田中、佐々木、矢部、駒井、増島、山崎の名氏。

「ピルゼン月例会」

4月10日(5名)

田中 隆、矢部義一、岡田良平、矢部敬一郎、
菅沼伸之

7月8日(2名)

岡田良平、矢部敬一郎

12月8日(10名)

矢部義一、佐々木忠一、増島隆二、山崎豊弘、
田中 隆、岡田良平、矢部敬一郎、菅沼伸之、
高篠平太郎、駒井正明

「新入会員」

高島敬忠(高10) 関口栄一(高17) 内藤 豊(高21)

大河原義重(高14) 小谷野八弘(高25)

「退会」

宇都野正章(高3) 高橋克治(高2)

「死亡」

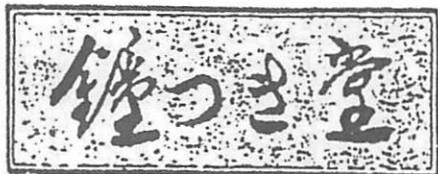
久保真歯(中27) 藤村信一(中23) 柴崎武夫(中28)

「会費納入者」

中学38人 高校36人 計74人

編集後記 今年も各地の神社仏閣は大勢の初詣で客で賑わいましたが、皆様のお正月はいかがでしたか。昨年は余りにも悪い事が続きましたので、今年には是非とも良い年になって欲しいものです。
(岡田)

『ピルゼン月例会』2月8日(木)会費2000円・『第4回・夕べの会』3月19日(火) 会費5000円



在京初雁会 (創立昭和28年)

名誉会長 坂田 圭 司

会 長 田 中 隆

1996年 (平成8年)
夏号 第61号



月例会

中央区銀座6-8-7

交詢社ビル1F

ピルゼン ☎3571-2236

タベの会

千代田区神田錦町3-28

学士会館 ☎3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎 (企画・総務)

〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

岡田 良平 (広報)

〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811

自宅☎03-3977-1815

事務局

菅沼 伸之 (財務・事務局長)

〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

秋季散策会 10月27日(日)

芝・増上寺→愛宕山→NHK放送博物館

朝食は西銀座・バルハラデんにて

増上寺 山号を三縁山、院号を広度院
といい、天正18年徳川家康が江戸入城
と同時に菩提寺と定めた。上野の寛永
寺と並んで徳川家の菩提寺として知ら
れ、ここには2代将軍秀忠をはじめ6
人の将軍が埋葬されている。重要文化
財の二天門、三解脱門をはじめ、境内
にはグラント將軍手植えの「アメリカ
松」がある。

愛宕山神社 愛宕山上に慶長年間から

まつられ、火伏せの神として信仰され
てきた。愛宕山は浮世絵にも多く描か
れた桜と見晴らしの名所で、江戸から
明治まで庶民の遊興地としてにぎわっ
た。山上へ86段の急勾配の階段があり、
男坂は寛永年間に曲垣平九郎が馬で上
下したと伝えられている。また、桜田
門外の変で井伊大老を襲った水戸の浪
士たちはこの愛宕山上から、井伊家の
行列が三宅坂の藩邸を出るのを確認し
て行動に移ったという。

NHK放送博物館 1925年に本放
送を開始したJ-O-A-K愛宕山放送局跡
に、ラジオ放送開始30周年を記念して

1956年に博物館として開館した。
ラジオからテレビ放送に至る歴史を示
す放送機器、放送原稿、文献などが展
示されている。



もくじ

秋季散策会	1
我が家の庭に狸が	2
チベットの紀行	3
平成7年度決算書	5
平成7年度事業報告	6
平成8年度予算	7
平成8年度事業計画	8
会員消息	9
編集後記	10

秋の散策会の詳細は、後日、本校
同窓会より連絡があります。

我が家の庭に狸が

会長 田中 隆 (中45)

昭和31年父親が将来隠居するつもりで千葉県市川の地に小さな庭つき的一家屋を購入した。翌年私達が世帯を持ち一時的なつもりで入居、それ以来四〇年になる。市川市には数多くの縄文遺跡が発見され土器、石器、貝塚などが出土している。

わが家もその時代には入江の海底ではないかと思われ、裏は崖で雑木林、前は田圃と畑で、当時は全くの田舎であった。結婚当初家内は私が病院当直で帰らないと余りの淋しさで実家に帰りたいたと涙していたが、今では近所隣のボスの存在になっている。話は脱線したが淋しさの原因であった田畑はその後宅地として開発され、様相は一変したが近くの法華経寺(日蓮宗総本山)の行事と中山競馬の開催日以外は比較的静かな街である。春になると裏の林から蛇、とかげが出てくるし鶯の鳴声で目を覚ますような所に住んでいるとついつい開業する気もすれ大学に残ることに

なってしまうた。さて主題の狸の出現であるが今から2年前隣家の屋根瓦の葺替えの折、職人が裏山に狸が居るとのこと、誰もが太った野良猫と間違えた位に思っていた。四〇年も住んでいていくらい田舎のようなどころでも今迄蛇以外の動物が出たとの話はなかった。それからしばらく経って我家の愛犬が夕方になると誰も来ないのに時々吠えていたが、これが狸の出現とは思っても居なかった。近所の人達も「狸が歩いてきた」「ごみ袋をあさっていた」「小狸も出た」など話が現実味を帯びてきたが私自身は本気にしなかった。つい最近になって家内が玄関前で門を開けたところ狸に出会い、私も呼ばれて見たところ間違いなく狸であった。それからは夕方になると時々庭に出現、野鳥の餌を喰べており、帰りには庭先のつくばいの水を飲んでいく。すぐ逃げるでもなく私達の顔を見ながらの振舞いから野生の狸とも思われず、最近聞

題になっている捨てられたペットかもしれない。裏庭の生ごみを食い散らしたり、靴やサンダルの片方を持出していた犯人?はカラスではなくどうやら狸の仕業のようで、鳥の餌と称してパン屑を増やしたところこの悪戯は無くなった。野生動物は餌付けをしない方がいいという意見もあるが、原生林に住んでいる狸でもないし、これからどうしたら良いか迷っている毎日である。そうは言っても狸が来ると部屋を暗くして一杯酒を飲みながら見物するのも楽しいものである。



チベットへの文化使節団に参加して

—ラサ国立図書館に日本の本を贈る—

西田 守 (高7)

3月19日夕べの会の講演より

一昨年春、中国研究家であり、作家の池上正治さんが、仲間達とチベットの首都ラサを訪問した。目的は開館もない国立図書館に日本の図書を寄贈することであった。

チベット自治区文化庁長官をはじめ、図書館の関係者からは非常に感謝され、帰国に際し、引きつづき来年も是非日本の図書を寄贈してほしいとの要請があった。この話を池上さんから聞きした、当社の中社長が、是非協力したいと約束。私とその準備をおおせつかった。

私は五年前、大学のOB会が中心となって計画した、「エベレスト・トレッキング」の責任者として、ネパール側から入山、四〇〇〇m地点から待望のエベレストを目のあたりに眺め感動し、ヒマヤラの素晴らしさを体験してきた。次なる目標は中国側からの入山であり、またとないチャンスが舞いこんできたことになった。

メンバーは下中社長と池上さんの知人を中心とした、それぞれ個性をもった楽しい人達であり、年齢層もまちまちのグループ。図書については当社と姉妹関係にある平凡社のも

のを中心に私が集め、他のメンバーの皆さんはそれぞれ、おもしろい集めることになった。集めた本は別便で送るものと、直接持参するものとに区分けして梱包。出発までの三ヶ月は目の廻るような忙しさであった。

9月23日(土)

成田より上海に向かって飛びたった。上海と成都には各1泊。

9月25日(火)

まだ明けやらぬ6時55分成都をあとにした。1時間40分程でチベットの首都ラサに到着。成都から陸路を車で山越えすると二二〇〇km10日間の日程とのこと。

“世界の屋根”ラサ空港は富士山頂と同じくらいの高さにあり、海拔三六五〇m。タラップを降りるとどこまでも澄みわたるまっ青の空、白く輝く雲が目に見え込んでくる。ラサは人口十八万人(一九九一年)。そのうちチベット族は85%の十五万三千人とのこと、世界で一番汚染の少ない町「ラサ」は一年を通じて晴天の日が多く「日光の町」と呼ばれ、年間の日照時間が三一〇〇時間と非常に多く明るい素晴らしい町だ。だまってじっとしていても胸苦しさを覚える。海拔三六五〇mの空気はたしかに薄く、足早に行動すると大変。動悸が激しくなってきた、ひっくり返ってしまいそう。ビスタリ、ビスタリ(ゆっくり、ゆっくり)が必要のところ。

空港からラサ市内までは約90km。1時間半の道のり。町の手前ラサ川左手の崖に彩色さ

れた麋鹿仏と「オムマニベメフム」の折りのチベット文字が刻まれた岩壁が現われる。この前にたたずむと、いよいよチベット仏教の聖地に入ってきたのだとつくづく感じさせられる。宿泊は外国人向けのホテル「ラサ・ホリデイイン」部屋には酸素ボンベが用意されており、服務員の教育も良く、気分良好。昼食後は各人自由行動。同室の古田さんは30年前に私が山岳部の先輩の結婚式で司会をつとめたときの仲人さん。

9月26日(水)

チベットの文化界、出版界の人達との交流会。通訳を通しての会話は思うように意志が伝わらず素晴らしい美人舞踏家の次仁さんとの会話が思うようにいかなかったのは残念。

昼食後行われた国立図書館での贈呈式はチベット族の青年による民族舞踊での歓迎から始まった。この模様は国立テレビの取材となり、夕方のニュースでチベット語と漢語による放映がなされた。夜は文化庁長官ソナ女史主催の夕食会があり、飲み歌いかつ舞った楽しい会であった。私はバター茶の飲みすぎでダウン。

9月27日(木)

チベット文化の華ポタラ宮殿とチベット仏教の総本山大昭寺を見学。ポタラ宮殿は17世紀半ばから今世紀の半ばまでの三〇〇年にわたってチベットを支配した法王ダライ・ラマの宮殿として建てられたものであり、東西四〇〇m、南北三六〇m高さ一一七m、13層、

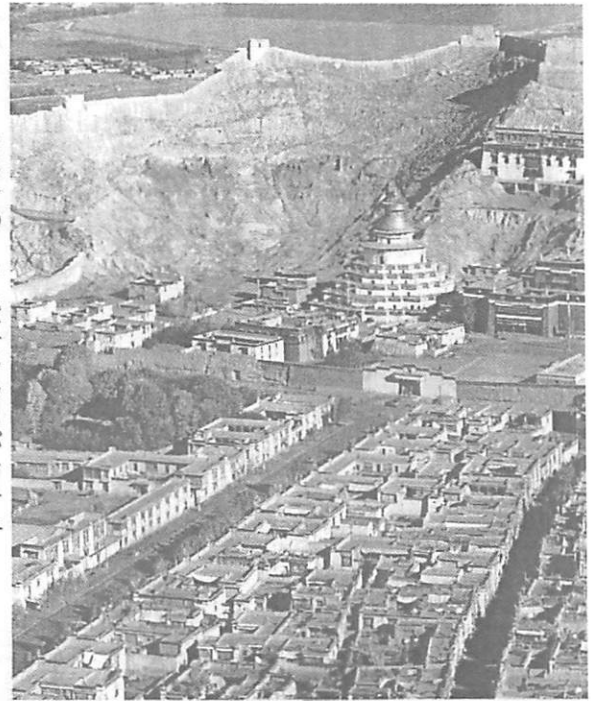
敷地約四万坪の偉容は見る人にあきれるばかりの大きさで迫ってくる。チョカン寺（大昭寺）は7世紀チベット王ソントエン・ガンポの建立したもの。チベット仏教信仰の中心寺院であり、地方に住むチベット人にとって生涯に一度は巡礼したいお寺なのである。これを取りまく仲見世、八角街（パルコル）も楽しい。

9月28日(木)

チベット第三の都市ギャンツェへ。車でラサから7時間。途中四七九四mのカンパ峠、サロ峠五〇四五mを越える。持参した日本製の高度計は限界を過ぎて使用不能。四二〇〇mあたりより降りだした雨はミゾレとなり雪となってしまった。非常に寒く、はく息はまったく白である。四五〇〇mのヤムドク湖岸沿いに進む。いよいよギャンツェへの下りである。道は平坦となり、草原の道となる。世界でも珍しいという土の電信柱が点々と続く道を抜けるとギャンツェに到着。海拔四〇〇〇mの町だ。ギャンツェホテル泊。無事に五〇〇mの峠を越えてきたことを祝って乾杯するも四〇〇〇mは酒の廻りがやけに早い。

9月29日(土)

ギャンツェは白居寺の門前町として発展。14世紀にできたギャンツェ城は町の中心にある小高い丘の上にある。第二の都市シガツェはここより90km、2時間のところにある。自由市場には毛織物や絨毯、民族衣装が並び、活気に満ちている。街はずれのタシルボ寺は



チベット仏教界No.2の地位にあるパンチェン・ラマが座主を務めることで有名な寺院。バター油の灯明に照らされた巡礼者の姿が幻想的だ。中国政府に対する感情は良くない。独立運動もさかんで、暴動がときどきあり、今でも21時以降の外出は禁止されている。

9月30日(日)

ギャンツェ廻りのコースとは別コース、気持ちのよいヤルツァンポ河沿いの高原コースをラサへ。二六〇kmの行程、ラサ到着後ラサ寺見学。一九〇〇年に日本人河口慧海が修業したところ。

10月1日(月)

ラサを午前便で北京へ。ラサ—成都—北京の乗りつぎ。北京はつくづく空気が濃いのがわかる。お酒を楽しく飲めた。

ギャンツェ城から見た白居寺 ▶
チベット文化の華ポタラ宮殿 ▼



在京初雁会平成7年度決算書

(平成7年4月1日～平成8年3月31日)

1. 一般会計


項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰越金	91,929	91,929	
年会費	230,000	197,500	79名
預金利子	5,000	3,617	
雑収入	0	1,8000	日下氏寄付金夕べの会欠席者会費送
(計)	326,000	311,046	
支出の部			
会報印刷	120,000	105,000	第59号、第60号
新企画	50,000	0	
夕べの会	30,000	△ 6,418	
月例会	8,000	△ 1,337	
慶弔費	15,000	20,000	故 柴崎武夫氏、久保真齒氏
会議費	20,000	8,710	藤村信一氏、山本秀順氏
通信費	60,000	54,210	
事務費	5,000	5,094	
振替手数料	4,500	4,140	
雑費	5,000	8,407	
(計)	317,500	197,806	
残額(繰越)	9,429	113,240	

2. 特別会計(基金)

定期預金 25万円 (利息は通常会計の収入として計上)

平成8年4月8日

財務担当 菅沼 伸之
 監事 横溝高至



在京初雁会平成7年度事業報告

1 会員の動向

- イ 会費納入者 76名(中学39名、高校37名)
- ロ 物故会員 藤村 信一(中23) 山本 秀順(中27)
久保 真齒(中27) 柴崎 武夫(中28)
- ハ 新入会員 高島 敬忠(高10) 大河原義重(高14)
関口 英一(高17) 内藤 豊(高21)
小谷野八弘(高25)
- ニ 休会会員 浅海 倭夫(中21) 佐久間勇次(中38)
大野 一良(高10) 井上 道男(高21)

2 行事

- ◆ 鐘つき堂 第59号(平成7年5月)
第60号(平成8年1月)
- ◆ 月例会 5回
- ◆ タベの会 4回
- ◆ その他 2回(本校同窓会、秋季散策会)

参考 月別行事

- 4月10日(月) 総会・月例会(ピルゼン) 5名参加
- 5月14日(日) 母校同窓会(川越高校) 12名参加
- 6月20日(火) タベの会(学士会館) 18名参加
「回想のイスタンブール」高篠平太郎(中40)
- 7月10日(月) 月例会(ピルゼン) 2名参加
- 9月22日(金) タベの会(学士会館) 15名参加・近況報告
- 10月15日(日) 秋季散策会(志木の里) 14名参加
- 11月27日(月) タベの会(学士会館) 22名参加
「デフレの乗り切りについて」日下英元(高16)
- 12月 8日(金) 月例会(ピルゼン) 10名参加
- 1月 8日(月) 月例会(ピルゼン) 5名参加
- 2月 8日(木) 月例会(ピルゼン) 6名参加
- 3月19日(火) タベの会(学士会館) 17名参加
「チベット紀行」西田 守(高7)

平成8年4月8日 総務担当 矢部敬一郎

在京初雁会平成8年度予算

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

1. 一般会計

項 目	実 績			8年度予算案
	5年度	6年度	7年度	
収入の部				
繰越金	181,334	59,721	91,929	113,240
年会費	212,500	200,000	197,500	200,000
預金利子	4,387	2,961	3,617	3,600
雑収入	212,500	28,000	18,000	10,000
計	610,721	290,690	311,046	316,840
支出の部				
会報印刷	105,760	114,000	105,000	120,000
新企画	196,228	30,000	0	40,000
夕べの会	16,903	29,879	△ 6,418	10,000
月例会	2,258	6,735	△ 1,337	10,000
慶弔費	6,000	10,000	20,000	20,000
会議費	0	0	8,710	20,000
通信費	55,550	55,196	54,210	60,000
事務費	896	5,968	5,094	5,000
振替手数料	4,509	3,960	4,140	4,500
雑費	13,338	2,781	8,407	10,000
計	401,442	198,761	197,806	299,500
残額(繰越)	209,729	91,929	113,240	17,340

平成8年4月8日

財務担当 菅沼伸之

在京初雁会平成8年度事業計画

- 1 事業内容を充実するため次の事業を実施する。
 - イ 若手会員の増強に努める。
 - ロ 行事内容の改善に努め、魅力のあるものにする。
 - ハ 参加しやすいように行事場所、回数などの見直しをする。
 - ニ 本年度の散策会は当会が企画し、東京都内で開催するので会員の協力を得て準備運営にあたる。

2 行事

- イ 鐘つき堂 年2回発行する。
- ロ 月例会 6回
- ハ タベの会 3回
- ニ その他 2回（母校の同窓会、散策会）

3 月別計画

- 8年4月 8日（月）総会・月例会（ピルゼン）
5月12日（日）母校同窓会（川越高校）
6月25日（火）タベの会（学士会館）
7月 8日（月）月例会（ピルゼン）
9月26日（月）月例会（ピルゼン）
10月27日（日）散策会（東京・芝増上寺、銀座）
11月26日（火）タベの会（池袋・東方会館）
12月 9日（月）月例会（ピルゼン）
9年1月 8日（水）月例会（ピルゼン）
2月10日（月）月例会（ピルゼン）
3月21日（金）タベの会（学士会館）

平成8年4月8日

以上

会 員 消 息

駒井 正明 (高4)

先約あり欠席させて頂きます。ご盛会を祈願致しております。

細島 博文 (中35)

御無沙汰しております。仕事の方は学校の講師はやめて他社に移りましたが、他は従来通りで一応元気にやっております。欠席致しますがご盛会をお祈りしております。

川合 善明 (高21)

欠席続きで申し訳ありません。

武田 葛 (中29)

役員の皆様、事務局のご担当の方々のご尽力に感謝申し上げます。「夕べの会」は楽しい会と存じつつも欠席にて残念かつ申し訳なく存じます。川越の地における川越中学、川越高校の存在の意義を思う昨今の心境です。

高篠平八郎 (中40)

4月から新潟経済大学まで週に二講義、一泊二日で行って居ります。生憎火曜日が長岡泊り。欠席をお許しください。秋の散策会ご盛会を祈っております。

坂田 圭司 (中17)

主人昨年十二月以来入院を繰返し、現在も入院中でございます。皆様宜しく申上げ下さいませ。

高島 敬忠 (高10)

先約があり欠席致します。十月二十七日の散策会には是非参加させて頂きたく。田中会長のもとのです。当日救護班として救急セット、血圧計など携帯し参加したいと思えます。何かご指示ありましたらご命じ下さい。盛会を記念申し上げます。

佐々木忠一 (中32)

3月末にヒューマン日本学校の校長(常勤)を辞し顧問に就任し週二日の非常勤となり多少余裕が生まれました。東京音大も来年三月に退任致します。

落合 義作 (中28)

夜の会合はもう無理になりました。八〇歳を過ぎるといくら丈夫で今までは良かったが体調が悪くなるものです。他人に迷惑をかけぬ様努力しております。初雁会の健在を祈ります。

内田 静馬 (中22回)

静養中のため欠席します。

安斎 恒男 (中24)

残念ですが夜間の外出控えていますので。

日々ウォーキングで日常生活を恙なく保持しておりますが、若干行動半径縮小しております。矢張り年ですね。ご盛会を祈念しております。

船津鴻之助 (中24)

大正十五年当時県下最速球投手も八十七歳四ヶ月腰痛のため歩行やや支障あり。もっぱらテレビで野球を楽しんでいます。

中村 生秀 (高3)

毎回欠席で恐縮して居ります。

平野 寿作 (中40回)

夜に弱い年になったので失礼させていただきます。

福田 龍雄 (中32)

難聴のため残念ながら欠席します。本年八〇歳を迎え健康を保持しており毎月2、3回はゴルフに行つて居ります。スコアは100、115位です。

本橋 次郎 (中35)

何時もご案内を頂きお世話になります。小生体調が整わずに仲々外出出来ませんので失礼しております。皆様宜しく。

松下 雄一 (中29)

二年がかりで「八十年の回顧」を曲りなりにも一冊にまとめました。改めて働き蜂で過してきたと感じました。急に体力の衰えを覚

え夜間の外出をさしひかえています。

清水 順一 (中48)

定年がない嬉しさか(?) 未だに現役で不況に立向かっています。

野沢勝三郎 (中30回)

去る二十三日より大腸にポリープが見つかり切開手術のため入院致して居ります。皆様宜しく。

野上 完一 (中30回)

何時もお手数を煩わし厚く御礼申上げます。相変わらず体調不良です。御盛会をお祈りいたします。

岩泉 惟人 (中35回)

何時も大変お世話に預かり有難うございます。

平岡 寿夫 (中42)

幹事役ご苦労様です。都合悪く欠席致します。盛会を祈ります。

笹崎 能輝 (高18)

当日は残念ですが所用があり出席できません。新河岸川→江戸城までのルートの中でプランを考えたらどうなりますでしょうか?。小江戸・川越のルーツを辿るのも一興かと存じます。

金子 紀孝 (中33)

何時も申訳ありません。高齢による病気に思う様にいきません。事情御諒承下さるようお願い致します。

山崎 豊弘 (中35)

お陰様で息災でおります。当日元勤務先のゴルフコンペがありますので残念ながら欠席致します。皆様宜しく。

松本 博一 (中37)

御案内有難うございました。都合悪く出席出来ませんが、皆様に宜しくお伝え下さい。

日下 英元 (高16)

日本テレビ「知ってるつもり」七月七日午後九時頃より紀伊国屋文左衛門に出演致します。また七月二十三日読売関西フォーラムに出演致します。直後の読売新聞並びに雑誌に掲載されると存じます。御覧頂ければ幸甚でございます。

砂田 太三 (中23)

在京初雁会夕べの会開催の御案内戴き誠に有難うございます。長い間御無沙汰のみ致して居りますので何とか出席をとは考えるのですが、何分にも高齢のため夜間外出は差控えて居りますので残念ながら欠席させて頂きます。本会の発展と会員の皆様の御健勝を祈り居ります。

本校同総会開催

平成8年度同窓会が5月12日(日)126名(在京初雁会19名)の出席を得て盛大に開催され1999年に開校百周年を迎える記念事業実行委員会活動報告などがあり、次いで佐々木典夫氏(高12・厚生省社会援護局局長)の「社会保障の現状と課題」―少子高齢化社会の福祉政策―と題する記念講演がありました。懇親会は会場を佐久間旅館に移し酒を飲みながらの楽しい一時を過しました。

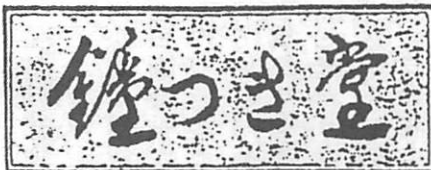
本校同窓会の他に各地域には次のような初雁会が結成され、地域の特色を生かして活動をしていきますが、会員数の少ないのが悩みのようです。

- 在京初雁会 飯能初雁会 和光初雁会
- 入間初雁会 日高初雁会 近畿初雁会
- 坂戸初雁会 志木初雁会 鶴ヶ島初雁会

平成8年度第一回夕べの会

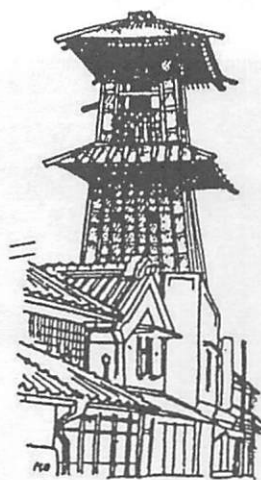
6月25日学士会館にて次の方々が出席され、秋の散策会の準備等について話し合いました。新入会員の菅間 昭氏(高6)を迎え、川越中・高時代の思い出に花が咲きました。増島さんが畑で丹精込めて作られたブルーベリーを持って来られ皆で美味しく頂きました。有り難うございました。

- 矢部 義一 (中23) 増島 隆二 (中35)
 - 荻野 文夫 (中36) 堀口 武夫 (中36)
 - 阿部 親興 (中38) 田中 隆 (中45)
 - 岡田 良平 (高2) 岡部 延夫 (高2)
 - 柴崎 育久 (高2) 菅沼 伸之 (高2)
 - 矢部敬一郎 (高2) 糟谷 熊 (高3)
 - 小熊忠三郎 (高3) 菅間 昭 (高6)
 - 西 信之 (高17) 内藤 豊 (高21)
 - 横溝 高至 (高21)
- 第2回ピルゼンの会は7月8日(月)は矢部義一さん、矢部敬一郎さん、菅沼伸之さんの3名の参加という淋しい会となりましたが、矢部先輩から渋沢栄一翁にまつわる埼玉のお話などお聞きしました。



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田 圭司
 会長 田中 隆

1997年 (平成9年)
 新春号 第62号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン ☎3571-2236

夕べの会

千代田区神田錦町3-28
 学士会館 ☎3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎 (企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田 良平 (広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅☎03-3977-1815
 事務局
 菅沼 伸之 (財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

謹賀新年

会長 田中 隆

昨年十月の秋季散集会には種々協力をおいただき、おかげで盛會裡に終ることができました。今回の散集会を準備するにあたっては東京で開催するということで、交通事情、散策ルート、懇親会場、それから最大の問題点である経費について検討いたしました。

日は天気にも恵まれ、すべての面でク
 リヤー出来ました。

出席した同窓会の皆様からは過分なる賛辞をいただき当会としての面目がたちました。新しい年を迎えるにあたり在京初雁会のますますの発展と皆様のご健勝を祈り年頭の挨拶といたします。

平成九丁丑歳 正月



もくじ

会長挨拶	田中 隆	1
秋の散策会	菅沼伸之	2
懇親ゴルフ	山崎豊弘	5
ロボットを使った外科手術	田中 隆	6
太平洋戦争回想	矢部義一	6
住所録		9

- 月例会・2月10日(月)
- 夕べの会・3月21日(金)

詳細は後日連絡

川越高校同窓会秋季散策会

絶好の秋晴れを楽しむ

増上寺—愛宕山—銀座

96年10月27日

平成8年度川越高校秋季散策会は、在京初雁会の主管により10月27日の日曜日に行なわれた。当日は、朝からすばらしい好天に恵まれる。この日を待ちかねて集う人は、総勢103名。中学32回卒の内田さん、佐々木さんをはじめ中学卒が25名（夫人9名）、渋谷同窓会長はじめ高校卒48名（夫人10名と家族4名）、それに現職の深谷校長はじめの7名の校内理事が参加した。以下はそのときのルポである。

* * *

係員は芝増上寺三門前に9時半集合というので早目に家を出る。都営地下鉄三田線御成門駅で地上に出ると、そこには岡田副会長が夫人と今日のために苦心して作った紫地の在京初雁会旗を掲げて待っている。そこでもう一本の旗や掲示物を預かり集合場所に向かう。

まだだれも来ていなかったが、五分もすると急に集まりだす。好天のせいか、はたまた懐しい顔に早く会いたいせいか、とにかく出足の早いのにびっくりする。

応援の赤木先生はじめ在校理事も揃ったので、三門脇の空地を利用して受付とし、石塔の前後に参加者の名札を中学・高校別に並べ、申告のあった人に当日の資料を手渡す。たちまち、そここに和やかな人の和ができ、近況を語り合い、旧交を温める。日ごろ静かな三門に百人をこ



▲増上寺

える人が集まり、にぎやかに語り合う姿に日比谷通りを行き交う人々も思はず目線を注ぐ。

定刻十時に遅れること二分、全員門内に入り、岡田副会長から開会の声がかかる。まず田中会長が「おはようございます。朝早く、遠路はるばるとご苦労さまです。昨年、深川などの下町でのご要望をいただきましたがその後数回、下見をかねて実踏したところ、なかなか適当なコースが見つからず、今日ご案内の増上寺集合、愛宕山をめぐる、西銀座のバルハラデンで懇親会ということに決めさせていただきました。今日歩くところもすべて“下町”です。古くて新しい街の片鱗にふれていただければ幸いです。道路横断など事故のないようにゆつくりとお願ひします。」と歓迎の挨拶。救急カバンを下げた医師の高島先生（高10回卒）を紹介する。このあと先頭の旗を菅沼（高2回卒）、最後尾の校旗を横溝さん（高21回卒）が持って出発する。

グラント將軍手植えの松を見ながら本堂の方へ進むと、間もなく、急に「記念写真」と大声があがり、たちまち列が乱れる。みな進む気配がないので、階段の

所まで戻り集合する。これは予定になかったのであわてたが、写真一枚撮るにも意見百出でなかなか大変なことである。

写真撮影後、徳川家霊廟へ向かう。しかし霊廟の門はびたりとしまり、開いている筈の錠は下りたまま。下見の時、前日と二度も確認をしたので安心していたが、どこかで連絡が止まったようだ。急拠また事務所へ行く。その間、みなさんに門前で待っていただく。日曜とあつて当直の若い僧侶がすぐ来てあけてくれる。

日ごろはみだりに立入れない霊域、中と外では雰囲気が違う。ここには二代將軍徳川秀忠公はじめ六人の將軍等が葬られている。かつては近くに散在していたものを戦後ここにまとめたものである。歴代將軍は、江戸城の北の鬼門にあたる上野寛永寺と南の鬼門にあたる芝増上寺に分けて葬られている。(15代徳川慶喜公は別) 霊廟をカメラに納める人、自分の記念写真を撮ってもらう人、往時の歴史談義に花を咲かせる人等、静かな霊廟内でひとときをすごし、20分ほど外に出る。日比谷通りに戻り、次の目的地愛宕山を目ざして歩く。

途中、御成門小学校北の歩道橋の上か

ら後ろを見ると、最後尾の旗は二百メートル以上後ろに見える。途中信号で待たされたのであろう。しかし、百人を超える行列もなかなか壮観なものである。旗を左右に振って合図すると、すぐに応答があつたのでまた進む。

わが国看護婦教育発祥の地、東京慈恵医科大学付属病院を右に見て進むとほどなく愛宕神社の正面階段下に到。大半が揃うのを待って、頂上へは男坂と女坂があると説明すると、男は男坂に決まっているとという声が大勢をしめ、多数が階段を上り始める。予定の女坂を回る者は一人もいない。多数の声というのはこわいものである。しかし案ずるより産むは安しであった。講談でおなじみの間垣平九郎が馬で上り下りしたという八六段の階段を上りきる。

山頂に着くと、お詣りは二の次にしてみな茶店で休む。休むといっても幾つかある縁台に空きはない。ここでは田中會長夫人はじめ五名の夫人連がボランティアとして、エプロン姿も甲斐々々しく湯茶の接待にあたる。当会で愛宕饅頭をサ―ビスして大変喜ばれる。また所沢在住の糟谷さん(高3回卒)が恒例だからとい



うことで、焼だんごといなり寿司をそれぞれ百人前、大きなバッグに詰めて所沢から持参しみんなに振舞う。とにかく朝は早いし、歩いた後なのでうまいの一言につきる。糟谷さん、さぞ重かったでしょう。どうもご馳走さま。そして夫人連の皆さんもほんとうにお疲れさまでした。

みんな、喉の渇きをいやし、腹ごしらえしたところで、自由解散、正午再び集合というところで、愛宕神社の参詣、見学

やNHK放送博物館の見学と思いいいに山頂を歩く。博物館側でも菅間さん(高6回卒)の配慮でいろいろ気を使ってくれたが時間がとれないので、ホールでNHK70年の歴史を20分に要約していただき、残り時間を見学にあてる。青春時代の思い出の数々を偲ぶラジオ、テレビを中心とする展示に時間のたつのも忘れて見入っている人も多かった。集合時間をくり下げてこれに対応したがみんなの要望に応えることはできなかったようだ。適当な場所がないため全員の記念撮影はやめ、回別、地区別、グループ別に切り換える。

みんな揃ったところでバルハラデンに向かう。こんどは女坂を降りる。しばらく歩き、日比谷通り交差点を左折すると、歩道の端に「史跡・田村右京大夫屋敷跡、浅野匠頭終焉の地」の碑がぼつりと建っている。時の流れに思いを馳せながらさらに進み、新橋二丁目交差点を右に曲ればほどなく新橋駅。これを右に見てガードをくぐり、すぐ左折して土橋を渡り、リクルートビルの前を右折すると終着バルハラデン。前後の間隔もあまり伸びることもなく、1時半、全員が地下の会場に入る。



▲田中会長

すでにそれぞれのグループごとにテーブルを囲み、満員の場内はすでに熱気ムンムンである。旗を壁際に立て、内藤さん(高21)の司会で懇親会が始まる。まず田中在京初雁会会長が「みなさんお疲れさまでした。救急隊まで用意しましたが、全員無事にゴールし、まずはおめでとうございます。バルハラデンは先代からのご縁で私が個人的にご交誼願っている関係で、みなさんに日ごろと変わった場所だと思います。日常は有名な人の結婚式の二次会などで賑っています。今日は初雁会の貸切りです。時間の許す限り旧交を暖め合ってください。」と挨拶。つづいて渋谷同窓会長から「開校100年をひかえているいろいろ企画を練っていますが、同窓のみなさんの絶大なご協力をお願いしたい。」と要望、渋谷校長から「進学状況も好調、スポーツ・学芸等の面



▲佐々木忠一さん

でも全国区で手広く活躍しております。」と近況報告があり、つづいて前同窓会長の佐々木忠一さん(中32)の音頭で乾杯、懇談にうつる。田中会長、バルハラデン



▲お手伝いをいただいた矢部・日出間・内藤・田中・岡田各氏の御夫人方(バルハラデン社長・副社長を囲んで)

の社長さんさし入れの酒・ビール・ウイスキーと思いきいの飲み物を飲みながら、積もる話に時間のたつのも忘れる。最後は全員で「紫匂う武蔵野の……」の校歌を二番まで合唱、拍手のうちに次回の再会を約束して散会した。(高2・菅沼)



▲旗を先頭に元気に都心を歩く

○懇親ゴルフ○

矢部大先輩が米国カルフォルニアで、昭和16年12月7日日米開戦の日に、ゴルフを楽しんでいた時の御話は、何度か伺ったが、この初雁会で他の方からゴルフの話は、殆ど聞いたことがなかった。

処が先月26日の「夕べの会」(学生会館)の席上雑談中に、楽しそうにゴルフの話に打ち興じている、若い方が何人か居られた、これが動機になり、私が餓鬼大将の役を引受け、懇親ゴルフ会を催すことになった。

日 時 12月20日9時集合

場 所 湘南カントリークラブ

参加者 糟谷(高3) 西(高17) 横溝(高21)

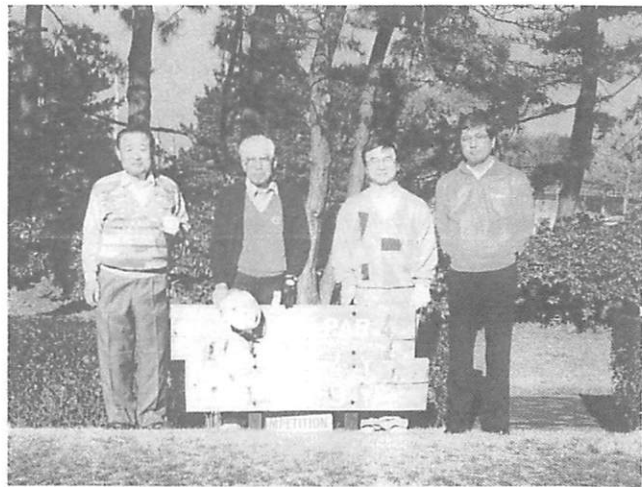
各位と私の4名1組(他に岡田、矢部、柴崎、菅間さん各位は都合悪く残念ながら不参加)

当日は師走も下旬ながら余り寒くなく、又風もなく、終日雲一つ無い日本晴れのゴルフ日和に恵まれ、更に、遠く箱根の山々の上に顔を出している、雪を頂いた美しい富士山に向かって気持ちよくティショットをし、途中珍プレーあり、好

プレーあり、愉快に談笑しながらゴルフを楽しんだ。

スコアは一応内緒、私の尺取虫のような老いぼれゴルフと違い、糟谷さんの力を抜いた枯れたゴルフ、又西さんや横溝さんの若さに物を云わせた豪快なロングドライブに見取れている内にプレー終了、私の万歩計は一万六千三百歩を指していた、若い方とプレーし、今日一日大分若返り、爽快な気分になることが出来た。

(中35・山崎)



▲糟谷・山崎・横溝・西の名氏(左から)

★医療最前線★

ロボットを使った外科手術……

二十一世紀に向けて

田中 隆

平成8年の年末、京都で開かれた国際外科学会に出席した。学会からの依頼で Frontier in Endoscopic Surgery (内視鏡外科手術の開発) なるシンポジウムの司会を務めることになった。内視鏡外科は数年前から始まった腹腔鏡下手術(主に胆石手術が行なわれている)であり、まだ歴史は浅いが現在多くの施設で積極的に行なわれており、早期癌手術にも拡大され胃切除・大腸切除も始まっている。これらの内視鏡手術は腹部や胸部の体腔臓器の手術が主であったが、今回のシンポジウムでは体腔外手術……例えば体表の乳房、甲状腺、背部の脊椎、大動脈などの新しい手術の発表があり、最後に米国 S 教授のロボットを使った Solo Surgery (術者一人で行う手術) の講演があった。内容は腹腔に挿入した内視鏡に音声認識装置をとりつけロボット化したもので、これにより術者の命令通りカメラが移動し術者一人で手術が可能になっ

た由、最終的には遠隔操作でロボットが手術することになるとのこと。また手術のトレーニングは模型や動物を使って行うのではなく、新しく研究開発されたテレエジュケーションシステムによると人体解剖と全く同じ立体画像を使った基本手術トレーニングが出来るとのこと。例えば失敗すると出血したり、縫合が悪いと内容が漏れたりするように現実性のある手術体験が出来るとのことである。以上のことから二十一世紀には診断装置の更なる開発と相俟って夢のような医療が出現することだろう。すでに基礎研究は終って臨床応用が始まったばかりではあるが、胸を開くことなく、顕微鏡下血管吻合による鏡視下冠動脈バイパス(心筋梗塞の手術)の紹介もあり、これまたびつくり。患者は殆んど痛みを感じることなく数日で退院出来るとのこと。今迄夢の中の想像でしか考えられなかったことが二十一世紀には実現するはずである。もともとテレビゲームやコンピュータの嫌いな私にとっては良い時期に定年を迎えたなあ……と思っている。

なおコマージュとして附言しておくが、今回の学会でわれわれの教室山形講

師は乳癌のリンパ節廓清を内視鏡下で行う方法を発表、欧米からの出席者から高い評価を受けていた。内容は腋の下の皮膚から内視鏡を挿入しバルンで拡張しながら乳腺とリンパ節を摘出するもので全く新しい乳癌の縮小手術である。

太平洋戦争回想

平成元年十二月 矢部義一

太平洋戦争(日/米英支露戦争)は日本の支那、東亜地域への武力侵略に因るものである。侵略された国に対しては侵略国が謝罪と償いをせねばならぬ。

日清、日露、両戦争は交戦国の隣接国侵略衝突に因るものである。

太平洋戦争の敗北の結果日本から解放された植民地台湾、朝鮮は武力侵略による植民地とは謂えない。

台湾は日清戦争の講和条約による割譲、朝鮮は政府間合意による併合であり日本は両地域の開発には実績を残している。住民の戦時中の徴傭、徴兵等人民に対する日本政府の措置。問題は自国民との差別

の有無によって判断すべきものであろう。

他国への侵略の歴史（アジア地域）——
武力行使は日支、英支（阿片戦争）日支
（日支事変）

武力によらぬ未開、後進国への侵略

英国——インド、ビルマ、マレー、濠洲、

ニュージーランド、太平洋諸島

フランス——インド、支那、太平洋諸島

オランダ——東印度諸島

ドイツ——青島、南太平洋諸島

ポルトガル——印度のゴア、支那南部マ

カオ

スペイン——フィリピン諸島

ロシア——満州、シベリア、カムチャツ

カ（一七〇七）、樺太

何れも未開発国を無血侵略し植民地とし
て領有したもの

武力による他国侵略は許さるべきもので
はないが、経済的（交易、原住権力者との
金銭取引等）宗教（布教教化行為）威
嚇（武力示威）等で植民地として支配、
経済的搾取、軍事的支配地として占有す
るものも侵略行為ではある。

英国の支那大陸侵略

阿片戦争（一八四〇〜二） 明治維新の
27年前

発端 英国のアジア方面への侵略は一六
〇〇年に設立された東印度会社を国策会
社として之に特権を与え印度ビルマ地域
への経済侵略を行ない19世紀末頃にこれ
を植民地とした。これを足場に更に東ア
ジアに進出、巨大国清国へ経済進出を行
なった。対清国貿易である。

これは英国系多国籍企業「ジャーデン
マゼソン社」を中心とする交易で輸出入
物資は輸入は茶、絹製品等の清国特産品。
その見返り輸出は清国の禁制品阿片でこ
れは英国が既に手中に収めた印度ビルマ
での産物であった。

斯る変則的な貿易決済のため、銀本位
制経済の清国は経済危機に陥つて了った。
更に国民の健康を害する阿片の大量密輸
は重大問題である。

茲に於て清国政府はこの問題処理に林
則除を特命全権大臣に任命して処理に当
らせることにした。

林大臣は英国商人が密輸入している阿
片を摘発没収して焼却処分するという強
硬手段を執った。之に対し英国政府は自
国の通商保護を口実に清国に対し軍事力
による圧力をかける挙に出で対清国開戦
となった。

開戦 清国の林則除特命全権大臣による
英国商社による密輸入阿片ストックの没
収焼却処分から約1年、英国政府は強力
な遠征艦隊による清国沿岸攻撃の挙に出
た。

總司令官 Admiral George Elliott 軍艦
と船舶48隻兵員4千人の大部隊による作
戦行動。

先づ、舟山列島、定海を攻略し天津沖に
進攻、首都北京を覗う。次に南下して広
州湾を攻略、更に転じて上海に至る諸港
を襲い南京を覗う。即ち清国の全海域の
要所を抑えた。（清国の軍事力は極めて弱
いものであった。）斯る作戦行動約2年2
ヶ月、清国屈して南京条約に合意して集
結した。

条約の要点

1. 清国5港の開港（広州、廈門、福州、
寧波、上海）
2. 香港の割讓
3. 賠償金2100万ドル（その以前広
州和議で600万ドル）
4. 諸特許の独占、貿易制度「公行」廃
止
5. 関税の制定
6. 対等の文書往復を認める

内容は不平等条約であるが之を契機として米國、仏國等他の先進國も治外法権や基督教布教の自由を認める等の条約を相次いで獲得するに至った。

阿片戦争の情報は幕末期の日本にも伝わり憂國の士志を刺激、攘夷、倒幕論がまみびすしくなってきた。例へば子爵澁沢栄一伝のなかに「青年、澁沢が郷党の指導者尾高藍香（從兄）から阿片戦争の英國の横暴に同志青年達と謀り、横浜港の外国商館の焼打、次で倒幕を秘かに企て、多くの武器を自宅の土蔵に貯えた上、機を見て高崎城を襲撃略取して天下の同志糾合を画策した。（結局は実行に至らず武器は密かに処分した）」と云う件りがある。

○北米合衆國の進出

フィリッピンをスペインから買収。更に支那大陸に經濟進出を謀る。

一八五二年（明治維新15年前）國務長官シーワード演説 国内から海外へ富と領土を求める 國策轉換を強調。目標は太平洋対岸

一八五三年 ベリー提督、浦賀に來航、開國を強要。安政条約

満州争奪闘争

三国干涉（露、仏、独）とその後の列強の競ぎ合。

一八九五年（明治28）日清戦争—講和条約で日本に遼東半島を割譲することになった。之に対し局外者の三国が戦後疲弊の日本に圧力を加え之を破棄せしめた。その後露は清國から満州に鐵道を敷設其他の經濟權益を獲得した。露の極東方面南侵策 略—火事泥式策略
・露の南侵に対抗日露戦争起る（一九〇三—五）

英米は裏から露の侵略阻害を謀る

・米國・日露戦争和平斡旋の裏の策動

満鉄買収の動き—一九〇五（明治38）

8・31ハリマン（米國鐵道王）／桂太郎

買収に付て予備契約を結ぶ。小村寿太郎外相はポーツマス講和會議から帰國するやこれに大反対し破棄に導く。

満州經濟進出策略 モルガンハリマン／袁世凱 米國投資団による満州開發

策—日露 協同阻止運動開始、清國は皇帝、西大后の相次ぐ崩御、袁世凱失脚などで日本に後れをとるに至る。

○日本

一九〇五（明治38）12月、日露戦争直后、日清条約締結—

関東州租借、満鉄、安奉線の經營とこれらに属する炭坑、鐵道守備兵配備の權利（何れも 露が有していた權利を日本繼承の承認）

一九〇九 撫順、烟台炭坑の採掘權を日本に付与。

一九一五（大正4）日支21ヶ条条約「南滿州及び内蒙古に関する条約」

主なもの

関東州の租借權（露／支原契約25年間—一九二三迄を延長一九九七年三月迄（通算99年間）とする）

満鉄の經營權利を延長二〇〇七年迄（99年間）とする

滿蒙居留日本人の安全保護と治外法權を認める 等 （原文のまま）

計報

昨年、福田龍雄さん（中32）と、岩崎美郷さん（高2）が亡くなりました。福田さんは前事務局長として在京初雁会の運営にご尽力を頂いた方です。お二人のご冥福をお祈り致します。

編集後記

秋の散策会は会長はじめ多くの方々のご協力により100余名の参加を得て盛大に無事終了することができ行難うございました。

参加者の詳細は

中 学：34名（会員25名・家族9名）
高 校：62名（会員48名・家族14名）
学校側：7名（深谷校長ほか）

合計103名



在京初雁会 (創立昭和28年)
 名誉会長 坂田圭司
 会長 田中隆

1997年 (平成9年)
 夏号 第63号



月例会

中央区銀座6-8-7
 交詢社ビル1F
 ピルゼン ☎3571-2236
 タベの会
 千代田区神田錦町3-28
 学士会館 ☎3292-5931

在京初雁会

矢部敬一郎 (企画・総務)
 〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033
 岡田 良平 (広報)
 〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811
 自宅☎03-3977-1815
 事務局
 菅沼 伸之 (財務・事務局長)
 〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

会長挨拶

田中隆

毎年五月の第二日曜日は母の日ですが、母校同窓会の総会があり、このことが恒例となっております。今年は例年になく多くの会員が出席され、同窓会室が満席になりました。これは明後年迎える百周年記念事業のこ

ともあつてと思われず。私自身は事業部の一員として記念図書館(同窓会室を含む)の設計、記念誌の編纂などを検討しており、先日委員一同で東京の麻生高校図書館を見学してきました。設備、記念誌等いずれも立派なもので、これからの計画に大変参考になりました。いずれにしてもお金のかかる事業であり、募金事業も開始されましたので皆様方の御協力よろしく願います。

平成9年度同窓会総会

5月12日(日)に137名の参加者で盛大に開催されました。中27回卒の市川宗貞さんをはじめ中卒37名、高卒は1回卒から38回まで100名。在京初雁会からは16名参加。

記念講演『科学の最前線』

神戸 勉氏(高10)
 (東京大学・物理学教授
 佐久間旅館にて90名が参加し
 て懇親会。

もくじ

会長挨拶	田中隆	1
平成8年度決算書	田中隆	2
平成8年度事業報告	田中隆	3
平成9年度予算	田中隆	4
平成9年度事業計画	田中隆	5
戦時中の思い出	田中隆	6
会員消息	田中隆	9
香港の旅雑感	矢部敬一郎	13
三峽下り・編集後記	矢部敬一郎	14

夕べの会

6月24日
 学士会館

在京初雁会平成8年度決算書

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

1. 一般会計

項 目	予 算	決 算	記 事
収入の部	(円)	(円)	
繰越金	113,240	113,240	
年会費	200,000	180,000	72名分
預金利子	3,600	2,841	
雑収入	10,000	20,000	夕べの会欠席者会費 4名分
(計)	316,840	316,081	
支出の部			
会報印刷	120,000	136,000	第61号、第62号
新企画	40,000	30,000	散策会主管・塙保己一検校顕彰基金寄付
夕べの会	10,000	△ 13,070	(黒字)
月例会	10,000	△ 5,062	(黒字)
慶弔費	20,000	10,000	故 福田龍雄氏、岩崎美郷氏
会議費	20,000	0	
通信費	60,000	41,980	
事務費	5,000	3,560	
振替手数料	4,500	4,020	
雑費	10,000	8,974	
(計)	299,500	216,402	
残額(繰越)	17,340	99,679	

2. 特別会計(基金)

定期預金 25万円(利息は通常会計の収入として計上)

平成9年4月8日

財務担当 菅沼 伸之
 監事 横溝高五

在京初雁会平成8年度事業報告

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

1 会員の動向

- イ 会費納入者 72名 (中学34名、高校36名)
- ロ 物故会員 岩崎 美郷 (高2) 福田 龍雄 (中32)

- ハ 新入会員 鎌田 昭次 (高12) 菅間 昭 (高6)

- ニ 休会会員 浅海 倭夫 (中21) 佐久間勇次 (中38)
大野 一良 (高10) 井上 道男 (高21)

2 行事

- ◆ 鐘つき堂 第61号 (平成8年夏号) 第62号 (平成9年新春号)
- ◆ タベの会 4回
- ◆ その他 2回 (本校同窓会、秋季散策会)

参考 月別行事

- 8年4月8日 (月) 総会・月例会 (ピルゼン) 6名出席
- 5月12日 (日) 母校同窓会 (川越高校) 126名 (うち在京初雁会19名)
- 6月25日 (火) タベの会 (学士会館) 17名出席
- 7月8日 (月) 月例会 (ピルゼン) 3名出席
- 9月26日 (木) タベの会 (学士会館) 20名出席
- 10月27日 (日) 散策会 (東京・芝・増上寺・銀座) 35名 (夫人10名含む) 参加
- 11月26日 (火) タベの会 (学士会館) 13名出席
- 12月9日 (月) 月例会 (ピルゼン) 6名出席
- 9年1月8日 (水) 月例会 (ピルゼン) 6名出席
- 2月10日 (月) 月例会 (ピルゼン) 4名出席
- 3月21日 (金) タベの会 (池袋・東方会館) 24名参加

平成9年4月8日 総務担当 矢部敬一郎

在京初雁会平成9年度予算

(平成9年4月1日～平成10年3月31日)

1. 一般会計

項 目	実 績			9年度予算案
	6年度	7年度	8年度	
収入の部				
繰越金	59,721	91,929	113,240	99,679
年会費	200,000	197,500	180,000	190,000
預金利子	2,961	3,617	2,841	2,800
雑収入	28,000	18,000	20,000	10,000
計	290,690	311,046	316,081	302,479
支出の部				
会報印刷	114,000	105,000	136,000	130,000
新企画	30,000	0	30,000	20,000
夕べの会	29,879	△ 6,418	△ 13,070	40,000
月例会	6,735	△ 1,337	△ 5,062	6,000
慶弔費	10,000	20,000	10,000	20,000
会議費	0	8,710	0	8,000
通信費	55,196	54,210	41,980	50,000
事務費	5,968	5,094	3,560	6,000
振替手数料	3,960	4,140	4,020	4,500
雑費	2,781	8,407	8,974	10,000
計	198,761	197,806	216,402	294,500
残 額 (繰越)	91,929	113,240	99,679	7,979

平成9年4月8日

財務担当 菅沼伸之

在京初雁会平成9年度事業計画（案）

（平成9年4月1日～平成10年3月31日）

1 事業内容を充実するため次の事業を実施する。

- イ 会の活力を図るためには、若手会員の増強が急務と考えられるのでその増強に努める。
- ロ 参加者が特定の層に偏ることは、永続的な発展の為には改善されなければならない。
- ハ 前年度試行（夕べの会の場所変更）の参加者24名が得られた点を考え、参加しやすいように行事内容、場所、回数などを見直す。

2 行事

- イ 鐘つき堂 年2回発行する。
- ロ 月例会 5回（見直し結果により変更もありうる）
- ハ 夕べの会 4回（同上）
- ニ その他 2回（母校の同窓会、散策会）

3 月別計画

- 9年4月8日（火）総会・月例会（ピルゼン）
- 5月11日（日）母校同窓会
- 6月24日（火）夕べの会（学士会館）
- 7月8日（火）月例会（ピルゼン）
- 9月26日（金）夕べの会（東方会館）
- 10月19日（日）散策会
- 11月25日（火）夕べの会（学士会館）
- 12月8日（月）月例会（ピルゼン）
- 10年1月8日（木）月例会（ピルゼン）
- 2月9日（月）月例会（ピルゼン）
- 3月24日（金）夕べの会（東方会館）

平成9年4月8日

総務担当 矢部敬一郎
以上

戦時中の想い出

田中 隆(中45回)

1. 転校生としての川中生

私は昭和19年6月、家族の自由疎開による府立江戸川中学から県立川越中学への転校生である。何故転校することになったかと後から考えてみるといくつかの理由がある。その第一の理由は両親が川越(現南土呂谷、山田)の出身であったためだが、これだけではない。

そもそも育ったところは東京下町本所区(現墨田区)江東橋で、近くには東京一中(現日比谷高校)に次ぐ進学校である府立三中があった。当然小学校時代から実力は別として「三中に行きたい」「三中から一高だ」など自分でもそのつもり、親からも言われて育ってきた。

小学校6年生になってまず運命が変わった。一年先輩の近所の町会長(荒物問屋)の息子A君が肺結核のため一年間静養して留年、自分のクラスに入ってきた。A君はまれにみる秀才で1年から5年までトップで進学、また町内きってのお坊ちゃんでもある。何故か父はA君と一緒に勉強しても叱らず(これは父も若い時結核で三浦海岸に静養したことがある)、時々彼の勉強部屋へ遊びに行き、同級生としての付き合いが始まった。そのようなことで受験勉強も彼と一緒にする機会が多く、その後彼の行っている私塾へ私も入ることになった。塾といっても今の進学塾と異なり、自分の入っていたK小学校教頭(当時国民学校)からM小学校の校長になったN先生の自宅で週に2回程5、6人の小学生を教えてくれる塾であり、先生の一寸したアドバイスと予習復習、

お互いの学問的交流を計るだけの塾であり、楽しみながら勉強するところであった。

6年生の二期も終わり近く、生徒皆で中学への進学を先生と相談する事になった。N先生は「A君、願書は持ってきたかね」、A君は「僕は……」と言いくそうに「三中は止めて江戸中へ行きます」。江戸川中学は府立十六中として2年前府立三中の中に新設された中学で、来年は千葉県に近い新小岩に校舎が落成すること、校舎の近くは田圃地帯で空気が良いし三中同様将来性のある学校だからとのことであった。「田中、お前はどうか」とつきさじどうしたらよいか判らずA君の顔を見ながら「僕も江戸中へ行きます」と答えてしまった。三中はクラスで一番か2番の生徒が行かれる事は知っているが、自分はその一寸下で受験はクラス担任のH先生と相談して決めなくてはならない。従って、翌日H先生に相談、三中を受験したいけど落ちると困るので江戸中にしたいと話したところ「A君からも田中と一緒に受験したい」と言ってきたとのこと。結局三中は1番のO君、私とA君が江戸中ということに決定してしまつた。入学してみると大変な学校で三中に負けるな、追い越せ、目標は一高10名、浦高10名等々、新しい歴史を作るのだと血気盛んな学校であった。ところが3年生になった頃、戦時体制、学童疎開、勤労動員など落ち着いて勉強出来ない状況に変化してきた。わが家はどうかと云うと、父親の自動車部品商もアメ車の部品も思うようにならず、とうとう一ヶ所に合併して合同の会社組織になるとのこと。急に父親はサラリーマンとなり、また町内の自営消防団の団長になり防空訓練やら消防の講演などを手伝うようになってしまった。ここまでくると知識の豊富な父は早い時期に川越に疎開することを決め、「お前はどうか」と云う事になった。

毎日錦糸町から新小岩まで省線(現在のJR)で通学、夜間は警戒警報の度に学校の命令で亀戸の水神森小学校の警備をA君と一緒に行くことになった。こんな事が数回続いたため、父は「三中ならそばだから良いが、江戸中では通学が心配、川中は埼玉県立第三中学で地元でもなかなか入れない学校だ、両方を話をつけるから転校しろ」ということで渋々くことになってしまった。考えてみると、このことが自分の運命を良い方向に導くことになる。

A君と友人にならなければ、また運良く三中に入れば……等々。小学校の同級生で地元に残っている友人は何人も、翌年3月10日の空襲で死亡している。友人のO君は橋のたもとで両方から逃げて来た人達の下敷きになって自分だけは焼死せずに助かったとか、今だにとこで亡くなったか判らない友人とか、幸、不幸が一步狂うと大変な事になる。

以上のことからいち早く(クラスで私が一番早かつた)川中に転校、三年三組に編入した。川越は警報もないし、米の配給もゆるやかだし父母の実家へ行けば何でも腹一杯食べられると、東京と田舎ではこうも違うのかと思える事はかり。学校の勉強も数学、英語は習ったところばかりで初めの内は復習しているようなもの。ノートの整理も出来ているし比較的早く皆に溶け込めるような状況で、帽子、学制服も一寸ばかり垢抜けしていたため、友人も早く出来、毎日が楽しい通学となった。

2. 火工廠の勤労動員

残念なことにわずか2ヶ月後夏休みも返上して3年生も勤労動員の命が下り、上福岡の火工廠(陸軍造兵廠東京工場)に行くことになった。学校は毎週日曜日のみ、当時の軍歌、月月火火木金の態勢となつてしまいがかりした。友人A君に連絡したと

ころ、勿論東京でも私が転校した後すぐ桜金属工業と保土ヶ谷化学に別れて動員され、一君が転校してから、夜警報が鳴ると一人で亀戸の小学校まで行かなくてはならず、それが一番つらいよ。彼は肺病上がりだし、そのことが特に気になった。それにしてもやはり東京の方がすべての点で深刻の様である。火工廠での仕事は川上、阿部、大橋君と四名で秋元班（細かくてうるさい班長）に所属、照明弾の火薬充填をさせられた。プレス装置で厚い紙筒に200〜300gずつ10回位に分けて火薬を詰める作業で、考えてみると非常に危険な仕事である。昼間は我々学生、夜間は工員でそれぞれその班長にあおられて、製作個数を昼

左の資料は田中先生の2年後盤で高2（当時中学2年）の玉之内淳さんが大事に保管していた火工廠の報償金計算書です。

報償金計算書	
2年2組37番	
氏名 玉内 淳	
交付金	2,000
役員料	450
父兄會費	300
報國團費	600
其他	
手渡し金	1,150
手渡し金	1,150
手渡し金	1,150

昭和20年2月13日：入廠式

東京第一陸軍造兵廠第一工場

川越製造所長

306号家

陸軍大佐 神田正憲
分隊長 新井
班長 沢田金五郎

計算票裏面のメモから

夜競争させられていた。戦況は大本営発表のみでははつきりしなかったが、どこでも激戦が続く、ガダルカナル、サイパン島などの玉砕も報じられた。日本は攻撃するよりも現在は攻められる立場にあり、照明弾が何故必要なのか疑問も感じながら……。班長・工場長に質問することも出来ず……。ただただ黙って仕事をしていた。

尚、作業を直接指導してくれた大曾根さんと云う徴用工員は学生である我々を良く理解してくれ、時々交代で休憩させてくれたり「君達は勉強もしなさい」という事で早く終わらせてくれて、女工さんと一緒に我々のノルマのチェックを手伝ってくれた。照明弾は時々発火のテストがあり、製品チェックと製作本数から我々学生四人の優れた作業が評価され工場長から優秀賞をいただく事になった。「これで教練と体育は全員優がもらえるなあ」と一同お喜び。これ皆大曾根先生の指導と後援のおかげである。なお、大曾根氏とは終戦後会うことはなく、毎年の年賀状の交流だけであったが、一緒に働いていた年上の美人女工M嬢（我々のアイドルだった）と結婚されたことを何年か経って知らされた。事実は小説より奇なりということか、大曾根さんは50年後に救急患者として日大病院に入院、軽い心筋梗塞で全快、奥様とも50年ぶりにお会いすることが出来た。

その後照明弾の増産もさすがに縮小することになり……。実際はそのような事は云われない……。我々は第一工場に配置換え、今度は小さな焼夷弾を作ることになった。こんな小型の焼夷弾をどこで使うのかと思っていたが、伝え聞くところによると風船爆弾で米本国へ飛ばすとのことであり、幾分やりかたが疑心暗鬼な仕事ではあったが、幾分やりがいのある作業でまたまた危険をかえりみず働いて

いた。

丁度この頃、道を隔てた別棟で爆発があり火だるまの工員が飛び出す事故を目撃、その中に同級生田君が居り、唯一人の犠牲者となった。終戦後知ったことではあるが風船は有楽町の日劇の客席ホールで女学生が作ったとのこと。またこれは偶然であるが、江戸川中学の同級生が保土ヶ谷化学でこの焼夷弾の火薬を作っていたこと、何発かは米本土に落下して山火事が発生した由、戦後28年目アメリカに留学した折、ワシントンのスミソニアン博物館で風船爆弾に対面したが、我々の作った焼夷弾は見当たらなかった。

3. 食糧事情

疎開する前から東京では米の配給制度が始まり副食の芋、野菜なども隣組に配給され、それを各家庭の人数割で分配するようになっていた。川越へ移ってみると米の配給のみでは比較的自由に買えるし、家主のおじいさんは時々畑から芋、大根などを持って来てくれるし、その点母親も楽になったようである。しかし後で聞いてみると、時々実家へ行き田畑の手伝いをして帰りに食糧をいただいできていた由、何も知らない子供達（私を頭に弟3人、妹1人）は鰹腹食べられる事を喜んでいて、勤労働員に行くようになってからは昼食だけは工員食堂で無料で食べさせてもらえた。しかし、次第に代用食が混ざるようになり、しかも食べ盛りの我々では量的にも不十分になってきた。そのような食糧事情悪化の理由の一つとして、三乃至四名で行く炊事当番（配給されたものを盛り付けるだけ）が腹一杯食べてしまつたためと各クラスのボスの存在の人達の強制的な依頼によるおてんこ盛りのためである。当時は軍隊生活と同じで弱肉強食の時代であり、後年クラス会

などでもこの頃の事を笑い話として語り合っている。戦況が次第に悪化し警戒警報が多くなり、また時に空襲警報まで発令されるようになる。当然遠方からの通勤者は欠席することになる。こうなると我々出席者は大喜びで、昼食は2人前も3人前も食べられるわけで出勤時に警報が解除されないように仲間を祈っていた事もある。

或る時炊事当番が廻ってきた。今日は欠席者も多いようだし、たつぷり食べられると思っ行ってみると全くの代用食の日で弁当箱大のさつま団子であった。田圃の無い野がた農家の悪口として「早く帰れよ野がたの奴等薩摩団子が硬くなる」と云われている通り温かいうちに食べればおいしいが、冷めると硬くなってとても食べられぬものではない。この頃になると街や駅の掲示板には「欲しがりません勝つまでは」「資沢は敵だ」の標語が見られるようになる。家に帰ると南瓜、芋の入った雑炊やうどん粉団子が入った水団(すいとん)を食べさせられ、川越でも食糧事情が次第に悪化するようになった。

4. わが家の焼失

勤労働員で兵器はほとんど作られている割には大本営の発表で戦局は日毎に厳しさを増し、サイパン島玉砕などが報じられた。東京も昭和19年11月30日以来夜間襲撃を受けるようになり、その内昼となく夜となく空襲警報が鳴り、爆弾、焼夷弾の攻撃を受けるようになった。時々帰ってくる父親の話によると、「地方はどこも軍事工場だけが狙われているが、東京では焼夷弾の盲爆が始まった」「火工廠は火薬を抱えているので空襲警報が鳴ったら工場から少しでも離れた防空壕に早く逃げるんだよ」などなどあまり良い話を持って来なかつたが、その危険な東京へ帰って行く後姿を見ながらまだ開戦当初のような

戦局の好転を信じていた。

昭和20年3月9日夜半、いつものように警戒警報で目を覚ました。ラジオでは特別放送はないが、裏の島の空が赤くなり、外へ出て見ると東京がいつもと違って広範囲に燃えており、低空飛行のB29の編隊が次から次へと焼夷弾をばらまいており、見る見るうちに火の海、それが一晩中続いていた。一家揃って父親の生死がまず心配となったがどうする事も出来ず、寒さでガタガタ震えながら朝まで火勢が弱まるのを待つばかりであった。「東京は全滅だ」「東京下町は全焼で死人の山だ」などの話がささやかに東上線で被災者がぞくぞく帰って来たとのことで自転車飛ばして駅に行き数時間待ったが父らしい姿は見当たらず帰宅。母と相談し東京へ行くことを話していたところ焼焦げのオーバーを着て眼をつぶった父が駅で話かけられた人に連れられて帰ってきた。

途中お茶の水の病院へ行き、洗眼と目薬を持ち帰ってきたが痛くて開ける事が出来ないとのこと……。我が家は勿論全焼、消防団なので逃げるのが最後となってしまい近くのドブ河の中に入りそのことがかえって焼死しなくて良かったとのこと。

2、3日経って眼も治り二人で焼け跡へ行くことになった。わが家の防空壕にいられた物は全部焼けてしまい、残ったものは防火用水に放り込んでおいた瀬戸物が一部残っていたので父親はがっかり肩を落とし放心状態、涙こそ流さなかつたがこれからの事を考えていたようだ。帰りがけに私の将来のことも話し合い、当然父親の仕事も継ぐことも出来なくなってしまう、どうしたものか突然自分のことも考えなくてはならなくなつた。帰る途中、ガйд下下には焼死体の山がいくつも見られ悪臭を放っており惨々たる光景で、これを見ただけで人には言え

ないが、「日本は敗ける」「本土決戦になる前に降伏した方が……」と思うようになった。どこだったか忘れたが、病院の焼け跡と思われるところにテントを張り、治療している医師と看護婦さんを見た。その時将来医者になろうと決心、これも父だけに話し、誰にも云えず心の中にしまひこんでしまった。級友は皆、特幹(特別幹部候補生)、予科練を受ける等、軍隊志向の話ばかりである。来卒業、医専や医大なら入学試験は有るだろうという事になり、それから毎晩押入れの中にスタンドを持ち込みひそかに受験勉強を始めた。考えてみると父が突然失業したという事が今日自分につながっていることになる。

5. 奉天殿最後の護衛

東京大空襲があつてからはあちこちの都市も爆撃を受け、その内グラマンF艦載機による機銃掃射が始まつた。火工廠で作業中も毎日のようにサイレンが鳴るようになり、慣れつこになつてしまひ実際に爆音が聞こえない限りそのまま作業を続けていた。7月の頃だと思ふが、突然グラマンFによる機銃掃射を受けた。防空壕からのぞいて見えたが屋根の上にある監視機から工員が機関銃を打つたところ敵機は急旋回してきて機を目標けて機銃掃射、幸いに人的被害はなかつたがそれ以来何故か工場からの発砲は無くなつた。

川越市内の空襲も始まり、先ず川越駅が狙われた。当時の駅は木造の駅舎と東上線、国鉄のホームだけであつたが停車中の機関車が狙われ、火工廠の帰りか、わざわざ見に行つたのか忘れたが射たれて死亡した人にむしろが掛けられており「いよいよ川越も危ない」ということになつてしまつた。

その後広島、長崎の原爆となるがこの事も初めは大型爆撃と云われていた。その詳細ははっきりしな

会 員 消 息

小熊忠三郎 (高3)

地元横浜で毎日年寄り仕事をしているため平日は上京できず失礼いたします。川高3回の文集「おいしい楠の木よ」の増補版作成の編集委員を仰せつかり、何かと多忙になりそうです。

大河原義重 (高14)

昨年10月より地元埼玉九区から選出された衆議院議員大野松茂(元狭山市長)氏の秘書として国会の事務所に居ります。国会見学等連絡下さればご案内申しあげます。

内田 幸男 (中43)

女子医大に従来の医学部単科に加えて看護学部を増設する仕事などで忙しく過しております。お陰様で元気にやっております。ご無沙汰で申し訳ありません。盛会を祈ります。

松下 雄一 (中29)

二月に一泊の入院で行った白内障の手術はうまくいったのですが、片目のせいはまだバランスがよくありません。冠状、前立腺そして今回の水晶体と老朽化した器官の手当てにこの数年間忙殺されています。元通りにはなれないものの、希望を与えてくれる医学医術の進歩、その恩恵に浴び感謝しています。在京初雁会にも大分ご無沙汰しておりますが、鐘つき堂で皆様の活躍ぶりを推測しております。お会いできる日を楽しみにしています。

いが、たった一発の爆弾で広島は相当な被害を受けたということは判った。それが証拠に警戒警報が鳴ったとたんに我々学生は一目散に工場から走って遠くの島まで退避する命令が下り仕事どころではなくなった。

また何日頃から始まったか忘れたが夜間に警報が鳴ると交代で学校の警備に当たることになり、問題の8月14日の夜、私と小林(雄)君と二人で奉安殿を警備する順番となった。

警備は確か銃器庫から教練用の銃を持ち出し奉安殿の前に待機することだった。今考えると何のためかこのような事をするのか判らなかつた。ただ天皇、皇后のご神影(当時は写真をそう云った)と教育勅語、たしか聖戦の詔勅(開戦に際しての勅語)を守るためであるが鍵は持っていない。爆撃で破壊された時に対応をせよということらしい。

何時に警報が鳴ったか忘れたが、二人で落ち合い、学校へ向かった。途中、小林君が云うには明日の天皇陛下の重大発表は日本が降伏するというところで「今日、豊岡の会社から帰ってきた父からの話で日本は明日戦争に敗けるということだが君だけに言うから誰にも言うな」とのこと。近頃の戦況から当然考えられることであり自分なりに納得した。数時間経過した頃、明日敗けることが決まっているし川越はなんでもないから奉安殿を守るのがつくづく馬鹿らしくなり二人で階段に座りながら勤労働員のこと、今後の事などを話していた。その内北東の方の空が真っ赤になりどこか空襲を受けている。方向としては熊谷のようであり、何故こんな夜に焼けなければならぬのか、全くついていけない街だと思ひながらその夜を過ごした。帰ってきて黙っていることも出来ず、父だけに敗戦の事を伝えてしまった。

翌日の正午、工場の広場に集合、その頃には我々

学生の殆どは皆内緒の話は知っているようで比較的落ち着いていた。天皇のお声は雑音と何だか難しい事を云っており、はっきりわからないが周囲の状況から敗けたという事、戦争が終わった事ははっきりしており、皆ほっとしたような顔であり、後で聞いたような涙を流す人や切腹する人も見当たらなかつた。その日で我々の動員も終わり、平常の授業が始まった。

それからが大変、受験勉強は毎週1回送ってくるタブロイド版の雪雪時代が頼りで最後の追込み勉強が始まった。幸い翌年三月日大医学部(予科)に合格、卒業した。

尚、我々のクラスは昔の制度にもどり4年で卒業したもの、5年で卒業したものに分かれ、従って同総会名簿では45期と46期に分かれているが実際は同じクラスである。

あとがき

鬼畜米英を称えながら育ってきた私、それから28年後の昭和48年には大学の海外派遣研究員として一家揃って米國に留学することになった。折角アメリカに行くのだから毎年私にとっての戦災記念日である3月10日に米國に上陸しようということ羽田を出発した。行ってみてまず驚いたことに見るもの聞くものすべてが発達しており、病院の設備、制度、子供の教育に至るまで日本とは比較出来ない程進んでおり、このことだけでも戦争に敗けたのがうなずけた。今では私共家族にとって米國が第二の故郷であり息子の一人はミシガンの企業に就職している。

武田 葛 (中29)

いつもご案内有り難うございます。課題として進めて参りました「化粧品工業百二十年の歩み」が一昨年完成し、今は周辺を見渡すゆとりができました。川越中学生(旧制)の関東大震災の時の活動はもつと広く知られていいのではないか、などと思っております。当時の先輩たちの事を覚えていらっしゃる方に期待しています。

松本 博一 (中37)

ご案内有難うございました。先約があり出席しかねますが、四月からは大学の勤務からも解放されますので努めて出席いたしたいと思っております。

細島 博文 (中35)

ご無沙汰いたして居ります。当日は残念ながら都合がつかず欠席いたします。ご盛会をお祈り致します。

川合 善明 (高21)

欠席続きで申し訳ありません。四月になれば若干余裕ができると思しますので、次回以降は出席できると思います。

安斎 恒男 (中24)

高齢でこの所夜間の会合は出席を差控えています。誠に残念且つ申し訳ないと思っております。当日のご盛会をいつも折念して出席の積りにしています。幸い健康は保持できています。

岡村 了一 (中43)

毎々不都合が重なり不参加申し訳ございません。

内田 静馬 (中22)

毎度お知らせ有難く拝見いたしました。歩行が不自由でやむなく欠席させていただきますが、会報にでも矢部氏の香港の最新報告でもお知らせ下さい。

野沢勝三郎 (中30)

昨年6月に大腸の手術を致しましたが、たゞ今は元気に過して居ります。ご出席の皆様によりしく。

砂田 太三 (中23)

若い者にはまだまだ負けぬぞと頑張つて来たものだが、何分にも年齢には勝てず満90歳を過ぎた今日では特に身体の張りもなく、疲れやすくなつた事は何としても自認せざるを得ない。懐かしい中学校及び高等専門学校の同窓生が次から次へと他界されてしまい同窓会も開けず話し相手も居らぬ様な状況になってしまった。気力だけは未だしっかりして居るつもりなのだが??

松井 顕敏 (高4)

一年中「師走」のような生活をしております。学校というのは半年から一年先のことまで予定に組み込まれてそれを真面目に消化しているんです。

矢部 義一 (中23)

生来頑健の身と九十年間の酷使に耐えられず昨年の暮から三十余日の肺炎治療の病院生活の身となりましたが一ヶ月余の院内塾居生活は足

腰の衰えに現れて居ります。先般の散策会、今回の夕べの会とも参加を見送らざるを得ない次第です。

落合 義作 (中28)

在京初雁会の皆様引続き継続頑張つて居られ嬉しく思つて居ります。今年は慶応卒60年で十二年三田会世話人として当番幹事で何とか責任を果たしたいと思つて居ります。84歳どうにか元気で。

鎌田 昭次 (高12)

先約があり欠席いたします。元気にやつて居ります。

岡村 和夫 (中45)

NHK部外解説委員、政治評論家として放送や講演をしています。

野上 完一 (中30)

体調相変わらず、欠席いたしますのでご容赦下さい。ご盛会をお祈りいたします。

間々田重雄 (中39)

縁あつたのか千葉県に家を建て住みついて二十有余年、職を辞してから故郷坂戸へ移り住む心積りでおりましたが、埼玉と較べ当地殊に冬季が穏やか、気温も暖かく老後の住み家としました。皆様にお目にかかりたいが、夜のこととて欠席します。

高島 敬忠 (高10)

先約あり失礼いたします。

中村 生秀 (高3)

時代を反映し、利益なき繁忙と申しますか日々雑務に追われ、貴会にも欠席続きです。時にささやかながら人様のお役に立つこともありませうと願っております。皆様によりしくお伝え下さい。

橋本 次郎 (中35)

只今入院して居ります。残念ですが欠席します。

船津鴻之助 (中24)

二月十一日(建国祭)満八十八歳となりました。腰痛のため歩行やや支障あるも胃腸は極めて健康。時折、息子の車に乗せて貰って母校周辺(お城には曾祖父蘭山の筆になる作品がある)を見せて貰ったりしています。

岩泉 惟人 (中3)

何時も大変お世話に預かり有難うございます。

橋本 国治 (中26)

体調不良のため遺憾ながら出席できません。悪しからず。

星野 猛 (中41)

ご連絡頂き有難うございます。日々元気に過して居りますが今回も欠席致します。何卒宜しくお願い致します。

平岡 寿夫 (中42)

盛会を祈ります。

笹崎 能輝 (高18)

ご案内有難う存じます。2月に母が逝くなりまして未だバタバタしております。皆様に宜しくお伝え下さい。

清水 順一 (中48)

事務所の近くなので出席したいのですが、先約があり失礼します。定年がない悲しさ、毎日悪戦苦闘です。早く景氣の回復が望まれます。(東方会館から6分位です。是非お立寄り下さい)

菅間 昭 (高6)

今回は折悪しく他に予定がありますので欠席させていただきます。ご出席の皆さんに宜しくお伝え下さい。

山本 道 (中32)

今年の3月で満八十歳になりました。人生は駆足で過ぎ去ったことを痛感。これからの余生をいかに有意義に過すか思案中です。持病の腰痛等も起こらず、お陰様で体調は目下の所良好で助かっています。

長島 恒雄 (高3)

会社の仕事の方は暇になりましたが、色々とお私共に多忙な生活を送っています。新聞や雑誌のコラム書きに時勢への憤懣を晴らしています。

坂田 圭司 (中17)

主人が昨年十一月より入院中で一進一退を繰り返して居ります。暖かになりましたら週間程自宅に帰り、又入院する様になると思えます。

初雁会の益々のご発展をお祈り申しあげます。

阿部 親興 (中38)

健康状態不安定の為出欠のご返事が遅くなりご迷惑をおかけして申訳なく存じます。そろそろ出所進退を明らかにすべき時期が来たのかなとの感を深うしている昨今です。

佐々木忠一 (中32)

母校の創立百年記念事業の実行委員会が活発になりつつありご同慶に存じ、会員諸氏のご協力更に一層よろしくお願い申しあげます。小生第三回目の停年で大学教師も三月までとなり、今後は生涯学習講師に専念することになりました。

柴崎 育久 (高2)

昨年暮れ香港マカオ吟行旅句より
冬ぬくし朝粥を吹く時差疲れ
冬菜青し國境越ゆる猫車
暦売マカオは神の名を持ちり
冬風や阿媽昇天のバラ岬
香港煌々女王陛下の暦果つ

駒井 正明 (高4)

未だ現役にて富士汽船(株)常勤監査役として勤めて居ります。

西田 守 (高7)

日本海から太平洋へ(糸魚川-九十九里)歩いて居ります。現在は「塩の道」最終コースに入りました。今年の5月の連休は青木湖からスタート、大町・穂高町を経ていよいよ松本入り

です。これから先は佐久から秩父に入り埼玉を
目指します。主催は埼玉余暇生活開発センター
です。

西 信之(高17)

1月18日(土) 本川越駅前「福登美」にて洪
谷同窓会長、深谷校長、小泉先生、中西先生を
囲んで高17回の同窓会「無名会」が盛大に行わ
れました(参加者28名)。

岡部 延夫(高2)

まずは健康に毎日を通しています。未だ暫く
は会社勤めの予定です。最近特にアメリカから
特許関係のクレームが増えていきます。「ことば」
の壁に悩まされるのはいつになっても変わりま
せん。

早川 岩男(高2)

前回は欠席し申訳ありませんでした。岡田
兄・矢部兄のリクエストに従い、今回は二、三
のマジックを準備する予定です。よろしく。

日出間哲郎(高2)

例年の事ながらこの時期春闘の賃上げ時にあ
たり労組との交渉にあたらねばならず、これが
最後の交渉の場となると思います。早く辞任し
フリーになりたく思っています。

第二の人生を健康のうちに楽しみたい。

矢部敬一郎(高2)

故郷に戻って5年目になりそれなりに交友も
広がり忙しくなってきました。目下冬休み中の
土との楽しみも始まり土日が忙しくなります。

そろそろ軟着陸をと思いつながらもう暫く仕事か
ら抜けられずに居ます。仕事減に備えて趣味の
方を加えてしまつて苦勞が続きそうです。

荻野 文夫(中36)

昭和八年(一九三三年) 麦畑と桑の木の村の
小学校から川越の中学校に入学、それまでの算
術、読方、国史だけの勉強に英語その他が加わ
りました。それから六四年、今世界の情報が時
差も国境もなく自由にとることの出来るインテ
ーネットの毎日、昔の先生方の教えに心から感
謝致しております。

高篠平太郎(中)

今冬は乾燥の天候が続き調子を崩しておりま
すが、この度の例会場が折角の池袋東方会館と
のこと、その上に当日の演題がこのところつと
に海外志向を増しつつある在京初雁会にふさわ
しく「最近の香港情報」とあつては登小平なき
後の中国に関連し、是非出席致したいと存じま
す。

田中 隆(中45)

先日百周年実行委員として麻布高校に行つて
きました。図書館見学、記念誌編集について教
えていただきました。記念誌については会とし
ても、又個人的にも協力すべきだと帰つてきま
した。

内田 紀成(高2)

菌が悪くなると噛んで食べるのがおっくうに
なり、今はやりのグリーンジュースを自分なり
に考案しました。ミキサーの中にレタス、玉ねぎ、

ぎ、ドレッシング、水を入れて十秒位攪拌して
コップ一杯ずつ飲んでみると何となく若返つて
来るような気がします。

増島 隆二(中35)

最近受け取つた川高野球部OB会報で新聞に
報じられた初の国立大出身ドラフト一位でオリ
ックス入りした杉本氏が川高出身(高44)であ
ることを知り、将来を期待しています。

山崎 豊弘(中35)

お陰様で本年やつと喜寿を迎え息災でおりま
す。男性の平均寿命七六歳をクリアしました
ので、これからの余生を楽しく健康に過したく、
初雁会の会合には都合の許す限り出席致します
から宜しくご指導賜わりたくお願い申し上げます。
(順不同・敬称略)

訃報

浅野 誠一氏(大正十五年24回卒)

平成九年四月一日 狭山市狭山博愛病院
にて死去

四月九日 川越市小仙波光西寺にて告別式

略歴 明治四〇年川越市西小仙波にて出
生。川越中卒業後慶応大学医学部に学び、
慶応病院医師、同大教授、浦和市民病院院
長、狭山博愛病院院長。

岩崎 美郷氏(高2)

病氣療養中死去。

香港の旅雑感

矢部敬一郎(高2)

ツーリストの誘い「返還前の香港をみておきませんか」に気軽に乗って、二月七日〜十日の三泊四日の香港ツアーに参加しました。在京初雁会の夕べの会の講師さがしが遅れていた折、岡田(台湾)・菅沼(中国)と小生(香港)に「東南アジア紀行」を目論んだのが運のつき、急遽私一人で「香港の旅」報告をする羽目になってしまい、誠に憎越ながら、池袋東方会館での「夕べの会」に短時間お話ししたものを思ひだしながら纏めてみました。

さて、三日間の香港に関する印象は、旅行社のスケジュールにのって忙しく観光と買物に駆り出された感が強く、当然のことながら中華料理の連続で、アツと云う間に終わってしまい、これからの香港を考える余裕もありませんでしたが七月一日からの中国への返還にあわせた準備が随所に見ることができました。

ランタオ島で空港が建設中、香港の中心セントラルを結ぶ道路、島を結ぶ鉄橋などが建設中で香港の観光地も大きく変わるとのこと、中心地の海辺には七月一日の返還祝典のコンベンションセンターが突貫工事で続いて

いた。街には人があふれ、街の繁栄からは、報じられているような不安材料は感じられなかった。丁度中国の旧正月に当る祝日にもぶつかったので、随所に初詣(日本で)の人で賑わっていた。海の上(船上)では、爆竹がはじけ、香港の景況の強さをみた思いだった。

旅行から帰ってから、香港の情報が何かにつけて気になるようになった。(これが旅行の成果か)香港の経済的役割は、実に偉大なものを痛感した。華南域の貿易の四〇%、中国への投資の七〇%は、中国の海外からの資金調達は九〇%が香港経由と云う。広東省の香港企業従業員は五百万人(香港製造業就業人口の八倍)等からするといかに香港の役割が高いのか中国が「一国二制度」を設けてでも香港の活力を活用し、ひいては上海経済に香港の活力をと願っているとされる背景が充分理解されました。

香港が国際金融・貿易センターとして発展してきたのは、自由な市場があり税金が安かったからと云われ、一国二制度を忠実に実行し、香港の人々にこれまで通り自由にやらせるならば将来も繁栄が続くだろうと云う声が多かった。

返還が近づくにつれ、いろいろと中国の政策が出され、香港・中国の問題点(別記)が表面化することになれば、シンガポール、台湾などに国際貿易センターの地位を奪われる

惧れを指摘する声もあると云う。

私はようやく目覚めた日本が日本型ビックバンを実現して、「国際貿易センターとしての東京」の役割がどうなるか、大いに関心がある。

他方香港の役割が「中継貿易港」としてスタートした。七〇年代「加工貿易」、八〇年代の「委記加工」、第三国貿易活況と変化し、貿易の構造の変化による影響が失業問題、委託加工貿易の頭打ち、香港の地位の相対的低下傾向の問題をかかえており、アジア複数の統括拠点の動きもあり香港でのビジネスコストは限界が指摘されている。不動産の高さは、香港企業が東京八重洲に高価で土地取得して話題となったが中国への返還時期とあわせて話題となった。

短かい期間乍ら、旅で珍しい体験もした。足のマッサージを添乗員の案内で体験した。旅の疲れを感じなかったのは、そのお陰か。横道には入らないように添乗員からの注意を犯して買物もしてきた。時計・カバンこれらは既に止ってしまったなど大失敗。だが一つタイガーバーム園で求めた水虫薬(華佗膏)はよく効いた。(永年の水虫が治った。)

行き帰りの税関で中国人の通関窓口は別に設けられていて然も大変な混雑をしていた。このことから中国との往来は従来とは比較にならない程、経済面でも大きな影響を及ぼ

すことになること痛感した旅であった。

中国の先進工業地域では人件費の値上りなど行きつづまり現象が現われ、従来持ちえた香港の経済的優位が守りきれられるかと云った声もあつて根の深い課題を持って七月一日を迎えることを僅かながら感じとつた小旅行でした。

今後、香港行の機会があつたら、もう少し視点をかえ他人任せでないものにと反省している次第です。拙文をお許し下さい。

香港、中国の現状・問題点等

香港

- ・レッセ・フェール
- ・経済的自由、低税率
- ・国際金融・物流・情報センター
- ・優良なハード、ソフトインフラ
- ・華南経済圏センター
- (グレーター香港)
- ・華僑経済(香港・台湾中心)
- ・部品生産の集積度

中国

- ・人事国家・官僚主義
- ・情報、報道規制
- ・経済特区廃止論
- ・外資優遇見直し機運
- ・外資中国投資の広がり
- ・中国沿海部の港湾などインフラ整備
- ・中国企業の生産技術、品質管理向上
- ・市場・潜在力裾野の広がり



矢部夫妻

中国・三峡下りを旅して①

菅沼伸之(高2)

「長江三峡クルーズと白帝城、張飛廟の旅」に行つて来た。最近マスコミで中国の三峡下りが話題になつてきているようだ。特に先般NHK-TVが現地からの衛星中継で四日間に取り全国放送したのがきっかけになつたようである。旅行社も各社こぞつて、今年が最後のチャンスです。と呼びかけている。実際に完成するのは二〇〇九年といふからまだ十年以上先のことである。が本流を下れるのは今秋までである。

あの揚子江をせき止めてダムを作ろうという途方もない計画を最初にいい出したのは、現代中国建設の父といわれる孫文である。しかも、それは今をさかりぼる約八十年前の一九一八年(大正七年)のことだった。しかしその後うち続く国内外の戦争等でそんなところではなかつた。新中国が誕生して半世紀、経済の発展も軌道に乗つてきた一九九二年四月に開かれた全国人民代表者大会で「ダム建設に関する決議」が採択された。

その目的とする所は次の四つである。すなわち①百年に一度の大洪水から人民を守る。②水力を利用し、石炭五千万トに見合う八四〇億ワツの電気をつくる。③重慶まで一千万ト

級の船が通えるように航路を改善する。(現状は五千トまで)④長江の水を北方地区へ送り食糧を増産する。

本格工事に先立って一九九四年末から長江分流工事が開始されたが、この秋には完成するので、長江の流れを分流の方に変え、現在の本流をせき止め、いよいよ目的のダム建設に着手すると発表された。

ダムが完成すると、その上流の水位は現在より一七五釐高くなるという。そして、街も村も水没してしまうため、移住する人口は約一二〇万人にもなるという。同時に張飛廟、白帝城をはじめたくさんの文化遺産や古代遺跡も水底に沈んでしまう。(一部移設可能なものは移設するが、それはわずかという。)

長江の本流を下つてきたが、工事現場はとにかく広い。いまだかつて、あれだけの現場は見たことがない。あまりに広いので遠方はガスがかかりよく見えないほどである。以下は次号でそのあれこれをレポートしたい。

(6・6・つづく)

編集後記

矢部、菅沼両氏が相次いで今話題の地を旅行してきました。特に「三峡下り」は今度の夕べの会でさわりだけでもお話しして頂こうと思つています。鐘つき堂も今回で63号となりますが、より内容充実のため皆様からの投稿をお待ちしております。

(岡田)

在京初雁会名誉会長
坂田圭司氏逝去。



ありしの日の坂田さん。田中会長、岡田、菅沼両氏。

昨年の6月28日病氣療養中でありました名誉会長坂田圭司氏が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。昭和28年3月に在京初雁会の創立にご尽力され、昭和49年から59年まで第四代の会長として会の発展に貢献され、お体をご不自由になられてからも名誉会長として常に当会の運営にご指導をいただきました。ここに在京初雁会に賜りましたご功績にたいし衷心より感謝と敬意を表し、会員と共にご冥福をお祈りいたします。

在京初雁会会長 田中 隆



在京初雁会 (創立昭和28年)
会長 田中 隆

1998年 (平成10年)
春号 第64号



一月例会

交詢社ビル1F

ピルゼン ☎3571-2236

—タベの会—

学士会館 ☎3292-5931

東方会館 ☎3987-0211

在京初雁会

矢部敬一郎 (企画・総務)

〒363 桶川市川田谷4540-3 ☎048-787-5033

岡田 良平 (広報)

〒175 板橋区成増2-33-14 ☎03-3977-1811

自宅☎03-3977-1815

事務局

菅沼 伸之 (財務・事務局長)

〒177 練馬区上石神井2-36-6 ☎03-3929-2224

タベの会

3月24日(火)
池袋 東方会館

坂田圭司氏逝去	1
日本版ビッグバン	2
モンゴル旅行記	3
人間の寿命と医学の進歩	5
三峽下りを旅して②	6
秋の散策会	7
会員近況欄	8
会員訃報他	10

日本版ビッグバンについて

長島 恒雄（高3）

平成9年11月26日夕べの会より

もう1年以上も前になりましたが、96年11月橋本首相が突然「我が国金融システムの改革・二〇〇一年東京市場の再生に向けて」という方針を公表しました。これがマスコミによって「ビッグバン」とよばれるようになりました。

ビッグバンというのは、元来宇宙創世時の大爆発のことで、86年に英国のサッチャー政権が行った証券市場の抜本的な改革を指していわれました。我が国のビッグバンは、英国を遥かに上回る大きな改革になるでしょう。

ビッグバンを一言でいうと、我が国の金融関係のルールを一律にグローバル・スタンダード（世界標準）に合致させ、東京市場をニューヨーク、ロンドンと並ぶ国際市場に再生することです。グローバルといっても、世界全体に通用する統一ルールなどはありませんので、世界第一の金融先進国である米国のルールが事実上世界的ルールとなっています。グローバル・スタンダードとは、事実上アメリカン・スタンダードを意味します。

かつて80年代には、東京市場はニューヨーク、ロンドンに比肩する世界三大金融市場の一つでした。ところが90年代に入り、バブルの崩壊、大不況の到来で弱体化してきた上に、銀行・証券の業務分野の争いが重なり、さらに円高による空洞化も加わって、米国に大きく立ち遅れてしまいました。とくに先物・オプション・スワップといったデリバティブ取引での遅れは顕著です。

米国では、70年代初めドルが弱くなるにつれ為替

変動が激しくなり、ヘッジの手段としてデリバティブ取引が発展してきました。75年に株式委託手数料が自由化されたために、証券会社は株式依存低下を余儀なくされ、そのため多くの金融新商品が開発されました。代表的なのが市中金利に連動した収益分配を行なう投資信託MMFで、固定金利だった銀行預金から大量の資金シフトを起こし、いわゆる金融革命を引き起こしました。この結果、金利自由化が促進され、94年に至って完全に自由化されました。この間中小金融機関中心に巨額の不良債券が発生し、その処理のため一二七〇億ドル（一五兆円）もの財政資金を投入、95年によりやく処理が完了しています。

我が国でも改めていうまでもなく金融市場の改革は常時行なわれていきます。昨年多くの法令が改正され、既にストック・オプション制度は実施されましたし、今年4月からはドルなどの外国通貨も自由に売買できるようになります。また銀行の投資信託販売、証券会社の総合口座取り扱いなど昨年末に始まりましたし、近く銀行・証券・信託さらに郵貯間のATM（自動預金機）の相互利用もできるでしょうし、金融機関を中核とする持株会社も誕生し、銀行や証券などの金融機関間の垣根は一層低くなるでしょう。今後も続々と新しい金融商品やサービスが出現し、又税制や会計制度も改正されていくでしょう。

このように一般の利用者にとって金融機関はますます便利になるでしょう。しかし利用者は、多種多様な金融商品の中から最も自分にふさわしい店舗と商品を選ばなければなりませんし、その結果は自らの責任として甘受する必要があります。また金融機関側でも顧客を選別し、優良客には預金金利を高くしたり、手数料を低くしたりするでしょう。優良客はますます優遇されますが、当然その逆もありえます。金融機関相互の競争も激化し、巨大化するとところ

もある反面、脱落するところもあります。買収や合併も盛んに行われ、その結果持株会社による巨大金融グループも形成されるでしょう。一方では、特定分野に特化し、専門化を図る企業も出てくると思われまます。

注目されるのは外国資本で、現地法人・支店・事務所など色々な形態で、また買収・合併などにより、積極的に進出してきています。国内企業が弱体化している折から、東京市場が外資に席巻される可能性も叫ばれています。かつてビッグバンの本家英国では、ロンドン市場は活況を取り戻したものの、国内大手業者の多くは外資に買収されてしまい、テニスのウインブルドンのように、外国選手ばかりが活躍する場となる危険もあります。だが東京市場は、ロンドンと異なり、巨大な経済と金融資産が後に控えているので、内外選手が共に活躍する日本のプロ野球並にとどまると思われます。

最後に、最近連続して起った北海道拓殖銀行や山一証券など名門企業の経営破綻について触れておきたいと思えます。これはビッグバンの影響だという意見もありますが、そうではないでしょう。橋本内閣はビッグバン（金融システム改革）ばかりでなく、行政・経済構造・社会保障構造・教育を含め六つの改革を同時に強行し、これが不況を一層強めています。さらに検察による不祥事の摘発も加わって、長年の不況で衰弱してきた企業が耐えきれなくなつたものでしょう。それぞれの手術は必要であるにしても、瀕死の病人に對し同時に行つたのは無理だつたのではないのでしょうか。

現在は苦しいように見えますが、結果的にはビッグバンは成功するでしょう。そして二〇〇一年には、東京市場は、ニューヨーク・ロンドンと並び、フリーストック・グローバルな市場として再生し、かつての活況を取り戻すことが期待されます。

青空の下、大草原はつづく

菅沼 伸之(高2)

昨年8月24日から31日まで、遊牧民の国モンゴルの大草原ウォークに行ってきた。以下は道路のない国、自然が美しい国、星がきれいな大草原での8日間の旅のレポートである。

日本からモンゴルへの直行便は関西空港からしか出ていない。モンゴル航空の機内に入ると、スチュワートは日本の現代の女性よりはるかにしとやかで日本的、清楚という言葉がぴったりとくる。機内サービスは日本のビールが飲めたのは予定外だった。モンゴル語、英語、日本語で流れる案内を除けば日本のローカル線と錯覚するほどだ。

4時間20分でウランバートルに着く。日本と時差はなく、夜8時半というのに未だ日は暮れない。街に入ると沿道の樹が金網で囲んであるので、聞いたら放牧の家畜から若葉を守りためとわかる。中心部のワヤンガルホテルに着く。9時を回り街灯がようやくつきだした。日没過ぎると気温がどんどん下がり、測ると10度である。

翌日はウランバートル近郊で軽く足慣らし。都心のスフバートル広場を出発、幹線道路を歩いてザイサンの丘の記念公園に登る。市内が一望できる頂上には、径30mほどの記念塔が立ち、その内側上部にはソ蒙による戦勝絵巻が描いてあり、日本の聯隊旗とナチの逆卍の旗が彼等の銃剣により踏みまじら

ているのはショックだった。途中、大統領別邸への道路があるいたが、人も車も通行はなく、たまに放牧の牛がのんびりと横切るのに出会っただけだった。約14km歩いて昼食をとる。

午後、ホグノーハンへ。マイクロバスで約6時間、260kmの草原の丘をひたすら走る。太陽は常に頭上にあり、車内温度は38度もあるが、乾燥しているのが不快感はない。視界をさえぎるものはなく、ただ草原が続くだけ、30km、所によつては50kmも見通しがきく。実に雄大な眺めである。途中、放牧の羊や馬の群れに出会う。一回だが駱駝の群れにも出会う。

150kmほど走り、集落があり給油する。スタンドといつても小さな小屋とホースが一本あるだけだ。一本道なのでたまに車と出会うが皆人が詰め込まれている。途中で道路からははずれ草原をしばらく走るとキャンプに着く。草原にゲルが十数棟あるだけ、他には何も無い。全体がバラ線であまり、まるで収容所の感じである。食堂、トイレ、シャワー、売店のある管理棟が別にあり、私たちのゲルにはベットが四つあるだけである。

モンゴルの食事は昼食が主体で朝晩は軽食というのが普通。品数は少ないが、一応食べられる。中国から米を輸入し、副食として炒飯などが出る。トマト、キュウリも毎回出る。心配して日本からインスタント食品を持ってきたが使わずに済んだ。夜は冷えるのでストーブを焚いた。12時で発電が止まるので、その後は暗闇の世界、外へ出るにも懐中電灯が手離せない。しかし、これを消すと星空が綺麗だ。日本の山でも見たが満天なのでスケールが違う。ほ

んとうに素晴らしい。天の川に寒さを忘れてしばらく見とれる。

二日目はマイクロバスでさらに80km西へ向う。途中道端のオボ(小石積み塔)に道中の安全を祈願する。エルデニー寺院を中心に旧都カラコルム遺跡周辺を15kmほど歩く。草原の中でバスを降り、方角も分らず、ノジギク、ナデシコ、アツザクラのような草花の群落の中をひたすら歩く。ガイドが時計はいらぬというのでそれに従う。「あの丘の高い所を目指して:」「そのお寺らしきものを目標に:」とひたすら歩くだけ、道らしいものはどこにも見当たらない。歩き出した時に降り出した小雨は終日降ったり止んだりである。途中ナベツルが数十羽南を目指して渡って行くのに出会う。

周囲四百m、一〇八基の白い仏舎利塔が囲むエルデニー寺院はジンギスハーンの時代の首都の規模を十分の一に縮めて四百年前に建てられたものという。昔は東西南北に通じる交易の中心として生糸、絹、羊毛、穀物、陶器等が取引されたというが、今その面影はない。アラビア語、チベット語、モンゴル語の石碑が発掘されたと言う。五百m離れた所に昔の城門の基礎だった亀石が掘出され、そのまま一個だけ残っている。昼食後、馬に乗った子供が来る。聞けば小学一年生、毎日二五km先の学校までこの馬で通学していると聞き驚く。

三日目、日の出は七時半、朝露を踏んで出発する。久し振りに林を抜け大きな池を越えようとしたが、湿地にはばまれリターンして丘に登る。途中で山羊数頭に導かれのんびり歩く三百頭の羊の群れに会

う。モンゴリアンブルーの青空の広がる下で、丘の頂上から三六〇度の展望を楽しむ。世界を一人占めした感じで何とも言えない。リンドウの群落に出会い花と戯れる。その後マツムシ草の大群落が三kmも続き、淡い紫色の花がいっぱい、こちらではベル（お嫁様）というのだ。

ラマ教の小さな寺があり堂内を見せてもらおう。仏教とはちよつと違う。食事後少し歩くとゴビ（砂漠）にぶつかる。アップダウンもあり苦労する。平地に出ると砂上の風紋がきれいだ。目標もないまま三km歩くと数棟のゲルと馬の一群が目に入る。途中馬に乗った老人に会う。羊が三頭行方不明になったので探しているのだという。

やがてゲルに着き、立ち寄る。当主は57歳だとい



旅の途中で道中の安全を祈るオボ

うがどうみても70歳過ぎに見える。ゲルの中で自家製の馬乳酒（4度）牛乳の焼酎というシミーンアルヒ（15度）を皆でいただく。ストーブの燃料は牛糞だった。家族は皆純朴で人なつっこい人達である。民謡を唄ってくれたので、お返しに皆で「東京音頭」「お馬の親子」を唄う。馬の乳搾りを見て失礼する。万歩計は26kmを指していた。

四日目、久し振りに林をぬって山に入る。バスがガス欠になり、山の中腹まで一時間ほど歩く。昼食は近くのキャンプからコックが来て、羊の肉入りうどんを草の上で車座になっていた。美味なことこの上ない。ゲル最後の夜、羊一頭を使って名物のホルホック料理でさよならパーティ。牛乳しぼりの缶の中に肉と野菜と焼石を交互に入れて、岩塩で味をつけ蒸し焼きにするという野趣満点の料理を野外で焚火を囲みながら飲食するというもの。興にのるにつれ、モンゴルの民謡、日本の歌の交歓がはじまり、最後にはみんなで肩を組み、輪になって唄い、踊り出す。空には星がきらきらとまたいたっていた。

翌日は来た道をウランバートルまで戻り、二泊して市内の歴史博物館、ガンダン寺、ラマ教のボクドハーン博物館、国立民族舞踊劇場、デパートなどを巡り、31日の朝思い出多い旅を終え帰国した。

どこまでも続く丘と大草原、羊と馬と牛と可憐な草花の数々、青い空、白い雲、さわやかな風、きらめく満天の星、どれをとつても忘れ難い旅であった。モンゴルの大自然はすばらしい。

●モンゴリヤ●

一九二二年建国のモンゴル人民共和国という社会主義国がいまでもあると思っていたらとんだ勘違い、一九九二年に新憲法が公布され、いまは国名も「モンゴリヤ」と市場経済へ移行中の過渡期にある資本主義国の一員であるという。国土は一五六万平方km、人口は二〇万人、羊は一、二〇〇万頭いるという。人口の半分は十五歳以下で識字率は95%とアジアでは韓国に次いで第三位の国である。

首都ウランバートル（赤い広場の意）は海拔二三五〇mの高原にあり、社会主義の政權下でソビエトの援助により発展した街らしく、あちこちにその面影が残っている。高層アパート群が印象的だが、郊外には四割くらいゲル（注）が残っている。典型的な大陸性気候で昼夜の温度差が激しい。人口七〇万人。

十三世紀のはじめ、ジンギスハーンがモンゴル帝国をつくり、その後勇猛な騎馬軍団は西ヨーロッパから朝鮮半島までを治め、首都カラコルムは国際都市として東西交易の中心地だったという。

商店、食堂は少ない。唯一の国営デパートに行ったが、商品のデザイン、色、柄、サイズは勿論商品そのものの数が少ない。米ドルの小額紙幣が一番便利で使い易い。日本円はドルに交換できるが、日本で一ドル二〇〇円の時一五〇円払わないと通用しない。ヨーロッパ産の缶ビールが二ドル、韓国産の生ビールは三ドルだった。スーパーにも行ったが店員の数の多さにはびっくりした。一人の守備範囲は売場にして一mくらいである。

注IIゲル（中国ではパオ）はモンゴル式円形幕舎のこと。直径は八m、一〇畳くらいの広さがある。南が正面入口で、北に祭壇があるのが普通。天井の棧は81本と定まっております。動物皮で周囲を巻く。成人男子二、三人が一時間で組み立てすぐに居住できる。移動する時は簡単に分解し、今はトラックで引越す。

人間の寿命と医学の進歩

田中 隆 (中45)

寿命とは広辞苑によると、①いのち、よわい、生命の転じて物がいたまずに保つ期間とある。前者の方を寿と命を分解してみると寿はことほぐ、祝うということ、命は元気で喜びをもった命となり、決して苦しみのある命ではない。これからの長寿社会では自分の決められた人生を元気で健やかに全うするということであり、是非そうありたいものである。

一説によると心臓の搏動は動物の体の大きさでほぼ決められており、小さな動物ほど心搏数が多く、象のような大きな動物は少なく、そして動物の一生は心搏動数で決められているとのこと。その数はおよそ15億であり、どの動物もこの心搏動で死亡するといわれている。これを人間にあてはめると何歳であるか、甚だ興味深いことである。

以下それについて分析することにした。心搏動を1分間70として計算すると、 $70 \times 60 \times 24 \times 10^7$ 、1日約10万であり、1年間で、 $10^7 \times 365 \times X$ (運動) $\times Y$ (興奮) $\times Z$ (温度など環境変化) $\times 40000$ 万回。即ち心臓は1年間に40000万回の収縮、拡張を繰り返していることになる。15億を40000万回で割ると37.5となるが人間は胎生3週で心搏動が開始されるのでそれを差し引くと37歳が生物学的寿命ということになる。これは平均寿命と異なり、自然の生活条件下で生きられるとしての寿命と思われる。そのことの証明として縄文、弥生時代の平均寿命は31歳であり、野生動物を食べ、冷暖房の不備な

堅穴住居に住んでいれば、37歳なる数字も間違っていないようである。

ところで現在の寿命は70歳、80歳と高齢化が進んでおり、このことは第一に生活環境の進歩であり、また最近の医学の進歩も大いに関与している。そもそも医療とは人間の集団があれば自然発生的に始まるものであり、外傷の止血法、病気の薬草による治療法等も経験と偶然のたまものであったはず。それが集団から国というテリトリーが形成されると言い伝えの医療から次第に文字による医学(東洋・西洋医学)へと進み徐々に寿命が37から延び始め、わが国では特に20世紀後半の延長がめざましく世界一の長寿国になつてしまった。この50年間は寿命の延びたことと一致した半世紀でもある。

そこで、消化器外科学の進歩発展の面から考えて見ると、始めの四半世紀(一九五〇—一九七五年)での外科基本手技はすべてマニュアルな切離、止血、縫合を行ってきた。このことは術者、助手である外科医はその技術に熟練することを要求されていた。ところが後半の四半世紀になつてからは米国から新しい医療器械、技術が導入され手術手技の改良、術中、術後管理が急速に進歩した。具体的には切離、止血操作は電気メス、レーザーメス、マイクロウェーブなどにより一挙に出来るようになり、最近開発された超音波駆動メス(ハーモニックスカルペル)では局所の血管内血流を瞬時に凝固させ殆ど出血させることなく切離することが出来るようになった。また縫合手技もクリップによる器械縫合、吻合が主流となり、今までの手を使った基本手技の習得よりも器械操作の習得が必要となつている。

これらのことは手術の簡略化だけでなく拡大手術にも応用され、また手術成績の向上にもつながつている。

また術後の患者に対する管理も今までのような海戦術によることなく、コンピュータの集中管理となり、労力による管理からデータチェックによる管理へと変化、また一方診断技術の進歩も目覚ましく、癌治療における早期発見、早期縮小手術へと進んでいる。

最近では、今までの外科手術という観念を変えた内視鏡下手術が行われ、ごく将来はロボットを使った遠隔手術へと進むはずである。これらの経緯を鑑みると最新医療に使われる器材は殆どすべてカートリッジかディスプレイ等の使い捨てのものばかりであり、善し悪しは別として今まで消毒を繰り返して使っていた注射器、針にいたるまですべてディスプレイとなり、膨大な医療廃棄物のおかげで現代医療が成り立っている。強いてはこれらのおかげで寿命が延びているといっても過言ではあるまい。

以上は外科学の進歩ということからの見解であるが、それだけでなく心血管系その他の薬剤の開発及び前述した最適な生活環境もあり37歳から80歳という寿命にまで延長したものとと思われる。

ところで人間がこの最も適した環境である地球に40年以上も余分に生活することはそれだけ有限である地球資源を使うことになる。エネルギーの消失、オゾン層破壊、地球温暖化、生活廃棄物処理、ダイオキシン等々、毎日のように新聞紙上でも警告を発しており、政府も本腰を入れてその対応を始めたところである。

われわれ医療関係者がとりあえず出来ることは患者の治療だけでなく使用器材廃棄物の少量化と適正管理である。一刻も早く完全に公害の無い適正処理施設を建設するよう国の判断を望むばかりである。これが我々の子孫に残すことの出来る環境改善事業である。(東京都医師会雑誌平成9年9月号より転載)

三國志の歴史が水没する

三峽下りを旅して ②

菅沼 伸之(高2)

昨年五月三十日夕、上海空港近くの日航ホテルに一泊。翌日午前中に豫園、旧共同租界外灘、上海博物館などを見学してから起点の重慶まで飛行機で二時間半の旅程である。

丘陵に民家が重なり建ち並ぶ様はまさに山城といわれるにふさわしい。夜は山の斜面に連なる灯が山頂まで遠くまたは近く複雑に入り組み、実に綺麗である。平地が少ないため、自転車はほとんど走っていない。市内の交通機関はバス、トロリーバスが主体で、後はロープウェイと水上の大小の船である。

長江に近い重慶ホリデー・インに一泊、翌日は市内を回る。重慶長江大橋を渡ったが、橋脚の上部に三峽ダムが完成したときの水位が赤ペンキで表示されており、その高さに驚く。日中戦争時代の防空壕が戦後半世紀余を過ぎた今も、二百数十基が健在で住宅や商店として利用されているのを見て複雑な思いがした。蒋介石の本拠があつた鵝嶺公園、市立博物館などを見てから午後、船の出る頂天門埠頭に行く。重慶の市内で長江と支流の嘉陵江が合流するが、埠頭は長江のやや上流にある。観光バスの車内で、乗換える時に荷物持ちが多いから注意するように言われたがびんとかなかった。しかしバスが止まったとたん、私達を大勢で取巻き、リュックやボストンを持たせると、そのしつっこさには参つた。船まで下り一方なので(高低差六〇m位)「不要、不要」と無視する。あきらめて、その数は減つたが中間点過ぎまで追尾して来る者もありその職務熱心?にはび

つくりする。係留してある大小の船を棧橋代わりにしてチャーター船「西施号」に乗る。長江の水の汚さにはあきれるばかり。日本では通常洪水以外にはまず考えられない程の泥水である。

船は全長七〇m、二千t級と思われる。これから荆沙まで六六〇km、三泊四日の旅の始りである。舟は定刻一六時に出航する。客は全部日本人、乗務員は中国人で話はまだ通じない。夜、船長主催のウエルカム・パーティでは仲間同士で賑かに懇談する。船は暗闇の中を快調に進んで行く。深夜、雲陽に着き停泊する。

流れる川、聳える奇峯が語る美しい山水画の世界が目覚める。上陸して張飛廟を訪れる。川岸の高台の上であり、三國時代の蜀王・劉備に仕えた將軍張飛を祀つた廟、張飛は勇猛無比な武將として知られ、敗地内には彼を称える碑や堂宇が数多くあるが、その殆どはダムに水没してしまふという。

午後、奉節に寄り、劉備が関羽の仇を打つべくして呉と対戦したが敗れて逃げ込んだ白帝城を訪れる。天下統一の夢破れた劉備は諸葛孔明に子を託し、この地で亡くなった。小高い山の上にあるので、船着場から駕籠が沢山出ている(往復三千円)が城内までは入れず百mほど下で待っている。この駕籠かきが下るときはジグザグの細い登山道を「カゴ、カゴ」と大声で怒鳴って走るので歩行者は恐くてたまらない。

船に戻りいよいよハイライトの三峽クルーズへ。三國志の歴史を秘めた長江を下る。唐の李白は「朝辞白帝彩雲間 千里江陵一日還 兩岸猿声啼不住 輕舟已過萬重山」と謳つたが、周囲の大自然は当時のままである。まず最初は瞿塘峽、もつとも峻険な表情を見せる所で有名な峽谷が8km続く、両側の懸崖は刀で削りつたように岩肌もあらわにそそり

立つ。猛々しく雄大な眺めである。

次は巫峽(45km)、うねうね曲りくねつた天然のギャラリーといったところ。緩やかな流れ、優美な景観を誇る。神女峰など巫山十二峯という奇峯、秀麗な眺めが次々に展開する。山の中腹の所々に人の暮しが見られるが、そのほとんどは水没の運命にあるという。すでに離村して廢屋となつている所もある。とにかくスケールの大きさにピンとこないのが正直なところである。行き交う船も大小様々でその数も多い。さすがは中国の大動脈である。

次は西陵峽(76km)、浅瀬が多く、流れも急な所が多い船の難所である。昔は「三峽は夜航できない」と言われていたが、現在は大分改善されている。それでも川幅の狭い所やカーブなどには波避け信号を表示する信号台が川岸の高台に建っており、三角形の赤色旗を上下することにより船の安全を確保しているようである。夕刻、秭帰(しき)の港に停泊。夜、民族舞踊を觀賞する。

翌日、ペーロン競走を体験してから屈原記念館に行く。屈原は戦国時代の楚の愛国詩人でここが生まれ故郷、王の側近として活躍するも策略に敗れて失脚、自殺したが神魚の背に乗せられ故郷の秭帰に戻ってきたという伝説がある。ちなみに端午の節句に供えるちまきは地元の人が屈原を慰める為に作つたのが始りという。ここも記念館を含めて町が水没するといふ。

西陵峽を下るうち川幅が広くなつたところの右岸小高い丘の斜面に大きく「建」「設」「三」「峽」「開」「発」「長」「江」の大きな看板が見えてくる。ここはダム工事の現場である。造船所のクレーンより大きなものが林立し削つた岩石の山、走り回るダンブカーが遥かに見える。今度は左岸はるかに「一流的質量」「一流的管理」「一流的文明施工」という大き

な文字がガスでかすむ中にわずかに読み取れる。現場は広く、速い船で通過するにも結構時間がかかる。とにかく大きい事をしていると思った。

やがて元に戻り、長さ二〇〇六mの葛洲壩ダムにかかる。二つの閘門があり、一方は一万五千t級用、他方は五千t級用である。小さい方の第一閘門に入る。幅一八m、長さ一四〇mの中に小さな客船が一隻入っている。私達の船が入った所でゲートが閉まり、すぐに排水が始まる。わずか十分で水位が二〇mほど下がり、前の水門が開いて船は出る。まさに船のエレベーターである。

ダムを過ぎると川幅も広くなり私達の知っている長江らしくなる。一望千里というが高い山はない。あるのは水と大地だけである。夜、荊沙に停泊、クルーズを終わる。

翌日、下船。荊沙は楚の国の都、関羽將軍の荊州故城、博物館を見て荊洲—武漢ハイウェイに乗り二四〇km東の武漢を目指す。途中ほとんど水田地帯で農家が散在し、田植えに忙しい農民の姿が目についた。中間点に新築のドライブインがあったのでトイレ休憩したが、外装の綺麗なのに反して、中は昔のままの汲取式で汚くしかも臭気のひどいには参った。ここは長江と漢水の流域に広がる江漢平野、農家と揚柳のどかである。この広大な沃野をめぐって、かつて呉、楚、漢が血みどろの抗争を繰り返したというのうなずけるような気がする。

武漢市内に入ると大規模な開発が行われている。バスで回ったが、そのスケールの大きな事といったら、土地があるとはいえ、日本では想像がつかないほどである。

バスターミナルに着き、バスを乗換え、東湖公園、黄鹤楼などを回り、武漢空港から中国南方航空で九〇分、上海に戻る。翌朝、中国東方航空で成田に帰

り、思い出の旅を終えた。

今回の船旅は、退屈するのではと懸念していたが、その必要はなかった。次々と現れる中国の歴史と文化を凝縮したような景観の数々。中国は地理的にも歴史的にも奥が深く、雄・奇・険・幽……天然の山水画が水没するとはにわかには信じ難いが、干支が一巡するころにはすべて水没してしまう。いろはにほへどちりぬるを……諸行無常を痛感した次第である。

三峽ダム

世界最大の水力発電所を造る中国の三峽ダムの準備が予定通り進み、昨年十一月八日にあの長江（揚子江）の本流がせき止められた。二〇〇九年の完成を目指し、ダム本体の工事にかかった。三峽ダムは高さ一八五m、幅二、三〇九m、貯水量三九三億立方m、ダム湖の長さは重慶までの約六百km、発電量は一、八二〇万kw。ダムの北側が二〇〇三年に完成、水位は一三五m上って、発電も一部始まる予定。



▲白帝城

鎌北湖畔で猪豚鍋を味合う

秋の散策会に百余名集う

平成9年度川越高校同窓会の秋季散策会は10月19日(日)、毛呂山町初雁会の主管により行われた。当日は天候にも恵まれ、中学32回卒から高校35回までの八八名と夫人一六名の合計百四名の参加があり、秋のひとときを楽しんだ。(当会からは夫人共で一四名が参加)

本川越駅前発のバスにて高麗川経由で毛呂山に向い、東毛呂山駅前でもう一台のバスと合流、「新しき村」に行く。八高線の手前の駐車場をバスを降り二百mほど細道を行くと、道の両側に長さ二間ほどの濃い茶色の柱が建ち、右には「この門に入る者は自己と他人の」左には「生命を尊重しなければならぬ」と書いてある。つまりここが新しき村の入口である。さらに進むと「この道より我を生かす道なし。この道を行く」という武者小路実篤先生の詩柱が建っている。その先で受付をすませ、幹事から「この先に新しい村美術館や売店、鶏舎等があるので十一時半まで自由に村内を散歩して下さい」との声がかかる。

狭い美術館は時ならぬ人でたちまち満員、空くの待つてゆつくりと見る。実篤先生の絵画作品を中心に書や著名人の手紙、文献資料等が展示してある。ここは昭和55年に新しき村の60周年記念事業として、一般や地元への寄付により建設されたものという。その後、椎茸栽培棟や数万羽いるという五棟の鶏舎等を見てから売店で無農薬の野菜、パン、卵等を買うなどして村内をのんびりと一巡してバスに戻り、懇親会場に向う。ほどなく鎌北湖の山水荘に到着。上座に本校をはじめ各地の同窓会長、校長、毛呂山町長が揃ったところで開会。まず内野毛呂山初雁会長

から「地元の猪豚鍋と鯉の洗いを用意したので存分に交歓して下さい」と歓迎の挨拶。つづいて渋谷同窓会長から近況報告と百周年記念事業への協力依頼、大沢校長（高9）から新任の挨拶と進学、クラブの活動状況等の報告。小峯町長（高2）からは鎌北湖周辺の観光開発ビジョンの説明があり懇談にうつる。

大広間はまたたくうちに大小の人の輪が出来、高笑い響きあい、大声で語り合い時間のたつのも忘れて旧交を暖めあう。三時に幹事から「平成10年の散策会は川越の有志により地元の川越で百周年記念ウォークを実施するので宜しくお願いしたい」との発表があり、全員が拍手で承認したあと、恒例により全員で肩を組み「紫匂う武蔵野の……」校歌を三番まで合唱、またの再会を約して散会した。

新しき村——自他の自我の完全成長を理想として、相互に侵さず侵されずの幸福な社会を実現しようという精神を掲げる武者小路実篤先生が一九一八（大正八）年に同志四、五十名と宮崎県に共生農園を開いたのが始まり。その後一九三八年に県営ダム建設のためその大半が水没することになり翌年毛呂山町の現在地に四千坪の山林を購入、「東の新しき村」の建設に着手、同志の手により東の新しき村づくりは続けられた。

一九七六年に実篤先生が亡くなられたが、その灯は消えず、村は経済的にも安定し、理想社会を建設する意思は現在も脈々と受け継がれている。現在は社団法人となり、水稲、梅、桃、栗、茶、椎茸、野菜などを栽培すると共に採卵養鶏をしている他、画、やきもの、ピアノを教えている。村民は十家族四名ほどが生活しており、別に村外会員（同志・協力者）が全国に約七百名いる。

会員近況

順不同
敬称略

山崎 豊弘（中35）

お陰様で元気でおりますが、この処の三回降った大雪の雪掻きをして腰を痛め、閉口しております。年は取りたくないものです。去る一月八日（木）本年度最初の在京初雁会（ビルゼン）に出掛け、僅か一杯の生ビールの乾杯でほろ酔い気分になり、暫く振りに「銀ぶら」して帰宅。年とともに酒も弱くなりました。

岡村 了一（中43）

昔、毎月八日正午開会の銀座ビルゼンでの在京初雁会には場所が当時の私の事務所より三、四分のところであり、時間もほぼ正確に一時間で終ったので、苦痛なく出席できた。旧中学第七回卒の児玉政介さん（どこかの官選知事より厚生次官をやられた方）、浦島明治製菓社長、中新潟鉄工所社長、藤野三菱商事社長、山崎崎銀頭取、浅見さん、菅間さんほか大先輩方がご多用中よく出席された。第11回卒の斉藤ビルゼン社長のご好意でこのお店で月例会を開いていた。坂田さんは中堅、佐々木さんは青年部長といったところ。

さて「人の命は古い易く、天は古い難し」（毛沢東）の理のとおり、右記皆様が段々にお閑となり一時に終了せず、二時、二時半になっても平然としている。「若し夕刻の会が開かれれば」といくどか申しあげたものである。学士会館で開かれるようになった頃には今度は私自身が時間に追いかける始末となり、不運にも未だ閑日月の天恵に浴し得ずにいる。お名を引用した諸先輩は佐々木さん以外は皆故人となったが、その後交通は驚くほど至便となり、夕べの会なども余程開き易くなった。何時か出席さ

せて頂くと思うが、取り敢えず心からご隆盛をお祈りする。

安斎 恒男（中24）

昨年八九歳をクリアしました。幸い病とは縁遠い体質に恵まれ無事ここまで来ました。やはり歳には勝てず軽度の老化は避け難く夜間の外出も差し控える様になり、誠に残念ですが折角の初雁会も欠席を続けています。会のご隆昌と会員の皆さんのご健勝を祈ります。

山本 道（中32）

水墨画を始めてから十数年になりますが、昨年は八十歳記念として二〇号の絵（老梅開花の図）を書きました。画題は「傘寿の梅」。この作品は昨年六月より新橋駅前の第一ホテル東京に展示されています（雅号は道雲）。今年も一層よい作品をと精進しております。

落合 義作（中28）

会長さん始め幹事さんの在京初雁会のご活躍振り拝見して最初からの会員として嬉しく思っております。平成7年から9年度の間二代目社長夫妻を亡くし、その間孫の三代目の育成に励み大変でした。去る一月一日を以て満八五歳になり、何とか今年からあと今暫く頑張りたいと思っております。

長島 恒雄（高3）

昨年新日本証券を退職し、待望の年金生活に入りました。ところが、縁あってマクニカ（電子部品商社、今夏株式公開予定）の監査役に就任し、その傍ら雑誌や新聞の原稿執筆も行なっています。ところが十月に出版した「手にとるようにビッグバンがわかる本」（かんき出版）が思いがけずヒットし、執筆や講演の依頼が増え、忙しくなりました。

在京初雁会では、去る一月二十六日の例会でビッグバンの話をさせていただきましたが、折からの悪

天候にもかかわらず、参加者も多く、熱心な質問もあり、大変話し甲斐がありました。本号にその概要を掲載させていただきましたので、お目通しください。幸いです。

柴崎 育久(高2)

昨年十月末にサラリーマン生活に終止符を打ち只今は「日々土祭土日」。趣味の俳句などで、結構歩いて居ります。

三月二十四日在京初雁会は「草樹会」と重なり出席できないと思います。さて川高一〇〇周年には俳句大会を計画して居りますが、三回生が佐藤徳四郎先生の指導が影響したのか、約三十名位が三ヶ月に一度の句会を開いているのがおどろきです。

荻野 文夫(中36)

全世界の情報が、時差も、国境も、人種、職業等の差別も無く、だれでも自由にとれるインターネットの世界。欧米の主要通信社、新聞、官庁、大学、企業から開示される、さまざまな情報について、テーマを経済および経済学にしぼって見つめて、激動の一年が過ぎました。

いま、更に混乱の度を加える一九九八年の年頭にあたって、人々みんなの叡智と協力により、明るい未来が来ることを期待致したいと存じます。

内田 紀成(高2)

昨年十二月二十八日浅海氏が逝去されました。いつも縁側でひなたぼっこして元氣な様子でした。いつか立寄った時、浅海さんが「この頃腹がへってしょうがないよ」と言われたので冗談に「それはぼけのはじまりですよ」と言ったら「俺はもうとつくにぼけてら」と言って笑わせました。御冥福を祈ります。

野上 完一(中30)

御丁寧な御書面いただき恐縮しております。

私心臆病に加え昨年末視力が弱り更に右手首神経痛のため筆をとるのがつらく、想い出もございませんが、ままならず失礼の段おゆるし下さい。益々の御発展を祈り上げます。

駒井 正明(高4)

昨年は経済界の企業不祥事が多発し「取締役の監督の任にある監査役は一体何をしているのだ」と言う社会批判が統発しました。企業倫理という言葉が死語にならぬよう、微力乍ら努力を重ね、企業人の晩節の日々を送って居ります。

内藤 豊(高21)

なかなか厳しい世の中となり、加えて40歳半ば過ぎにしての独立、有限会社ながら活動を開始しました。仕事の内容は、雑誌を企画・編集し、さらに広告も集稿しようという欲張ったもの。各方面先輩諸兄弟の物心両面におけるご援助を忝なくしながら、どうにかやって居ります。初夢は、講談社の様な出版社経営。

趣味の方では二四歳より始めた新陰流剣術がここへ来て師より皆伝を印可され、さらに道遠しの感。流祖上泉伊勢守信綱宗師の生誕五〇〇年祭を数年後に控え、こちらも準備に大奮。

本年は降魔の太刀を振り百鬼夜行を一刀両段

(注・新陰流参学円の太刀五本中の一本目)、良い年したいと思えます。

船津鴻之助(中24)

会員の皆様のご健勝を心より祈念いたします。明治四十二年二月十一日(紀元節)生。明治、大正、昭和、平成と八十九年を仙波小学校・川越中学・旧浦和高校・東北帝大法科・電気事業・ダム建設・不動産鑑定士としてきました。戦時中は歩兵第一聯隊大隊副官として勤務。その間、聯隊長代理とし

て川越付近の勇士の市葬、村葬に参列し、感無量でした。

西田 守(高7)

昨年2月東京印書館を無事定年退職し、現在は関連会社のマップハウス、財団法人地図情報センターの人事、総務を担当しています。平成四年五月に取得した資格。余暇生活開発士[®]の活動をしており、す。埼玉余暇会の副会長、日本余暇会事務局を担当。1月スキー合宿、2月スキーツアー、3月ミャンマー九日間の旅、7月日本海から太平洋へ向って歩いて居ります。今年には松本から白樺湖まで菅沼先輩も参加ご指導いただいております。9月太平洋から大西洋へ「カナダ国境列車の旅」を企画中です。入社以来、よく仕事をして良く遊ぶ[®]に徹しきれたことに感謝しております。昨年9月胆のう結石の摘出手術を受けました。術後は元氣、元氣です。

岡村 和夫(中45)

昭和63年NHKを定年退職して10年経ちました。1月末現在NHK部外解説委員をつづけています。時々放送もしますが、今の仕事の中心は講演で北海道から沖縄まで歩き回っています。

増島 隆二(中35)

田中会長と事務局お三方のご奮闘本当にご苦労様です。激動の一九九八年が我が在京初雁会の躍進の年であります様祈ります。

笹崎 能輝(高18)

昨年は二月に母を亡くしました。川高の入学式の日、お祝いにとへソクリ(?)でいちの屋のウナギ(特上)を食べさせて貰ったことが忘れられませぬ。10月末にオランダで開かれた世界ハム・ソーセージ・オリンピックにエントリー。出品13点すべてが入賞し、金メダルと「チャンピオン杯」を貰って参りました。まだその余波で大奮の毎日です。

(サイボクハム・専務)
松下 雄一(中29)

昨年は在京初雁会に一回も出席せず失礼しました。腰痛で整形外科への通院を続けており、半日を過ごしています。春になったら会にも出席し旧交を暖めたいものと念じています。

塩野 元美(高24)

大変ご無沙汰して申し訳ありません。医学部の雑事や手術などでなかなかいろいろな会に出席できませんで恐縮しております。機会があればと思いますので、宜しくお願い申し上げます。(日大医学部第二外科学教室・助教授)

西 信之(高17)

いつもお世話様です。秋季散策会鎌北湖畔での懇親会の席上、華麗な奇術で楽しませていただいた犬竹一浩先輩(高13)からTAMC(東京アマチュア・マジシャンズ・クラブ) 奇術試演大会のご招待を賜わり、十一月九日ヤクルト・ホールに行つて参りました。会場は超満員で犬竹氏の素晴らしい演技とともに出演者の方々のレベルの高さにビックリしました。創立64年、大会は52回目ということですが、隔年開催なので来年も行つてみたいと思います。

細島 博文(中35)

一昨年・昨年と六ヶ月の間において、右・左の白内障の手術をうけ、眼が二、三十年若返つた感じがあります。昨年五月で喜寿を迎え、やや体力の衰えを感じて居ります。現在も引退出来ず三社に顧問として関係しており、毎週二、三日は東京に出て居ります。初雁会等には中々出席できず失礼して居ります。

松井 顕敏(高4)

返事が遅れましたこと、先ずお詫びいたします。その「言い訳」が近況になるのかと思つて、いますのでそれを一寸。

「大学の教師というのは、学生を前にして訳のわからないむづかしいことを言つて半年授業をしていればそこそこの給料を頂ける」と思つていたのはいささか甘く、一月早々から授業、試験、次年度の授業計画、入試、遅ればせの新年会、他大の人の会合、自分の試験の採点、他大の試験、採点などなどいつまでたつても句点をうてないこの文章のような生活を送っています」やつと句点です。

矢部 敏一郎(高2)

前回のビッグバンの話があつて以降次々と都銀、大証券会社の倒産等が続き暗い年末年始でした。仕事柄金融に関連する業務だけに三月末が懸念されます。そろそろ仕事中心から卒業の年齢ですが厳しい環境だけに思うようにならず、しばらく忙しい毎日が続きそうです。例会・ビルセンで楽しい話題に恵まれますように多数の方のご参加を願つています。

岡田 良平(高2)

バブルがはじけ少しでも景気回復がと願つてはじめた伊勢参りも今年で8回目となった。大晦日から新幹線・近鉄特急と乗継いで徹夜で外宮・内宮を参拝するという強行軍だが、お陰様でこの四、五年体調も良く、商売の方もこの厳しい経済不況の中なんとか乗り切つて今年も創業四十周年を迎えます。

松本 博一(中37)

ご案内頂き有難うございました。三月の夕べの会は失礼いたしますが、元気に過ごしております。今年から「川越ベッククラブ」の代表幹事をつとめております。同人誌として季刊「武蔵野ペン」を発行し、既に91号を出しました。御関心のある方はお知らせ下さい。☎0492-222-2309

武田 葛(会友)

元氣です。皆様によろしく。

訃報

坂田圭司氏(中17)

平成9年6月28日逝去。

本会名誉会長(元王子製紙、王子緑化役員) 通夜・葬儀には佐々木忠一氏夫妻、菅沼伸之氏、岡田良平氏が参列。

浅見倭夫氏(中21)

平成9年12月28日逝去。

橋本次郎氏(中35)

平成9年3月逝去。

彫刻家(元東京学芸大教授・日展評議員)

野沢勝三郎氏(中30) 元会員

平成9年12月病氣療養中逝去。

内田幸男氏(中43)

平成9年12月22日逝去。

東京女子医大専務理事、東京女子医大名誉教授、眼科学専攻。

編集後記

今年も創立45周年の年に当ります。坂田圭司氏が書かれました20年誌によりますと在京初雁会設立の一番の功勞者でありました元会員の浅海倭夫氏(中21)が病氣療養中昨年末に亡くなられました。また長い間会員だった方々の訃報が相次ぎました。誠に残念なことであり、冥福をお祈りする次第です。

鐘つき堂も今号で64号になります。事務局にはバックナンバーが揃っていません。45年を機に創刊号から整理し会の記録として保存したいと考えております。50号までが揃っていません。是非ともご協力下さるようお願い致します。(岡田)
